

首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 建築学域

平成 30 年度修士論文

建築コンバージョンによる商業施設デザインの分析 ー国内外の事例を対象としてー

17886420 坂口友美

指導教員 小林克弘

目次	…001
序章 研究の背景と目的および用語の整理	…002
1-1 研究の背景と目的	
1-2 既存建築活用に関わる用語の整理	
1-3 研究の対象	
第2章 既存建築活用に関する国内外の展開	…007
2-1 雑誌「新建築」からみる既存建築に関する意識の変化	
2-1-1 1960年代における既存建築活用に関する意識の考察	
2-1-2 1970年代における既存建築活用に関する意識の考察	
2-1-3 1980年代における既存建築活用に関する意識の考察	
2-1-4 1990年代における既存建築活用に関する意識の考察	
2-1-5 2000年代以降における既存建築活用に関する意識の考察	
2-2 国内とヨーロッパ諸国における保存に関する法制度の変遷	
2-3 既存建築活用の国内動向の概要	
第3章 国内における大規模小売店舗概論と国内事例	…029
3-1 大規模小売店舗に対する意識に関する考察	
3-2 国内の大規模小売店舗の変遷	
3-2-1 大規模小売店舗の概要	
3-2-2 国内の大規模小売店舗の平面構成の変遷	
3-3 国内のコンバージョン事例の考察	
国内コンバージョン事例の詳細	…044
第4章 建築コンバージョンによる商業施設デザインの 出発点としての「ギラデリ・スクエア」	…055
4-1 アメリカにおける既存建築活用に関する法制度や関連事項	
4-2 ローレンスハルプリンとギラデリ・スクエア	
4-2-1 ローレンス・ハルプリンの既存環境利用の関わりに関する考察	
4-2-2 コンバージョン事例としてのギラデリ・スクエア	
4-3 商業施設開発におけるJ・W・ラウスとベン・トンプソンによる影響	
第5章 海外の諸都市におけるコンバージョン事例	…081
5-1 全体の傾向	
5-2 改修年代に関する考察	
5-3 「るつぼ的界限空間」の類型に関する考察	
国外コンバージョン事例の詳細	…102
結章 総括	…156
資料編	…161
・新建築 1940～2018	
・海外調査梗概からの抽出	

序章

研究の背景と目的および用語の整理

1-1 研究の背景と目的

日本ではこれまで新築に価値を見出す風潮が強く続いてきたが、建築設計における既存建築の活用は社会にとって本質的なものである。こうした状況の中で、日本はこれまでに多くの建築ストックを活用する設計が行われてきた欧米に学ぶ必要が有る。日本でも近年は丸の内周辺の再開発の際に、歴史ある既存の建物が使用されており、既存の建物を活用することの意義が一般にも理解されつつある。しかしその手法は限定的である。また、国内の特に大規模な商業建築は建築家のキャリアとして評価を与えられてきていないという背景に加え、新築を良いものとする傾向が強く、建築コンバージョンによる計画が積極的に行われていない。

そこで本論文では国内外の既存建築活用の動向や商業施設に関する言説を整理し、既存建築転用後に商業施設となる事例を分析することで商業施設デザインを見直し、文化施設や住宅に限らないコンバージョンの利用可能性を考察することを目的とする。

1-2 既存建築活用に関わる用語の整理

本論では用途変更を伴う転用における建築デザインを「コンバージョン (conversion)」という言葉を用いて定義する。conversion には、改装、改築という意味以外に、〔性質や用途などの〕変更・転換、〔信念や宗教などの〕転向、改宗という意味が含まれており、既存建築を活用しつつ創造するという意識や意欲が含まれている。また近年国外では「アダプティブ・リユース (adaptive reuse)」という言葉が用いられることが多い。adaptive には、〔新しい環境・異なる状況などに〕適応〔順応〕できるという意味があり、性質や用途の変換だけに留まらず、より良い環境を整えるための方法として建築の転用が認識され初められていることが考えられる。そのほか調査や事例研究の過程で得た言葉については第5章と結章でまとめる。

用語	意味		
	改装、改変	〔性質や用途などの〕変更・転換	〔信念や宗教などの〕転向、改宗
conversion			
adaptive	〔新しい環境・異なる状況などに〕適応できる	-	-

1-3 研究の対象

本研究では、通時的に国内における既存建築活用の展開を分析するために、一定期間において定期的に発行され、国内の建築に関する論考が幅広く掲載されている雑誌「新建築」1940年～2010年12月までの約80年分を研究対象とする。

また、国外の事例に関しては、小林研究室で過去実際に調査を行ったコンバージョン事例(1403事例)から抽出したものに最新事例を含めて事例の考察を行う。

表1 学会大会郊外で取り上げた国外事例数

No.	国名	都市名	調査年	事例数(大会梗概)
1	イタリア	ミラノ	2003	97
		トリノ		
		ローマ		
		トレヴィーゾ		
		カタニア		
		レッツェ		
		ピエツラ		
		パドヴァ		
		ベネチア		
		フラスカーティ		
2	アメリカ	ニューヨーク	2006	44
		シカゴ		
		フィラデルフィア		
		ロサンゼルス		
		ハリウッド		
		サンフランシスコ		
		ピーコン		
		セントルイス		
		ワシントン		
		シンシナティ		
3	ドイツ	ベルリン	2007	11
		ライプツィヒ		
		エッセン		
		ハンブルク		
		デュースブルク		
4	フィンランド	ヘルシンキ	2007	11
		トゥルク		
5	イギリス	ロンドン	2009	32
		リバプール		
		リーズ		
		オックスフォード		
		バース		
6	スペイン	トレド	2009	10
		コルドバ		
		マドリッド		
		バルセロナ		
		セビリア		
7	スイス	チューリッヒ	2010	15
		ヴォー		
		ジュネーブ		
		バーゼル		
		ルツェルン		
		ザンクトガレン		
		トゥールガウ		
		シルケボー		
		コペンハーゲン		
		オーフス		
8	デンマーク	キューゲ	2010	29
		ストックホルム		
9	スウェーデン	ヨーテボリ・マルメ	2010	24
10	中国	上海	2010	46
		アムステルダム		
11	オランダ	ロッテルダム	2011	41
		デルフト		
		ハーレム		
		ハーレム		

No.	国名	都市名	調査年	事例数(大会梗概)
12	ノルウェー	オスロ	2011	29
13	ベルギー	ハーメル	2011	38
		ベルゲン		
		モンス		
		ヘンク		
		コトレイク		
		ブリュッセル		
		アントワープ		
		ジャンブール		
		ルーヴェン		
		リエージュ		
14	シンガポール	-	2012	43
15	マレーシア	クアラルンプール	2012	26
		マラッカ		
16	中国	香港	2012	46
17	中国	西安	2013	171
		台湾		
		北京		
18	トルコ	イスタンブール	2014	35
19	インドネシア	ジャカルタ	2014	19
20	オーストリア	ウィーン	2014	22
21	カナダ	トロント	2014	81
		オタワ		
		バンクーバー		
22	ハンガリー	ブダペスト	2014	29
		ペーチ		
		ボズナン		
23	ポーランド	クラフク	2014	27
		ワルシャワ		
		クラフク近郊		
		ウッチ		
		ブカレスト		
24	ルーマニア	ブラショフ	2014	17
		トゥルダ		
25	韓国	ソウル	2014	35
26	チェコ	仁川	2014	69
27	イタリア	ベネツィア	2015	86
		ミラノ		
		ローマ		
		トリノ		
28	インド	デリー	2015	41
		ジョイプル		
		ムンバイ		
29	オーストラリア	シドニー	2016	64
		メルボルン		
		ブリスベン		
30	ニュージーランド	ウェリントン	2016	43
31	ロシア	オークランド	2016	22
32	エストニア	モスクワ	2017	30
		タリン		
33	ラトビア	タルトゥ	2017	26
		リガ		
34	リトアニア	リエパーヤ	2017	25
		ヴィリニュス		
35	ドイツ	クライペダ	2018	19

合計 1403 事例(学会大会梗概に掲載したもの)

第2章

既存建築活用に関する国内外の展開

2-1 雑誌「新建築」からみる既存建築活用に関する意識の変遷

本項では、一定期間において定期的に刊行され国内の建築に関する論考が幅広く掲載されている雑誌「新建築」1940年～2018年12月までの約80年間の中から既存建築活用に関する論考を抽出し、転用に関する認識の変遷を年代ごとに検証する。

以下に作品と論考の掲載数の5年ごとの推移を図、表で示す。「転用」は既存建築のコンバージョン事例であり、「転用以外」はリノベーションや耐震改修、増築など、元用途の変更はされていないが既存建築が利用された事例である。

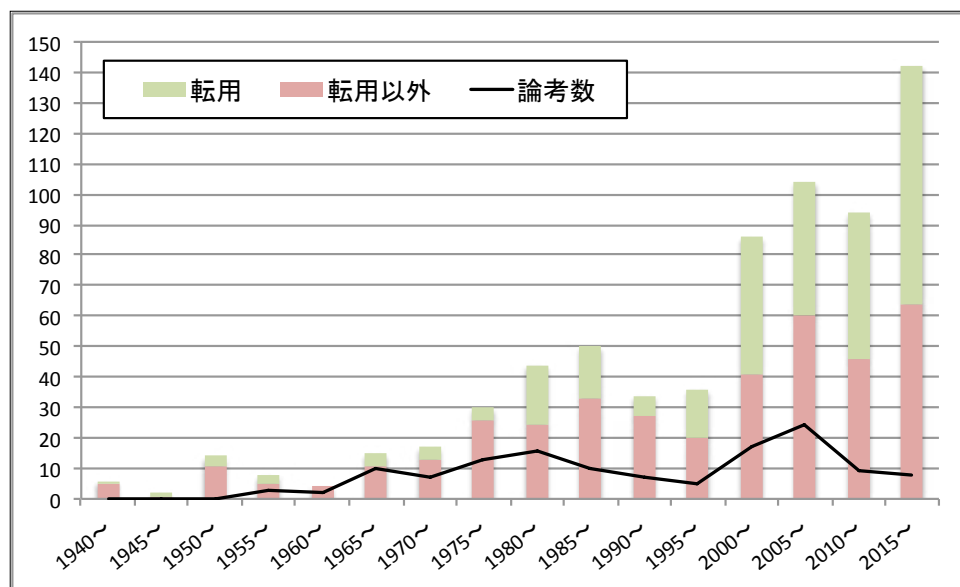


図1 既存建築活用に関する作品と論考掲載数の5年ごとの推移

表1 5年ごとの推移（数の詳細）

年代	転用	転用以外	論考	合計
1940～	1	5	0	6
1945～	1	1	0	2
1950～	3	11	0	14
1955～	3	5	3	11
1960～	0	4	2	6
1965～	4	11	10	25
1970～	4	13	7	24
1975～	4	26	13	43
1980～	20	24	16	60
1985～	17	33	10	60
1990～	7	27	7	41
1995～	16	20	5	41
2000～	45	41	17	103
2005～	44	60	24	128
2010～	48	46	9	103
2015～	78	64	8	150
合計	295	391	131	817

2-1-1 1960年代における既存建築活用に関する意識の考察

1960年代前半までは既存建築を活用した建築設計は多くは行われていなかった（図2）。

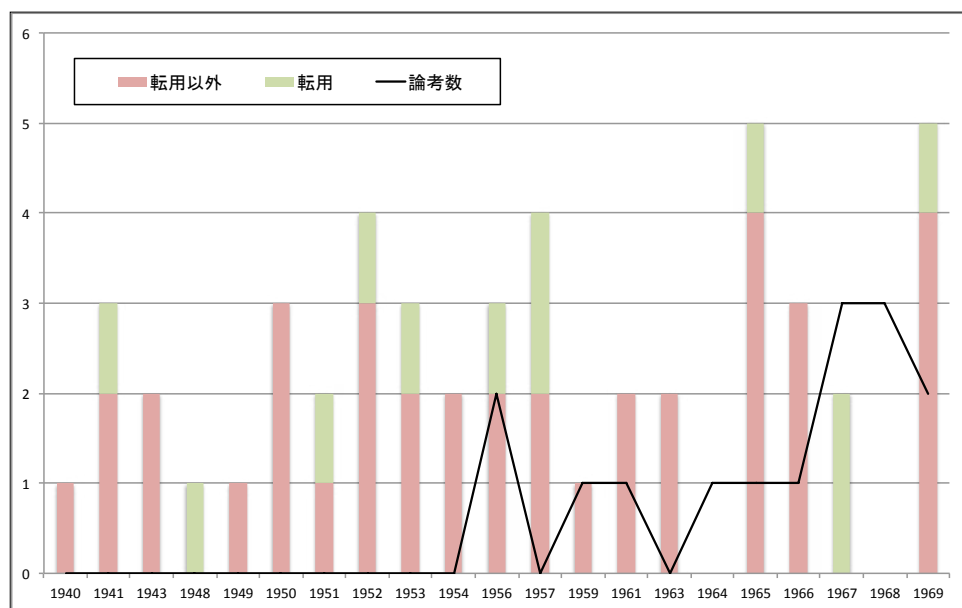


図2 既存建築活用に関する作品と論考掲載数の推移（1940年～1969年）

そのような状況の中で、新しい建築が増加していることに対して、古びていく材料や建築に関する考察の必要性や、街の景観に関する考察が行われたが大きく注目されることはなかった。

「宿命的に古きを内蔵する人間が何も新しい建物の中に住むということが、何の無理もなしに行われるものだろうか。日とともに新しくなる生活の要求から生活空間をたえず全身させて行かなければならないのが人間だが、その要求する心理の水面下には、ぎっしり古い過去が潜在しているのが現実である。（中略）新しい建築の町並みに増えてゆくのは快いことだが、その間に静かに老いた建築がはさまって、はじめて町は住むにたえる落ち着きをもつと思う。」

（清水一，随想 古びについて，「新建築」1961年3月）



大阪ガスビル

既存建築を活用する建築の設計を考える際には全体としては迷いがあるものの、既存建築を保存してそれに新しいものを調和させ、いかに統一した景観を作り出すかということが主に考えられていた。

「ここにも建築のひとつの運命の象徴がある。それはもとの建築のデザインをきわめて尊重して、しかも新しい時代の感覚をもって外観が連続しているのである。(中略)やはりこの増築でいちばんころうたれるものは、その外観の連続であり、新旧の統一と調和である。」
(村松貞次郎, 建築の生と死に関するノート 大阪ガスビルの増築, 「新建築」1966年12月, p214-215)



野村証券ビル

「(野村証券ビルは) これも古い建築のデザインを生かした増築計画の成功例であろう。(中略)大阪ガスビルと同じく、やはり外観に見事な調和と統一をもたせている。」

(村松貞次郎, 野村証券ビルの場合, 「新建築」1966年12月, p215)



慶応大学図書館旧館

「(慶応の図書館は) 一部鉄筋コンクリートが用いられたゴシック様式の赤レンガ建築。これも後年コンクリートで書庫部分が増築されているが、赤レンガ状のタイルを貼って外観を揃えているのは喜ばしい。」

一方で、既存建築を開発の対立概念として保存し凍結させるのではなく、社会の発展に対応して再構成させながら残していくべきだという考察も行われた。



西山研究室による京都計画の中では、伝統的な町並みにの中に現代の使い方に合わせた町家風の建物が検討された。

（「新建築」, 1964年4月）

ヴェニス憲章とは、歴史的建造物の保存・修復に関わるユネスコの憲章。（記念建造物および遺跡の保全と修復のための国際憲章）

1964年に、ヴェネツィアで開催された第2回歴史的記念物の建築家・技術者国際会議において採択され、アテネ憲章（1931年）を批判的に継承した国際憲章。この理念に基づき、翌1965年、国際記念物遺跡会議（イコモス ICOMOS International Council on Monuments and Sites）が設立された。イコモスは世界遺産の選定を行っている。

歴史的建造物を修復する場合は建設当初の部材を尊重すること、損なわれた箇所を補足する場合は推測ではなく科学的な根拠のある復原とすること、当初からの部材と修復された部分が明確に区別できるようにすることなど、保存・修復にあたっての基本的な理念が記述されている。

「（沖種郎氏の史都計画は）「保存領域」においては「開発のエネルギー」を加えないようにする。いいかえれば現状のままに「凍結」することによって文化財や歴史的個性をもつ街並み、市街地は保存されていくとしている。しかし歴史的遺産はそうにして存在させらるべきもののなかであらうか？ また保存と開発とは沖氏のいうがごとき完璧な対立概念なのか？

われわれはそうは考えない。（中略）われわれが受け継いできた数多くの文化遺産は凍結されて退化・死物化するのを待つのではなく、これからの社会生活の発展に対応して正しく利用されるように再構成されなければならない。それらの再構成は現今各地に見られるレジャーインダストリー的・観光産業のセンスからこれらの文化遺産を守るためにも緊急の課題となっているといえる。」

（高口恭行・田端修（京都大学西山研究室）、史都計画—沖種郎氏案—批判、「新建築」1965年12月, p165-166）

1964年にはユネスコでヴェニス憲章がまとめられ、のころからインターベンションという言葉が盛んに用いられるようになる。インターヴェンションとは、文化遺産に手を加えること一切をさす言葉として用いられ、保存に対立する、これを阻害する行為として認識されていたことが指摘されている。インターヴェンションは日本語では「介入」や「干渉」という言葉で訳されているが、実際には保存を妨害する行為ばかりをさすのではなく、単に手を加えるという意味がある。

このように論が展開されることで、建築評価に関する判断基準を確立する必要性も模索された。

「正直に言って一種の戦術論的な対場から。遺せるものはできるだけ遺そうという態度をとってきたが、もうそんな甘い立場は許されなくなったように感じる。何を遺し何は取り壊しもやむを得ないという、大げさかもしれないが建築評価の哲学の確立の必要を身にしみて感じている。」

（村松貞次郎、建築の生と死に関するノート 対立する論理が必要、「新建築」1966年12月, p220）

既存のものに手を加えないという保存の手段はなく（耐震補強や、維持のための何らかの手当が必要となる）、既存建築の活用に様々な段階があるということが1960年頃にはあまり認識されていなかった。

2-1-2 1970年代における既存建築活用に関する意識の考察

1970年代中頃から、既存建築を活用した建築設計作品や論考が多数掲載されるようになった(図3)。

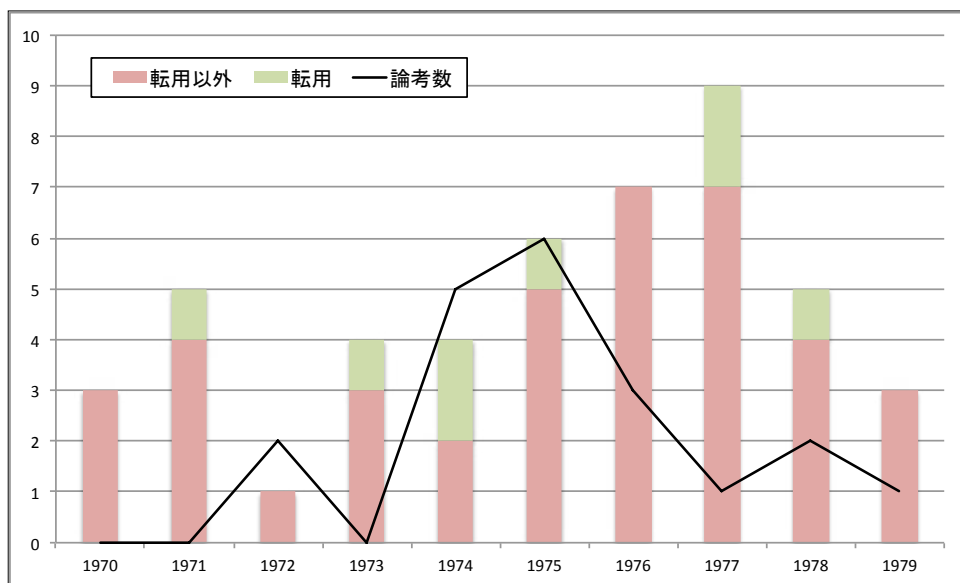


図3 既存建築活用に関する作品と論考掲載数(1970年代)

既存建築と新築の調和と統一という考え方に変化がみられ、1970年代以前では少数であった、既存建築を過去のものとして保存凍結したものとして利用するのではない様々な方法を考える必要性があることが述べられた。

「今日の保存問題の緊急性は、そのような上からふろしきかビニール袋を被せるような、私のいうパッケージ保存ではなく、下からの保存というか、それまで日本であまり成熟していない部分での保存のための思惟の醸成のほうなのだ。」

(長谷川堯, ルポタージュ:歴史的空間の現在1,「新建築」,1974年5月,p267)

また、日本人特有の時制の捉え方が既存建築活用の姿勢に与える影響が指摘された。

「日本の保存問題がヨーロッパやアメリカなどの場合ほど軌道に乗っていない理由の大きなもののひとつは、「歴史的空間とは何か」といった問いの基本になる、歴史的感覚とでも呼ぶべきものの内容の特殊性があるのではないだろうかと思う。図式的に言えば、今日の一般的な日本人の歴史的感覚の中では、＜過去＞＜現在＞＜未来＞の3つの時制が、大きく3つに輪切りにされた大根のように、バラバラに切り離されている。(中略)私たち日本人の歴史感覚には、この＜過＞＜現＞＜未＞という本来一体のものでなければならないものを、ダイナミックに全体として実現する主体についての実感が希薄のようだ。

この＜過去＞＜現在＞＜未来＞の、私がここに現に生きている、という、＜現在＞を基盤にした有機的複合を目指してはじめて、保存は軌道に乗り、そしてそのような時点ではもはや保存といった言葉も不要になるのである。」

(長谷川堯, ルポタージュ:歴史的空間の現在1, 新建築, 1974年5月,p277)





旧山口県庁舎

「山口県旧県庁舎及び県会議事堂」は、庁舎建築史上に類をみない歴史的価値及び学術的価値を有しているとして、昭和58年9月27日に県の有形文化財に、そして翌59年12月28日国の重要文化財に指定された。（山口県HP(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10600/kyuugijido/rekisi.html>)より）

長谷川氏は、山口県庁舎の新築計画への危機感を述べ、その中でも時制感覚に関する問題点を以下のように指摘している。

「様式主義的建築の折衷的性格が、近代合理主義建築の出現によって払拭されて、それがさらに将来の新しく革新的な建築的世界へと発展していく……という発想は、簡単に図式化して書けば、歴史的時間が、＜過去＞→＜現在＞→＜未来＞という直線上の展開をして行く、という革新に支えられている。（中略）歴史的時間は必ずしもそのように順序よく整列したものではなく、むしろ岩礁にくりかえし打ち寄せる波のように、幾度ももどってきては執拗に＜現在＞を洗いだすのだ。」（長谷川堯，ルポタージュ：歴史的空間の現在2 岩礁にうちよせる波のように，「新建築」，1974年6月，p284-285）



県庁舎を「都市門」として残すアプローチのスケッチ

またこの新庁舎の計画に対して、既存建築を活用する提案を行った。

「私の提案は、この旧本館棟の正面（南側）ファサードを左右のウィングとともに残し、（残りは惜しいが取り壊してもしかたがないし1号庁舎も破壊しなければなるまい。）、「羽根をひろげた鳳凰」のような横に長い棟を、山口県庁の、一種の“都市門”のようなものに変身させる。」

（長谷川堯，ルポタージュ：歴史的空間の現在1，新建築，1974年5月，p277）

つまり、新旧の要素を、現在の状態を基盤としつつ、過去と未来を一体的に考えることによって、既存建築を扱うことが重要であるとした。そして既存建築の残すべきところを判断し、新旧の建築を相互に対応させながら使用することを提案した。



倉敷アイビースクエア

倉敷紡績のレンガ造の旧工場が、倉敷出身の建築家、浦辺鎮太郎氏の設計により、ホテルを中心とした複合文化施設として1974年に改修された。

また長谷川氏は、このころ改修されていた倉敷アイビースクエアについて、改修を担当した設計者の浦辺氏との会話の中で、浦辺氏が倉敷の日本的な都市空間の向こうに、ヨーロッパ風のレンガの煙突が見えることのアンバランスを気にしていたことについて以下のように述べ、その面白さを示している。

「＜過去＞が過去完了の中につつまれ、その過去完了形が現在完了として＜現在＞の中に顔をだす、という時間の積層にこそ、現代都市としての倉敷の魅力を私は感じたいとかながね思っていたからである。川ぞいの民家がならぶ1区画が完全なる＜過去＞として復元され、その時制の中に閉じ込められているだけだとしたら、私個人の好みからいってそのイマジネーションは少し固すぎるように思われる。」

(長谷川 堯, ルポタージュ:歴史的空間の現在1,「新建築」,1974年5月,p270)

倉敷アイビースクエアの改修例を契機として、既存建築を活用する設計における古いものと新しいものを調和と統一だけでなく、さまざまな観点により扱う意識は、1970年代以降高まっていく。

1970年代には、既存建築を過去のものとして凍結保存したものとして利用するのではなく、既存建築の残すべきところを判断し、新設部分と取り替えるという、新旧の新しい捉え方の可能性が論じられた。

2-1-3 1980年代における既存建築活用に関する意識の考察

既存建築を活用した設計作品や論考の掲載数は70年代後半に一旦減少するが、80年代になると掲載数が増加する（図4）。

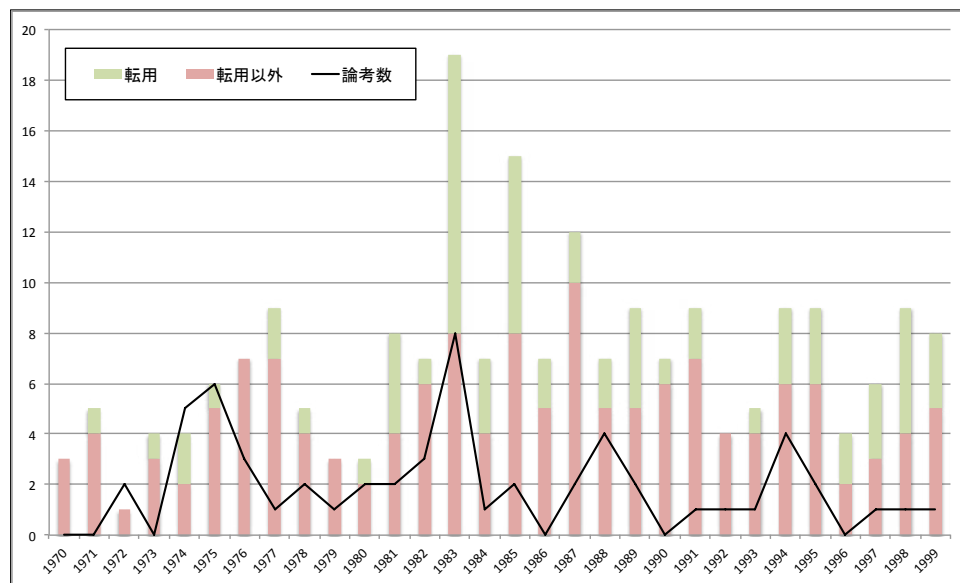


図4 既存建築活用に関する作品と論考掲載数の推移（1970年～1999年）

表2 国内で起きた大地震と建築基準法改正の変遷

年	地震	建築基準法
1891	濃尾地震(M8.0)	—
1923	関東大震災(M7.9)	—
1946	南海地震(M8.0)	—
1948	福井地震(M7.1)	—
1950	—	建築基準法制定
1963	—	建築基準法改正
1964	新潟地震(M7.5)	—
1968	十勝沖地震(M7.9)	—
1971	—	建築基準法改正
1978	宮城県沖地震(M7.4)	—
1981	—	建築基準法大改訂
1995	阪神淡路大震災(M7.3)	—
2000	—	建築基準法改正
2003	宮城県北部連続地震(M7.1)	—
2004	新潟中越地震(M6.8)	—
2011	東日本大震災(M9.0)	—
2015	熊本地震(M7.3)	—

1981年は建築基準法の大改正が行われた（表2）。これにより新耐震設計基準が定められたことで、既存建築の構造補強による改修などに注目が集まったことで、既存建築を活用した論考や、作品の掲載数が増加したと考えることができる。

このような時代の中で、長谷川氏はルポタージュから約10年ぶりに掲載したレポートの中で、既存建築活用に関する一般の考え方の変化を以下のように述べている。

「変わってきたのは、＜近代＞と＜前近代＞の建築が、現代の都市の中において同じ空気を吸って生きていても、決しておかしいことではないという認識、例の大江宏の言葉を借りるならば、ひとつの環境の中にさまざまな時代の建築が「混在併存」すること、むしろその面白さを見出し、逆にこの「混在」の中に都市の健康な姿を見出す、という姿勢が一般的になってきた点にある、といえるように思われる。」



横浜開港資料館（1981年）



新橋演舞場（1982 年）



姫路市立美術館（1983 年）

「記憶を継承するために、ひとつの建物の完全な保存かそれとも取り壊しか、といった二者択一ではなく、記憶を引き継ぎ得る限度を考えながら、建物の再生のためにかなり自由な手術を行うケースが増えてきている。

建物の記憶の保存のために最近積極的に使われるようになったのは、外壁を昔のままに残して内部を新しく作りかえる方法である。（中略）外壁を構造的な重圧から解放し、カーテンウォール化して新しい躯体の皮膚とする方法は、近年、煉瓦造の建築の保存・再生にしばしば用いられるようになった。

また外壁保存のケースでは、当然のこととして外壁は化粧壁もしくはカーテンウォールとなり、内部空間は外部とまったく対照的な今日的な空間になってしまうのはしかたないことである。だが、その点をもう少し面白く解決する仕方が考えられないかと、最近しきりに私は思う。」

（長谷川 堯，建築的想像力の試される時—過去へ切り込んでいった建築家たちのさまざまな苦闘のあとをめぐって—，新建築，1983，3，p144-152）

このように、既存建築を活用して建築の設計を考えることが一般的に浸透しはじめ、その改修方法として外壁の保存や新設に関心がもたれた。

1989 年になるとさらに既存建築への関心が深まることで、リノベーションに対する新しい概念が考察された。

「戸惑ったことは、リノベーションに対する基本概念の不足であった。外国例をリストアップしても＜何故そうなったのか＞がよくわからない。＜保存と再生＞に対する共通言語の発見が、まず全てに優先すること、そしてそれを理解するには、その建物の持つ歴史性、社会性の把握が、何ものにも優先すること、これらの実感が強く私の心の中に印象づけられた。

辞書によればリノベーションとは、＜古いものの刷新、修復、修繕＞などとあり、リニューアルとは＜回復、再生、新しくする＞などどちらも同じような意味合いをもつものようだ。しかし後者には、何か小手先の、技術的で、マイナースケールを感じさせるものがある。今回の海外旅行でも、外国人がよく使ったのは前者であり、その中にはソフトな部分も含まれているように思われる。(中略) リノベーションの分析には、いろいろなアプローチが必要であり、いろいろな切り口からの観察が要求されることがわかってくる。

＜保存＞建物の使われ方が、＜再生＞時にどのように変化していくか、それを概観するには、そのような部位がどのように改造されねばならないか、言い換えれば、＜保存＞されるべき部位と取り壊されるべき＜部位＞は、なにが＜再生＞されたときに、はじめて許容され、バランスされるのか、ということである。

しかしその定型化はひどく難しい。当然それぞれの建物に固有の特殊条件に作用される。特殊条件とは、その建物の持つ歴史性であり、社会性であり、物理性である。

歴史的に生き残った建築に、保存か取り壊しか、と単純に二者択一を迫ることなく、様々な可能性の中で、その望ましいあり方を見出すようになったもらいたい。」

(石田繁之介, <保存と再生>の新しい視座を求めて, 「新建築」1989, 9, p181-186)

このように、1990 年代目前になると少ない事例数ではあるが、海外のリノベーション事例を例に既存建築利用の考察がなされ、建物単体をそれだけとしてみるのではなく社会性など周辺との関わり合いの中で考えていくことが不可欠であることが言及される。また、石田氏は海外の 21 件の事例分析を通して、全ての物件が外壁保存を行っていることを明らかにする一方で、それは必要条件の一つでしかなく、リノベーションする過程で、現代社会の中でどのような空間として効果的な利用を考えていくか、使われる建物とすることを良く考える必要があることを述べている。

2-1-4 1990年代における既存建築活用に関する意識の考察

1990年代に入ると、既存建築を利用した建築作品の掲載数は減少する。しかし、1994、95年ごろに既存建築を転用した作品の係数が増加している（図5）。

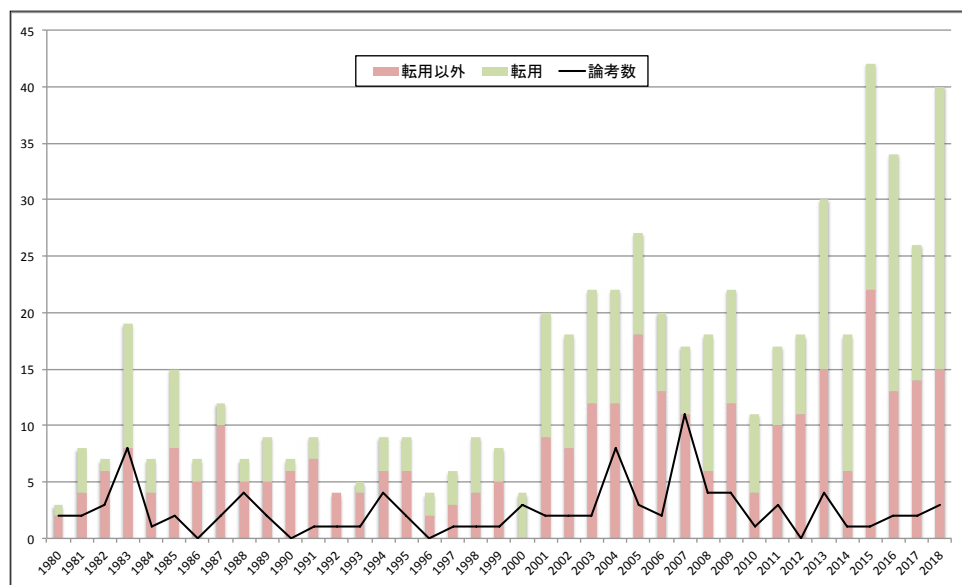


図5 既存建築活用に関する作品と論考掲載数の推移（1980～2018）

1995年には阪神淡路大震災がおり、それによって耐震改修促進法が制定された。このことを既存建築に対する関心を高めた出来事のひとつとして考えることができる。

また、1987年に「環境と開発に関する世界委員会」において「われらの共有の未来」という報告書がまとめられ、そこで「サステイナブル」という言葉が使用された。

サステナビリティは、エコロジー、リサイクル、地球環境問題などを論じる際の重要な概念であり、環境への負担を低減させて経済的あるいは社会的な発展を恒久的に推進させようとするものである。その具体的な方法論として、国連大学学長顧問のグンター・パウリが1994年に提唱した「ゼロ・エミッション (Zero Emission)」構想がある。日本建築家協会では1995年に「サステナブル・デザインガイド」を発刊した。このような動向の中で、1990年代の都市と建築に関して南泰裕は以下のように述べている。

「1980年代後半の日本を覆った、全国的な経済的高揚の反作用として、建築を建ち上げることの原罪性＝現在性が問いただされ、建築の「消去」や「消滅」や「終焉」がさかんに議論されることになった。(中略) われわれは都市と建築をめぐる1990年代を、ひとつの遷移の時空間として了解することができるかもしれない。すなわち、空間から環境へ、理論から言説へ、技術から媒介へ、文化から現象へという移行と変質を個々に読み取り、その切断層を明らかにすることである。しかし、そのような「切断」において1990年代を受け止めることは、果たしてどこまで妥当性をもっているだろうか。われわれは「切断」による時代了解の一方で、それを連続的な眼差しにおいて捉えるよりほかない様々な事象にぶつかる。1980年代を引き込み、継承している諸々の空間や、21世紀へと投射されている未完のプロジェクト群。その「切断」と「連続」は、いわば光を粒子としてみるか、波動として見るかの違いに似ており、そのいずれでもあり得る、と言うべきだろう。おそらく1990年代は、その両義的認識をより強くわれわれに要請してきていたのだ。」

(南泰裕, 連続と切断の言語風景——1990年代の都市と建築をめぐる, 『10 + 1』No. 19 (都市／建築クロニクル 1990-2000) pp. 68-87)

1990年代は長谷川堯が70年代に指摘した日本人の細切れであった時制感覚が連続的に捉えられるようになった時代と考えることができる。

そのようななかで既存建築を転用して活用することが、耐震改修や自然環境保全の意識とも合致し、一般にも志向されるようになり「使い続ける」という行為の価値が受け入れられるようになったと考察することができる。

2-1-5 2000年代における既存建築活用に関する意識の考察

既存建築に関する作品の新建築への掲載数をみると、2000年以降、既存建築を活用した設計は飛躍的に増加している（図6）。

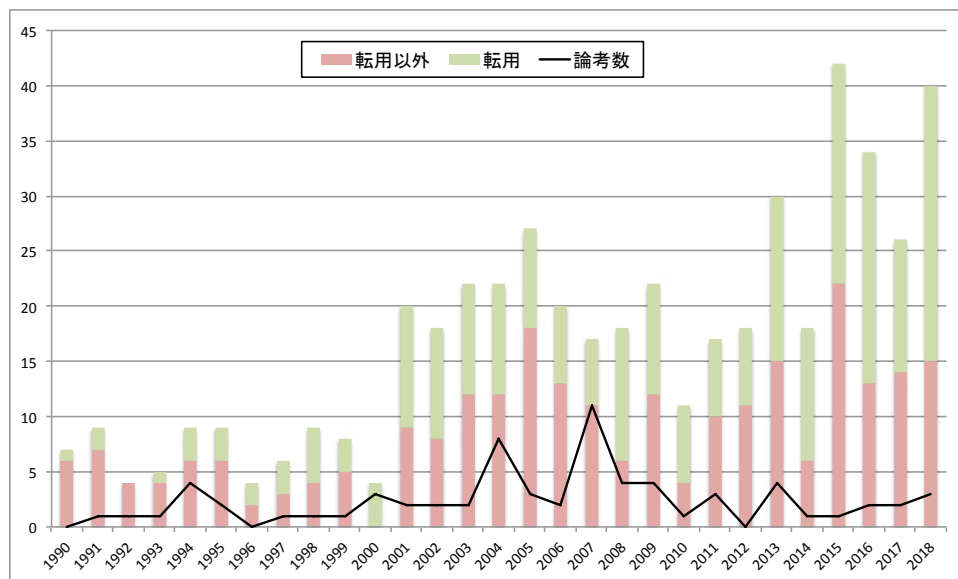


図6 既存建築活用に関する作品と論考掲載数の5年ごとの推移 (1990~2018)

2000年1月から2ヶ月間「文化遺産としてのモダニズム建築展」が開催され、日本における DOCOMOMO の活動の始点と考えられている。この展覧会のカタログの中でコミッショナーの松隈洋氏は以下のように述べている。

「文化遺産の意味の拡大が「保存」という言葉の概念ばかりでなく、「建築」に対する我々の意識自体も変えつつある。そして建築は変化するものであるということを認めながら、建築とよりよく付き合うことが大切で、これからは“創る”ことと“残す”ことの明瞭な境界線が消えて、建物を守り育ててゆことこそが「保存」の中心テーマになるのではないか。」

（田原幸夫，建築の保存デザイン，学芸出版社，2003，p57）



また、2001年には松村秀一氏が既存集合住宅のリノベーションの国際比較をまとめた『団地再生—蘇る欧米の集合住宅』や、みかんぐみの『団地再生計画 / みかんぐみのリノベーションカタログ』などが出版され、同じ年にはオフィスを住宅に変えるコンバージョンの研究が松村氏などによって開始された。

2003年ごろにはブルースタジオが Lattice aoyama を竣工、馬場正尊氏がアメリカのリノベーションを紹介する本を出版し、東京 R 不動産が立ち上げられ、リノベーションした空間に住むことへの関心が高まりはじめる。



横浜赤レンガ倉庫 (2002 年)

2002 年に横浜赤レンガ倉庫がコンバージョンされた。

横浜赤レンガ倉庫ではこれまでの既存建築の活用の枠にとらわれた歴史的建造物の現状維持を目的とした保存ではなく、商業的文化的利用のために現代的な機能や感覚を積極的に付加する「保全」へと手法をシフトすることが考察された。

赤レンガ倉庫に関する論考の中で、新居氏は以下のことを述べている。

「保存と保全の問題は文化のあり方、作り方にもおよぶ。保存の観点が強すぎたり、構造補強のやり方などかなり慎重に考えていかないと創設時の建築家の空間のあり方、思い入れなどとはまったく別の補強がされてしまう。また保全という観点を欠くと何も吊れないし、新しく設備を入れたくてもできないとか、運用や現在の建築基準法に合わせるなど難しい問題が山積みされることになる。日本では強い外観保存の傾向があり、内部に関してはこだわりのない。工事も建築の単体保存、保全である。その建物が建っている場所や歴史性も踏まえるべきだということや、現在までの日本のスクラップ・アンド・ビルドの開発手法に建築の保存、保全はどう対応していくべきかという問題がある。ヨーロッパのように歴史的に都市の景観が継承され、そこに新しい景観が付加されて深みのある街ができているというアーバンデザインの観点や保全建物の歴史性、作家の意図を汲み取った上で新しいデザインを付加し、その建物をさらに強化していくという考えかたは重要だと思う。」

(新居千秋, 赤レンガ倉庫—歴史的建造物との対峙, 『新建築』, 2002, 6, p95)

横浜赤レンガ倉庫は、既存建築設計者の考えた当時の空間のあり方に配慮され、倉庫として利用されていた当時の印象を感じさせる生前とした印象の中央広場が特徴的な施設である。従来の既存建築活用事例のように、外観保存の意識が強く感じられるが、商業的文化的利用のために内部への操作が設計者により積極的に行われた。横浜赤レンガ倉庫は、設計者が公民の間に立ち、企画から設計、実際の使い方までを一体的に計画することで実現した建築コンバージョンの好例と考えることができる。

また、2008年には『世界のコンバージョン建築』が出版され、住宅の再生のみにとどまらない、世界のコンバージョンの多様な事例がまとめられた。この本の冒頭で小林克弘氏は次のように述べている。

「コンバージョン・デザインはセルフ・コンテクスチュアリズムと呼ぶべき発想を必要とする。新築の場合、建築周辺がコンテキストであるのに対して、コンバージョンは既存建築自体が、コンテキストである。新築の場合は、新旧の建築が隣接する形になるので、周辺のコンテキストの参照は自由度を伴ってなされるが、コンバージョンでは、新旧の部分が集合・一体化するため、コンテキストから逃れることはできない。そもそもコンテクスチュアリズムでは、新築によって、場所や周辺の記憶を消し去るのではなく、なんらかの形で記憶を断片的にでもあれ、踏襲することを意図するが、コンバージョンの場合は、既存建物が残るのであるから、その記憶自体は、程度の差こそあれ、否応にも残されることになる。」

(小林克弘 / 三田村哲哉 / 橋高義典 / 鳥海基樹, 世界のコンバージョン建築, 鹿島出版会, 2008, p8)

つまり、コンバージョンは既存建築それ自体がコンテキストであるため、デザインにおいて新旧を如何に関係づけるかをよく考える必要がある。また、このような視点を持ち、コンバージョンを考えると、既存建築が歴史的価値の高い物よりもより一般的な建物のほうが、新たなデザインを付加する自由度が高く、面白い事例となるのではないかということが考察されている。

2000年、そして2010年以降は既存建築の活用がリノベーションという形で、DIY女子などという言葉と共に一般に浸透し、専門家の内にとどまりがちであった建築の世界が生活者にむけて開かれていった。

特に2010年以降は雑誌『新建築』においても、既存の空きビルをシェアオフィスに転用するなどといった、インテリアのみの改修事例が積極的に取り上げられ、既存建築活用に対する意識が柔軟になり始めている。

このような時代の中で、歴史的価値のある建物だけを対象にコンバージョンし、建物を丸ごと保存するような美術館や、現代の都市の中で浮いたように見せる保存ではなく、より積極的に一般的な建物をコンバージョンし生活の中で経済活動を生み出すような転用を考えていくことは良質な建物のストックを大量に所有する国内において重要と考える。

2-2 国内とヨーロッパ諸国における保存に関する法制度の変遷

■国内における変遷

国内における文化財の保存の法制度は1897年の「古社寺保存法」から始まると考えられている。この法制度により保存の対象とされていたのは、歴史的価値のある社寺仏閣に限られていた。

1929年になると「国宝保存法」が制定され、保存の対象が社寺仏閣のみではなく歴史の象徴や美術の規範となるものに拡大される。しかし基本的な考え方は単体の伝統建築の保存であった。

1950年には、法隆寺金堂の焼損を契機として「文化財保護法」が制定され、現在の文化財建造物の保存修理制度が確立したが建築物を単体のものとして保存するという考え方は変化していない。

1975年に「文化財保護法」が改正され、「伝統的建造物群」という概念が導入された。この後文化財の概念が拡大され、近代建築の保存やその活用の重要性にも目が向けられるようになる。

2004年には、「景観法案」「景観法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律案」及び「都市緑地保全法等の一部を改正する法律案」の三法案（景観緑三法案）が提出された。特に、「景観法案」は、良好な景観の形成に関する基本理念及び国・自治体・住民それぞれの責務を定めるとともに、景観形成のための規制や支援等の措置を講ずることを目的としており、景観に関する基本法としての役割が期待されている。景観に関する国内の規制としては、文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区（伝統的建造物及びこれと一体となった環境を保存するために定める地区で、保存のため必要な措置を市町村が定めることができる）制度や、都市計画法に基づく美観地区制度などが挙げられる。しかし、いずれの制度も、特定の歴史的 중요性的な地域あるいは物を対象としたものである。

■ヨーロッパ諸国における変遷

ヨーロッパでは景観に関する規制とともに歴史的な建築物の保護が考えられている。イギリス、イタリア、フランスに関する国単位の法制度を例にみる。

・イギリス

イギリスではディベロップメント・プラン (Development Plan) に示された計画の目標を達成す

るように、規制が行われる。景観に関係の深い歴史的遺産の保護に関連して、一定の条件の下に、イングリッシュ・ヘリテッジ (English Heritage) から補助金が支給される。

・イタリア

イタリアにおける景観規制は、1910年代から20年代にかけて、1909年の文化財の保護に関する法律による保護対象が、歴史的・芸術的価値を有する公園・庭園、眺望の美などの景観を形成する物にまで拡大されたことに始まる。景観と、単体の建物や場所などの関係の重要性の認識はされていたが、歴史的・芸術的な価値を有する物や場所に規制の対象がかけられていたため、規制のかからない地域では景観を損ねるような開発も行われた。

・フランス

フランスでは19世紀の前半に文化財の保存の法的制度が始まり、1913年に「歴史的記念物保護法」、1930年に「風致保護法」が制定された。これらの制度は単体の建築物のみを保護の対象にするのではなく、その建築物の周囲500m以内の区域における景観の規制も含んでいた。この時点では景観、つまり建築物の外観の維持や修繕にとどまる対応であった。

しかし1962年に制定された「マルロー法」によって、古い建築や都市の保存を、景観・外観を維持することのみではなく、生活の中に再生させる取り組みが開始された。これは保存という概念を生きた生活環境の中における一つの手段として捉えた画期的な法であった。

ヨーロッパではこのような各国の取り組みがあり、その後1975年の「ヨーロッパ建築遺産年」に「ヨーロッパ建築遺産憲章」が発表され、この中で「保存」を生活環境を形づくるものの中で正しく位置付けることの重要性が示された。

日本においても既存建築の使用の仕方と景観との関係性は考えられるようになってきてはいるが、やはり歴史をみると浅く、未熟であることは明らかであり、建物単体の歴史の重要性への視点がまだまだ大きく、国外に見られるようなダイナミックで、生き生きとした経済活動を生み出すような転用は多く行われていない現状が続いている。

2-3 既存建築活用の国内動向の概要

本項では、1940年～2018年12月の約80年間の間に「新建築」に掲載された既存建築を活用した建築設計作品のうち、元用途と後用途が異なるものについて、用途別の掲載数を示すことで、国内の建築コンバージョンの動向を考察する。

■ 1940～70年代

1940～70年代は、30年間の間に掲載された既存建築を利用した作品の掲載数は19件と少ない。その中で、旧用途として多数を占めているのは、居住系、事務所系である。また、新用途では、飲食系、居住系、事務所系が多くを占めている。

表3 1940～70年代旧用途の年代別の掲載数

年	旧用途								合計
	遺産系	医療系	居住系	娯楽系	公共系	産業系	事務所系	小型店舗系	
1940									0
1941		1							1
1943									0
1948									0
1949									0
1950									0
1951									1
1952							1		1
1953					1				1
1954									0
1956						1			1
1957	1		1						2
1959									0
1961									0
1963									0
1964									0
1965			1						1
1966									0
1967			1				1		2
1968									0
1969							1		1
1970									0
1971								1	1
1972									0
1973			1						1
1974						1			2
1975							1		1
1976									0
1977				1		1			2
1978					1				1
1979									0
総計	1	1	4	1	2	3	4	1	19

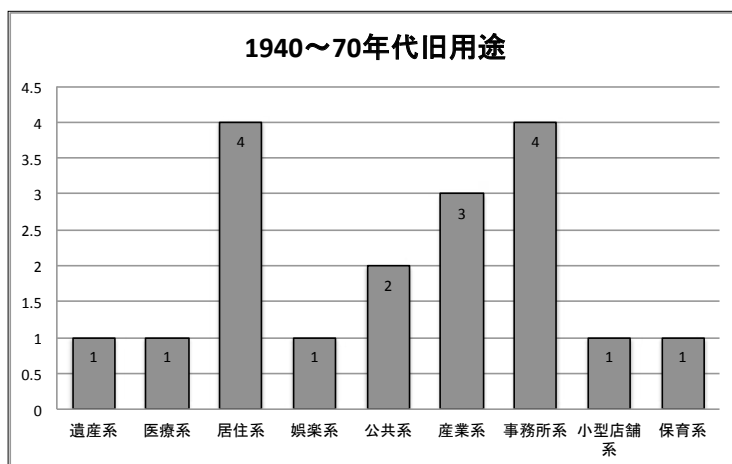


図7 1940～70年代旧用途

表4 1940～70年代新用途の年代別の掲載数

年	新用途								合計
	展示系	飲食系	居住系	公共系	事務所系	商業系	小型店舗系	保育系	
1940									0
1941					1				1
1943									0
1948									0
1949									0
1950									0
1951									1
1952					1				1
1953		1							1
1954									0
1956								1	1
1957		1		1					2
1959									0
1961									0
1963									0
1964									0
1965		1							1
1966									0
1967			2						2
1968									0
1969	1								1
1970									0
1971					1				1
1972									0
1973		1							1
1974	1		1						2
1975					1				1
1976									0
1977						1	1		2
1978				1					1
1979									0
総計	2	4	3	2	4	1	1	1	19

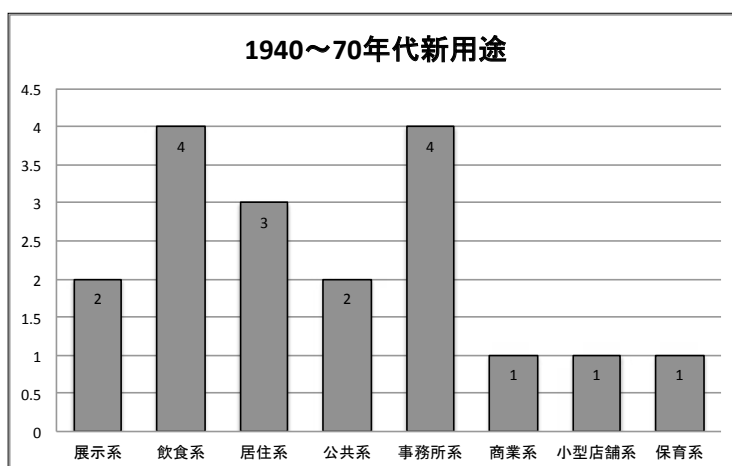


図8 1940～70年代新用途

■ 1980 年代

1980年代は歴史的価値のある建築物を、資料館や美術館などへ転用する事例が多く見られた。また、歴史的に価値があるものを後世に残すという意識から、特徴的なものとして、煉瓦倉庫を商業施設へ転用する事例として函館ウォーターフロントがあげられる。



函館ウォーターフロント

これは、1887年に建設されたレンガ造の倉庫が、1988年に商業施設へと転用された事例である。国内における既存建築の活用は観光という視点に偏りが見られる。しかし函館ウォーターフロントは、都市の生活環境づくりに焦点を当て、かつ単体ではなく群として活用されている点が特徴的である。

堅牢なレンガ造の壁と木組みを保存しつつ、照明や建具、庇、構造補強として外壁に鋼製のバンドを付加することで新旧の対比を行っている。



セゾン美術館正面入り口

全体としては歴史的建築物の保存・再生という意識が強いが、1989年のセゾン美術館は、いわゆる歴史的建築物からの転用ではなく、一般的な百貨店建築からの転用であるという点で興味深い。

表5 1980年代旧用途の年代別の掲載数

年	旧用途							総計
	医療系	居住系	教育系	公共系	産業系	事務所系	商業系	
1980		1						1
1981		2		1	1			4
1982					1			1
1983		1		2	5	1	2	11
1984	1	1		1				3
1985			1	3	1			5
1986		1			1			2
1987				1		1		2
1988					2			2
1989		1			1	1	1	4
総計	1	7	1	8	12	3	3	35

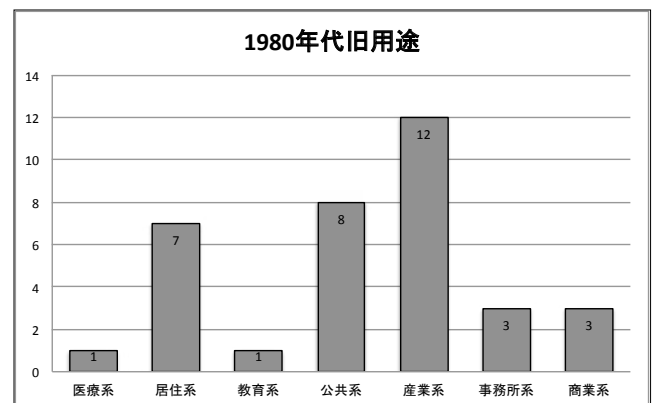


図9 1980年代新用途

表6 1980年代新用途の年代別の掲載数

年	新用途							総計
	展示系	居住系	公共系	事務所系	商業系	保育系	飲食系	
1980			1					1
1981	1		2	1				4
1982			1					1
1983	2		5	2	1	1		11
1984			1	2				3
1985		1	1	3				5
1986	1		1					2
1987		1	1					2
1988			1		1			2
1989		1	1	1			1	4
総計	4	3	15	9	2	1	1	35

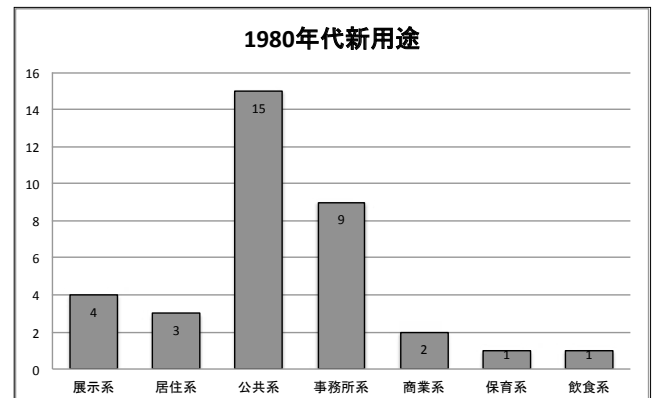


図10 1980年代新用途

■ 1990年代

1990年代は80年代に比べると事例数は減少するが、歴史的価値のある倉庫や蔵などの産業系施設を美術館や資料館などの文化芸術関連施設へと転用する傾向がより顕著に見られた。



やませ蔵美術館

「山清」は江戸時代から続いた軸間屋である。山清が明治時代に建てた蔵が「やませ蔵」である。やませ蔵美術館は「山清」の敷地内にある5つの蔵を整備して1991年に開館した。



ミュージアムパーク アルファビア（すもとアルファビアミュージアム）

明治から大正にかけて建築されたレンガ造の紡績工場群が1995年に資料館として整備された。

表7 1990年代旧用途の年代別の掲載数

年	旧用途				総計
	居住系	公共系	産業系	事務所系	
1990			1		1
1991			1	1	2
1992					0
1993				1	1
1994	1	2			3
1995			1	2	3
1996			2		2
1997			3		3
1998	1	2	2		5
1999	2			1	3
総計	4	4	10	5	23

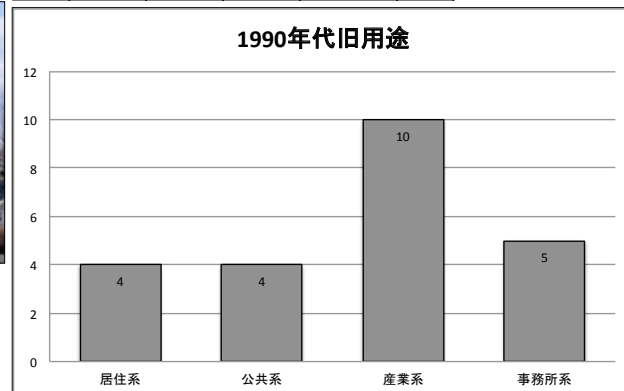


図11 1990年代旧用途



金山町 街並みづくり資料館（蔵史館）

米蔵を1995年に地域の芸術文化活動の場として再生した。



金沢市民芸術村

1923年から1927年にかけて建設された金沢紡績の倉庫群を、1996年に市民のための演劇・音楽・芸術活動のための場として再生した。

表8 1990年代新用途の年代別の掲載数

年	新用途							総計
	展示系	飲食系	居住系	公共系	事務所系	商業系	小型店舗系	
1990							1	1
1991			1	1				2
1992								0
1993					1			1
1994				2	1			3
1995				2		1		3
1996				2				2
1997	1			2				3
1998	1	1		3				5
1999	1			1	1			3
総計	3	1	1	13	3	1	1	23

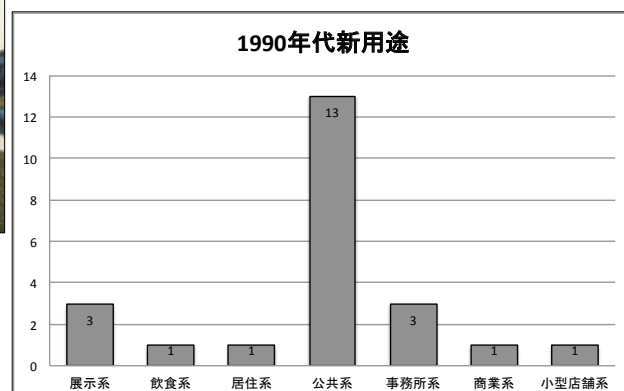


図12 1990年代新用途



土佐山田の家

築100年近い木造一軒家を2003年にギャラリーへと改修した。



上下町歴史文化資料館 / 旧岡田邸

上下町の代表的な町家建築を2004年に資料館として改修した。



ギャラリー門馬アネックス

築約40年の住宅の軒下にある既存の物置を2004年に改修し、筒状のギャラリーを挿入した。



ルミナスコート菅番館

5階建ての共同住宅をリファイニングし、一部を社宅、残りを賃貸向け共同住宅とした。

■ 2000年代

2000年代では新旧の用途が多様化する。

産業系施設からの転用は80年代から引き続き多く行われ、それに加えて居住系、事務所系からの転用事例が増加する。歴史ある一軒家がギャラリーへ転用される事例や、社宅として企業が所有していた建物を賃貸向けのマンションとして再整備する事例が多く見られることが特徴的であった。また、事務所系からの転用では、オフィスビルを集合住宅へ転用する事例や、歴史ある銀行のファサードを保存して新築を付加するという操作が多く行われた。商業系施設からの転用や、商業施設への転用が増加したことも特徴的である。

表9 2000年代旧用途の年代別の掲載数

年	旧用途												総計
	医療系	居住系	教育系	娯楽系	公共系	産業系	事務所系	商業系	小型店舗系	体育系	農業系	福祉系	
2000		2				2							4
2001		2	1	1	2	2	1			1		1	11
2002			1		2	3	2		1				9
2003		2			1	2	2		1	1	1		10
2004		4		1			4	1					10
2005			1		1		6			1			9
2006		4				2	1						7
2007		2			1	2	1						6
2008		6	1			3	1	1					12
2009	1	2			1	2	3	1					10
総計	1	24	4	2	8	18	21	3	2	3	1	1	88

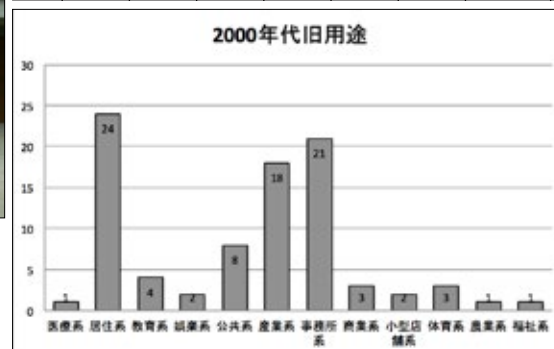


図13 2000年代旧用途

表10 2000年代新用途の年代別の掲載数

年	新用途											総計
	展示系	医療系	飲食系	居住系	教育系	公共系	産業系	事務所系	商業系	小型店舗系	複合系	
2000	1	1		1	1							4
2001	3			1	1	3		1	1	1		11
2002	3					3		1	1	1		9
2003	1			1	2	4				2		10
2004	4	1		1		2		2				10
2005				3		4			1	1		9
2006				2		3	1	1				7
2007	1		1	1		2		1				6
2008	2			4	2	2				1	1	12
2009				2		4		2	1	1		10
総計	15	2	1	16	6	27	1	8	4	7	1	88

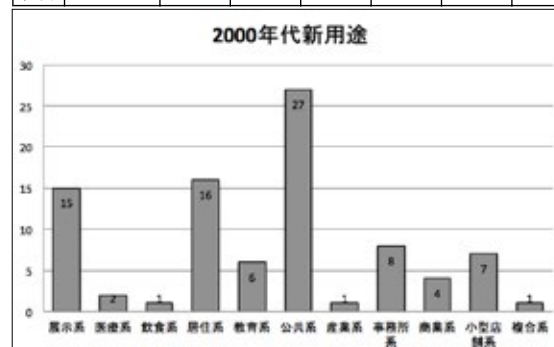


図14 2000年代新用途



THE SHARE

築48年の寮を「シェア」をコンセプトに、2011年に住宅・オフィス・店舗からなる複合施設へと転用した。



シェアフラット馬場川

商店街に位置し、15年間空き家であった雑居ビルを、2014年に学生専用のシェアハウスに転用した。



シェアプレイス聖蹟桜ヶ丘

築51年の独身寮を、単身者に加え留学生が住むシェア型住宅に2015年に転用した。



MTRL KYOTO

築120年の擬洋風建築を、2015年にシェアオフィスとして転用した。



千鳥文化

築60年の「旧千鳥文化住宅」を補修し、クリエイターや地域の人々のシェアオフィスとして2017年に転用した。

■ 2010年代

2010年代になると、旧用途では居住系、事務所系、産業系が相変わらず多くを占めるが、新用途は多様化し、用途別の数も分散している。

また、リノベーションやコンバージョンでは、シェアハウスやシェアオフィスへ変更することが定石ようになってきていることも特徴的である。

表11 2010年代旧用途の年代別の掲載数

年	旧用途																総計
	展示系	医療系	飲食系	居住系	教育系	娯楽系	公共系	産業系	事務所系	商業系	小型店舗系	体育系	駐車場	農業系	保育系	輸送系	
2010				3				4									7
2011					2			1	2	1	1						7
2012				4		1		1	1								7
2013				3	2	1	3	2	1	1	1					1	15
2014				3			1	4	1	1		1				1	12
2015		2		5				11	1					1			20
2016				9	3		1	2	1	2	1	1		1			21
2017				4	1			3	1						1		11
2018	1		1	8	1		3	1	8		1		1				25
総計	1	2	1	38	9	2	8	29	16	5	4	2	1	2	1	2	125

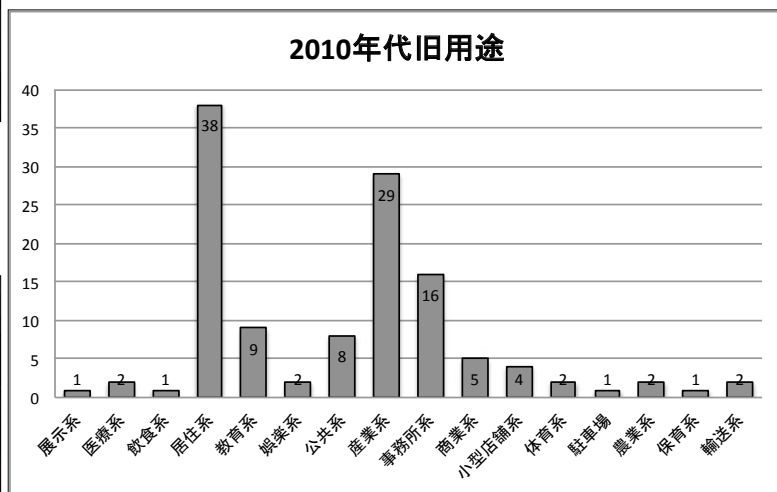


図15 2010年代旧用途

表12 2010年代新用途の年代別の掲載数

年	新用途													総計
	展示系	居住系	居住系(シェア)	事務所系	事務所系(シェア)	教育系	娯楽系	公共系	商業系	小型店舗系	小型複合系	福祉系	複合系	
2010	1	2					1	1		2				7
2011	2	1		1			1			1			1	7
2012		1		3			1	1	1					7
2013	3			1			2	1	5	2			1	15
2014	1	2		1					6	1			1	12
2015	4	1	3	3	1			2	2	3			1	20
2016	2	2	4	1	2	2		4		2	2			21
2017	1	3			3	1				1		1		11
2018	2	3	2	7	6			2		2		1		25
総計	16	15	9	17	12	7	3	21	5	11	2	2	4	125

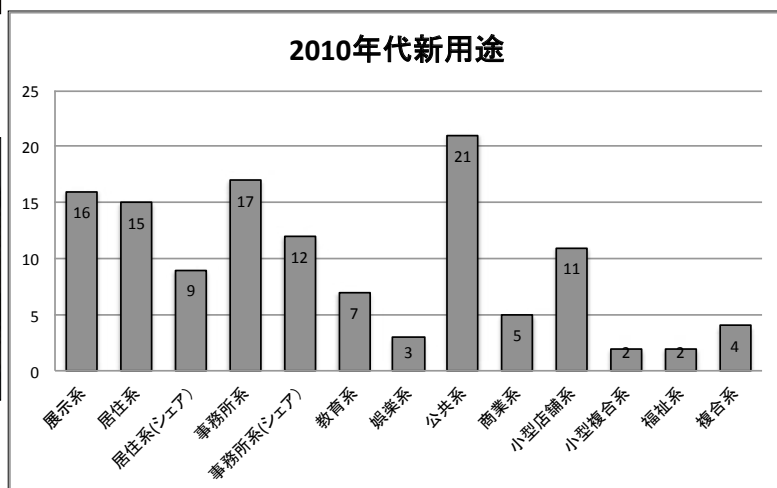


図16 2010年代新用途

第3章

国内における大規模小売店舗概論と国内事例

3-1 大規模小売店舗に対する意識に関する考察

前章までで既存建築活用に関する論考を抽出すると共に、建築のビルディングタイプを限定せずに既存建築を活用した作品を抽出する作業を行った（表1、図1）。雑誌「新建築」では、居住や公共系施設に関しては「リノベーション特集」が組まれ、事例数が充実し、議論も活発に行われている。

しかし転用後に商業施設となる事例のうち、一つの建物の中に複数の店舗が入居した商業系施設の掲載数は約80年の間にわずか10数事例のみであった。また、スーパーをキータナントとしたいわゆるショッピングセンターやショッピングモールと呼ばれる大型小売店舗については新築、転用に関わらず掲載が行われていないという現状がある。（菊竹の西武大津ショッピングセンターは1976年に掲載された。）

表1 作品と論考掲載数の10年ごとの推移

年代	転用	転用以外	論考数	合計
1940	1	7	0	8
1950	5	17	3	26
1960	4	15	12	31
1970	8	39	20	67
1980	37	57	26	94
1990	23	47	12	70
2000	89	101	41	231
2010	126	110	17	236
合計	293	393	131	763

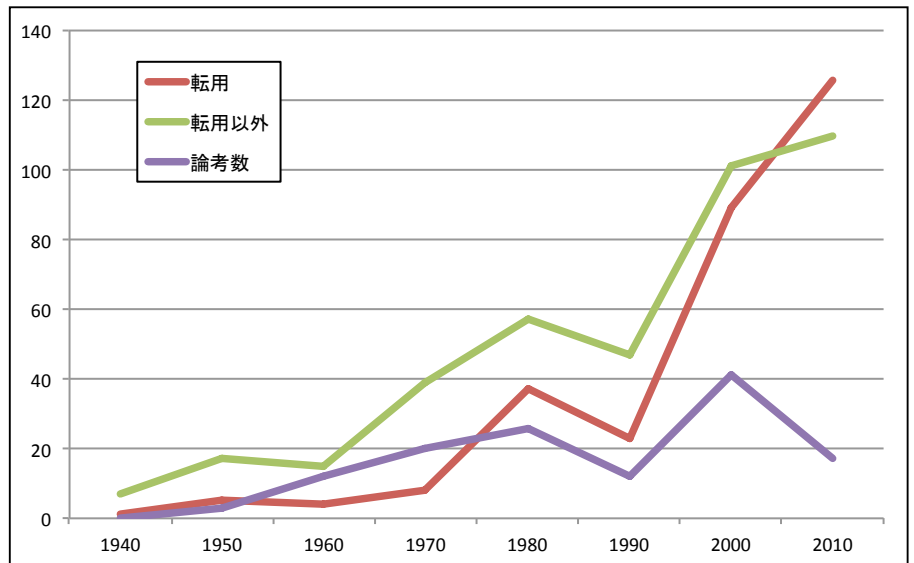


図1 既存建築活用に関する作品と論考掲載数の10年ごとの推移

表2 商業系施設へコンバージョンされた事例

No.	年	月	名称	設計者	元用途詳細	後用途詳細	元用途	後用途
1	1977	9	明治やフードプラザ広尾(現 明治屋広尾ストア)	清水建設建築設計本部	配送センター	店舗	産業系	商業系
2	1983	3	六甲パインモール	竹中工務店	紡績工場	インテリアマート	産業系	商業系
3	1988	9	函館ウォーターフロント(函館ヒストリープラザ)	北海道岡田新一設計事務所	倉庫	商業施設	産業系	商業系
4	2001	3	新風館	NTTファシリティーズ+リチャードロジャースパートナーシップジャパン	電話局	商業施設	事務所系	商業系
5	2002	6	横浜赤レンガ倉庫1号館・2号館	新居千秋都市建築設計	倉庫	商業施設	産業系	商業系
6	2004	5	横浜アイランドタワー	都市基盤整備公団 横総合計画事務所	銀行	オフィスビル	事務所系	複合系
7	2005	3	COCON KARASUYAMA	隈研吾建築都市設計事務所	社屋	オフィス、商業施設	事務所系	商業系
8	2005	7	大阪証券取引所ビル	三菱地所設計・日建設計	事務所	事務所、店舗	事務所系	複合系
9	2008	8	HUNDRED CIRCUS East Tower	日建設計	シティホテル	複合施設	居住系	複合系
10	2012	11	JPタワー	三菱地所設計 マーフィー/ヤーン	郵便局	事務所、店舗、郵便局	事務所系	複合系
11	2013	3	NEWLAND	山本和豊/デッセンス 二俣公一/ケース・リアル トラフ建築設計事務所	クレーン教習所	商業施設、ワークショップスペース、宿泊施設	産業系	複合系
12	2013	10	JR神田万世橋ビル+マーチエキュート神田万世橋(万世橋高架橋開発)	JR東日本建築設計事務所(JR神田万世橋ビル) 東日本旅客鉄道+JR東日本建築設計事務所+みかんぐみ(万世橋高架橋開発)	高架橋	商業施設	輸送系	商業系
13	2013	12	ハモニカ横丁ミタカ	MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO	パチンコ屋	横丁	娯楽系	商業系



大規模小売店舗のイメージ



大規模小売店舗のイメージ



大規模小売店舗のイメージ



大規模小売店舗のイメージ



大規模小売店舗のイメージ



大規模小売店舗のイメージ

ショッピングセンターやショッピングモールなどの大規模小売店舗の建築を年を追って見てみると（表3）、圧倒的に新築が多く、システム化された建築により固有性に欠け、商店街の衰退や景観の均質化の要因として批判されることが多い。

たしかに、ショッピングセンターやショッピングモールなどの建設によって、かつて町の中心であった場所が衰退していることは事実として考えられるが、都市空間と交通テクノロジーの変容に伴い、商業とそれを元にした生活様式が変化することは仕方のないことであり、実際にショッピングセンターやショッピングモールは現代に生きる私たちにとって雇用も含め、日常生活の上でなくてはならない場所となっていることも事実である。また、現代の人々にとってショッピングセンターやショッピングモールのある風景は商店街のある風景よりも馴染み深い記憶となることも考えられる。



西武大津ショッピングセンター

国内では歴史的に建築家のキャリアは市庁舎、美術館、学校などの公共建築で評価され、商業建築はそれらに比べ軽視され、積極的な擬音も行われなかった。

このような背景がある中で大規模小売店舗は正統な建築の研究対象から外されてきたが、一部の建築家からは大規模小売店舗のような大型商業集積施設に対して、それが都市へ果たす役割が指摘されている。菊竹清訓はショッピングセンターに関して次のような考察を示している。

「私はショッピングセンターを、郊外型、都心型そして今日第3世代として「コミュニティ型」の段階にあると考えている。(中略)今世紀当初、現代建築は、公共建築、集合住宅およびショッピングによって出発した。にもかかわらず商業建築は以来、大衆迎合による悪趣味によって個性を喪失している。コミュニティのセンターとして機能しはじめたショッピングセンターを新しい建築として復活しなければならないと考える。」

(大津ショッピングセンターの計画について, 「新建築」, 1976, 11, p214)

「1970年代に出現したショッピングセンターはこの意味で人間の建築、人間の環境を復活するチャンスであるといえる。そのことによって商業施設を現代建築として位置づけ直さなければならない。コマーシャル・ビルが、もうけ第一主義の見掛け倒しの成金趣味をひけらかす虚栄の市ではなく、市民の生活に根差し、市民に愛され、親しまれ、サービスする建築であるべきことが示されるべき時点にあることを考えるべきである。」

(大津ショッピングセンター計画におもう, 「新建築」, 1976, 11, p217)

「何か地域文化というと、常に抽象的観念的課題であり、また教育的施設になってしまいがちであるが、私は本当は、商業施設において、特にショッピングセンターのような大型商業集積施設においてこそ、それは豊かに、楽しく、生き生きと達成されるものであると信じている。」

(建築物としての魅力あるSCとは, ショッピングセンター, 1976, 11, p22-25)

シーザー・ペリは菊竹の大津ショッピングセンターの計画を評価して以下のような書簡を送った。

「何処にあるショッピングセンターも、日本のものもアメリカ同様、その属する社会に責任を果たそうとするなら、コミュニティセンターになるべきものです。この方向において、貴方のデザインとプログラムは非常に重要な一歩になると考えます。」

(シーザー・ペリ, 「新建築」, 1976, 11, p215)



Almere Block 6

また、レム・コールハースは2000年に「ジャンク・スペース」というエッセイを執筆し、その中で現代の商業空間を建築家の手に負えない、グローバルに均質化した空間として描きこれを「ジャンク・スペース」と呼んだ。ショッピングセンターではマッスからヴォイドを切り抜くという造形が採用されており、これがジャンクスペースの象徴であるとしている。そしてジャンク・スペースへの対応策としてヴォイドを用いて公共空間を確保することを指摘し、それを実際の商業空間に当てはめたものが「Almere Block6」である。そして、コールハースは2002年に出版した「GUIDE to SHOPPING」において以下のように述べている。

「建築家、特に大学にいる建築家は商業建築を嫌う。なぜか、形態も構成もないからだ。ハイアーキテクチャーが商業への関与を否定してきたがために彼らは20世紀のアーバニズムへの最大の貢献に参加する資格を失った。」

(レム・コールハース他, GUIDE to SHOPPING, (八束はじめ, 「ショッピング・ガイド」へのガイドより引用))

以上のように菊竹清訓は、商業施設によって地域文化が達成されることを指摘し、レム・コールハースは商業施設の公共性がもたらす都市形成への貢献を各国の商業施設を例に検証し、商業施設に関して議論することの必要性を示した。

これらの言説から、いまだ多くの議論が行われていない大規模な商業集積施設に関して、そのデザインを検討することの意義を確認することができる。

日本ショッピングセンター協会

日本ショッピングセンター協会は、1973年4月に「わが国のショッピングセンター（SC）の発展を通じて消費者の豊かな生活づくりと地域社会の振興に貢献することを目的に設立」された団体で、1975年4月に通産省認可の社団法人となり、2012年4月には内閣府認可の一般社団法人に移行している。会員は「現にショッピングセンターを所有し、開発し又は管理するもの及び今後所有し、開発又は管理しようとする」ディベロッパー、「現にショッピングセンターにおいて小売業（飲食店業を含む）、サービス業その他消費者に利便を提供することを業として営むもの及び今後営もうとする」テナント、それ以外の「会の目的に賛同し、その事業に協力しようとする」企業・団体・個人。（日本ショッピングセンターホームページ http://www.jcsc.or.jp/about_jcsc）

キーテナント

当該SCの商圏・客層を決定する大きな影響力を持つ大型小売店舗のことで、百貨店や大型スーパー、ホームセンターなどを指す。（日本ショッピングセンターホームページ http://www.jcsc.or.jp/about_jcsc）

3-2 国内の大規模小売店舗の変遷

3-2-1 大規模小売店舗の概要

日本ショッピングセンター協会では、ショッピングセンターに関して次のように定義している。

- ・小売業の店舗面積は、1,500 m² 以上であること。
- ・キーテナントを除くテナントが10店舗以上含まれていること。
- ・キーテナントがある場合、その面積がショッピングセンター面積の80%程度を超えないこと。但し、その他テナントのうち小売業の店舗面積が1,500 m²以上である場合には、この限りではない。
- ・テナント会（商店会）等があり、広告宣伝、共同催事等の共同活動を行っていること。

また、国際ショッピングセンター協会（International Council of Shopping Centers）では、ショッピングセンターを3つの階層を用いて分類している。

①機能や規模による分類

・ネイバーフッド・ショッピングセンター

＜機能＞一連の最寄品と個人的サービスを提供すること。

＜規模＞3000～10000 m²、利用者2500人から40000人

・コミュニティ・ショッピングセンター

＜機能＞ネイバーフッドSCが提供するものよりもより一層幅のある商品を提供する。

＜規模＞10000～30000 m²、40000～150000人

・リージョナル・ショッピングセンター

＜機能＞十分な種類と多様性のある回周り品、雑貨、アパレル、家具及び室内装飾品を提供する。

＜規模＞典型的には40000 m²だが3000～100000 m²まで多様、150000人以上

・マルチユース・ショッピングセンター

＜機能＞小売業が広範な計画的土地利用の一部として開発され、その活動が単独の複合建築物の中で結合するSCのこと。

＜規模＞広大なオフィス、ホテル、あるいは住空間とともに20000 m²かそれ以上の小売空間を持つ。

・フォーカスト・ショッピングセンター

＜機能＞唯一のテナントがSCの建築物を完全に支配する形で大型店舗で営業する。

②モール形式による分類

・オープンモール形式→屋外型、駐車場が広く、今日に多く見られる SC 季節を直接的に感じられ、遊びと買い物を楽しむことが出来る点が大きなメリット。また施設開発・運営の立場からすれば、建築費、維持費が比較的安くすむ点もメリットとしてあげられる。

(アメリカの郊外型ショッピングセンターの一号店は 1948 年「タウン・アンド・カントリー・ショッピングセンター」でオープンモール形式であった。)

・エンクローズド・モール→屋内型

全天候に対応でき、モール内の温度だけでなくバナー、光、音楽などで統制することができる点がメリット。そのため、様々な販売促進活動を実施しやすく、加えて通路と店舗の間に扉を設置する必要もないため、客は店舗への入店に対して心理的障壁が比較的小さい。

③立地による分類

・都市型ショッピングセンター

駅ビルなど都市部に立地し、主に公共交通機関での来店を前提としたショッピングセンターのこと。

・郊外型ショッピングセンター

車で来店を前提に広い駐車場を配置したショッピングセンターのこと。

以上のことを踏まえ本論文では、ショッピングセンター（以下 SC）やショッピングモール（以下 SM）として認識されている大規模小売店舗の定義を以下のよう
に定める。

ある施設がサービスを提供する商圈に応じて、その立地、規模および店舗タイプに合致した経営施設として計画され、開発され、所有され、そして管理された一つの敷地に建設された建築学的に一体化した、もしくは一体的に計画された一群の商業施設。

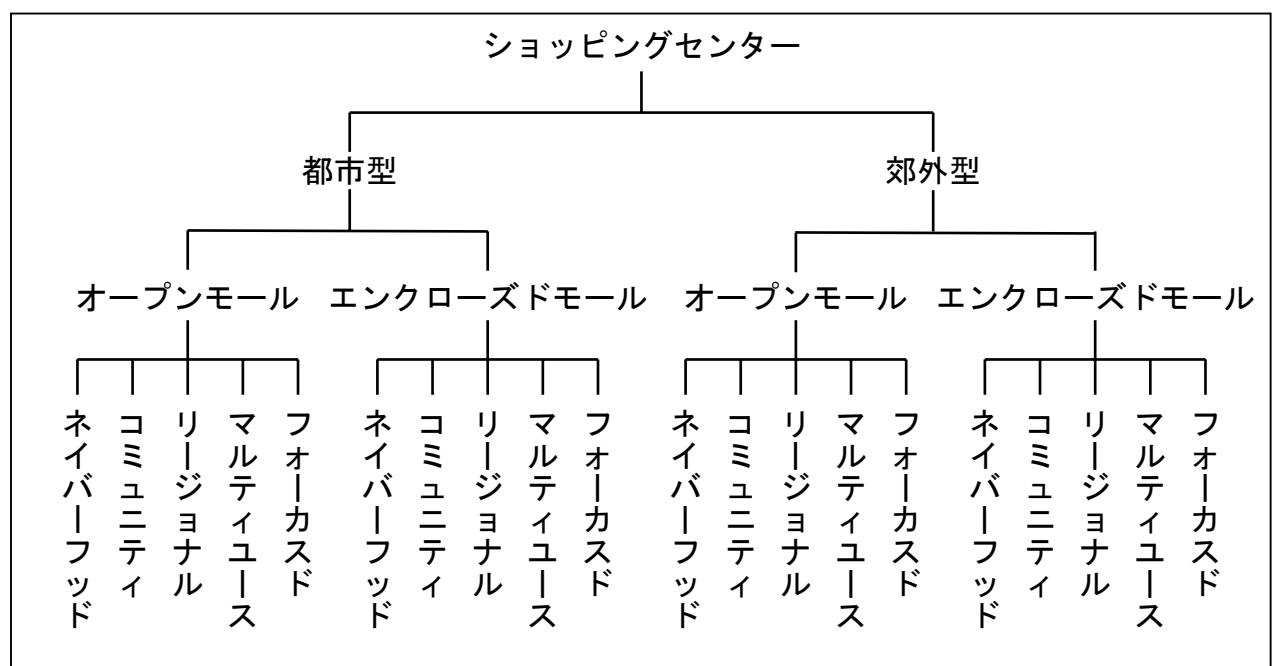


図2 ショッピングセンターの分類

3-2-2 国内の大規模小売店舗の平面構成の変遷

■ 1970 年代

「玉川高島屋 SC」は百貨店をキーテナントとした日本初のリージョナル型 SC であるとされている。アメリカでは大きな平面を利用したモールが主流であった。しかし日本では鉄道の駅前と幹線の自動車道路が交わるようなところに SC の立地計画がなされたため広大な敷地を利用し、横に長く伸びるような建物を計画することが困難であった。そのため玉川高島屋 SC では、吹き抜けの中央広場をモールと捉え、エスカレーターやエレベーターなどを利用して立体的な SC が計画された。

このような中で、「くずはモール」はオープンモールとエンクローズドモールを併せ持つショッピングモールの先駆けであった。

1970 年代の SC は玉川高島屋 SC やくずはモールのように、動線が直線で計画されていた。アメリカでは SC における動線がモールとして、有用な要素と考えられていたが、日本では法規上「共通通路」として表され、実際の利用も単調なものであった。

1980 年代の SC 開発に向けて、多くの海外視察が行われ、動線の計画も変化していく。

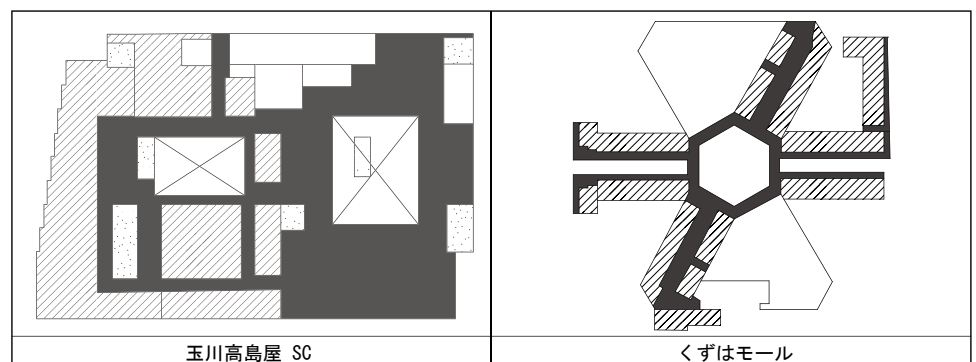


図3 代表的なショッピングセンターの平面構成

■ 1980 年代

1980 年代になると動線をモールとして捉える意識が強くなり、モールの空間演出による施設計画に関心が強く持たれた。次のような具体的なモールの基準値が示された。

- ・ モールは「疲れず、楽しい場」とするために単純な計画とする
- ・ 400 メートルが疲れを感じずに抵抗なく歩ける距離の限度である
- ・ モールの長さは 90-120 メートル、幅は 9-12 メートルが好ましい

このような具体的な数字が、SC の均質化を招いたと考えることもできるが、1980 年代ではこのような具体的な数字に合わせて、施設内での人の流れの緩急が考えられるようになった。これは緩急が人の購買意欲を促進するという効果が指摘されたためだとされている。1970 年代以降の行動科学や人間工学の分野では、直線型の動線は、客に距離を強く意識させるため、歩行距離が短くなるということが研究によって示されている。人流れに緩急をつけることを実現する手段として、1980 年代では蛇行した動線が多く用いられるようになった。

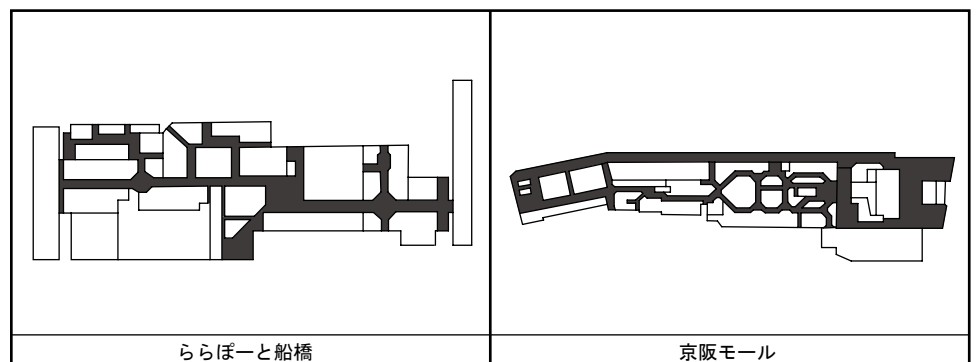


図4 代表的なショッピングセンターの平面構成

■ 1990 年代



1990 年代では、非日常性という観点から SC が計画された。また 1970 年代に建築された SC の老朽化に対応するために、玉川高島屋 SC に代表されるようなリニューアルが相次いで行われた。

二子玉川一帯は、玉川高島屋 SC を中核として新しいタイプの郊外を運営する「アダルト・シティ」構想が玉川高島屋 SC15 周年の際に構想されていた。その際に自由時間感覚と自然環境を取り込んだ都市空間作り、駐車場の分散化とアメニティに富んだ回遊性の構築、選択制にみちた店舗構成が計画目標とされていた。20 周年のリニューアルの際にはこの理念が継承された。



20 周年のリニューアルでは、本館 1～3 階の改装、ファサードピロティの改修と、外部エスカレーターの新設、3 階屋上庭園の整備、トイレの改装、西館駐車場のホール化が行われた。リニューアルの設計を担当したスペースインキュベータの彦坂裕氏は以下のように述べている。

「本館 SC は、リゾートテイストを持つラグジュアリーな環境として全面整備をし直している。インテリア公共部は、あえてアーバンデザイン、ランドスケープデザイン、ステージデザインといった外的規範によって再構成を試みた。この結果、都会的な見通しと迷路感覚の共存、R 動線、行き止まりのアイストップなど従来の SC ではあり得ない空間構成と環境性を持っている。」

「リニューアルにより成熟した消費空間に、しなやかなソフトインフラストラクチャーを形成することであった。ここでのソフトインフラとは、リゾートテイストやホスピタリティをそこに臨場する人々が共同祝祭的な感興で分有するための環境と情報の仕掛け、「街」へのイメージリーダー的な名所性のある空間の作り込み、テイストにおいて通底し選択性にみちたゾーニング、そうしたものの整備であり、結果としての神話的価値をもった奥行きのある魅力的な環境の獲得にほかならない。」

(彦坂裕, スペースデザイン試行, 「新建築」, 1989, 12)

このように玉川高島屋 SC のリニューアルでは、見通しが良いわかりやすい単調な平面構成から脱却するために 1980 年代に用いられたような蛇行型を継承しつつ、曲線や曲面を用いることで見通しと迷路感覚の共存やアイストップをもつ街路のような構成が検討された。



図5 玉川高島屋SCの平面構成（改修後）



図6 玉川高島屋SCの平面構成（改修前）

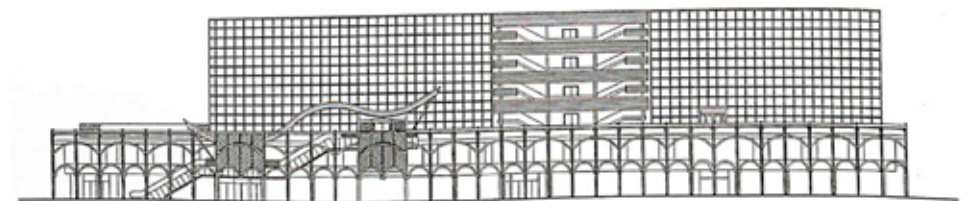


図7 玉川高島屋SC 立面

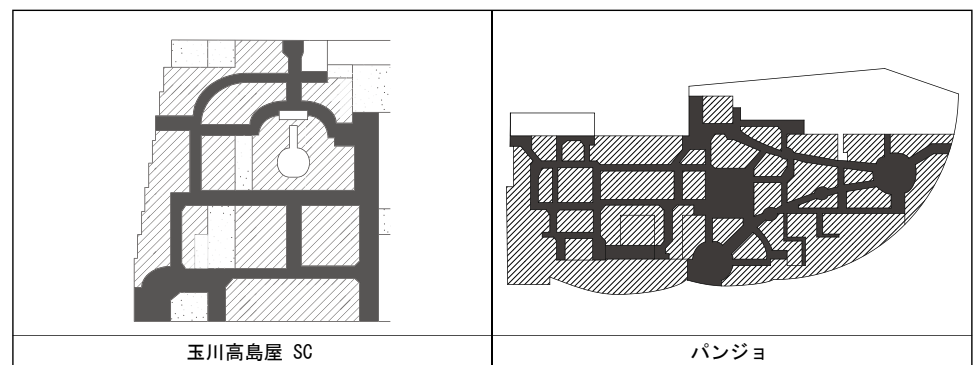


図8 代表的なショッピングセンターの平面構成

■ 2000 年代

2000 年に大店法が廃止されると、90 年代の後半から見られた SC の巨大化の傾向が加速した。直線と曲線を混在させるとともに、カテゴリ別のゾーニングを見直し、様々な種類のテナントを交互に配置することで動線としてのモールに流れと滞留のリズムをもたらすことが考えられた。このころから SC は建築計画によってではなく、消費を誘発するにはどのようなソフトを導入するか、ということに主眼が置かれることで、より建築家の手を離れたと考えることができる。

そして複数のキーテナントを結ぶ大きな動線で客を回遊させることが考えられた。2000 年以前の SC では、湾曲した間口を持つテナントは比較的面積の大きな店舗に限られていたが、2000 年代の SC ではテナントの大小に関わらず湾曲した間口が計画され、テナント同士がシームレスにつながることで大きな通りを形成している点が特徴的である。

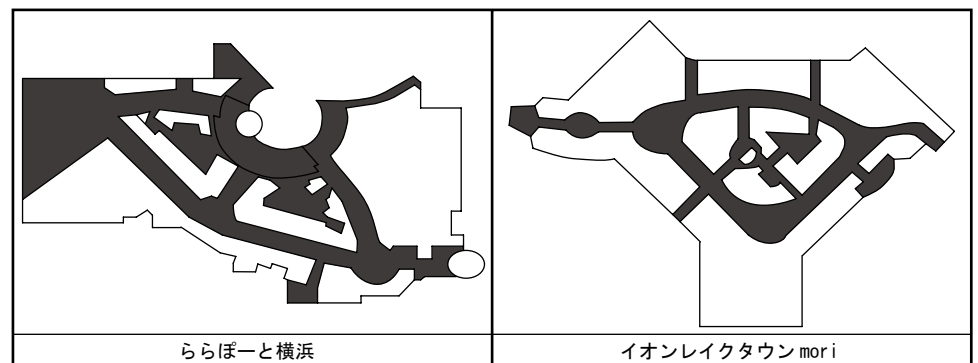


図9 代表的なショッピングセンターの平面構成

このように SC は、人の流れを動線でコントロールすることによって回遊性を高め、消費を最大にするための進化を遂げ、場所による風景や建築的美観は最優先事項ではなく、消費空間として一つの成功例に習うことで類似の施設形態が大量に建設された。

表3 国内における主なショッピングセンター（SC）の開設計画と関連事項

西暦	社会動向	都市環境の変化	流通業界関連事項/関連法規	主なSC開設	建築的特徴	商業系コンバージョン
1904	-	-	三越呉服店「デパートメントストア宣言」	-		-
1948	-	-	日本百貨店協会設立	-		-
1952	-	-	-	東京駅名店街		-
1956	経済白書「もはや戦後ではない」	-	(新)百貨店法公布	-		-
1957	-	-	-	サンロード、数寄屋橋SC		-
1958	岩戸景気	-	-	駅ビルかわさき		-
1959	第一次安保闘争	-	-	横浜高島屋、姫路駅ウェスタ		-
1960	所得倍増計画と三種の神器の流行	-	ビクター・グループエン・ラリー・スミス「ショッピングセンター計画」	-		-
1962	-	-	スーパーマーケット急増、林周二「流通革命論」	天王寺ステーションデパート、蒲田駅ビル		-
1963	-	名神高速道路開通（日本初の高速道路）	-	PERIE、梅田地下センター、博多ステーションビル	直線型、オープンモール	-
1964	東京オリンピック	東海道新幹線開業	ポランタリーチェーン組織化の活発化	ダイヤモンド地下街、新宿ステーションビル、池袋SC		-
1965	新三種の神器	-	-	八重洲地下街、さんちか、広島ステーションビル、渋谷東急プラザ		-
1966	日本総人口1億人突破	-	-	新幹岡センター		-
1967	自動車保有台数1千万台突破	中央自動車道開通	-	大宮ルミネ、メルサ		-
1968	GNP世界第2位	-	-	ダイエー香里店、イズミヤ百舌鳥SC		-
1969	-	東名高速道路開通	ビクター・グループエン・ラリー・スミス「ショッピングセンター計画」翻訳刊行	-		-
1970	大阪万博	-	ダイエー年商1000億	千里中央センター専門店街、ユニモール		-
1971	ニクソンシヨツク	-	-	さっぽろ地下街、阪急ファイブ		-
1972	日本列島改造論	-	-	シャポー船橋、小岩ステーションセンターポポ、くずはモール街		-
1973	オイルシヨツク	-	本店法公布、日本ショッピングセンター協会設立	渋谷パルコ、新宿サブナード、エスカ、相鉄ジョイナス、平塚ステーションビルラスカ、金沢スカイビル、取手カクラショッピングプラザ、宮交シティ		-
1974	-	-	百貨店法廃止、セブンイレブナー号店、デイズカウントストアがブームに	宇都宮ステーションバセオ、岡山一番街、広島センター街、住友3角街、グリーナー永山	-	-
1978	-	成田新東京国際空港開	-	エルナード（亀戸ステーションビル）、セントラルパーク（名古屋・地下街）、エスタ（札幌ターミナル）、エスパル（仙台）、なんばCITY、ラフォーレ原宿	蛇行型、エンクローズドモール	-
1979	第二次オイルシヨツク	-	改正大店法施行	渋谷109		-
1981	アメリカの対日貿易赤字史上最高額	-	-	ららぽーと船橋SC、江釣SC		-
1982	-	上越新幹線開通	-	高崎ターミナルビルモントレー、弘前ステーションビルアブリーズ、たまプラーザ東急、立川ターミナルビルウィル、小田急元厚木ミロード		六甲パインモール
1983	-	中国自動車道全通	東京デイズニールランド開園、SC1000店突破	アミコ（徳島）、新所沢ハルコ		-
1984	-	-	-	PRIMO（大森ターミナルビル）、小田急新宿ミロード、モリタウン、有楽町マリオン		-
1985	日本電公社、日本専売公社の民営化、男女雇用機会均等法の施行	-	小衆化・分衆化論、新人類論、DINKS流行	つかしん、水戸駅ビルエクセル、筑波クレオ		-
1986	前川リポート、バブル景気開始	-	-	京王聖蹟桜ヶ丘、香林坊アトリオ		-
1987	国鉄分割民営化	-	-	新宿ルミネ2、仙台141、日比谷シャンテ		-
1988	消費税法成立	-	-	ELLEKOKURA、福島ルミネ、川崎ルフロン、ニッケルコットンプラザ（千葉）、長浜薬市、ららぽーと2		BAYはこだて
1989	消費税導入、ベルリンの壁崩壊	-	-	玉川高島屋SCリニューアル、マイカル本牧、イムズ（福岡天神）、釧路フィッシャーマンズワールド、東急文化村	-	-
1990	日米構造協議	-	-	川崎アトレ、函館シーポートプラザ、アルパーク（広島）、天保山ハーバービレッシュ、横須賀ジョッパーズプラザ、和泉府中サティ、カワボートイSC	-	-
1991	バブル崩壊、湾岸戦争、ソ連解体	-	大店法改正、特定商業集積整備法成立	本川越 ベベ	-	-
1992	-	-	-	外ロポリタンプラザ、ウエルタ新宮、神戸ハーバーランド、天王洲アイル、ルミネヴィンク（大船）、イオン柏SC	-	-
1993	EC統合、環境基本法公布・施行	-	-	札幌ファクトリー、アウトレツトリズム（大井町）、下松タウンセンター（ザ・モール岡南）	-	-
1994	マルチメディア論の流行	関西国際空港開港	大店法規制緩和	上越ウイングマナーケットセンター、ららぽーと守山	リニューーアルによる拡張	-
1995	-	阪神淡路大震災、日本建築家協会「サステイナブルデザインガイド」	-	鶴見はなぽーとプロッサム、ツインドームシティ（シーホークOPA）、イオン下田SC、マイカル桑名、ザ・モール小倉		-
1996	-	-	-	タカシマヤ・タイムズスクエア、郡山フェスタ、イオン鈴鹿SC、キャナルシティ博多		-
1997	消費税5.3パーセント	-	-	JR京都伊勢丹、クイーンズスクエア横浜、倉敷チボリ公園、ザ・モール仙台長町、ダイヤモンドシティ熊本		-
1998	-	-	大規模小売店立地法成立	パリュエーモール、横浜ベイサイドマリナー		-
1999	改正労働者派遣法施行	-	日本スーパーマーケット協会発足	JR立川阪急、ハレットタウン（ヴィーナスフォート）、小樽ペイジティ		-
2000	-	-	そごう民事再生法申請、アマゾンが日本事業開始	代官山アドレス、アミュプラザ長崎、アクアシティお台場、サザシティ浜松、ダナンシティ、御殿場プレミアムアウトレット、カルフォール幕張、イオンモール千葉ニュータウン、イクスピアリ		-
2001	小泉内閣発足、アメリカ同時多発テロ	-	ユニバーサルスタジオ開園、東京デイズニール開園	エスキス表参道、晴海トリトン		新風館
2002	-	-	西友がウォルマートと包括的業務提携	丸ビル、カレッタ汐留、イオン品川シーサイドSC、ラ・テッタデッラ、ピナウオーク（海老名）		横浜赤レンガ倉庫
2003	イラク戦争	-	西友、産業再生法適用を申請	六本木ヒルズ、FKDジョッピングモール宇都宮インターパーク		横浜アイランドタワー
2004	-	新潟中越地震	ダイエー、産業再生機構に支援要請	セントシティ北九州、ららぽーと甲子園、LaLaテラス南千住、イオンモールりんくう泉南、LALAガーデンつくば	-	-
2005	愛知万博開幕、京都議定書発効、道路公団民営化	-	-	ララスクエア宇都宮、苫小牧ジョッピングセンター	COCON KARASUMA 大阪証券取引所ビル	
2006	-	-	まちづくり3法の改正による規制強化	表参道ヒルズ、ラゾーナ川崎、ららぽーと豊洲、ららぽーと東京ベイ、イオン盛岡南ジョッピングセンター、イオン高崎ジョッピングセンター、イオンモール太田、ららぽーと柏の葉、アリオ亀有	-	-
2007	-	-	三越伊勢丹経営統合、大丸と松坂屋経営統合	ミッドランドスクエア（名古屋）、グランスタ東京駅、新丸ビル、東京ミッドタウン、ららぽーと横浜、けやきウォーク前橋、流山おおたかの森SC	-	-
2008	リーマン・ショック、北京オリンピック	-	-	イオンレイクタウン、イオン綾川SC、イーアスつくば、阪急西宮ガーデンズ	HUNDRED CIRCUS East Tower	
2009	消費者庁発足	-	-	丸の内ブリックスクエア、尼崎COCOE、イオンモール土浦、ららぽーと磐田、ららぽーと新三郷	-	-
2010	子供手当、円高	-	-	JR博多シティ、ニ子玉川ライズ、テラスモール湘南、アリオ上田	大通り型、ハイブリッド型	-
2011	-	東日本大震災	-	渋谷ヒカリエ	大通り型、ハイブリッド型	-
2012	東京スカイツリー開業	-	-	KITTE、グランフロント大阪		-
2013	-	-	-	イオンモール幕張新都心、イオンタウン名西、、イオンモール東員		JPタワー
2014	消費税8.5パーセント、ソチオリンピック	ロシア中央新幹線着工	外国人旅行者3000万人突破	イオンモール京都桂川、アリオ武蔵小杉、イオンモール西茶屋、イオンモール岡山、イオンモール木更津、あべのハルカス		NEW LAND
2015	-	-	-	ららぽーと富士島、ゆめタウン廿日市、イオンモール沖縄ライカム、ららぽーと海老名、エキスポランド跡地複合施設開発事業、ルクア1100、アミュプラザおおい、た、コクーンシティ、イオンモールとどろき、イオンモール四條畷、イオンモール常滑、三井ジョッピングパークららぽーと立川立飛		-
2016	-	熊本地震、北海道新幹線着開通	-	マケツスクエア川崎イースト、イオンタウン岐阜、イオンモール堺鉄砲町、東急プラザ銀座、KITTE博多、イオンモール今治新都市、SEVENPARK ARIO KASHIWA、イオンタウンユーカリが丘、三井ジョッピングパークららぽーと湘南平塚、		-
2017	-	-	仮想通貨流行	イオンモール新小松、JRセントラルタワーズ、GINZA SIX、イオンモール徳島、LECT、ilas高尾、イオンモール神戸南、イオンモール松本、トリエ京王調布、PRIMETREE AKAIKE、		-
2018	-	-	-	イオンモール座間、Corowa甲子園、THE OUTLETS HIROSHIMA、イオンモールいわき小名浜、日本橋高島屋S.C.、三井ジョッピングパークららぽーと名古屋みなとアクルス、立川高島屋S.C.、イオンモール津南、MARK IS 福岡ももち、		-

3-3 国内のコンバージョン事例の考察

前項で定めた大型小売店舗の定義に従い、本項では以下の11事例を1940年～2018年12月の「新建築」から抽出した。

No.	年	月	名称	設計者	元用途詳細	後用途詳細	元用途	後用途
1	1977	9	明治やフードプラザ広尾(現 明治屋広尾ストアー)	清水建設建築設計本部	配送センター	店舗	産業系	商業系
2	1983	3	六甲バインモール	竹中工務店	紡績工場	インテリアマート	産業系	商業系
3	1988	9	函館ウォーターフロント(函館ヒストリープラザ)	北海道岡田新一設計事務所	倉庫	商業施設	産業系	商業系
4	2001	3	新風館	NTTファシリティーズ+リチャードロジャースパートナーシップジャパン	電話局	商業施設	事務所系	商業系
5	2002	6	横浜赤レンガ倉庫1号館・2号館	新居千秋都市建築設計	倉庫	商業施設	産業系	商業系
6	2004	5	横浜アイランドタワー	都市基盤整備公団 横総合計画事務所	銀行	オフィスビル	事務所系	複合系
7	2005	3	COCON KARASUYAMA	隈研吾建築都市設計事務所	社屋	オフィス、商業施設	事務所系	商業系
8	2005	7	大阪証券取引所ビル	三菱地所設計・日建設計	事務所	事務所、店舗	事務所系	複合系
10	2012	11	JPタワー	三菱地所設計 マーフイー・ヤーン	郵便局	事務所、店舗、郵便局	事務所系	複合系
11	2013	3	NEWLAND	山本和豊/デッセンス 二俣公一/ケース・リアル トラフ建築設計事務所	クレーン教室	商業施設、ワークショプスペース、宿泊施設	産業系	複合系

1973年から2017年末現在における国内の大規模小売店舗の建設数は3217件である。一方で大規模小売店舗へのコンバージョンは1988年に「函館ウォーターフロント」が改修された後2001年まで確認できず、事例数も限られた。

傾向としては、レンガ造の倉庫群を保存改修するものと、銀行や郵便局として使用されていた歴史ある公共系建築の外壁保存を行い、上部にガラスファサードの高層ビルを新築するものの2タイプに大別された。

後者の手法は新旧の対比をしているようであるが、新築部分が意識されないようにデザインされていることが特徴である。これは、60年代に考えられていた「調和」や「統一」といったものと同じ考え方が根底にあると考えられ、類似操作の国外事例を見ると新旧を対比させることの意識の違いをはっきりと認識することができる。

国内では既存建築の活用を行う際には建物を解体をしないことが前提として考えられるが、「新風館」は建物の歴史的価値に配慮しつつ妥当性を考えオリジナルの建物の一部を解体し、増築をした点で他の事例とは異なる。

国内では前項で平面構成の変遷を分析したような大きな動線としてのモールを持ち、郊外にあるような大規模小売店舗へのコンバージョンはおこなわれていないことが明らかとなった。

国内コンバージョン事例の詳細

日本

事例No. JPN-01

六甲パインモール

事例名（原語表記or英語）

都市名 神戸、灘区 州 国 日本

六甲パインモール

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:03:38

住所or座標(GoogleMapのマーカーをクリックで表示される)を入力し地図を確認



転用前

大分類	産業
細分類	紡績工場
設計者	
建築年	1890

情報源 新建築 掲載号 1983,3

- 関連サイト1 <http://southern-mall.com/aboutus/index.html>
- 関連サイト2 <http://db1.kitera.ne.jp/building/data/nikkei/1983/A0830304-1040.htm>
- 関連サイト3 <https://rokko.actus-interior.com/>
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	商業系
細分類	インテリアマート
設計者	竹中工務店
改修年	1982

図面 〇 無 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

明治23（1890）年に我が国最初の黄麻紡績工場として建設された煉瓦造の工場をインテリアマートとして修復再活性化したもの。香港から輸入された煉瓦と松材の柱・梁により建築されており、90年以上経った今日でも十分使用に耐える建物であることから、この素材を生かしながら歴史的な価値を蘇らせることとなった。用途変更による再生ということから、今回の計画は3000㎡以内の南北2棟で構成し、既存工場8070㎡のうち2660㎡を解体撤去、インテリアマートとしての楽しさを作り出すために中央にパティオを配した。ペンキで塗り固められた煉瓦壁、松の柱・梁をグラインダーで研磨するという手作業を繰り返すことで素材の持ち味を再現させた。古い煉瓦の壁、林立する松の列柱、木製のルーバー、旧工場で使われていたメンテナンス用の木製キャットウォーク、赤い消化栓と煉瓦のアーチなどからなる空間は、人々が日常出会う商業空間と異なり、素朴でぬくもりのある独特の雰囲気を持った空間を作り出している。現在はサザンモール六甲というインテリア中心の商業施設。

規模	5212.85
階数	1
建物配置	コの字
改修類型	複数
外観	煉瓦に蔦のからまる外壁に対してパティオ側はガラススクリーンを用いて開放的にし、イベント広場としてのパティオと内部の店舗空間の連続性を図った。
内部	店舗内は既存の柱と小屋組を見ることができる。
立地	酒造地帯、そばに異人館などの景観保護地区

発注者	小泉製麻(依頼)		
吹き抜け	なし	インテリア	設計者
広場	あり		
水	なし	元構造	煉瓦造
樹木	なし	後構造	木造
斜路	なし		
経緯	このプロジェクトでは新しい機能を付加することで価値を再生し、地域社会の活性化を促すことと、歴史的建築物としての工場の用途変更が商業空間としてのあたらしい機能を生むことを目的に計画された。		

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

日本

事例No. JPN-02

BAYはこだて

事例名（原語表記or英語）

都市名 北海道 州 国 日本

BAYはこだて

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:03:50

住所or座標(GoogleMapのマーカをクリックで表示される) を入力し地図を確認



転用前

大分類	産業系
機能	日本郵船倉庫
設計者	
建築年	明治40年ごろ

情報源 新建築 掲載号 1988,9

- 関連サイト1 <http://www.tabirai.net/sightseeing/tatsujin/0000272.aspx>
- 関連サイト2 <https://hakodate-kanemori.com/about/history>
- 関連サイト3
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	商業系
機能	商業施設
設計者	北海道岡田新一設計事務所
改修年	1988

図面 〇 あり 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

金森倉庫に隣接する日本郵船所有の煉瓦倉庫。明治17年に当時社長であった石川七財が工事監督をして、今に残る引き込み水路や倉庫群を完成している。建物は明治40年の大火によって消失したが、現在の煉瓦倉庫は金森倉庫の再建より遅れて再建されたものと言われている。これらの古い煉瓦倉庫の再生であるこのBAYはこだては、セゾングループの西洋環境開発を加えた中央大手企業による開発ではあるが、函館との古くからの交流に根差した地元意識が計画の根底にあった。運営目標は若年の観光客を対象とし、インテリアには松井雅美を起用した。

規模	1834.23
階数	1
建物配置	平行
改修類型	複数棟
外観	保存、屋根を新設(屋根の形は機能やデザインに配慮した結果、ステンレスによる全く新しいかたちになった)
内部	既存の煉瓦壁と、補強材である鉄骨の新旧の対比。新設の階段。
立地	港

発注者	セゾングループ		
吹き抜け	なし	インテリア	アक्स
広場	あり		
水	あり	元構造	煉瓦造(木造小屋組)
樹木	なし	後構造	煉瓦壁にエポキシ樹脂注入、鉄骨で
斜路	なし		
経緯	セゾングループの西洋環境開発を加えた中央大手企業による開発		

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

日本

事例No. JPN-03

新風館

事例名（原語表記or英語）

都市名 京都 州 国 日本

新風館

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:07:15

住所or座標(GoogleMapのマーカーをクリックで表示される) を入力し地図を確認



転用前

大分類	事務所系
機能	電話局
設計者	吉田鉄郎
建築年	1926

情報源 新建築 掲載号 2001,3

- 関連サイト1 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E9%A2%A8%E9%A4%A8>
- 関連サイト2 <https://www.nttud.co.jp/news/detail/d/n22767.html>
- 関連サイト3 <https://toshoken.com/news/5932>
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	商業系
機能	ショッピングモール
設計者	NTTファシリティーズ、リチャード ロジャース パートナーシップ ジャパン
改修年	2001

図面 〇 無 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

原形となる鉄筋コンクリート造の洋館は、通信省営繕課技師の吉田鉄郎による設計、清水組（現 清水建設）の施工で1926年に竣工し、1931年に増築された京都中央電話局である。建設当初は電話交換施設として使用され、のちに電電公社（→NTT→NTT西日本）の京都電報ビル西館となった。京都市登録有形文化財第1号[4]に登録されている。

商業施設「新風館」への改築はNTT都市開発が事業主となり、NTTファシリティーズとリチャード ロジャース パートナーシップ ジャパンの設計、清水建設の施工で、2001年1月26日にオープンした。レンガ造り風の外観はヨーロッパのバティオを思わせるレトロな雰囲気の特徴で、2004年度のグッドデザイン賞建築・環境デザイン部門[5][6]、第12回BELCA賞ベストリフォーム部門[7]を受賞した。

運営は2012年3月までNTT都市開発と株式会社親風社中との協同運営であった。

NP0法人が市内中心部で営業しているペロタクシーの拠点となっていたほか、店舗営業の起業希望者が京都市の助成を受けて屋台型店舗を出店するなど、流行の発信拠点にもなっていた。

中庭の「Re-Cueホール」（リキューホール）は、立ち見を含めると約1,500人が収容可能なオープンスペースホールであった。円形のステージや250インチの大型スクリーン・音響設備・常設カメラなどを備え、コンサートやファッションショー、結婚式などに使われていた。

2019年末にはホテルへ転用される。地上7階地下2階、延べ床面積約26,000㎡のホテル・商業複合ビルであり、地下鉄烏丸御池駅と地下2階で接続する予定。（設計隈研吾）

規模	8233.60
階数	地下1階地上3階
建物配置	囲み(L字型の9日棟にコの字型の増築を組み合わせ)
改修類型	一棟
外観	保存 外側に閉じ、内側に開いた構成で、ヒューマンスケールで静寂な奮起の外観から中に入ると活気に満ちた店舗が目に入る
内部	新旧建物に囲まれた中庭はニュートラルな空間。 中庭とインテリアはレベルが上げられている。
立地	京都市の中心部

発注者	NTT都市開発
吹き抜け	なし
広場	あり
水	なし
樹木	あり
斜路	なし
経緯	1990年代初頭までNTTの関連施設(京都電報ビル西館)として利用されており、バブル期には大規模な再開発も計画されていたが、不況のあおりから、歴史的建造物を活かした低層の商業施設として活用されることが決定した経緯がある。

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

日本

事例No. JPN-04

横浜赤レンガ倉庫

事例名（原語表記or英語）

都市名 神奈川県 国 日本

横浜赤レンガ倉庫

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:07:18

住所or座標(GoogleMapのマーカーをクリックで表示される)を入力し地図を確認



転用前

大分類	産業系
機能	倉庫
設計者	妻木頼黄
建築年	1911

情報源 新建築 掲載号 2002.6

- 関連サイト1 https://tokuhain.arukikata.co.jp/tourcoing/2014/10/no25_de.html
- 関連サイト2 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A8%AA%E6%B5%9C%E8%B5%A4%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%82%AC%E5%80%89%E5%BA%BA>
- 関連サイト3
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	商業系
機能	複合施設
設計者	新居千秋都市建築設計
改修年	2002

図面 〇 無 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

妻木頼黄設計の赤レンガ倉庫（1号倉庫：1913年竣工、2号倉庫：1911年竣工）の改修。主に鉄骨やガラスが用いられている。1号館は文化施設、2号館は飲食店などのテナントが入る。
赤レンガ倉庫事業は、横浜市港湾局が土地と建物を所有し、横浜みなとみらい21が1号館と2号館を市から賃借し、2棟間広場の管理を市から受託している。1号館は横浜市芸術文化振興財団が文化事業を運営し、2号館は株式会社横浜赤レンガがテナント運営を行う構成であった。設計者が参加した当時は全体計画をどこがコントロールするか決まっていなかったが、2棟共通の設備棟の効率の良い配置、2棟間広場の使い方の検討、コストコントロール、公民の調整などの能力が認められ、設計者に全体計画が任せられるようになった。
広場にはあえて木もベンチも置かない空間とすることで、少し寂しく荒涼とした中に赤レンガの持つノスタルジーと暖かさ、緊張感を表現している。

規模	6408.48(1号館)、10755.01(2号館)	発注者	横浜市港湾局が土地と建物を所有し、横浜みなとみらい21が1		
階数	3	吹き抜け	なし	インテリア	設計者
建物配置	並列	広場	あり。長い年月		
改修類型	複数棟	水	なし	元構造	レンガ造、鉄柱の補強材
外観	保存。ひさし付加	樹木	なし	後構造	レンガ壁の目地にエポキシ樹脂
		斜路	なし		
内部	全体のデザイナースクリプトを作り、テナントまでデザインコントロールを行った。鉄やガラスなどの素材をなるべくそのままの姿で使用。	経緯	設計者がプロジェクトに加わる前に、横浜市によって保存工事が行われていた。2棟共通の設備棟の効率の良い配置、2棟間広場の使い方の検討、コストコントロール、公民の調整などの能力が認められ、設計者に全体計画が任せられるようになった。		
立地	湾岸				

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

日本

事例No. JPN-05

横浜アイランドタワー

事例名（原語表記or英語）

都市名 神奈川県 国 日本

横浜アイランドタワー

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:04:14

住所or座標(GoogleMapのマーカーをクリックで表示される) を入力し地図を確認



転用前

大分類	公共系
機能	銀行
設計者	
建築年	1929

情報源 新建築 掲載号 2004.5

- 関連サイト1 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A8%AA%E6%B5%9C%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89%E3%82%BF%E3%83%AF%E3%83%BC>
- 関連サイト2
- 関連サイト3
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

神奈川県横浜市中区にある都市基盤整備公団（現・都市再生機構）が開発した高さ119mの超高層オフィスビル。北仲通南地区第一工区の開発計画として2003年（平成15年）に竣工した。
東側先端のトスカナ式オーダーの列柱を特徴とする重厚な外観[独自研究?]の低層部は、1929年（昭和4年）築の歴史主義建築[要出典]である旧第一銀行横浜支店（1980年以降は横浜銀行本店別館）[1]のバルコニー部分を曳家工法で移築して組み込み、同時にそれ以外の外観部分をファサードで形態復元した。2003年（平成15年）度には横浜市認定歴史的建造物に選定されている[2]。
内部は2階吹き抜けになっており、創建当初をイメージして装飾されている。また現在では、ヨコハマ創造都市センター（YCC）の施設として活用されている。
既存部分と新築の高層オフィスの対比。低層部の建物は保存建物の軒高に合わせている。東面は縦使いのアルミパネルに、保存建物の先端部に

規模	44114.77	発注者	都市基盤整備公団(都市再生機構)
階数	地下3階地上27階	吹き抜け	あり
建物配置		広場	なし、ギャラ
改修類型	1棟	水	なし
外観	既存部分と新築の高層オフィスの対比。先端バルコニー部分および正面玄関の一部を移築保存し、南北両面の形態復元を行い、仕上げ材には可能な限り創建当時の人造グラニットの肌合いを踏襲しつつ耐久性も考慮した花崗岩を採用し、コーニス部分はGRCの上にて新設された。	樹木	なし
内部	もとの漆喰仕上げの装飾天井を新材料であるGRGなどで忠実に再現し、腰壁の大理石も新設復元した。	斜路	なし
立地	西面に大岡川	経緯	既存建物は横浜市登録歴史的建造物で、都市計画道路栄本町線および地下鉄みなとみらい線整備計画のために部分曳家と残りの新築復元による保存活用として再開発事業の枠組みのなかで実現した。

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

日本

事例No. JPN-06

COCON KARASUMA

事例名（原語表記or英語）

古今烏丸

事例名（日本語）

都市名 京都 州 国 日本

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/30 13:30:44

住所or座標(GoogleMapのマーカーをクリックで表示される) を入力し地図を確認



転用前

大分類	事務所系
機能	事務所
設計者	長谷部竹腰建築事務所
建築年	1938

情報源 新建築 掲載号 2005,3

- 関連サイト1
- 関連サイト2
- 関連サイト3
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	商業系
機能	複合商業施設
設計者	隈研吾建築都市設計事務所
改修年	2004

図面 〇 有 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

京都の烏丸通り沿いに位置するCOCON KARASUMAは、地下1階から地上3階が商業フロア、地上4階以上がオフィスフロアの複合商業施設である。このビルの前身は、1938年（昭和13年）に建設された旧丸紅ビル。竣工当時より名建築として、躍動的なビジネス街の風景の中心で在り続けた。第二次世界大戦後、戦火を免れた同ビルは無傷のまま進駐軍に接收されたこともあり、激動の昭和の歴史とともに多くの人々に愛着を持って回顧されている。既存躯体を表しとすることで、「歴史」と「現代」の重層を図っている。

規模	21118
階数	地下1階～地上8階
建物配置	中央
改修類型	一棟
外観	建物の足元東側にガラスのファサードを付加し、南側に新設部分を増築している。
内部	床、階段を当時の姿で活かしている。可能な限り天井を貼らず、既存躯体を表しとしている。
立地	通り沿い

発注者	ケイアイ興産		
吹き抜け	あり	インテリア	設計者
広場	新設のアトリウム		
水	あり(大カス)	元構造	SRC造
樹木	なし	後構造	RC造、S造
斜路	なし		
経緯	歴史的建築物を物販・飲食、映画館、オフィスを含む複合商業建築として再生させたいと建主が依頼した。		

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

大阪証券取引所ビル

事例名（原語表記or英語）

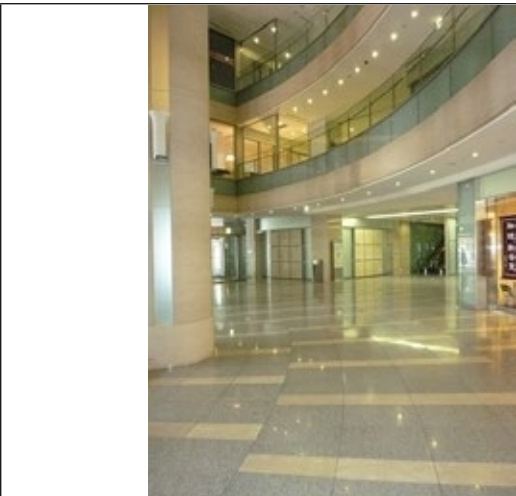
都市名 大阪 州 国 日本

大阪証券取引所ビル

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:04:34

住所or座標(GoogleMapのマーカーをクリックで表示される) を入力し地図を確認



転用前

大分類	事務所系
機能	事務所
設計者	長谷部竹腰建築事務所
建築年	1935

情報源 新建築 掲載号 2005,7

- 関連サイト1
- 関連サイト2
- 関連サイト3
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	事務所系、商業系
機能	事務所、店舗
設計者	三菱地所設計、日建設計
改修年	2004

図面 〇 無 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

保存/復元については、ディテールに至るまで徹底して本物志向にこだわり、そのために考案した工法も多くある。ドーム部分の金属格子やステンドグラス、照明器具等戦時中に変えられていたものもあり、資料をもとに復元を図った。その結果低層部は重厚な趣を堅持するようになったのに対し、高層部は透明性の高いガラスカーテンウォールとして低層部とのコントラストを強めている。新旧の対比が今回の設計テーマの一つであり、照明についても保存をアピールするライトアップ並びに新旧対比を強調する計画としている。

規模	53932.10	発注者	
階数	地下2階地上24階	吹き抜け	あり
建物配置		広場	アトリウム
改修類型	一棟	水	なし
外観	重厚な既存建築部分と、ガラスカーテンウォールによる高層部分の新旧のコントラスト	樹木	外構計画
内部	アトリウムには楕円形のエントランスホールが残されている。床の石材は1度解体したものを再利用している。照明は竣工時のオリジナルを再現したもの。エレベーターのドアもオリジナルが保存されている。	斜路	なし
立地	土佐堀川の側	経緯	多方面から保存を求める声が高まるなか、建築主である平和不動産が主宰して＜開発・保存方策検討研究会＞が発足した。結果的に研究会では「景観」と「オーセンティシティ」を最も重視すべきという方針が出された。

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

日本

事例No. JPN-09

JPタワー

事例名（原語表記or英語）

都市名 東京 州 国 日本

JPタワー

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:06:02

住所or座標(GoogleMapのマーカーをクリックで表示される) を入力し地図を確認



転用前

大分類	事務所系
機能	郵便局
設計者	吉田鐵郎
建築年	1931

情報源 新建築 掲載号 2012,11

- 関連サイト1 http://www.japan-architect.co.jp/jp/works/index.php?book_cd=101211&pos=4&from=new
- 関連サイト2 https://sumau.com/page_category/design/design_space2/8754.html
- 関連サイト3 <https://www.mj-sekkei.com/project/533>
- 関連サイト4 <http://www.brandingnavi.com/c1000/00521.html>
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	事務所系、商業系
機能	事務所、店舗、郵便局
設計者	三菱地所設計、マーフィー／ヤーン
改修年	2012

図面 〇 有 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

通信省技師吉田鐵郎による東京中央郵便局（本誌3202）の建て替え。特例容積率制度により、東京駅の余剰容積も利用して建て替えがなされた。東京駅前広場に面した既存建物の2スパン分を、低層棟として免震化の上保存。安全性確保のため、外壁タイルの大部分は再現されたものであるが、1階の外壁には創建時のタイルが新たにレール工法で取り付けられた。

規模	212043.05
階数	地下1階から地上6階、地上38階
建物配置	中央
改修類型	一棟、増築
外観	低層棟外装のタイルはオリジナルのものを極力再利用。窓ガラスや窓枠も当初に近いものが使用されている。
内部	商業共用部内装デザイン 隈研吾建築都市設計事務所 保存・再生した部分に囲まれた中央には、ガラス天井のアトリウムが現れる。5層分の大きな吹き抜けは、天井から入る光に満たされ、各階
立地	東京駅前

発注者	三菱地所設計		
吹き抜け	あり	インテリア	
広場	多目的広場、		
水	なし	元構造	鉄筋コンクリート
樹木	なし	後構造	鉄筋コンクリート、鉄骨造
斜路	なし		
経緯	「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」を発足させ、東京駅周辺の再開発を共に、協力して統一した環境を整備し、街の価値を高めるための取り組みを開始したのです。その結果、東京駅周辺の再開発が進み、今回のJPタワー開発へとつながっていきました。		

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

日本

事例No. JPN-10

NEWLAND

事例名（原語表記or英語）

都市名 埼玉,熊谷市 州 国 日本

ニューランド

事例名（日本語）

工事種別 conversion データ修正日 2019/01/26 22:06:13

住所or座標(GoogleMapのマーカをクリックで表示される) を入力し地図を確認



転用前

大分類	産業系
機能	クレーン教習所
設計者	
建築年	

情報源 新建築 掲載号 2013,3

- 関連サイト1 <http://www.new-land.jp/>
- 関連サイト2 <http://www.web-across.com/todays/cnsa9a0000099fhg.html>
- 関連サイト3
- 関連サイト4
- 関連サイト5
- 関連サイト6

転用後

大分類	複合系
機能	店舗、ワークショップスペース、宿泊施設など
設計者	デッセンス、ケースリアル、トラフ建築設計事務所
改修年	2012

図面 〇 あり 〇 不明 問合せ

備考（web siteのコピペでも良いので参考になりそうな情報を可能な限り盛り込む。出典を忘れずに記載すること。）

約8000㎡の敷地面積を持つ元クレーン教習所を、文化価値創造の複合施設へリノベーションするプロジェクト。本来、町が持つ多様性を生み出すために各施設ごとに様々なデザイナー、建築家が担当をした。元クレーン教習所の中核を担う教習棟は「HOUSE」へ。1、2階はインテリアショップとギャラリーが入り3階には建築事務所。エントランスを変え建物への視軸をずらすことで既存への固執したイメージから乖離させる。解体行為は緻密に計算し、最小限にとどめた。元実地教習をしていた倉庫は複数の店舗が立ち並び「SHOP」へ。廃墟の倉庫の中に複数の店舗が立ち並び、倉庫の外には緑あふれる公園ができる。この内と外の関係性を成立させていくために外壁を利用した店舗と独立で建つ店舗の2種類を計画した。元寄宿舎はワークショップなどがひらかれる「SCHOOL」へ。既存の宿泊施設のあり方をそのままにそこへ大きな円形の空間をちょうど半分だけ挿入し、寒暖や風・光・雨といった自然を直に感じられる縁側のような空間を付加している。

規模	674(ショップ棟)、204(スクール棟)、377(ハウス棟)
階数	1(ショップ)、2(スクール)、3(ハウス)
建物配置	L字
改修類型	複数棟
外観	ショップ棟は、既存のまま。
内部	ショップ棟は、既存のまま。箱を置くことで、商店街のような雰囲気を作っている。
立地	

発注者	(株)デッセンス
吹き抜け	なし
広場	あり
水	なし
樹木	あり
斜路	ランドスケープとして、盛り土、丘
経緯	デッセンスでは2007年から、敷地である元・大型クレーン教習所を倉庫として借用しており、その後、代表取締役の山本和豊が「NEWLAND」の構想を立てて地権者に交渉。2009年からオープン準備を開始した。

A4版で印刷する時はレイアウト設定でマージンを上下15pt、左右15ptとし、用紙サイズをA4に変更し、レイアウト編集画面で用紙境界の点線を下方にドラッグしてA4縦2枚分に範囲指定する。

第4章

建築コンバージョンによる
商業施設デザインの出発点としての「ガラデリ・スクエア」

4-1 アメリカにおける既存建築活用に関する法制度や関連事項

※1 アメリカにおいて、歴史的環境を保存する活動は19世紀中頃から始まったと西村幸夫、アメリカにおける1960年代前半までの歴史的環境保全制度の展開－アメリカ合衆国における歴史的環境保全制度に関する研究その1－、日本建築学会計画系論文報告集第444号、1993.2

アメリカにおいて、歴史的環境を保存する活動は19世紀中頃から始まったとされている^{※1}。1950年代になると、高速道路建設や、連邦政府の補助による都市再開発事業によって、歴史的建造物などが失われた。歴史的環境を保全する法制度整備の概略をみると（表1、2、3）、1950年代までは、連邦政府に先駆けて地方政府が積極的に歴史的環境の保全に取り組んでいたことが分かる。またその取り組みは、景観への配慮による建物の高さを制限したゾーニングによる規制から始まっており、結果として建物単体の保存ではなく、地区全体の景観を意識した規制であったことが特徴的である。また、国全体では高速道路の建設が歴史的環境保全への意識を拡大するきっかけであったことが特徴的である。

表1 アメリカにおける建築保存関連事項

年	連邦政府	地方政府	関連事項	転用事例（商業）
1888			Association for the Preservation of Virnigia Antiquities 結成	
1889		ワシントン特別区：建造物の高さに関する規制		
1890			Daughters of the American Revolution 設立	
1891	保留林法		National Society of the Colonial Dames of America 設立	
1896			Trustees of Scenic and Historic Places and Objects 結成	
1898		ボストン：マサチューセッツ州法		
1906	古物法（遺跡保存法）			
1909		ロサンゼルス：市内の包括的ゾーニングを行う（住居地区と7つの工業地域）		
1910			Society for the Preservation of New England Antiquities 結成	
1913		ニューヨーク：建築物高度委員会が規制一覧を勧告		
1916	国立公園局設立	ニューヨーク：ニューヨーク・ゾーニング法		
1920	標準ゾーニング授權法起草		Society for the Preservation of Old Dwellings 結成	
1924			San Antonio Conservation Society 結成	
1926		ユークリッド：ユークリッド判決		
1931		サウスカロライナ州チャールストン：チャールストン・ゾーニング条例（歴史的環境の保護条例）		
1935	史跡法（史跡設置法）			
1936		ルイジアナ州ニューオーリンズ：州憲法の中に歴史保全条項が盛り込まれた		
1946		ヴァージニア州アレクサンドリア：歴史保全条例が成立		
1947		ヴァージニア州ウィリアムスバーグ：歴史保全条例が成立		
1948		ノース・カロライナ州ウィンストンセーラム：歴史保全条例が成立		
1949	住宅法		ナショナル・トラスト設立（イギリスは1895年に設立）	
1950		ワシントン DC 内ジョージタウン：歴史保全条例が成立		
1951		ミシシッピ州ナチューズ：歴史保全条例が成立		
		メリーランド州アナポリス：歴史保全条例が成立		
1954	住宅法（1949年成立の住宅法を拡充）		Berman v. Parker 事件	
1955		マサチューセッツ州ボストン（ベーコン・ヒル、ナントウケット）：歴史保全条例が成立		
1956	高速道路連邦補助法	マサチューセッツ州ボストン（セーラム）：歴史保全条例が成立		
1957	高速道路連邦補助法の修正	シカゴ：シカゴ史跡委員会が設けられる。		
1959	法案：連邦資金による高速道路建設の際、史跡に影響のある場合は公聴会を開催すること。			
1961	法案：一定以上の人口の自治体は、その自治体の歴史に関する建造物や史跡を調査し、そのリストを内務大臣に提出する。		シアトルホテル取り壊し	
1962			“Death and Life of Great American Cities” Jane Jacobs 著	
1963	ジョンソン大統領就任（自然環境の保護が重要政策の一つ）		保全政策の研究シンポジウム「Seminor on Preservation and Restration」 ペンステーション取り壊し	
1964	The Task Force of Preservation of Natural Beauty が大統領に、歴史的環境保存のための取り組みを連邦機関に行うように提言書を提出した		“The Federal Bulldozer” Martin Anderson 著	ギラデリスクエア（サンフランシスコ）
1965	自然美に対する声明	ニューヨーク：ニョーヨーク市旧跡保護法 (New York City Landmark Preservation Law)	自然美に関するホワイトハウス会議	キャナリー（サンフランシスコ）
			「自然美 (naturl beauty)」の保全に関するタスク・フォースを結成、タスク・フォースによる報告書がまとめられた。	
1966	国家歴史保全法		“With Heritage So Rich” 発行	
1967			大学院で保存に関する教育が始まる	
1968		シカゴ：史跡条例	グランドセントラル駅が歴史的建造物に指定された。	
1969	全国環境政策法 (National Environmental Policy Act of 1969)			
	運輸省法			
1970	清浄大気法 (Clean Air Act of 1970)	シアトル：歴史地区条例	ギラデリスクエアがアメリカ建築家協会賞を受賞	
1972	清浄水法 (Clean Water Act of 1972)			
1973	オイルショック	カリフォルニア州ヴァレージョ：建築遺産および歴史保存条例		
1976				ファヌイル・ホール・マーケット（ボストン）
				NavyPier（シカゴ）
1978			グランドセントラル駅保存を支持する判決	
1982			ギラデリスクエアが国指定の歴史遺産に	
1987				The Pavilion（ワシントン）
				ポストオフィスパビリオン（ワシントン D.C.）
1990				Citadel（ロサンゼルス）
1997				チェルシーマーケット（ニューヨーク）

表2 連邦政府による法の概要

法	内容
古物法	連邦の管理下にある土地において、盗掘、窃盗、破壊を禁ずるもの。さらに、連邦の管理下の土地における、史跡、先史的・歴史的建造物、そして他の歴史的または科学的に重要なものは、国家記念物として指定する権限を大統領に与えた。
標準ゾーニング授權法	ゾーニングによる歴史的環境地区などの指定が可能になった。
史跡法	国家の責任として史跡や建造物を保存することを明文化した。 アメリカ国民を鼓舞するために歴史的地所や建物、その他国家的重要性をもつ対象を保存し、公的利用に供するための国家方針。
住宅法	荒廃化した地区の再開発プログラムに対する連邦政府による補助制度
高速道路連邦補助法	高速道路網の整備に対して、連邦政府が90%の補助を行い、残りの10%は州が負担する。
高速道路連邦補助法 (修正)	土地の買収等が当該土地の歴史的環境への悪影響がない旨の意見書を、内務大臣が、 州知事に対して発行しない限り、連邦資金によって高速道路建設工事を行ってはいけない。
国家歴史保全法	連邦政府の資金によって行われる事業の中で、歴史的環境に影響を及ぼす可能性のある事業や、連邦政府の許可を必要とする事業のコントロール、そして全国史跡登録に関する規定などを置いた、 アメリカにおける連邦レベルでの歴史的環境保全に関する中心的法律である。
運輸省法	歴史的環境に配慮し、道路建設など運輸設備の建設の際に歴史的環境に影響があれば、それに対する影響を最小化するための代替案を提出することが定められている。

表3 地方政府による法の概要

条例名など	内容
ボストン：マサチューセッツ州法	ボストンの Copley Square 周辺の建造物を高さ 90 フィート以下に抑える。 Copley Square 周辺は主要な公共的建造物で占められていた。
ユークリッド：ユークリッド判決	連邦最高裁が、「ゾーニング立法は、自治体住民の健康・安全・道徳・福祉のために、それらの害悪を排除するための立法である」と、その合憲性を承認した。この判決以前は、主として自らの土地利用が他人のそれを侵害する場合のみ、例外的に土地利用の自由の制限が法律で認められていたが、この判決で認められた条例によるゾーニング制度は、都市部における土地に関しては、公益のため、補償無しで土地利用に関する私権を制限できる「ポリスパワー」としての法的拘束力を承認するものであった。
シカゴ：シカゴ史跡委員会	シカゴ市およびその市民にとって、美観価値ないしは利益のある地区、史跡、建物、美術品、その他特別な歴史、コミュニティ、建築物などを認定する。
ニューヨーク：ニューヨーク市旧跡保護法 (New York City Landmark Preservation Law)	築 30 年以上の建物について「市にとって特殊な性格または特別な歴史ないしは審美的な利益または価値を有するもの」を 11 人からなるメンバーが審査し、認定する。認定された当該建造物は、その外観などに特に重要な影響がないと認定もしくは告知されない限り、変更、改築、取り壊しを行ってはならない。
シカゴ：史跡条例	史跡委員会が、市長に対し保存すべき重要な建造物および地区を指定する法的根拠を持つ。ニューヨークの場合と異なり、指定される建造物に対して年数経過の規定がない。
カリフォルニア州ヴァレージョ：建築遺産および歴史保存条例	歴史的建造物ばかりではなく、広く重要と考える近現代の建造物も保護する。

※2

NEWSLETTER THE SOCIETY OF ARCHITECTURAL
HISTORIANS, VOL.7, NO.4, 1963, 11

※3

avid Jacques, Jan Woudstra, Landscape Modernism
Renounced: The Career of Christopher Tunnard
(1910-1979), Routledge, 2012, p.74

※4

川浦佐知子, 国立公園局の歴史保全
—先住民の地所保全・歴史解釈を射程に入れての検
討—, 南山大学紀要『アカデミア』人文・自然科学編
第15号, 19—39, 2018年1月

1960年代前半になると、自然環境の保護運動が起き、連邦政府による都市開発に対する疑問がジェイン・ジェイコブス、マーチン・アンダーソンやクリストファー・タナードなどの著作により提起された。

また1963年には行政担当者、建築関係の歴史家、建築家、地域の保全活動家ら200人が集まり、Seminar on Preservation and Restrictionがウィリアムズバーグで開かれ、都市再開発政策への疑問、歴史的建造物の有効活用、国家政策としての方向性が話し合われた^{※2}。同じく1963年に大統領に就任したジョンソン米大統領は、彼の政権で自然環境の保護を重要な政策の一つとして掲げており、1964年に「natural beauty」の保全に関するタスク・フォースを結成した。

ジェイン・ジェイコブスやクリストファー・タナード、ローレンス・ハルプリンなど、開発一辺倒の風潮に対して批判的な都市計画家らがタスク・フォースのメンバーに加えられた^{※3}。1965年にまとめられたタスク・フォースによる報告書では、各都市の特徴を示す数々の歴史あるものが消え、どの都市も似たような景観が生まれていることに警鐘を鳴らすものであった。

そしてジョンソン大統領が連邦議会に「natural beautyに対する声明」を送付し、その中で歴史的環境保全に対する政策を進めることを明言し、1966年の国家歴史保全法の成立へと繋がった。

国家歴史保全法は、国家的歴史財や文化財の包括的な保護を目的とする、アメリカ合衆国文化遺産保護制度の基軸となる法律である。国家歴史保全法の「アメリカ国民に方向性を与えるため、国家の歴史的、文化的基盤は共同体の生活と発展の重要な要素として保全されるべきである」という方針は、歴史的遺産が、現在そして将来の国民にとっても必要なものであることを示し、歴史的な場所や都市の保護が国家的プロジェクトとなった^{※4}。

表4 著作や関連事項の概要

著作名、関連事項名	内容
Berman v. Parker 事件	歴史的環境保全を目的とするゾーニングの発展に大きな影響を与えた。美観地区に関する事件であり、この判決をきっかけに、各地でさらに歴史的環境保全のためのゾーニング制度ができるきっかけとなった。
Death and Life of Great American Cities Jane Jacobs 著 "The Federal Bulldozer" Martin Anderson 著	古い建築物の都市コミュニティの有用性を述べた。 低所得者の住環境改善という名目で多くの旧市街地の建築物が破壊され、新たな住居が建設されているが、実際のところ、低所得者層は新たな住居に入るための十分な金銭的余裕がなく、他地域の老朽化した住居に転居している。
"God's Own Junlyard: The planned Deterioration of America's Landscape" Peter Blake 著	公共部門・私的部門双方の建築物について景観的配慮が欠けていることを指摘した。
保全政策の研究シンポジウム「Seminar on Preservation and Restriction」	都市再開発政策への疑問、歴史的建造物の有効活用、国家政策としての方向性が話し合われた。
「自然美 (natural beauty)」の保全に関するタスク・フォースを結成、タスク・フォースによる報告書がまとめられた。 Beauty for America, Proceedings of the White House Conference on Natural Beauty, May 24-25, 1965	各都市の特徴を示すような数々の歴史あるものが消え、どの都市も似たような景観が生まれていることに警鐘を鳴らした。 高速道路に関するセッションにローレンス・ハルプリンが参加。その他、開発一辺倒の風潮に対して批判的であった都市計画家の Jane Jacobs なども参加した。
With Heritage So Rich	ベストセラーとなった報告書。 連邦政府が歴史保全に積極的役割を担うことや、全国登録制度の創設、歴史的財産取得のための補助金の拡充や税金の優遇等が提案された。



ローレンス・ハル普林

(1916年7月1日～2009年10月25日)

■主な作品

- ・フランクリン・デラーノ・ルーズヴェルト・メモリアル
- ・ケントフィールド・ダンスデッキ
- ・マックイントアイア・ガーデン
- ・ギラデリ・スクエア
- ・ニコレット・モール
- ・シー・ランチ
- ・ポートランドの広場
- ・エヴェレット・コミュニティ計画
- ・マンハッタン・スクエア・パーク
- ・シャーロットヴィル・アーバン・デザイン
- ・シアトル・フリーウェイ・パーク



ラブジョイプラザ



ラブジョイプラザ



フォアコートプラザ



ニコレット・モール

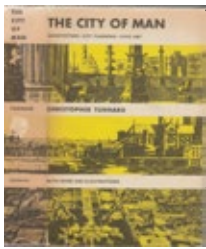
4-2 ローレンス・ハル普林とギラデリ・スクエア

ローレンス・ハル普林は、アメリカの造園家、ランドスケープ・アーキテチャーであり、多くの公園や都市再開発計画に携わった。

ハル普林は、連邦政府による大規模な都市再開発や高速道路事業が多く行われた1950年代、60年代を生きる中で、多くの人々が都市から逃げ出し、新しい高速道路が古い地域を破壊していた時代に都市居住者の生活を改善したいということを考えていた。

本項では、ハル普林の考案したモーテーション、RSVP サイクルや、ハル普林による著作、活動などから、ローレンス・ハル普林の既存建築活用に関する意識を考察する。

4-2-1 ローレンス・ハルプリンの既存環境利用の関わりに関する考察



THE CITY OF MAN
(1953)

アメリカの都市の歴史を再検討することなどが述べられている。



MAN-MADE AMERICA
(1963)

急速に発展していく都市地域の景観に関する関心を主題としている。

■クリストファー・タナードによる影響

ハルプリンは、1939年にコーネル大学に進学し植物学を専攻、卒業後はウィスコンシン大学大学院園芸科へ進学、1941年に修士課程を修了した。その後、1942年にハーバード大学デザイン大学院に進学、建築家ヴォルター・グロピウス、造園家・都市計画家のクリストファー・タナードに学んだ。

クリストファー・タナードはアーバン・リニューアルの危険性を早くから認識し、歴史保全と環境保護の両方のバランスのとれた概念の重要性を早くから認識していた。タナードは戦後 ICOMOS 会員として、歴史遺産保存の分野で活躍し、「The City of Man」(1953) や「Man-Made America Chaos or Control」(1963) などを出版し、彼の考えはアメリカの都市計画と歴史保存に対する態度に大きな影響を与えた^{※5}。

タナードとハルプリンはともに1965年に行われた White House Conference on Natural Beauty in Washington, DC に参加しており、タナードは「Water and Waterfronts」のセッション、ハルプリンは「the Design of the Highway」のセッションにそれぞれ参加した。また1967年には、歴史保存に関する20人からなる諮問委員会にタナードはハルプリンと共に参加した。

以上のことから、ハルプリンの既存建築活用へとつながる保存や再生の考え方は、タナードによる影響が大きくあることが考えられる。

※5

David Jacques, Jan Woudstra, Landscape Modernism Renounced: The Career of Christopher Tunnard (1910-1979), Routledge, 2012, p72

■ White House Conference on Natural Beauty への参加

※6 1956年の5月24、25日の二日間に渡って、Natural Beautyに関して議論する会議が行われた。この会議では15項目が議論され、ハルプリンは「The Design of the Highway」のセッションに参加した※6。1963年に出版した「CITIES」において、自動車とフリーウェイという章を立てており、このことからこのセッションに参加したことが考えられる。

Full text of "Beauty for America; proceedings of the White House Conference on Natural Beauty", Washington [For sale by the Superintendent of Documents, U.S. Govt. Print. Off.], 1965

一つのセッションに7人ほどが参加して意見を述べる形式で、他の項目では、「Parks and Open Spaces」にジェイン・ジェイコブス、「Water and Waterfronts」にクリストファー・タナード、「The New Suburbia」にヒデオササキが参加した。ヒデオササキはハルプリンの事務所に在籍していた。

この会議の議事録をまとめた「Full text of "Beauty for America; proceedings of the White House Conference on Natural Beauty"」から抽出した各セッションの題名を示す。

- 1, The Federal-State-Local Partnership
- 2, The Townscape
- 3, Parks and Open Spaces
- 4, Water and Waterfronts
- 5, The Design of the Highway
- 6, Scenic Roads and Parkways
- 7, Roadside Control
- 8, The Farm Landscape
- 9, Reclamation of the Landscape
- 10, The Underground Installation of Utilities
- 11, Automobile Junkyards
- 12, The New Suburbia
- 13, Landscape Action Program
- 14, Education
- 15, Citizen Action

ハルブリンは参加した高速道路に関するセッションで、「堂々として形の整った道幅の大きな高速道路は新しい都市にも古い都市にも簡単に計画することができるが、価値がある土地や、保存すべき建築や都市の景観が密集している古い地域に高速道路を建設する際には他の解決方法を考えなければならない」ということを指摘している。以下にハルブリンが述べた6項目を示す。

NO.	原文	解説
1	The sinuous, curvilinear pattern of country freeways is inappropriate in the city. It cuts across the existing grid, disrupts neighborhood patterns and leaves odd, difficult-to-integrate pieces. Urban freeways should follow the grid of the city.	曲がりくねった曲線の高速道路は都市にある既存のグリッド横切っており、近隣パターンを混乱させ、奇妙で統合しにくい部分を残すため不適切であり、都市に作る高速道路は、都市の既存の既存のグリッドに従うべきであること。
2	The wide right-of-way, with variable median strips and planted verges and shoulders, is inappropriate in cities because it wreaks havoc with existing structures, takes too much land off the tax rolls and separates neighborhoods by great swaths cut through a city's fabric.	幅が広い道路は既存の建物に大打撃を与え、都市からあまりにも多くの土地を取り除き、都市を大きな帯で分断してしまうため不適切である。
3	Urban freeways should fit into existing and projected land-use and topographic patterns in a city. They should go between neighborhoods, not through them, or they should go between two different land uses, such as industrial and residential, or utilize topographic changes by sliding along below hills where they cannot be seen.	都市の高速道路は、都市内の既存及び予測される土地利用と、地形のパターンに適合する必要がある。都市の高速道路は、近隣のつながりを遮断せずにそれらを行き来するか、工業地域や住宅地などのように土地利用の異なる地の間を行き来すべきである。
4	Urban freeways should be condensed and concentrated, not spread out. They should employ urban, not country aesthetics. Accordingly, they must use multilevel, split-level, depressed, and elevated groupings to facilitate concentration of the road bed. As a byproduct, connections across freeways, from one side to the other, become much easier to achieve.	都市の高速道路は凝縮して建設するべきであり、広げてはならない。だから、いろいろな高さや大きさの道を作るべきであり、それによって高速道路同士の接続もよくなる。
5	Urban freeways should be integrated with the city and not simply be a corridor through it. They should pass through buildings, have shops built with them and other structures such as restaurants and parking garages, integrated into their structure.	都市の高速道路は廊下のように独立してあるのではなく、都市を結合させるように建設されるべきである。都市の高速道路は建物を通り抜け、それを使って店を建てたり、レストランや駐車場のような他の建物をそれらの建造物に統合させたりするべきである。
6	Freeways should be built as part of a total community development, not unilaterally. If a freeway must pass through a city, its design and construction must involve the total environmental redevelopment of the area through which it passes. To this end many levels of government as well as private enterprise must join forces to effect complete redevelopment. This should involve building on the air rights over freeways as well as the rebuilding of areas around them. Freeways can then take the lead in generating amenity in a city in the new or rebuilt areas by having parks and playgrounds pass under them, new structures built over them. Ultimately it is the design of the environment of a freeway which counts for more than the actual structure itself.	高速道路は、一方的にではなく、コミュニティ全体の発展の一環として構築されるべきである。高速道路が都市を通過しなければならないとき、その設計と建設は、それらが通過する地域全体の再開発を含む必要がある。
7	Freeways must be developed as only a part of a total transportation program in which mass transit and other techniques for limiting further car traffic must be established, including the very real possibility that no more freeways should be designed.	高速道路は、大量輸送や他の技術のための移植プログラムなどの総交通量の一部として開発され、その他の自動車交通量を制限することが必要である。これ以上高速道路を設計するべきではないという可能性を含んでいる。

※7

ローレンス・ハル普林著、都市環境の演出 装置と
テクスチャ、株式会社彰国社、1970、p211-219
(CITIES の出版は 1963 年)

ハル普林は、高速道路建設が自動車のことを最優先にし環境設計や景観が犠牲にされてきたことへの危機感を感じていた^{※7}。そのためこのセッションにおいては、既存の都市の環境に目を向けることで破壊を防ぐことを提案している。

一方で、自動車が都市の中に持ち込んだスピードにより高速道路上から見ることもできる新たな視覚体験に興味を抱いていた。これは、一つのものの上にほかのもう一つのものが順次重ねられるというイメージの連続性への興味と捉えることができる。

これが運動の表記方法（モーテーション：movement+notation の造語）の考察へとつながる。

■モーテーションと RSVP サイクルからみえる既存状況に対する考え方



ケントフィールド・ダンスデッキ



ケントフィールド・ダンスデッキ

ハルプリンはこの場所を利用し、ワークショップやモーテーションの記録の実践例などを示した。

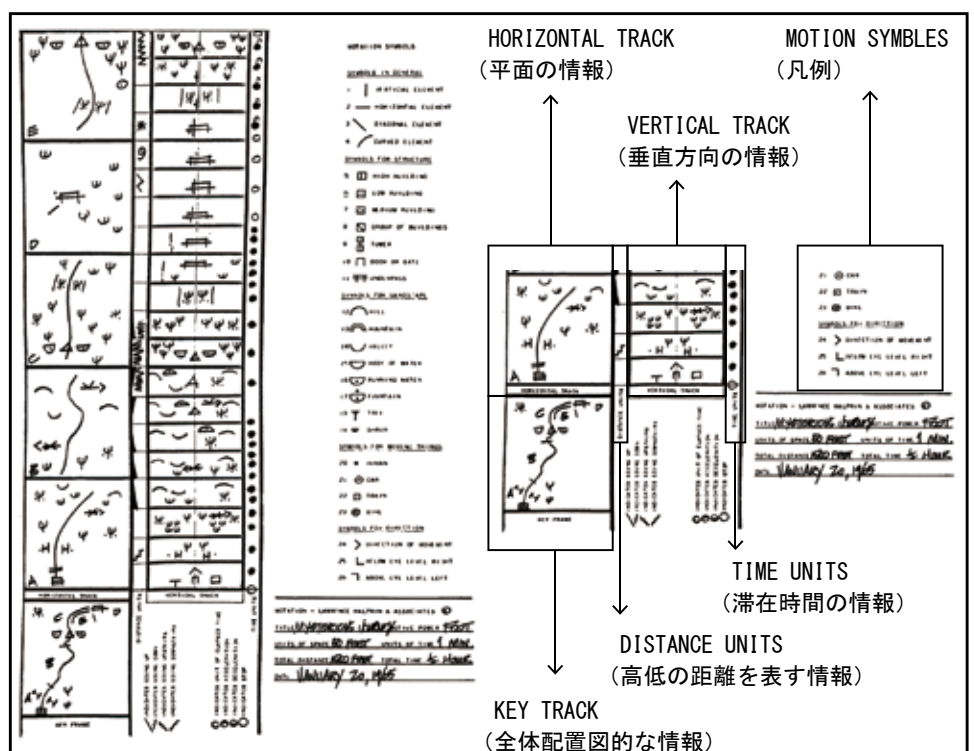
ハルプリンは1963年に「CITIES」を出版、1966年には妻であるダンサーのアンナ・ハルプリンと共に合同ワークショップ (RSVP サイクル) の提案を行った。

モーテーションは、空間の「動き」に注目し、その動きを記述するための設計手段であり、movement+notation からなるハルプリンによる造語である。これは環境の動きが26の基本シンボルによって表され、モーテーション記入表に記録されるシステムである。ハルプリンはモーテーションについて、「このシステムは動きを伴う出来事を記録することにも、また動きをデザインすることにも使える。言い換えれば既存の状況を記録することにも、新しい状況を創り出すことにも使える。」と述べている^{※8}。

※8

PROCESS:Architecture No.4 LAWRENCE

HALPRIN, 1978, p62



※9

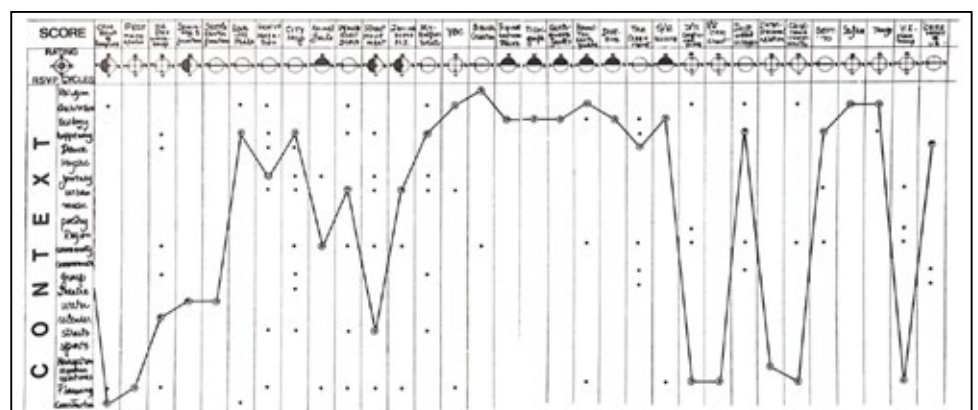
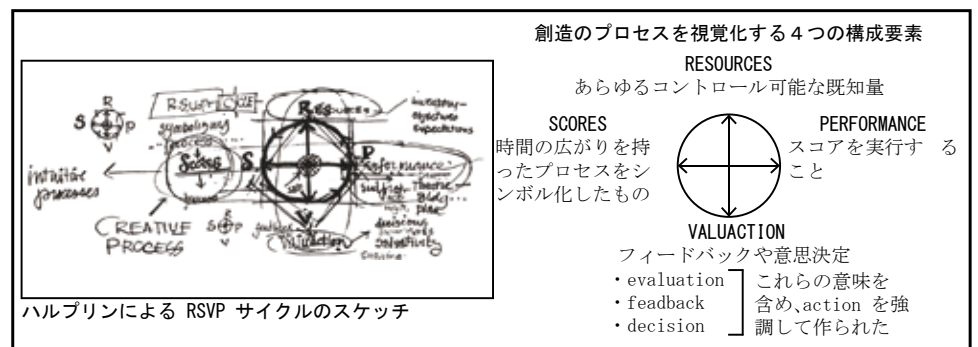
PROCESS:Architecture No.4 LAWRENCE

HALPRIN, 1978, p29

また、RSVP サイクルは「我々のデザインがいかにうまくできていても、またいかにうまく提案されても、必ずそのデザインの基本的前提に自分達が参加していないとか、勘定にいれられていないとかの理由で、誰かしら意義を申し立てるものが出てくるものであることを発見した。※9」というハルプリンの経験から、芸術的に集団のインプットを投入する方法として考えられた。

RSVP サイクルは創造のプロセスを4つの構成要素に分けることで、そのプロセスを視覚化したものであり、構成要素は、リソース、スコア、ヴァリアクション、パフォーマンスである。そのうちスコアは、過去の出来事を記録し、未来を予言し、現在に影響を与えるものとして設定されている。そしてモチベーションは、時間と空間の中の動きを表示するスコアと考えることができる。

このようにハルプリンは、既存の状況を十分に把握した上で一つの計画を進めることを考えており、既存の状態を安易に変更しない設計手法を考察していたと考えることができる。



■シーランチの計画に関して

※10

The Landscape Architecture of Lawrence Halprin, The
Cultural Landscape Foundation, 2016, p37

Kenneth i. Helphand, LAWRENCE HALPRIN, The
university of georgia press, 2017, p85-97

ハルプリンが敷地調査および敷地計画を考え、建築物の3次元的なコードを作り、それに基づいて建築家のチャールズ・ムーアがコンドミニアムを設計した。

始まりは、ブルドーザーやコンクリートによる開発が嫌いな土地開発業者のアルフレッド・ボークがこの土地を購入したことがきっかけで、彼がハルプリンにと地の調査を依頼した(1963)。ハルプリンはこの場所で1年キャンプをして土地の調査を行った。ハルプリンは敷地全体の生物の生息状態や、景観、雨風の影響や季節による日光の変化などを調査し、どの場所にどんなサイズの建物を建てると良いかを決定した^{※10}。

ムーアがこの設計に参加したきっかけは、その頃はまだ無名であったムーアが手がけた住宅にハルプリンが注目したためである。この住宅は、女性教師が週末を過ごす目的で依頼したもので、家の傍にあった木を活かした設計であった。当時のアメリカには周辺の環境を活かす建築家はほとんどおらず、ハルプリンはムーアを指名したとされている^{※11}。

このことから、ハルプリンが既存の環境を十分に考察し、それを活かすことを考えていたと考えることができる。

※11

KIRIN ART GALLERY 美の巨人たち

チャールズ・ムーア他「シーランチ」(後編) [https://](https://www.tv-tokyo.co.jp/kyojin/data/051119/)

www.tv-tokyo.co.jp/kyojin/data/051119/



シーランチ



■ 1995 年に残している言葉

※ 12

The Landscape Architecture of Lawrence

Halprin, The Cultural Landdcape Foundation, 2016, p6

ハルプリンは「私自身のやり方は、自然の外形をデザインするが、自然のプロセスの結果を強調することであった。自然による風景の経過による変化を人間の経験に変えるという行為は、私にとってランドスケープデザインの本質です。※¹²」という言葉を残しており、これはハルプリンが自然の環境を模倣するのではなく、それを踏襲した設計をしていたことをまとめる言葉と捉えることができるが、同時に既存環境、既存建築に残る歴史の積み重ねを意識していたと考えることができる。

■ 保存再生に関する意識

※ 13

ローレンス・ハルプリン著、伊藤ていじ訳、都市「…その中にも周りにも、生活のない新しい広場、人々が群れ集まっていない時環境の演出 装置とテクスチャ、株式会社彰国社、1970, p11

(CITIES の出版は 1963 年)

CITIES のプロローグにおいてハルプリンは次のように述べている。

の方がよほどまじに見える巨大な建物、全く個性のない新しいファサードに変えるためになされる美しく古い建物の取り壊し、ショッピングセンターに見られるサイン、全く結構な好みである。こんなことで都市ができるわけがない。創造的都市環境は新旧の建物の共存から、そして都市とは私たちの過去と未来の双方に関連した連続体なのだという認識から、自然と発展していくものである。刺激を与えてくれるような都市は、互いに関連した多様な活動の結果として生まれる。…※¹³」

つまり都市は、過去から現在、そして未来への連続した時間軸の中で、そこにある新旧の建物が互いに影響しあい、共存することで想像的で魅力あるものになるということが述べられている。

以上のように、複数の会議で発した言葉や、著作、思索から、ハルプリンが既存状態の保存、そして既存の状態にレイヤーを重ねるようなことに意識を向けていたことを考察することができる。この既存状態の利用が様々な著作や、発言に先駆けて、建築物という物体に対して初めて実行されたのがサンフランシスコにある「ギラデリ・スクエア」である。

4-2-2 コンバージョン事例としてのギラデリ・スクエア

※14

Kenneth i. Helphand, LAWRENCE HALPRIN, The
university of georgia press, 2017, 110

ハルプリンによって既存状態の利用が、様々な著作や発言に先駆けて、建築物という物体に対して初めて実行されたのがサンフランシスコにある「ギラデリ・スクエア」である。ギラデリ・スクエアは“Rouse-infication of Lower Manhattan”という雑誌記事で Jane Holtz Kay という批評家に “Ghirardelli Square syndrome” という言葉を使用させるほど adaptive reuse にによる類似した計画が多くなされていた※¹⁴。また、イギリスのコヴェント・ガーデンは “Ghirardelli Square for London” と言われていた。このような点においてもギラデリ・スクエアが adaptive reuse や historic preservation に与えた影響は大きいと考えることができる。

■ギラデリ・スクエアの開発背景

ギラデリはアメリカのチョコレートメーカーで、1893年に本社工場を建設した。しかし、1960年初頭にこの会社がマカロニ会社を買収され、本社工場は移転してしまった。この跡地はマンションに建て替えられる計画があったが、ウィリアム・ローズとその母ラーリーヌ・ローズが1962年にこれを買収した。

ローズはここに高層建築を建てないという意向を持っており、ハルプリンのところへ行き、別の開発案はないかと尋ねた。二人で敷地を見て回ったあと、ハルプリンは既存の建物を全て残し、それらを複合ショッピングセンターに組み入れれば素晴らしいものになる、と進言した。ローズと既存の建物を見たその日の夜に、ハルプリンは何枚かのコンセプトスケッチを仕上げた^{※15}。ハルプリンはこの場所を「The Beehive of Excitement(人が集まる活気溢れる場)」となるように計画し、建物を全面改修した複合施設を1964年にオープンした。考察に使用したスケッチを以下に示す。

※15

PROCESS:Architecture No.4 LAWRENCE

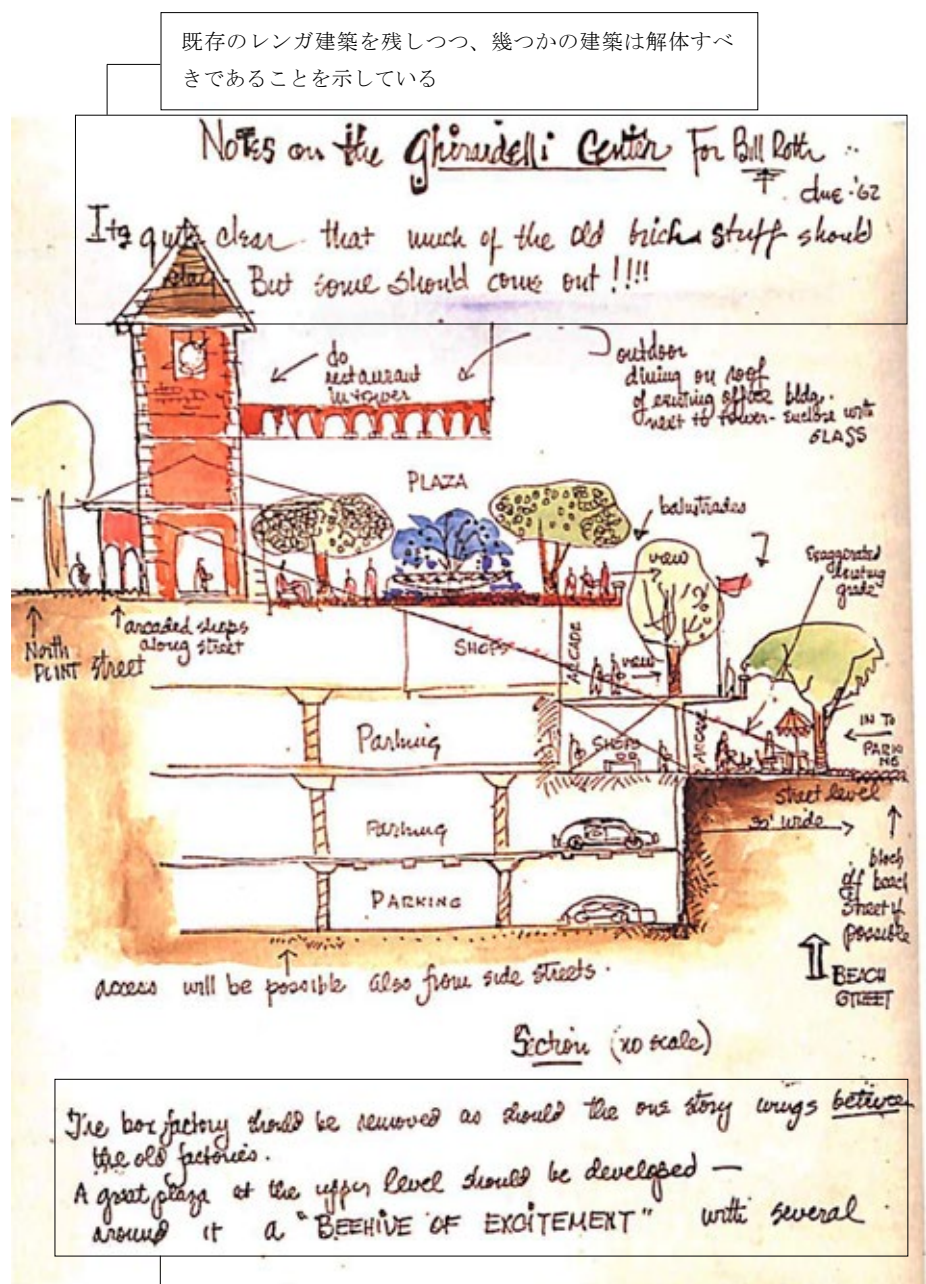
HALPRIN, 1978, p106



ギラデリ・スクエア全体図



イースト・プラザの噴水



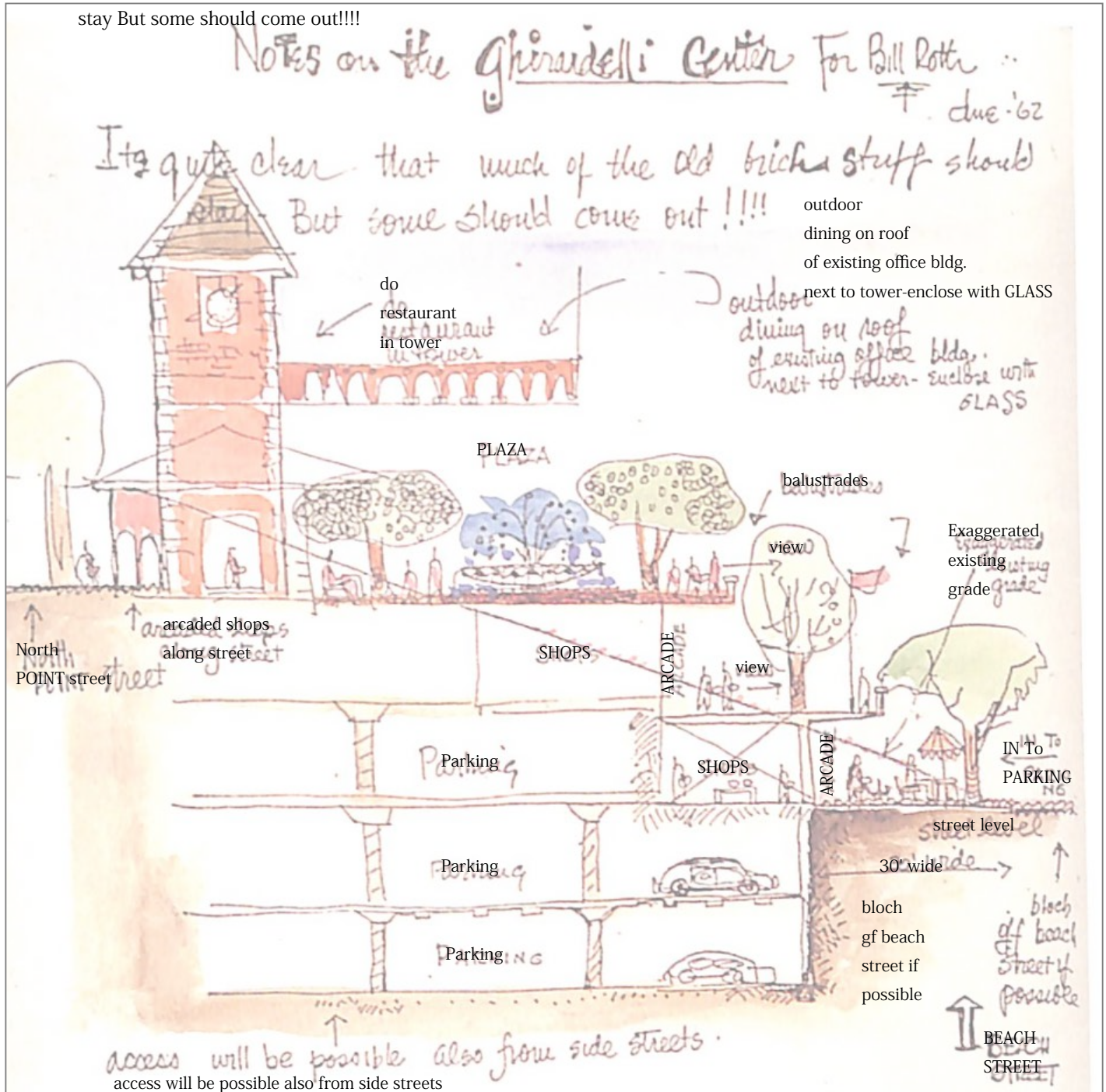
既存のレンガ建築を残しつつ、幾つかの建築は解体すべきであることを示している

解体すべき建築を具体的に指摘し、高い階層の幾つかの広場を人が集まる活気溢れる場とすべきであることを指摘している。

Notes on the ghiradelli center for Bill Roth

Its quite clear that much of the old bricks stuff should

stay But some should come out!!!!



Section (no scale)

Section (no scale)

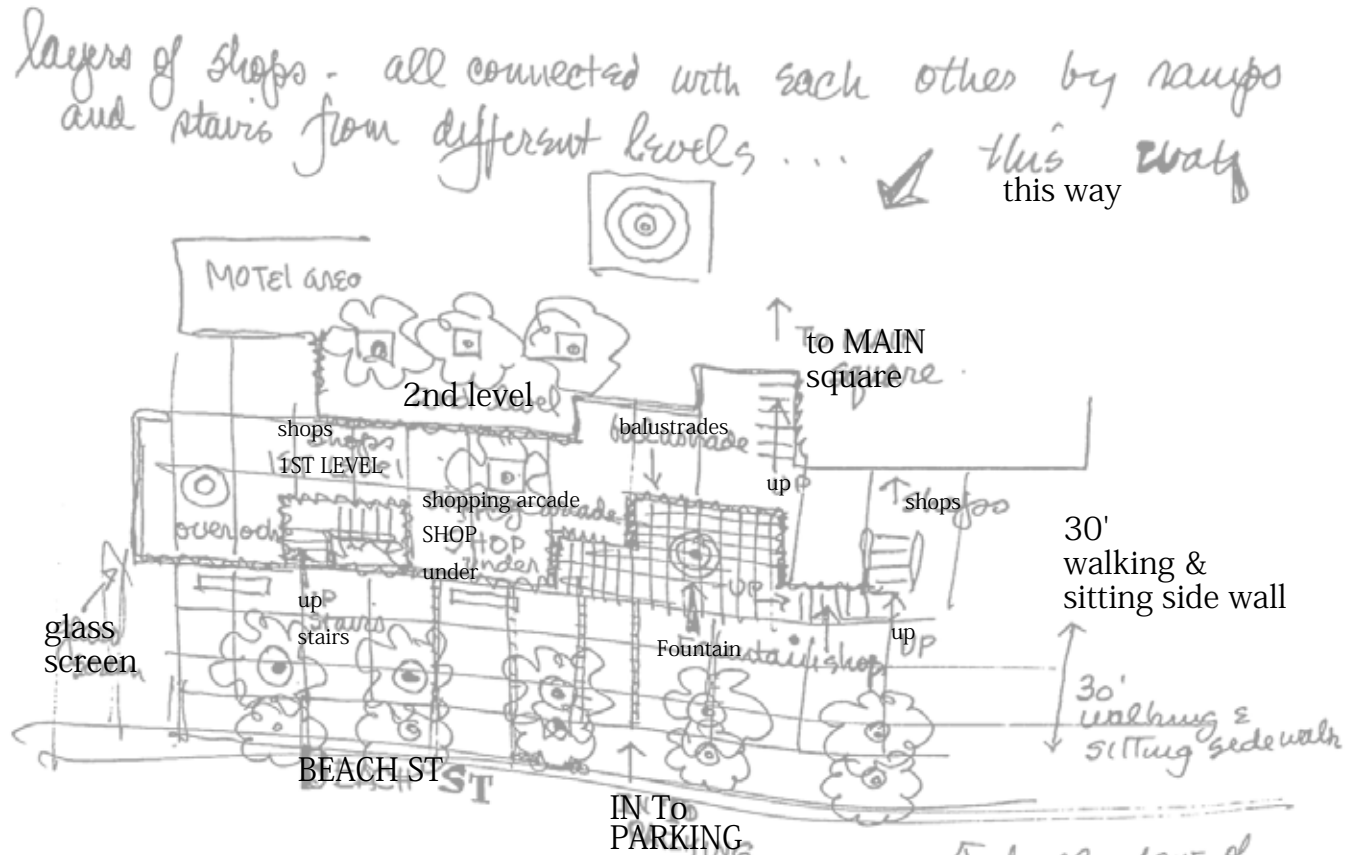
The box factory should be removed as should the one story wings between the old factories.

A great plaza at the upper level should be developed — around it a "BEEHIVE OF EXCITEMENT" with several

The box factory should be removed as should the one story wings between the old factories.

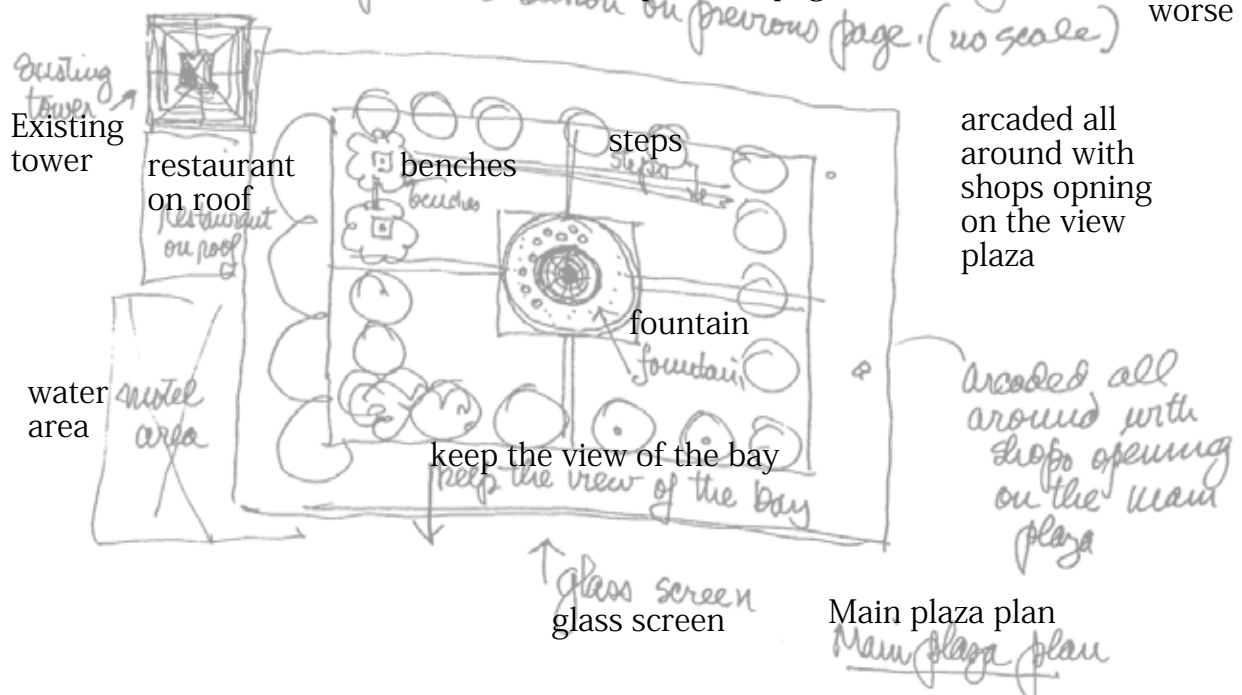
A great plaza at the upper level should be developed — around it a "BEEHIVE OF EXCITEMENT" with several

Layers of shops all connected with each other by ramps
and stairs from different levels...



schematic Plan showing plan relationship to the section on previous page. (no scale)

double row of horse chestnuts or sycamores double Now of worse

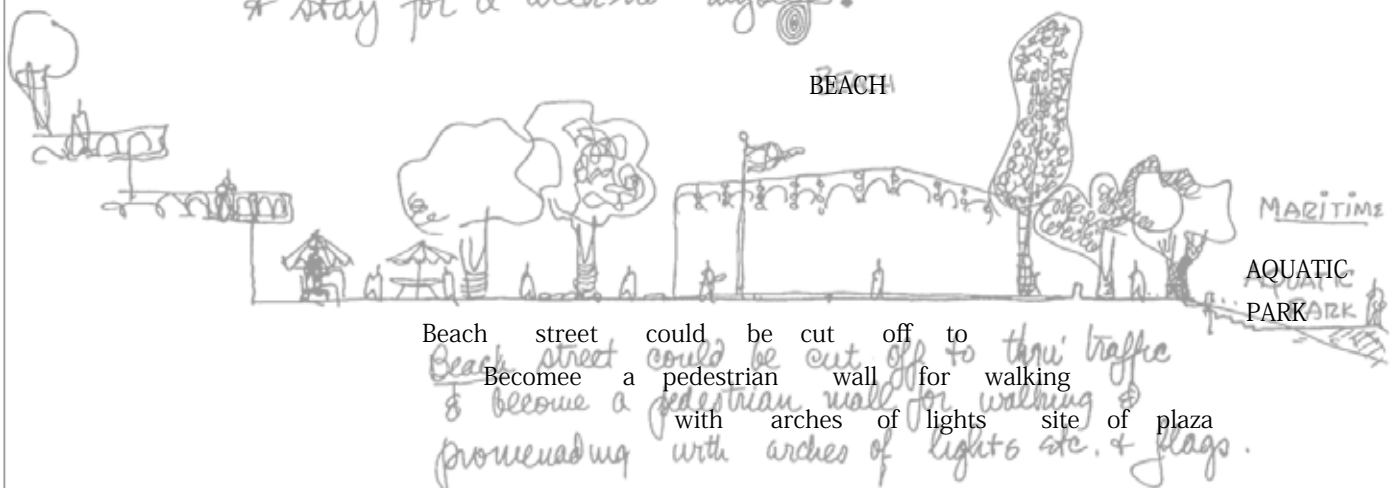


Parking is a main problem but since there is about a 20' break across the site several layers of underground parking can be developed! - see section- there can also be made accessible from both side streets
The Beach street facade must be set back about 30' for a handsome promenade with trees, benches but not in a single line - set backs - forgetter - see plan sketch.

Parking is a major problem but since there is about a 20' break across the site several layers of underground parking can be developed! - see section - these can also be made accessible from both side streets

The Beach street facade must be set back about 30' for a handsome promenade with trees, benches & sidewalk cafes - but not in a single line - set backs - interovora together - see plan sketch.

I think a motel - very good one would be marvellous here - urban - lots of things to do - shopping, restaurants an off-beat theatre - avant garde painting & sculpture on the plaza - rotating exhibits - I'd come stay for a weekend myself!



I suggest buying the Dr Pepper site for additional parking - which probably would be needed if a motel & all the other facilities are developed at Ghiradelli Center.

I suggest buying the Dr Pepper site for additional parking which probably would be needed of a motel all the other facilities are developed of ghiradelli center

※ 16

The Landscape Architecture of Lawrence Halprin, The
Cultural Landdcape Foundation, 2016, p29

1966年に国家歴史保全法が成立するが、この計画はその数年前の1962年から作成されている。

ハルプリンは建築家のウィリアム・ワースターと共にこの計画を進め、この施設をショッピングと観光の目的地に変更し、他の都市のための実行可能な適応的再利用モデルを作成したとして評価されている^{※16}。

※ 17

The Cultural Landscape Foundation,
(<https://tclf.org/landscapes/ghirardelli-square>)

※ 18

ローレンス・ハルプリン著、都市環境の演出 装置と
テクスチュア、株式会社彰国社、1970、p7

ハルプリンは建物の再利用を「Recycling」と呼び、ショッピングセンターを「The Beehive of Activity（活動のるつぼ）」と見なし、この概念が全国の他の建物の転用のモデルとなった^{※17}。

ハルプリンは、現代における都市の最終的な目標は、そこに住む人々に対して創造的環境を整えることであり、創造的な環境をもった都市とは、多様性を持ち選択の自由を許すような都市であるとしている^{※18}。つまり都市にある固有の性格や、自然の地勢と眺望、住民、文化的遺産などのそれぞれの素材が、相互作用を起こすように計画することが、アーバンデザインの上で大切であるということである。

これは都市全体が、人々や建物、その他の状態や状況の「活動のるつぼ」となることであると考えることができ、ハルプリンはこの考察をギラデリ・スクエアにおいて実行したと考察することができる。実際にハルプリンは、「このギラデリスクエアが10倍の大きさになったことを想像できるなら、これは一つの都市が何をすべきかの一実例になると思われる」と述べている^{※14}。

つまりギラデリスクエアは都市環境の一実例であり、公共空間の設計に関する技術手法が用いられた施設であり、大規模な商業建築において公共空間を入念に計画することの重要性を示していると共に、既存建築を利用することが、様々な事柄が相互作用を起こす空間の前提として存在することは、新築の建物では喚起することのできない重要な役割を果たしていることが分かる。

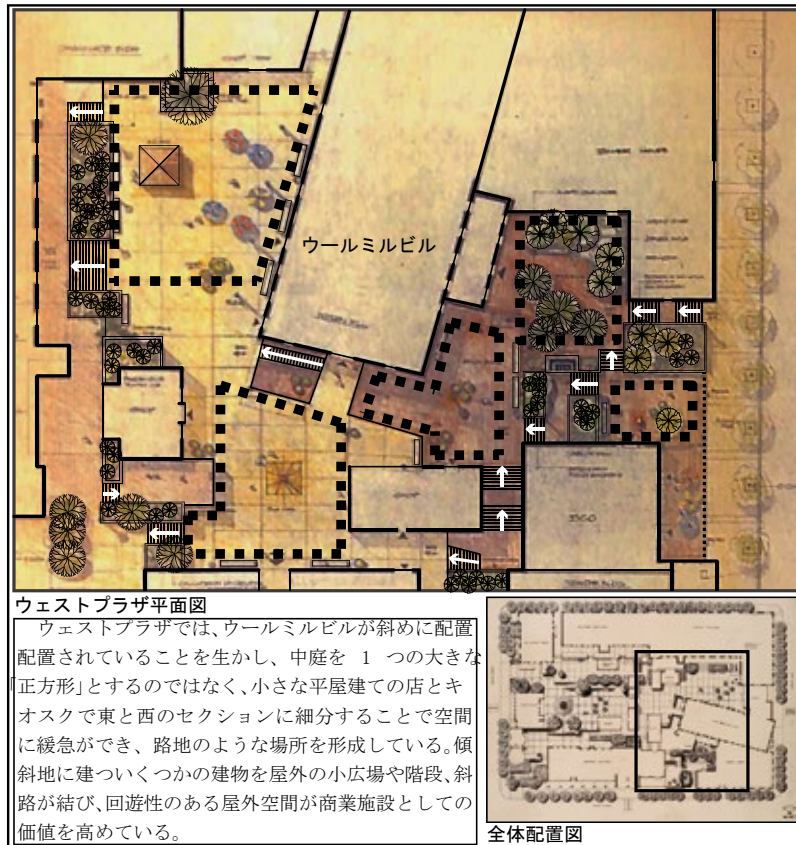
ギラデリスクエアは1970年にアメリカ建築協会賞を受賞している。また、転用の計画をしていた際には歴史的建築物であるという認識をされておらず、ただの古い建物であったものが、転用され、さらに新たに手加えられた1982年に国指定の歴史遺産に指定され、歴史的な重要性が認識された。

■敷地全体の設計について

ハルプリンは煉瓦造の古い構造体の大部分は残し、通りのレベルで店を計画し、ウォーターフロントからやってくる人々を誘導するために、入り口の階段を入念に計画し、ギラデリの印象的な看板を商業開発向けに向きを変えて設置することを提案した^{※16}。また、ハルプリンは地下ガレージを提案し、これは当時画期的なものであった。

傾斜地に建っていくつかの建物を屋外の小広場や階段、斜路が結び、回遊性のある屋外空間が商業施設としての価値を高めている。小さな広場から次の広場へ、その間に階段があり、そこからチラリと湾の水面が見える、そして、また別の広場へと移動しながらウィンドウ・ショッピングを楽しめる計画であり、知らず知らずのうちに、商業施設を歩き回ることができる。また、1つの大きな中庭とするのではなく「正方形」をより小さな平屋建ての店と遊び心のあるキオスクで東と西のセクションに細分している。

ウェストプラザは、ウールミルビルの鋭角によって定義され、カスケード接続（階段状に連続する縦方向の接続）の小さいローワープラザとローズコートにもつながっている。東は、イベント用に800人収容可能な最大のオープンエリアがあり、座席階段を持つ噴水が焦点となっている。当初は彫り込む形のものが考えられていた。ギラデリ・スクエアではハルプリンが「CITIES」内で述べている都市の街路に必要な諸要素が実現されている（lighting：照明, seating：ベンチ, planters：植木鉢, railings：手すり, kiosks：キオスク, graphics：サインとシンボル）。



4-3 商業施設開発における J・W・ラウスとベントンプソンの影響

※ 19

BTA ホームページ (<https://web.archive.org/web/20040406113133/http://bta-architects.com/c/BenjaminThompsonFAIA.html>)

※ 20

GHIRARDELLI SQUARE,

BTA ARCHITECTS, INC. (<https://web.archive.org/web/20040510081510/http://bta-architects.com:80/pdf/um-GhirardelliSq.pdf>)

「バンドスタンド」階段

ベンジャミン・トンプソンとジェームス・ラウスは港湾部にある既存倉庫や使用されなくなった建物を利用しフェスティバル・マーケットプレイスの考え方をういて商業施設の開発を行った。このフェスティバル・マーケット・プレイスという言葉が使用される以前に初めて実行されたのはギラデリ・スクエアであるとされている。

ベンジャミン・トンプソンは 1950 年代に、イエール大学時代からの友人と、ヴァルター・グロピウスを招いて TAC (The Architects Collaborative) と呼ばれる建築家グループを作り活動していた。TAC の活動では、地域的に適切な表情や素材を使うことへの関心が反映されていた。このような、見え方や文脈に対する興味と並行して、トンプソンは adaptive reuse への関心を強め、1950 年代後半には、ハーバード・ヤード内の歴史的な寮を改装した。この改装では外観には手を加えず、内装を改修している。トンプソンは 1965 年にギラデリスクエア内の大時計のある建物の一階部分を改修した。1966 年にトンプソンは TAC をやめ BTA (Benjamin Thompson & Associates) を設立した^{※19}。

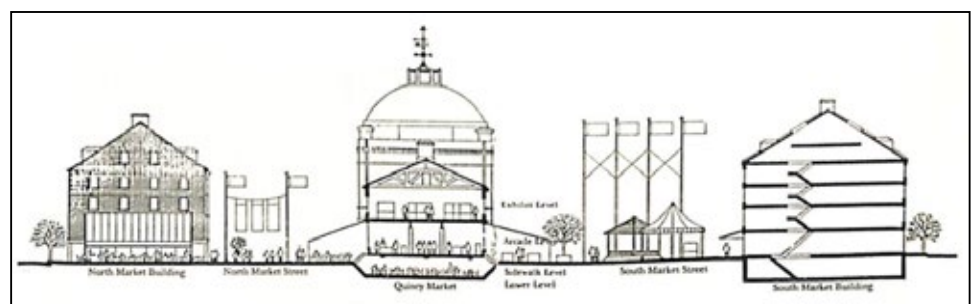
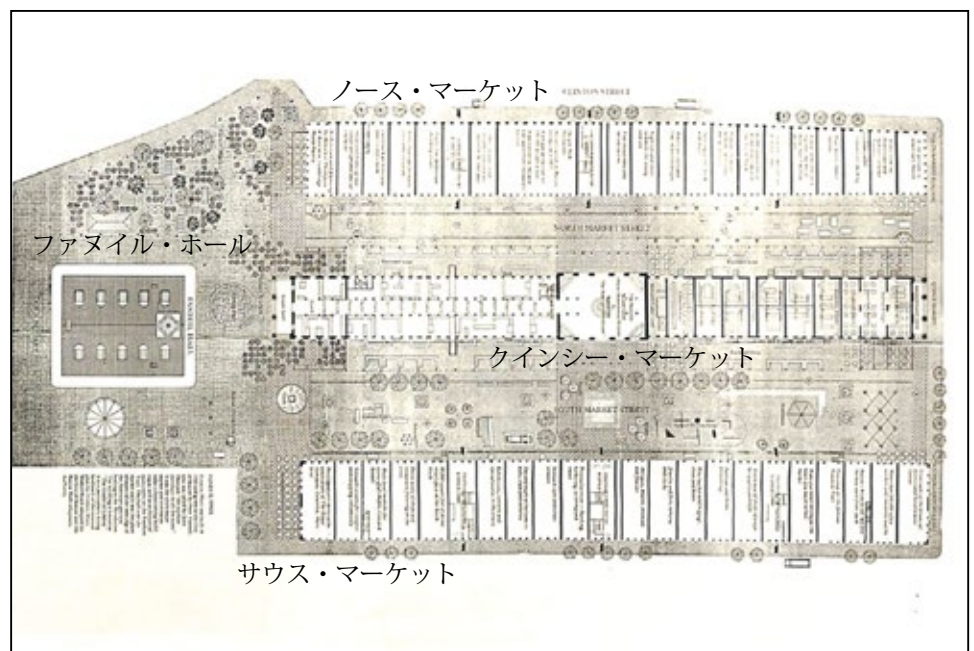
BTA は、1985 年にギラデリスクエアの流通、店舗の視認性、テナントミックス、グラフィックスなどのさまざまな問題に対処するために大幅に改装および「微調整」を行った。入り口が見やすくなり、より開放的で魅力的になり、アクセスしやすく変更された。BTA による交通調査によると、噴水広場から上層階への道を見つけたのはたった 1 人であった。これに対応するために、BTA は人々を上層階の店やレストランに誘導することを目的とした「バンドスタンド」階段を設計した。BTA の変更により、メインレベルまたはそれに近いレベルの飲食サービスへの顧客アクセスが改善され、グラフィックとシンボルサインも改良された^{※20}。

ジェームス・ラウスは第二次世界大戦後、ボルチモアで市が手がけていたスラム街の修復等の都市整備事業に深く関わり、数多くの住宅・都市開発のプランニング・グループにメンバーとして参加することで、都市問題の専門家として認められた人物である。

1950年代にボストンでは市当局が大規模な都市再開発計画を打ち出し、ダウントウンの地区の建物の一部を更新すると共に、歴史ある建物については保存再生して活用し、倉庫の立ち並ぶウォーターフロント地区を公園として整備する計画が1960年代から実行された。I・M・ペイによるアーバンデザインにより再開発が進み、新しい建物が次々に建設されたが歴史ある建物が立ち並ぶ地区の利用の仕方は定まっていなかった。この地区には、1742年に創建されたが1761年に火災で焼け落ち、1763年に再建され、1850年に増築されたという経緯をもつ、ファヌイル・ホールのほか、クインシー・マーケット、ノース・マーケットやサウス・マーケットが建てられていた。ボストンでadaptive reuseに興味を持ち活動していたベンジャミン・トンプソンは、その頃ダウントウンの衰退を招いた郊外型ショッピング・センターの開発によって発展していたディベロッパーのラウス・カンパニーのジェームス・ラウスに呼びかけ、この場所を共に訪れた。その際には、この場所の治安の悪化により、別のディベロッパーによる再開発の計画が放棄されていた。1964年からボストン市は郊外に向かってしまった消費者を都心に戻す事業を模索していた。ディベロッパーがラウス・カンパニーに変更され、この場所がショッピングセンターとなる計画が1973年に公表された。^{※21}

※21

シンポジウム「蘇る都市—都市再生のパラダイム」基調講演要旨全文より抜粋し、まとめなおした



※ 22

国総研資料 No. 260

クインシー・マーケットは1976年に開業し、食料品中心の店舗で構成されている。サウス・マーケットは1977年に開業しファッション関係の店が入り、翌年の1978年にはレストランやファッション関係の店舗に加え、画廊などが入るノース・マーケットが開業した。サウス・マーケットとノースマーケットの3階以上は賃貸オフィスである^{※22}。

ラウスは商業施設の開発に関して「市当局はマーケットプレイスを民間ディベロッパーの開発するオフィスビルやホテル、レストランのような類と同じように捉えてはいけない。それは、都心部に生命を呼び戻す重要な、公共的改善事業であり、そこから他の開発が生まれ、税収入も増え、雇用を促進し、観光を生むものとみなすべきである。そして何よりも、その街の人々の喜び、楽しみと誇りに大きく貢献するものだと考えるべきである。^{※21}」と述べている。この認識が当時なされていたことは、ハルプリンの考える魅力ある創造的な都市における商業施設開発への意識として重要な点である。

またラウスはこのファヌイル・ホール・マーケットプレイスの賑わいからフェスティバル・マーケットプレイスという言葉の思いつき、次のようにも述べている^{※21}。

「諸々の都市は、それぞれの中心地でたとえなにをしようとも、活気に満ち溢れた商業の核がそこになれば、完全ではありません。オフィス、ホテル、博物館、病院、大学なども、都市生活の断片を表すものではありませんが、あらゆる人々が集うのはなんといっても、マーケットプレイスなのです。（中略）ハーバープレイスを訪れる人の65パーセントは、特に食事をするためでもなく、あるいは買い物をするためでもなく、ただそこにいることを楽しむだけのために訪れているそうです。つまり彼らは、座り込んだり、立っていたり、商店の中をゆっくり歩いたりしている。微笑みに満ちて親しげな、何千という人の醸し出す、お祭り気分を楽しみに来ているのです。（中略）フェスティバル・マーケット・プレイスに対するこの反応は、少なくとも部分的には、人々の郊外への転出と、それに伴う宅地分譲型の職住分離に対する反作用であり、また小間切れにされた生活への反発や、近年台頭しているハイテクな、コンピューター化され、テレビで流され、セロハンで包装された品物にあふれたチェーン店のような、社会組織に対する反動だと私は思います。この反動から、暖かく親密な、カウンターの所にオーナーがいるような、小規模の商人たちとの個人的な関係を望む声が上がっているのです。それは、色や香りや質感を求める声、本当の意味でのマーケットプレイスを望む声なのです。」

つまり商業施設を活動のるつぼとして認識している。また、ファヌイル・ホールを含むこのマーケット全体はディベロッパーによって計画され160店舗が入る20350 m²の大規模商業施設であり、チェーン店が多く入れられているにも関わらず、商店街的な雰囲気を人々に感じさせている点が優れており、それは、建物間の石畳の、樹木の植えられた広場に程よく置かれたベンチを用意することで特に目的なくこの場所へ来ても過ごすことができたり、ワゴンを利用したインテリアや、相互関係を考えて配置された商品によって生みだされる回遊性による影響であると考えることができる。

さらにラウスは「ファヌイル・ホール・マーケットプレイスのシンボルはバツタである。創建当時のまま塔の上からボストンの歴史を見つめてきたこのバツタこそ、この場所を象徴するものだ。^{※21}」と述べ、この既存の建物への敬意を示している。

ファヌイル・ホールや周辺の建物を利用したからこそ、都市に馴染む場が作り出されたのであり、時間軸や活動が重層的になることで活動のるつぼとなる場所を計画することができたと考えることができる。また、人々の賑わいの中で存在することで建物の歴史の重みが際立つ。この相乗効果が期待される点で、大規模商業施設を既存建物のコンバージョンによって計画するこの有用性を考えることができる。

ベンジャミン・トンプソンとジェームス・ラウスはこの計画の後、とくに港湾部にある既存倉庫や使用されなくなった建物を利用しフェスティバル・マーケットプレイスの考え方をういてコンバージョンによる商業施設の開発を行った。

第5章

海外の諸都市におけるコンバージョン事例

5-1 全体の傾向

5章では過去の海外調査事例（資料編参照）から抽出したものに最新事例を含めた国外の大規模小売店舗 16 事例を対象に分析を行った。

元用途をみると、工場や倉庫などの産業系施設を使用した事例が圧倒的に多く、ハルプリンやラウス、トンプソンの影響と考えることができる（表1）。

また、国内では一棟の転用事例が多く見られたが、国外では服す等を利用して「囲み」や「並列」の配置とすることで中庭や広場的な空間を構成する事例が多く見られた（表1、2）。

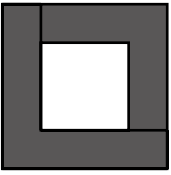
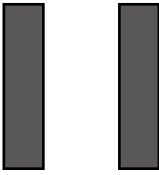

表1 事例ごとの概要

改修年代	No.	事例名	国	都市	建築年	計画開始年	改修年	再整備	元用途	建物配置	改修類型
1960年代	1	ギラデリ・スクエア	USA	サンフランシスコ	1893	1960	1964	1965	産業系	囲み	複数棟
	2	キャナリー	USA	サンフランシスコ	1893	1963	1965	-	産業系	囲み	複数棟
1970年代	3	ファヌイル・ホール・マーケット	USA	ボストン	1742	1964	1976	-	公共系	並列	複数棟
	4	ネイビー・ピア	USA	シカゴ	1916	1970年代	1976	2016～	産業系	直線	複数棟を一棟
1990年代	5	ロックス・スクエアー	AUS	シドニー	1918	1971	1994	2007	居住系	囲み	複数棟
	6	チェルシー・マーケット	USA	ニューヨーク	1890	1970年代 (地区)	1997	2009	産業系	中央	一棟
	7	ブルー・バード・チェルシー	UK	ロンドン	1923	1997	1997	-	産業系	中心	一棟
	8	ベルシー・ヴィラージュ	FRA	パリ	1885	1990	1998	-	産業系	直線	複数棟
2000年代	9	リンゴット	ITA	トリノ	1921	1983	2002	-	産業系	中央	一棟
	10	フェリー・ビルディング	USA	サンフランシスコ	1897	1998	2003	-	産業系	中央	一棟
	11	田子坊	中国	上海	1930	2004	2004	-	居住系	地区的	複数棟
	12	Q19モール	AUS	シドニー	1909	2001	2005	-	産業系	中央	一棟、増築
	13	1933老場坊	中国	上海	1933	2008	2009	-	産業系	中央	一棟
2010年代	14	ジャム・ファクトリー	AUS	メルボルン	1858	1979	1979	2018～	産業系	囲み	複数棟
	15	アッパー・ウェストサイド	AUS	メルボルン	1894	2013	2016	-	産業系	地区的	複数棟
	16	コール・ドロップス・ヤード	UK	ロンドン	1850	2001	2018	-	産業系	並列	複数棟を一棟

表2 外部への操作

改修年代	No.	外部																										
		保存			変更			付加			るつぼ的界限空間													中庭	増築	新築		
		壁	窓	屋根	壁	窓	屋根	庇	サイン	縦動線	有無	構成																
												既存						新設										
		壁	窓	屋根	壁	窓	屋根	庇	サイン	縦動線	有無	壁	梁	柱	床	天井	屋根	縦動線	壁	梁	柱	床	天井	屋根	縦動線			
1960年代	1	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	○	○	×	○
	2	○	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×
1970年代	3	○	○	○	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×
	4	○	×	○	×	×	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×
	5	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	×
1990年代	6	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	×	×
	7	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	×	×
	8	○	○	○	×	×	×		×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	×	×
	9	○	○	○	×	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	○	×	○	○
2000年代	10	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	×	×
	11	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	×
	12	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
	13	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	○	×
	14	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	×
2010年代	15	○	○	×	×	×	○	×	×	×	○	○	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	×	○	×
	16	○	○	○	×	×	○	○	×	○	○	-	○	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○	○	-	○	○	×

表3 建物配置

複数棟		一棟
		
囲み ロの字、コの字、L 字型の配置のもの	並列 建物が横並びに配置 されているもの	中央 一棟で構成されてい るもの

囲み



ギラデリ・スクエア

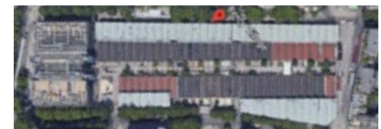


キャナリー

並列



ファヌイル・ホール・マーケット



ベルシー・ヴィラージュ

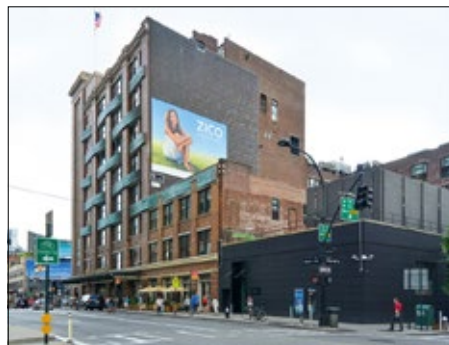


コールドロップスヤード

改修年代	No.	内部																					
		保存		変更				吹き抜け	るつぼの界限空間														
									有無	構成													
		壁	床	天井	壁	床	天井			縦動線	壁	梁	柱	床	天井	屋根	縦動線	壁	梁	柱	床	天井	屋根
1960 年代	1	○	○	○	×	×	×	○	○	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2	○	○	○	×	×	×	○	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	
1970 年代	4	○	○	○	○	×	×	○	○	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5	○	×	×	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	
1990 年代	6	○	○	○	×	×	○	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	×	×	×	○	×	○
	7	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×	×	
	8	○	×	×	×	○	○	○	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9	○	○	○	×	×	×	×	○	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2000 年代	10	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×
	11	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	12	○	○	○	○	○	○	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	13	○	○	○	○	○	×	×	○	○	-	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×	
	14	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	○	
2010 年代	15	○	×	×	×	○	○	○	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	16	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	

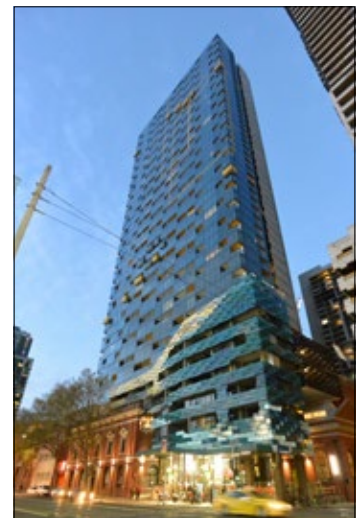
外部に対する操作では、すべての建物で外壁の保存が行われており、庇やサインの付加が主な操作であった。このような傾向がある中で、ニューヨークのチェルシーマーケットとメルボルンのアップパーウェストサイドは、既存外壁に積極的にファサードが付加されている点で特異であった。また、コールドロップスヤードでは、既存建築のもつ歴史性に対応しつつ、積極的に新規屋根のデザインが行われ、心地よい広場が計画された。

60年代にハルプリンが行ったように、必要に応じて敷地内の既存建築を解体し、新築するという計画は行われなくなり、「なるべくすべて残す」という国外の流れを確認することができた。



チェルシーマーケット

通常既存外壁は建設当時の様子を復元し、手を加えないことが多いがチェルシーマーケットでは、既存外壁に金属とガラスの庇に加え、曲線のパターンが付加された。



アップパーウェストサイド

国内でも多く見られる、既存建物の上部にガラスファサードの高層ビルを増築するスタイルであるが、既存建物と増築部の接続部分に印象的なファサードを付加することで、歩行者のレベルからも新旧の対比を意識することができる。



コールドロップスヤード

既存建築間の距離が大きすぎて互いに社会的な化学的関係を持つことができず、十分な賑わいと活力を生み出すことはできない。よって、古い建物をつなぐためにまったく別の新しい構造物を追加するのではなく、2つの屋根を折り曲げて縫い合わせ、その下に別のレベルのアクティビティを形成し、街のダイナミックな新しい公共スペースを作り、そしてそれによって天気によらず使用できるように計画された。

内部に対する操作では、既存壁を保存しつつ、床や天井を新設し、産業系建築などの既存建築の高い天井高を生かして吹き抜けを設ける事例を多く確認できた。



ファミイル・ホールマーケット



Q19 モール



リンゴット



ジャムファクトリー



フェリービル



アッパーウェストサイド

5-2 改修年代に関する考察

改修年代を見ると、90年代と2000年代に事例が多く、80年代には事例を確認できない。80年代はミッテラン仏大統領によってパリグランプロジェの構想が打ち立てられた。この構想では多くの歴史的建築物へ意識が向けられ、ルーブル美術館庭園内への増築計画や、70年代から問題であったオルセー駅の改修が始められた。この大きな流れにより、世界的に既存建築活用の意識が高まったが、その利用方向性は文化的公共施設へと強く向いたということを考察することができる。

また特徴的な事項としてコンバージョン事例の再整備を確認することができる。2000年代になると、70、90年代に改修された施設の再整備が行われている。再整備の際には、中庭の空間や都市とどのように繋がるかという意識を設計者の計画パースや言葉から確認することができた、これはハルプリンがギラデリ・スクエアで示したように商業施設を都市空間として計画することが再認識されていることを考察することができる。

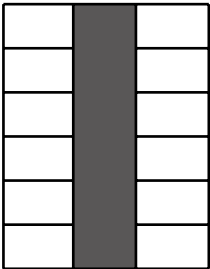
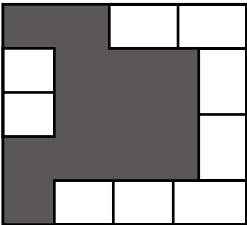
使用された語句にも年代ごとの傾向を確認することができた。

60年代に「開発や新旧の共存」という意識から既存建築の活用が始まり、「再活性化」という認識を経て、現在では「歴史的な価値を高める」という表現が多く見られるようになり、社会全体として既存建築に歴史的価値を見出す傾向が強くなっている。

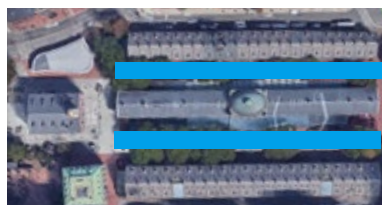
特徴	年代	No.	単語				
開発、 新旧の共存	1960	1	stay 残留、継続して残す	existing 現在あるもの	remove up 取り除く、解体	develop 開発する	-
		2	ambiguity 両義性	rationalized irrationality 不合理を合理化する	-	-	-
荒廃した場 所の活性化	1970	3	historic 歴史的な重要さ	restoration 歴史の認識回復	transformation 性質を変化させること	traditional 伝統的な	disrepair 破損、荒廃
			servicing 改修(修理、修繕)	historical regulations 歴史的規制	redevelopment 再開発	vacant 使われていない	enhancing 向上
		4	redevelopment 再開発	revitalization 再生、再活性化	restore 復興する	returning 転換、復帰	-
			change 変更	existing 現在あるもの	repoint 補修する	covering 被覆、覆うもの	-
増築や付加	1990	6	extension 増築	existing 現在あるもの	take into account time 時間を考慮する	authenticity 美的、歴史的価値に対する信憑性	-
		7	convert 転換する	revive 復活させる	transforming 変換	remain ある状態を保ち、残す	unaltered 変わらない
使用されな くなった建 物の再活性 化	2000	8	modify 修正、変更する	accommodate 適応させる	-	-	-
			landmark 歴史的な建物	relic 遺跡、残骸	rekindle よみがえらせる	rehabilitate 元の状態に戻す	renovation 修復、修理
		9	revitalization 再生、再活性化	historic 歴史的な重要さ	-	-	-
			復古 なつかしい	历史风情 歴史的なスタイル	-	-	-
		10	restore 復活させる	connect 接続する	historic 歴史的な重要さ	-	-
			rebuilding 再編	recycle 再生して利用する	demolish 解体する	reveal 隠れているものを外に公開する	install 取り付け
		11	monument 遺跡、記念のもの	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
		12	-	-	-	-	-
			-	-	-	-	-
歴史的価値 を高める	2010	13	originally 本来は	landmark 歴史的な建物	rejuvenation 活性化、再生、一新	reveal 隠れているものを外に公開する	existing 現在あるもの
			overlay 覆う、表面を飾る	transformation 性質を変化させること	heritage 歴史的遺産	-	-
		14	enhance 高める	history 歴史	-	-	-
			restore 修復する	transform 変換する	restoration 復元、修復	preserve 保存する	historic character 歴史的な特徴

5-3 「るつぼ的界隈空間」の類型に関する考察

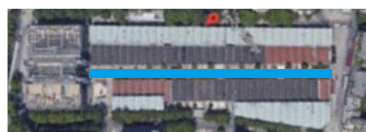
本論ではハルプリンの用語に習い、商業施設における公共空間として「The Beehive of Activity（活動のるつぼ）」となる広場のような空間を「るつぼ的界隈空間」と定義する。事例ごとに確認すると、内部または内部にそのような空間を確認することができた。「るつぼ的界隈空間」は「パーク型」「ストリート型」に分類することができ、日本の大型小売店舗が動線計画の変化と共に発展してきたことからわかるように、ストリートは大規模小売店舗に不可欠な要素である。

	
ストリート型	パーク型
左右に店舗が並び、道のように続く細長い平面	店舗に囲まれ、大きな広がりをもつ平面

ストリート型



ファヌイル・ホール・マーケット



ベルシー・ヴィラージュ

パーク×ストリート型



ギラデリ・スクエア



キャナリー



コールドロップスヤード

「るつぼ的界隈空間」に対して、ハルプリンのモーテーションによる空間の把握方法を用い、コンバージョン事例の考察を行った。



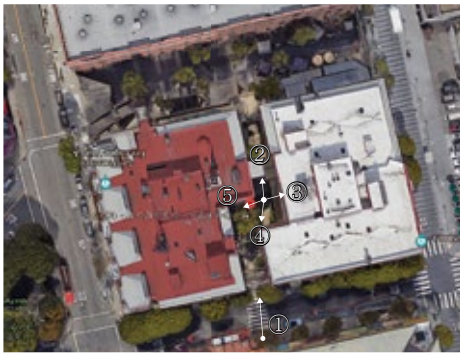
ガラデリ・スクエア






都市の街路に必要な諸要素が実現され、既存建築と新設部分の見え方が場面によって変化している。これを「活動のるつぼ」が実現された「るつぼ的界隈空間」みなし、他の事例を比較する。

既存													
	壁	梁	柱	床	天井	屋根	縦動線	ゲート	サイン	窓中	層低	層高	層

新設																			
	壁	梁柱		床	天井	屋根	縦動線	ゲート	サイン	窓中	層低	層高	層木	植栽	椅子	机	手すり	街灯	電気

凡例 (○: ハルプリンが示した都市の要素に必要な諸要素)

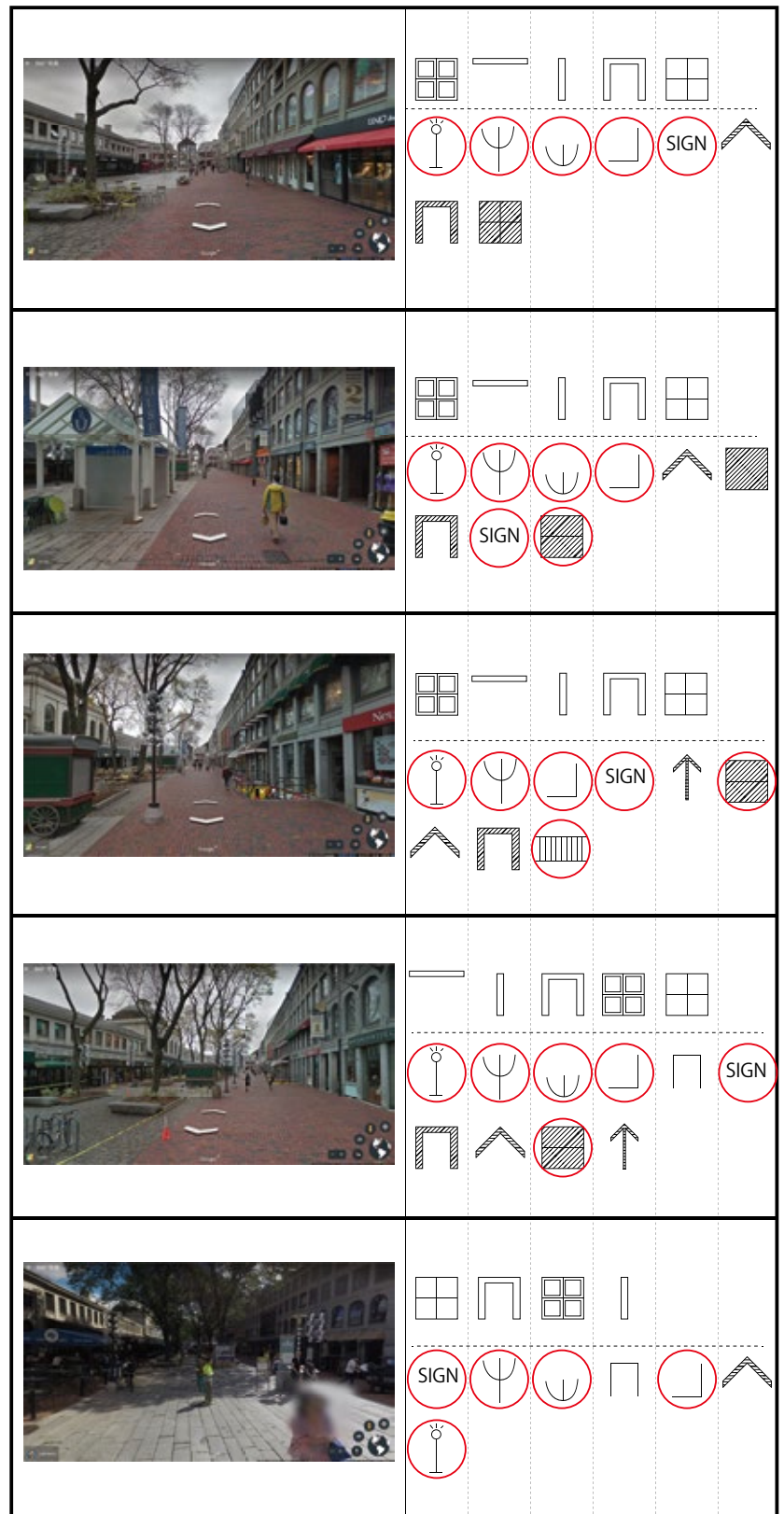


	<div> <div>□ ↑ ∟</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞</div> <div> <div>⊞ ⊞</div> </div> </div> </div>
	<div> <div>□ ↑ ∟</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞</div> </div> </div> </div>
	<div> <div>□ ⊞ ⊞ — ↑ ∟</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞</div> </div> </div> </div>
	<div> <div>□ — ↑ ∟ ⊞ ⊞</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞</div> </div> </div> </div>
	<div> <div>⊞ ⊞ □ ∟ ⊞ ⊞</div> <div> <div>⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞ ⊞</div> <div> <div>⊞ ⊞</div> </div> </div> </div>

キャナリー

「パーク×ストリート型」

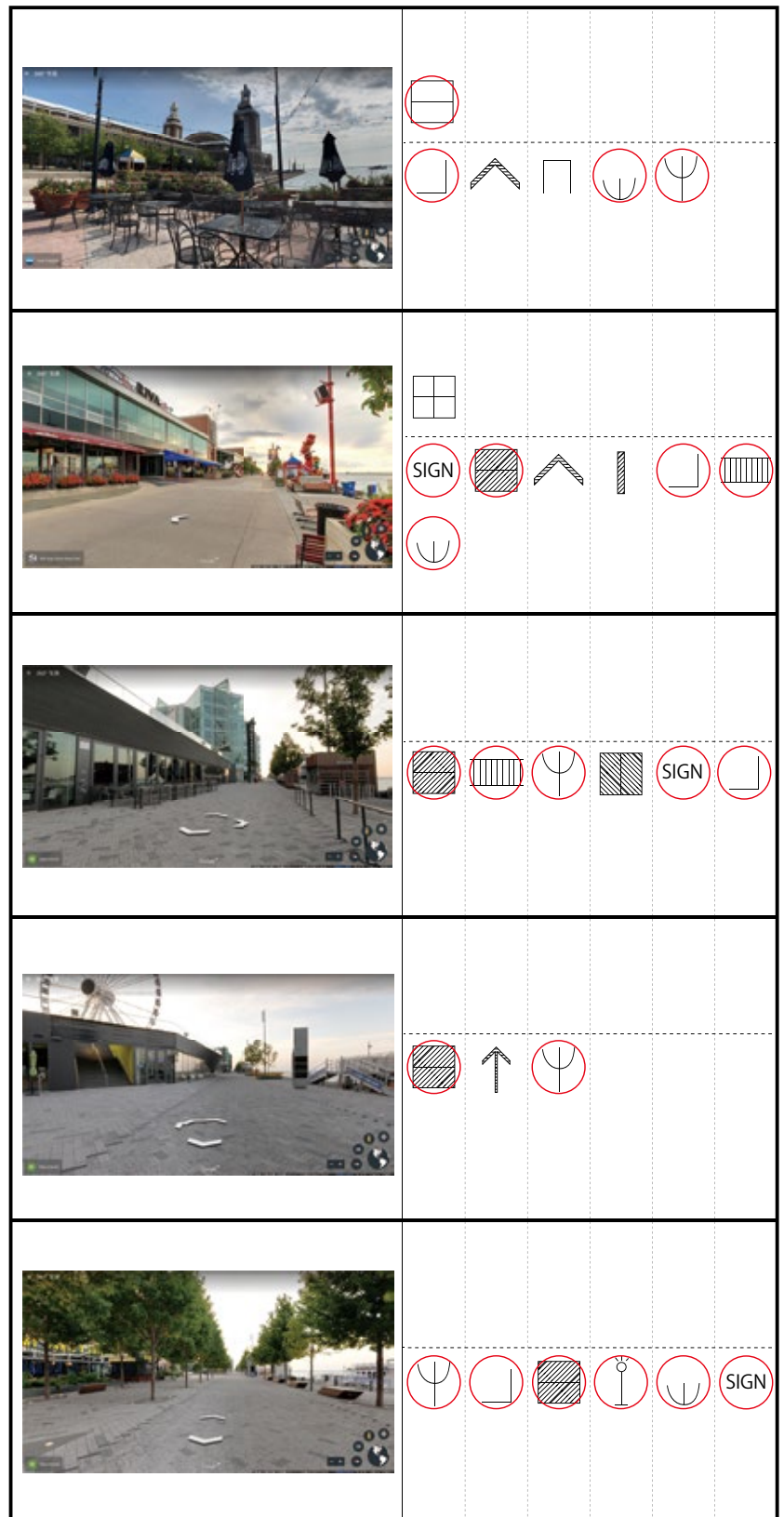
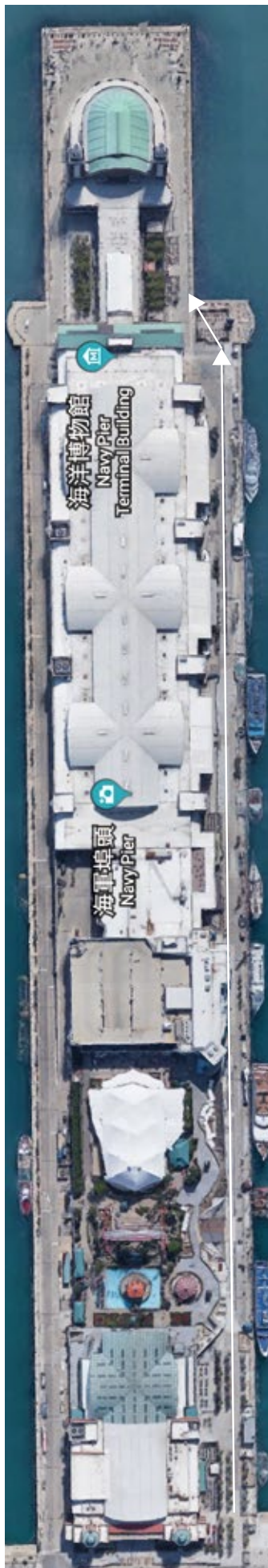
都市の街路に必要な諸要素が用いられ、既存建築と新設部分の見え方も場面によって変化している。「活動のるつぽ」を実現した「るつぽ的界限空間」であると言える。



ファヌイル・ホール・マーケット

「ストリート型」

既存建築の立面が長く続くが、都市の街路に必要な諸要素を変化させることで「活動のるつぽ」となる「るつぽ的界隈空間」を実現している。



ネイビーピア

「ストリート型」

既存建築をあまり感じさせない計画で、新築の大規模小売店舗の様子に近いが、都市の街路に必要な諸要素を用い、変化させている。「活動のるつぽ」となる「るつぽ的界限空間」はあまり実現されていない。

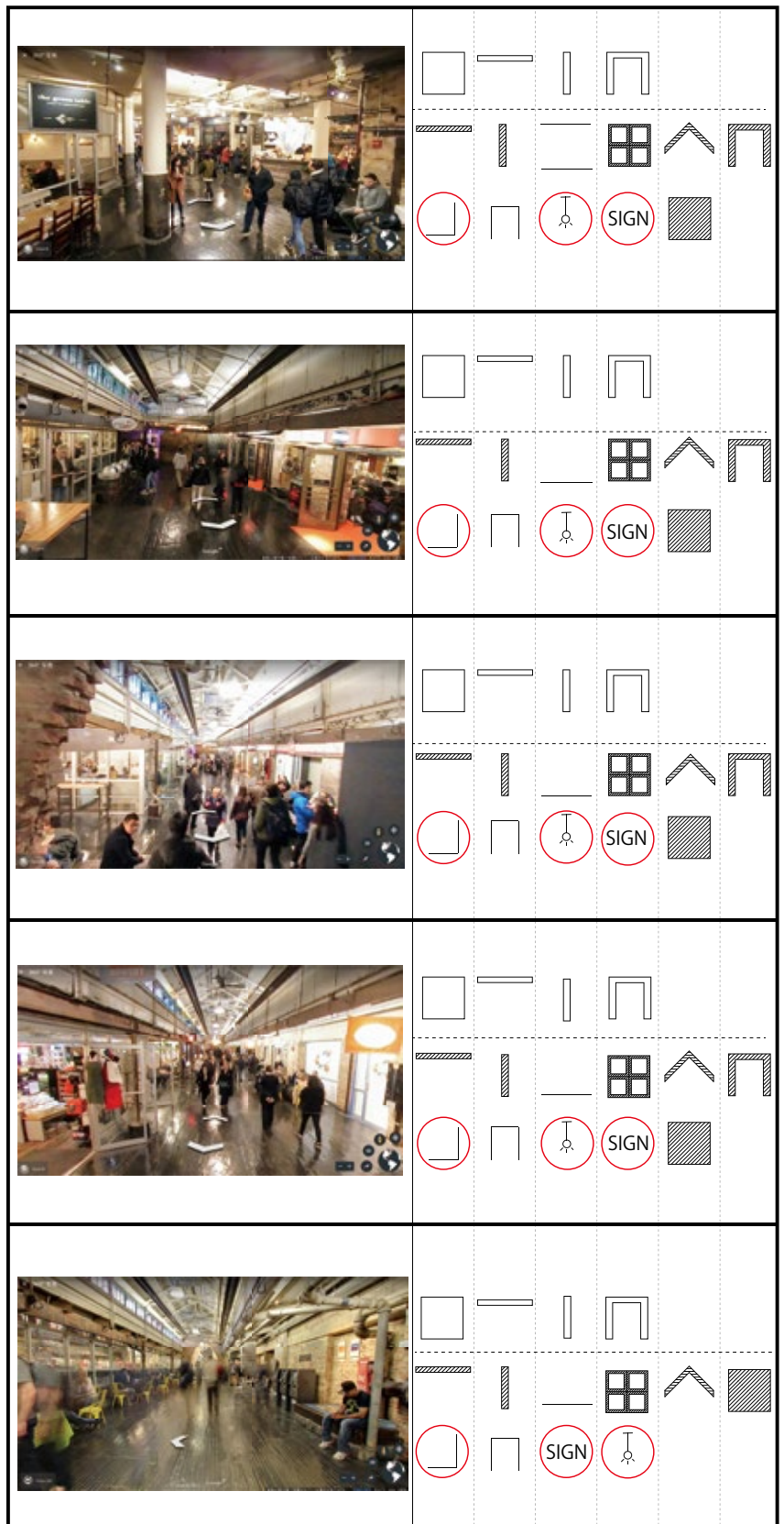


	<div> <div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div>
	<div> <div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div>
	<div> <div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div>
	<div> <div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div>
	<div> <div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div>
	<div> <div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div> <div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> <div></div> </div>

ロックスクエア

「パーク×ストリート型」

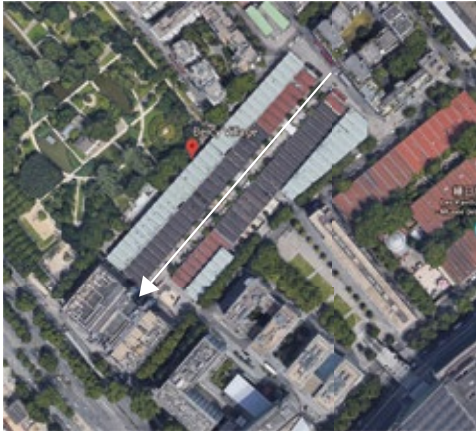
都市の街路に必要な諸要素が用いられ、既存建築と新設部分の見え方も場面によって変化している。「活動のるつぽ」を実現した「るつぽ的界限空間」であると言える。



チエルシーマーケット

「ストリート型」

既存建築の立面が長く続くが、都市の街路に必要な諸要素を変化させることで「活動のるつぽ」となる「るつぽ的界隈空間」を実現している。



ベルシーヴィラージュ

「ストリート型」

既存建築の立面が長く続くが、都市の街路に必要な諸要素を変化させることで「活動のるつぽ」となる「るつぽ的界隈空間」を実現している。















	—		┐	田	
	↑	┐	—		田
	—		┐	田	
	↑	┐	—	田	┐
	□	—		┐	田
	田	┐	↑	┐	┐
	SIGN	田	田	田	田
	—		┐	田	□
	田	┐	↑	┐	田
	SIGN	田	田	田	田

コールドロップスヤード1階

「パーク×ストリート型」

都市の街路に必要な諸要素の用いられ方は少ないが、既存建築と新設部分の見え方が場面によって変化している。「活動のるつぽ」を実現した「るつぽ的界限空間」とであると言える。

横浜赤レンガ倉庫

「パーク型」

都市の街路に必要な諸要素は用いられず、既存建築と新設部分の見え方の場面変化もない。「活動のるつぼ」となる「るつぼ的界隈空間」は実現されていない。

アリオ橋本

「ストリート型」

都市の街路に必要な諸要素は少数用いられているが、場面による変化は意識されていない。「活動のるつぼ」となる「るつぼ的界限空間」が実現されているとは言い難い。

ららぽーと立川

「ストリート型」

都市の街路に必要な諸要素は少数用いられているが、場面による変化は意識されていない。「活動のるつぽ」となる「るつぽ的界限空間」が実現されているとは言い難い。

ギラデリ・スクエアでは、「都市の街路に必要と定義された諸要素」と「既存・新設部分の割合」が場面ごとに变化しており、それぞれの素材が、相互作用を起こすことで多様性を持ち使用の選択の自由を許すような都市的街路空間が計画されている。

ギラデリ・スクエアは平面構成より「パーク×ストリート型」に分類されるが、同じ類型は4事例確認することができた。

既存建築の立面が長く続く「ストリート型」は「パーク×ストリート型」に比べると場面ごとの変化は乏しくなるが、都市の諸要素や新設の要素を変化させることで、「るつぼ的界限空間」に重層性や多様性をもたらすことが明らかとなった。

「活動のるつぼ」としての機能が実現された「るつぼ的界限空間」の代表例をギラデリ・スクエアとして、国内の代表的なコンバージョン事例の一つである横浜赤レンガ倉庫を比較すると、赤レンガ倉庫は場面ごとの変化が乏しく、「活動のるつぼ」としての機能は不十分であると考えることができる。

また、国内の新築の大規模小売店舗をみると動線計画が複雑に変化してきたことを3章で明らかにしたが、立面の様子だけでは場面に変化をもたらすことはできず、「都市の街路に必要な諸要素」を変化させることが「活動のるつぼ」を実現する手段として重要であることが分かる。また、新築の大型小売店舗では、都市の諸要素は用いられているが、既存建築の要素がないため重層的な空間の構成ではない。以上のことから「活動のるつぼ」としての機能は不十分であると考えることができる。

また、これらのことから、「活動のるつぼ」となる「るつぼ的界限空間」を成立させるためには都市の諸要素の変化が必要であること、既存建築と新設部分の掛け合いによって創造的な場を計画することが有用であるということが考察できる。

以上のことから、「活動のるつぼ」を実現するための手段として商業施設をコンバージョンによって計画するとは有用であることが明らかである。

国外コンバージョン事例の詳細

事例記号

SHA-02

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 13:18:37

1933老場坊

都市名 上海

建築年 1933 前用途 食肉処理場

設計者 Balfours

改修年 2009 後用途 商業施設

設計者 Architects Design Partnership



1933年にイギリスの建築家によって建てられたこの建物は、元々は牛の屠殺場として使用されていた。1933年、工部局の出資で、イギリスの有名建築家Balfoursによって建てられた鉄筋コンクリート建築。史料によると、この食肉解体場は建物と設備だけで白銀330万余元を費やしたという。使用されたのはイギリスから輸入されたコンクリートで、壁の厚さは約50cm。2階の壁は中空形式を採用しており、つねに低い温度が保てるように設計されている。1970年代から2002年にかけて交互に冷蔵施設や薬品工場として使用され、次第に用途が不明瞭になっていた。2008年に、Axon Conceptsは建物を忘却から救済するため、約1億人民元（約1,500万米ドル）をかけてスペースの改装と刷新を行った。それが2009年に実行され、現在のように何件かのショップやレストランが入る商業施設となった。名前にある「1933」は、元々の屠殺場が建てられた年。その独特の空間使いが、まるで迷路にはまり込んでしまった感覚を覚える不思議な場所である。

口の字型平面の中央に吹き抜けがあり、さらにその中央に塔が建っている。吹き抜けには塔に向かってブリッジが幾つも架けられ、傾斜が急でねじれた既存の階段も多数架けられている。ブリッジは、あるエリアから別のエリアへの牛のスピードと流れを制御するために幅が交互になっている。階段は、動物が暴走した場合に労働者を保護することが考えられていた。

三層吹き抜けの上部にはイベントホールが配置されている。ホールの床には強化ガラスが用いられている。

敷地内には複数の建物があり、すべてコンバージョンされている。

既存建築を利用したことを表現する単語

規模	31700	立地	西江港路500号	発注者	Axon Concepts	駐車数	-	店舗数	20				
階数	5階	吹抜け	あり	通り空間	あり	分類	closed	元構造	コンクリート造				
配置	中央	広場	多数のスロープ	水場	なし	後構造	コンクリート造、鉄骨造	ステップ	あり				
類型	一棟	植栽	なし	斜路	あり	1970年から2002年まで用途が点々と変更され、建物の存在感が薄くなってしまっていたことを危惧したAxon Conceptsが開発を行った。							
外観	保存している。 アートの装飾を付加している部分もある。												
内部	保存し、手すりや建具を新設している。												

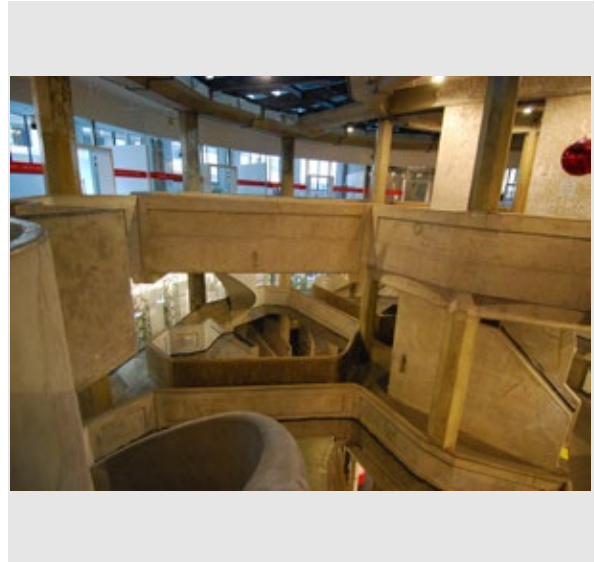
事例記号

SHA-02

首都大学東京 小林研究室



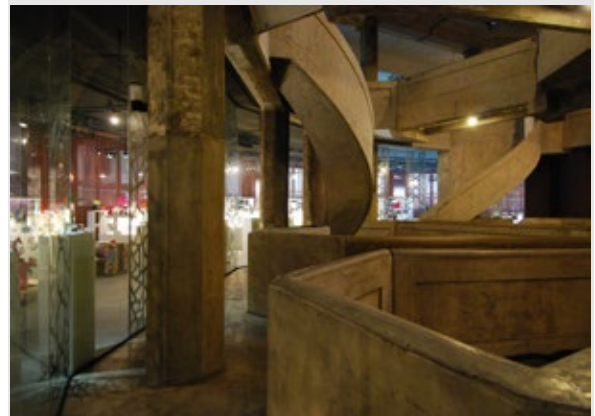
一号棟の中央吹き抜け空間



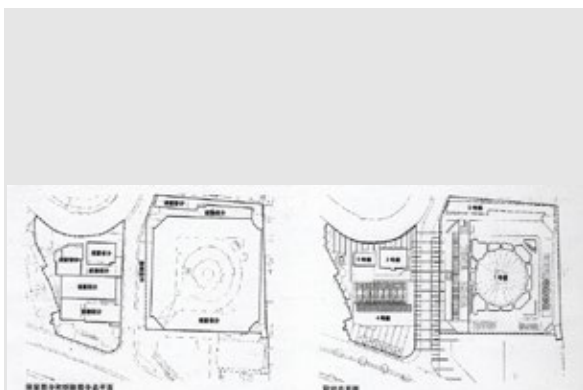
建物内部の通路



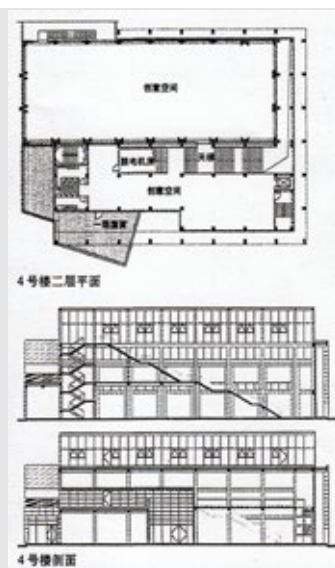
店舗は吹き抜けの空間からガラスで仕切られている。



傾斜が急でねじれた階段と店舗の様子



新旧配置図



4号棟平面図と断面図



10 工人像雕塑作品一样在建筑内部形成柱上的墙体

11 由伞形柱构成的空间

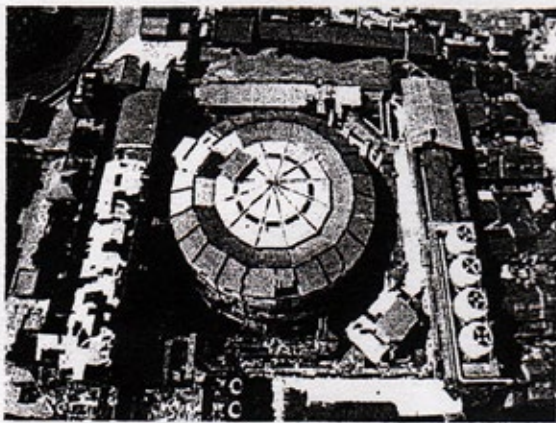
改修前の様子（1号棟）



8 加建の隔墙均被拆除

9 拆除加建的墙体后，露出的楼梯

改修前の様子（1号棟）



3 改造前空中俯瞰全貌

改修前の空撮



2 2006年改造前の原状

改修前の様子

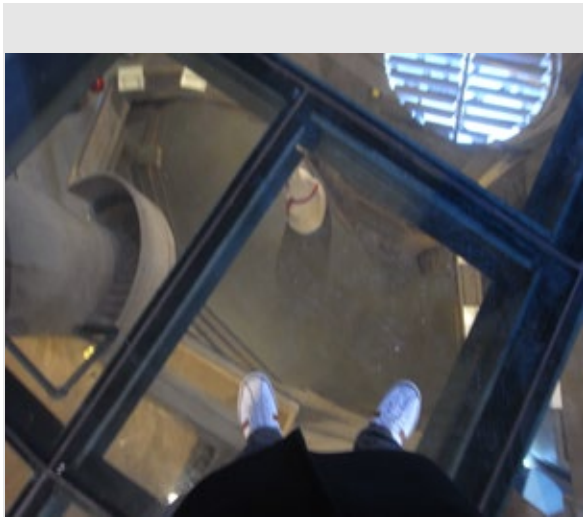


1 1937年の照片

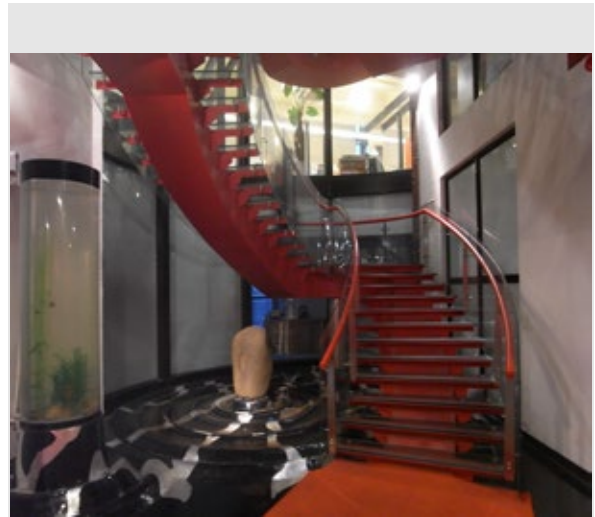
1939年の1号棟の様子



1号棟最上階のイベントホールは床がガラスで一階まで見通することができる



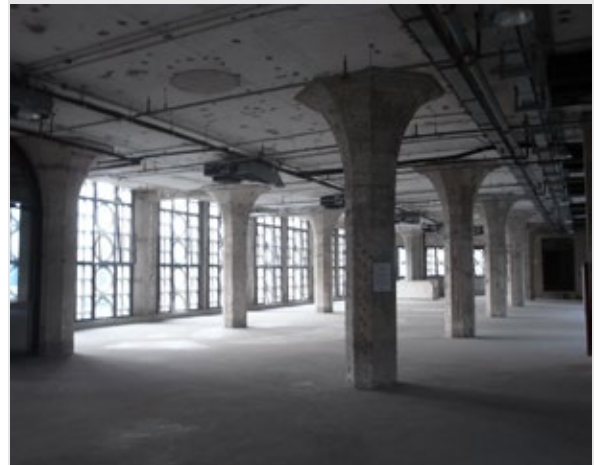
ガラスの床から下をみる



新たに挿入された階段



サインと露出された設備、補強の鉄骨、新設された階段



一号棟ファサードの裏側



事例記号

SHA-01

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 12:48:47

たごぼう/でんしぼう

都市名 上海

建築年 1930 前用途 集合住宅地区内に工場を建設

設計者 -

改修年 2004 後用途 商業施設

設計者 黄浦区田子坊管理辦公室（管理）



田子坊地区は、上海市南北高架道路および徐家匯路西側にあり、泰康の北側、瑞金二路の東側、建国中路の南側に位置する。地区の東側はかつての工場地区（現：田子坊創意産業園区）があり、西側は1930年代に建設された里弄建築からなる住宅地区である。工場地区では、1997年から実施された上海都市産業改革により、収益の低下が生じて工場の操業停止が徐々に進んだ。一方、地区南側の泰康路には野菜や魚などを販売する露店市場があったが、1988年の同市場の泰康路220弄内建物への移転とともに道路が再整備され、中国共産党盧湾区委員会や盧湾区政府によって、泰康路を特色のある街並みに整備することが決められた。その後、工場地区には区政府により事業誘致が進められ、1998年12月に初めて芸術関係の会社が入居し、これをきっかけに1999年9月以降、芸術家などがぞくぞくと工場地区へ入居するようになった。

ところが、区政府は2002年に田子坊地区の開発を台湾資本の民間開発業者に許可し、その開発業者は里弄建築地区を高級住宅地区に建て替える計画を作成し、区政府も2004年に田子坊地区の泰康路210弄周辺の取り壊しを公表した。これに対し、工場地区に入居していた画家や芸術家が、大学の専門家の助言を得ながら、一部の住民とともに田子坊地区の再開発による建て替えを防ぐための保全案を政府に提案した。これにより、区政府が芸術による田子坊地区の発展を模索しようと開発計画を見直したため、田子坊地区の工場地区には多くの芸術家や創意産業に関連する事業所がぞくぞくと入居した。

田子坊投資コンサルタント有限公司（泰康路芸術管理委員会）、田子坊管理委員会の二つが存在していたが現在は黄浦区田子坊管理辦公室が管理している

既存建築を利用したことを表現する単語

复古/历史风情

規模	20000㎡	立地	上海市南北高架路及び徐家	発注者	黄浦区田子坊管理辦公室が管理	駐車数	-	店舗数	-
階数	3～5階	吹抜け	なし	通り空間	あり				
配置	地区的	広場	不明（ありそう）	分類	notenclosed				
類型	複数棟	水場	なし	元構造	レンガ造、木造				
外観	外壁の色や材質を変更しないように指導	植栽	あり	後構造	レンガ造、木造、鉄骨造				
		斜路	なし	ステップ	なし				
内部	状況に応じて物業管理処に従い施工	2004年までは創意産業関連の事業所は全て工場地区の旧工場や旧倉庫に入居していた。同年11月に、工場地区に隣接する泰康路210弄西側で一人の住民が居住していた里弄建築を創意産業関連の事業所へ貸したことが、田子坊の商業空間としての始まり。2005年には泰康路210弄の東西に位置する工場地区が第一次創意産業園区へと認定されたことで、地区の知名度が高まり、西側の里弄建築地区で商業転用が拡大した。							

事例記号 SHA-01

首都大学東京 小林研究室



工場地区の建物がそのまま残されている。必要に応じてサインや庇が付けられている。



工場地区の建物がそのまま残されている。必要に応じてサインや庇が付けられている。



歴史的な通りが建物が残され、外観への付加は最少限にする統制がされているが、電線は縦横無人に伸ばされ、室外機は露出している。



エントランス部分が改修されている店舗



店舗内は自由に改修することができ、レンガ壁が白く塗装されている。

事例記号

AUS-03

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 12:24:45

Q19モール

都市名 ウィーン

建築年 1909 前用途 工場（製紙）

設計者 Philipp Jakob Manz

改修年 2005 後用途 ショッピングセンター、スポーツセンター、オフィス

設計者 Peter Lorenz



ウィーン市の中で最大級のショッピングセンターの一つは、全長約1 kmに及ぶ表現主義建築の代表作カール・マルクス・ホーフの北端に位置する製紙工場をコンバージョンすることによって誕生した。

既存建物はウィーンで最初の鉄筋コンクリート建物の1つで、1909年にヴェルテンベルクの工業建築家Philipp Jakob Manzによって建設された。2001年のPamPamチェーンの買収により、歴史的な工場の建物はSPAR Austria Groupの所有物となった。

Q19モールはこのショッピングセンターを中心とした複合施設で、旧棟にはない機能を大胆な増築棟が補う形で構成された。古い建物では340の窓が交換され、石膏のファサードは広範囲に修復された。

地上4階建の旧棟を売り場やスポーツセンター、オフィス、飲食店などの様々な用途に容易に転用できたのは、旧棟が工場棟であるため、構造体が堅牢で内部空間が広く、天井高に余裕があったからである。旧棟は4階建てで、ほぼすべての階が売場、スポーツセンター、オフィス、飲食店などの用途にコンバージョンされている。壁・床はそれぞれの用途に合わせて改修が施されている場合が多く、天井は構造体や設備配管を露出している。一方新棟は三角形のガラス屋根によるアトリウムを間に挟みつつ、旧棟の長手側全面にべったりと寄り添うような形で増築されたもので、地下2階、地上2階建の売り場の上に4階建の駐車場が載っている。

旧棟は、単調で長大な正面を三分割するために設けられた突出部とその上に設けられた二つの破風、スカイラインを切り取るコーニス、付け柱の片鱗などに特徴のあるモダン・クラシックの建築であるのに対して、新棟には大きなガラス面、鉄骨を利用した立面、鉄骨造による大型の架構、駐車場の斜路による局面や円形窓、水平方向に連続する大型の日除けなど、現代建築の要素が満載で、全く異なる2棟が対をなしている。

旧棟のみでは建築の運用が困難な場合、不足した機能や用途を新棟が柔軟に補填・付加する、Q19モールはこうした手法によって中核施設として蘇った好例である。(世界のコンバージョン建築Ⅱ、報告書AA-64)

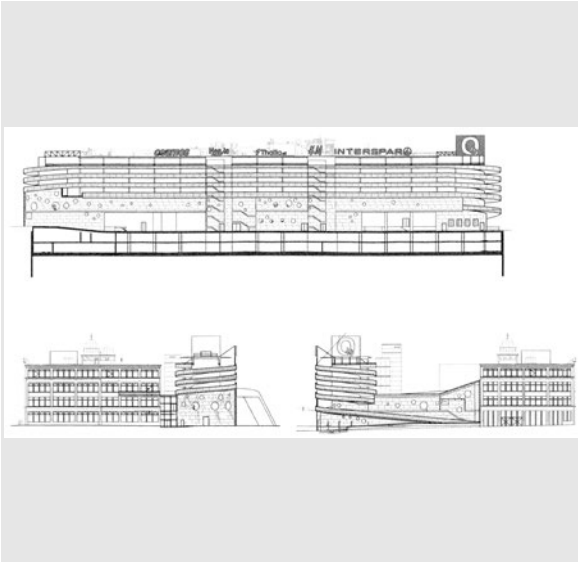
既存建築を利用したことを表現する単語

restore/connect/historic factory

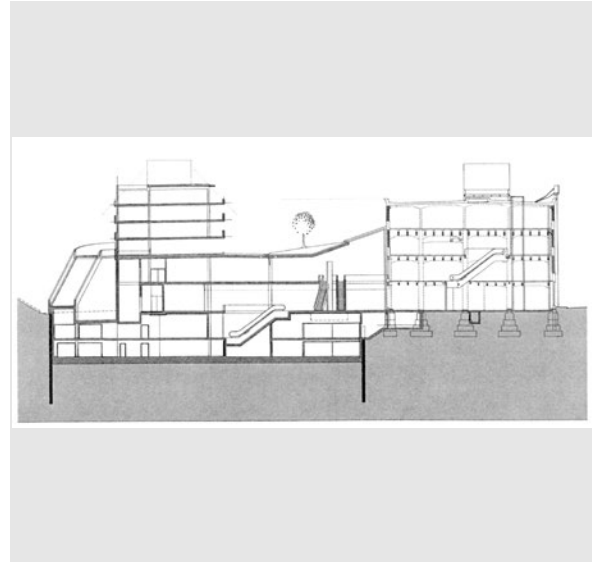
規模	15000㎡	立地	ドナウ川、駅の側	発注者	SES Spar European	駐車数	680	店舗数	40
階数	地上4階建（旧棟）、地下2階地上2階＋4階建駐車場（新）			吹抜け	あり（新旧をつなぐアト	通り空間	あり		
配置	中央			広場	アトリウムのブリッジ	分類	closed		
類型	一棟、増築			水場	なし	元構造	コンクリート造		
外観	新棟が旧棟の長手側全面にべったりと寄り添うような形で増築された。既存建築がモダン・クラシックであるのに対して、新棟は大きなガラス面、鉄骨を利用した立面、鉄骨造による大型の架構、駐車場の斜路による局面や円形窓、水平方向に連続する大型の日除けなど、現代建築の要素使用されている。			植栽	なし	後構造	コンクリート造、鉄骨造		
				斜路	駐車場	ステップ			
内部	構造体に追加された設備機器を取り付けて露出している。			SPAR Austria group が建物を買収し開発					

事例記号 AUS-03

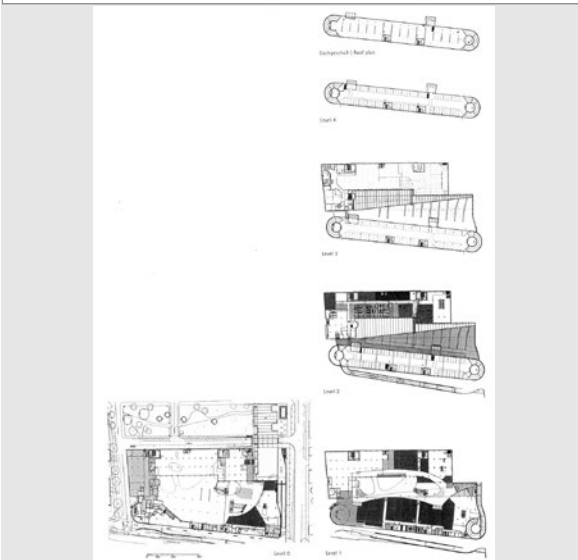
首都大学東京 小林研究室



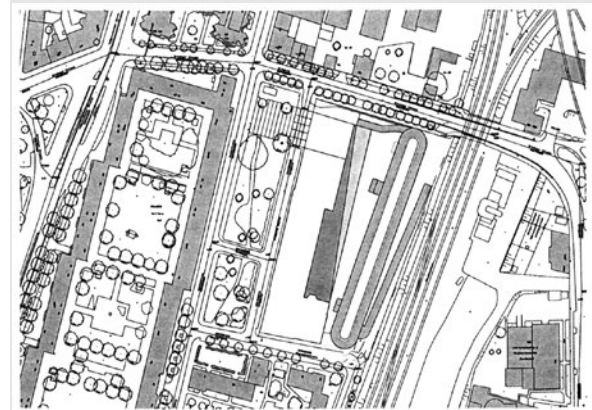
立面図 スロープが付いている棟が増築した駐車場、中央がアトリウム。



断面図 右の旧工場等と増築棟でアトリウムを挟んでいる。



平面図 下が増築棟で上が旧工場棟である。既存の建物に対して新築等を敷地外形に沿って斜めに配置することで、アトリウムに広がり感を持たせている。



配置図



外観(1) 正面から見た。右が旧工場棟で、左が増築棟。



外観(2) 新旧で外観が全く異なっている。



内観① 新築棟側から既存建築の元外装を見ることができる。広々とした通路にはソファが置かれている部分もあるが、持て余している。



内観② 中央に設けられたアトリウムの様子。旧棟と新築棟を連結している部分が売り場になっている。上部にかけられたブリッジが空間にメリハリをもたらしている。屋根はガラス張りで新設された。



内観③ 旧工場棟に設けられた売り場の様子。構造体に設備機器が取り付けられ、露出している。

事例記号 USA-01

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 22:09:55

ギラデリ・スクエア

都市名 サンフランシスコ

建築年 1893 前用途 工場 (チョコレート)

設計者

改修年 1964 後用途 ショッピングセンター

設計者 Lawrence Halprin



チョコレート工場をショッピングセンターに転用した事例。

1893年にドミンゴ・ギラデリはギラデリ・チョコレート工場を現在のギラデリ・スクエアのある場所に建設した。

1960年に工場が移転することになり、この跡地が売りに出された。

この跡地にアパートが作られることを懸念したウィリアム・ロスがこの土地を購入し、ローレンス・ハルプリン、ウースター・バーナルディ・エモンズに建物を保存しつつ利用する方法を見つける頃を依頼した。敷地のイメージは保存され、インテリアは使用しやすいように修正された。

1965年には大時計のある建物の一部をベンジャミン・トンプソンがリノベーションした。

1970年に近所にあるキャナリーとともにアメリカ建築家協会賞を受賞。

1982年には国指定の歴史遺産に指定された。

既存建築を利用したことを表現する単語 stay/existing/remove/develop

規模	16722㎡	立地	海に面した立地	発注者	ウィリアム・ロス	駐車数	-	店舗数	100
階数	1～5階	吹抜け	不明	通り空間	あり				
配置	囲み	広場	噴水広場、階段状の広場	分類	not enclosed				
類型	複数棟 (群保存)	水場	噴水	元構造	レンガ造				
外観	煉瓦造の外壁の一部保存 時計塔、メインの工場がそのまま保存、ビーチSTの建物は壊し新築された。	植栽	あり	後構造	レンガ造、鉄骨造				
		斜路	あり	ステップ	あり				
内部	一部は保存されているが、現代の使い勝手に合わせて変更されている。	1960年に工場が移転することになり、この跡地が売りに出された。この跡地にアパートが作られることを懸念したウィリアム・ロスがこの土地を購入し、ローレンス・ハルプリン、ウースター・バーナルディ・エモンズに建物を保存しつつ利用する方法を見つける頃を依頼した。							

事例記号

USA-01

首都大学東京 小林研究室



噴水のある中庭の様子 噴水の縁に腰掛けることができる。
屋外家具と植栽が充実している。



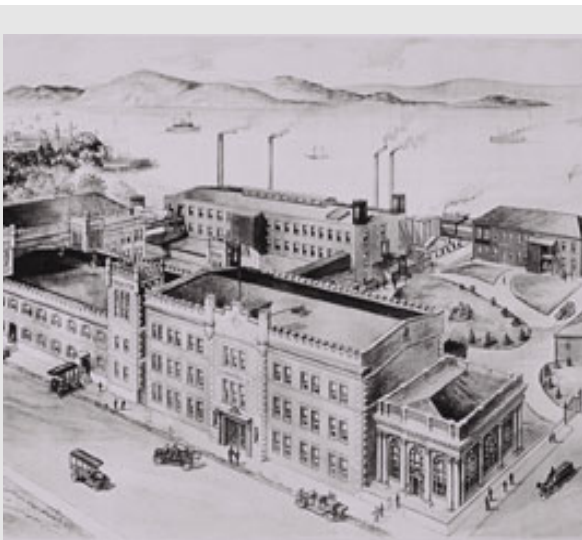
噴水とBTAIによって新設された階段。噴水のあるレベルへは階段を下がる必要がある。
既存建同士が外廊下で繋がれている。



噴水広場 人が溜まる



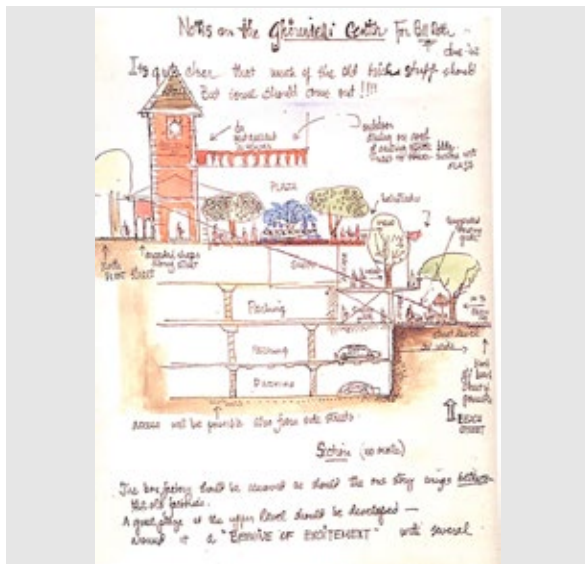
既存のサイン 既存の位置からずらして、より印象に残るように工夫された。



工場が稼働してる当時のスケッチ



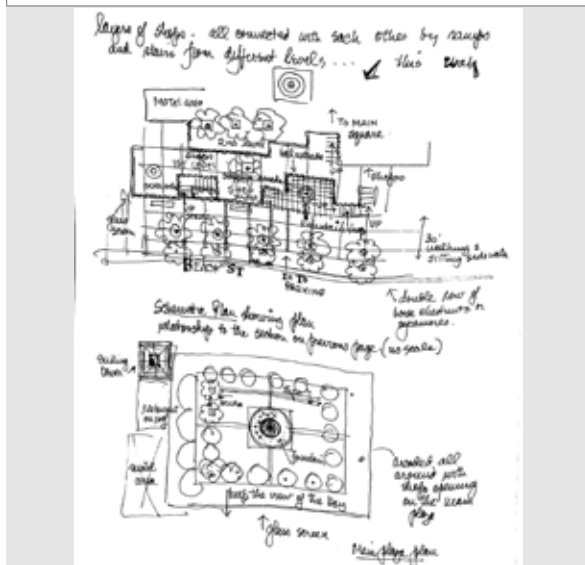
配置図



ローレンス・ハルプリンによるスケッチ



西側平面図



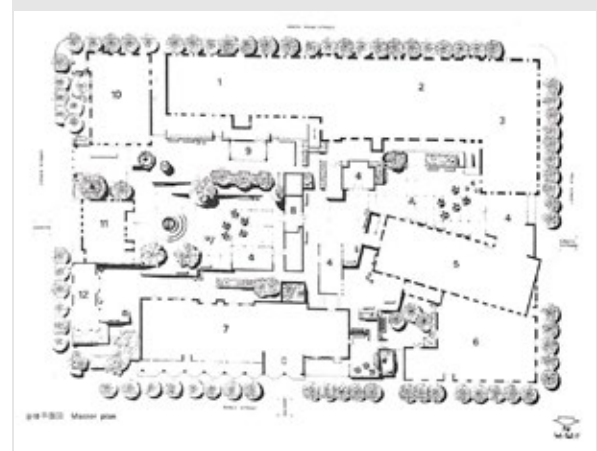
ローレンス・ハルプリンによるスケッチ



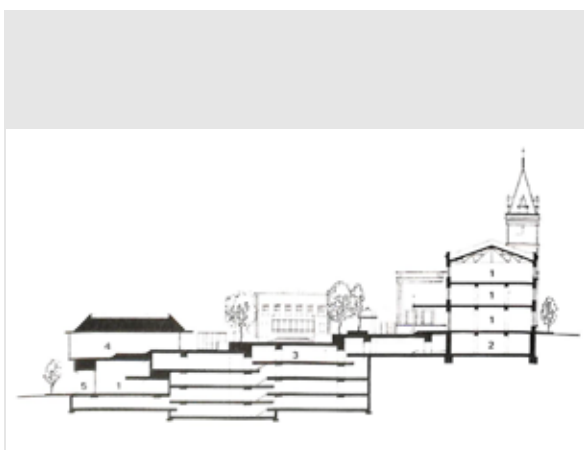
ギラデリスクエアの周り方



ローレンス・ハルプリンによるスケッチ



全体平面図



断面図



<https://www.flickr.com/photos/the-o/1054979576/in/set-72157601534095402>

事例記号 USA-03

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 14:01:42

ファニエル・ホール・マーケット

都市名 ボストン

建築年 1742 前用途 集会場

設計者 ジョン・スマイバート、チャールズ・バルフィンチ

改修年 1976 後用途 商業施設

設計者 ベンジャミン・トンプソン



歴史的建造物で集会場であったファニエル・ホールと市場であったクインシー・マーケット、その南北にあるノース・マーケット、サウス・マーケットで構成され、それらを「ファニエルホールマーケットプレイス」とした。

1950年代にボストンでは市当局が大規模な都市再開発計画を打ち出し、ダウントウンの地区の建物の一部を更新すると共に、歴史ある建物については保存再生して活用し、倉庫の立ち並ぶウォーターフロント地区を公園として整備する計画が1960年代から実行された。I・M・ペイによるアーバンデザインにより再開発が進み、新しい建物が次々に建設されたが歴史ある建物が立ち並ぶ地区の利用の仕方は定まっていなかった。この地区には、1742年に創建されたが1761年に火災で焼け落ち、1763年に再建され、1850年に増築されたという経緯をもつ、ファニエル・ホールのほか、クインシー・マーケット、ノース・マーケットやサウス・マーケットが建てられていた。ボストンでadaptive reuseに興味を持ち活動していたベンジャミン・トンプソンは、その頃ダウントウンの衰退を招いた郊外型ショッピング・センターの開発によって発展していたディベロッパーのラウス・カンパニーのジェームス・ラウスに呼びかけ、この場所を共に訪れた。その際には、この場所の治安の悪化により、別のディベロッパーによる再開発の計画が放棄されていた。1964年からボストン市は郊外に向かってしまった消費者を都心に戻す事業を模索していた。ディベロッパーがラウス・カンパニーに変更され、この場所がショッピングセンターとなる計画が1973年に公表された。

クインシー・マーケットは1976年に開業し、食料品中心の店舗で構成されている。サウス・マーケットは1977年に開業しファッション関係の店が入り、翌年の1978年にはレストランやファッション関係の店舗に加え、画廊などが入るノース・マーケットが開業した。サウス・マーケットとノースマーケットの3階以上は賃貸オフィスである。

トンプソンのアプローチは、複合体をある特定の時期に還元するのではなく、長年にわたり複合体の進化に貢献してきたさまざまなスタイル - ギリシャ復活、連邦、ビクトリア朝 - を尊重し、現代のものとを区別することであった。また、アメリカの都市が枯渇していた当時、トンプソンのビジョンは「都市生活の価値を再主張し、都市の質、活力、美しさを人間の規模で維持する」ことであった。この計画により、「通りの活性化は、ついに良い建築がすることの語彙に受け入れられた」とトンプソンのパートナーであったJane Thompsonは述べている。

ここを開発したラウス・カンパニーは、その後ニューヨークのサウスストリート・シーポートやボルチモアのハーバープレイスなど多くを成功させ、世界的ウォーターフロント再開発ブームが起こる。

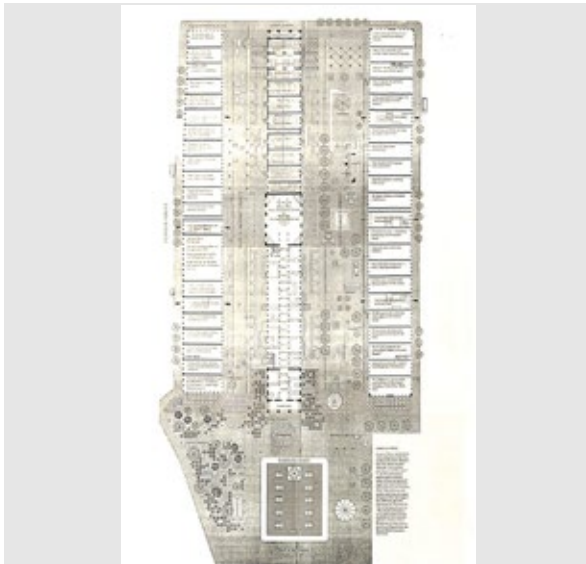
既存建築を利用したことを表現する単語

historic/restoration/transformation/traditional/vacant/disrepair/enhancing/servicing/historical regulations/redevelopment

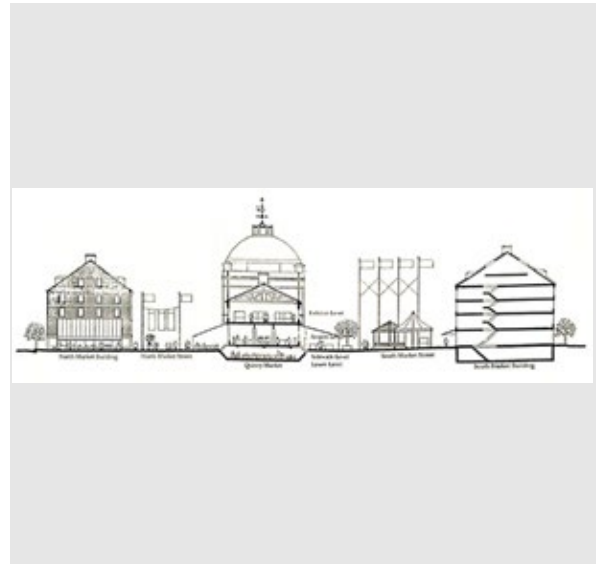
規模	33445㎡	立地	ウォーターフロント	発注者	ラウス・カンパニー	駐車数	-	店舗数	160
階数	3～5階			吹抜け	あり	通り空間	community		
配置	並列			広場	あり	分類	enclosed		
類型	複数棟（群保存）			水場	なし	元構造	レンガ壁、鉄骨造		
外観	保存			植栽	あり	後構造	レンガ壁、鉄骨造		
				斜路	なし	ステップ	なし		
内部	新規の床を挿入し、吹き抜けを作った。			100エーカー計画」の中核をなすものであり、18～19世紀に建てられたファニエルホールとクインシーマーケット、ノースマーケット、サウスマーケットの御影石や煉瓦造りの4棟の建物を改修し再開発した。この再開発計画は、1964年に歴史家を加えた、BRA（ボストン再開発公社）のグループによって策定され、					

事例記号 USA-03

首都大学東京 小林研究室



全体平面図



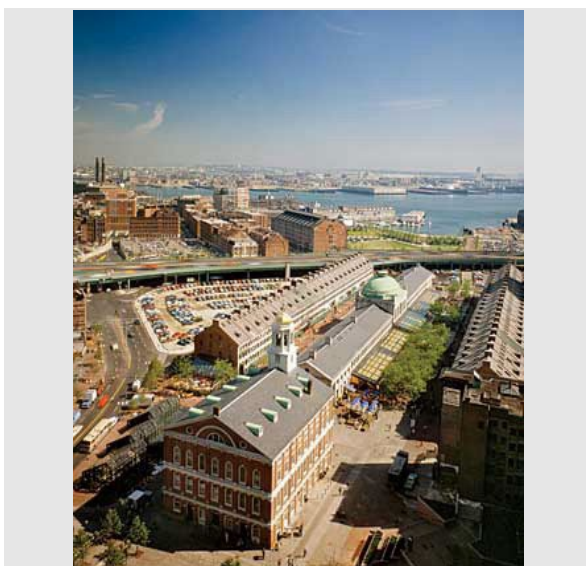
断面図 左がノース・マーケット、右がサウス・マーケット



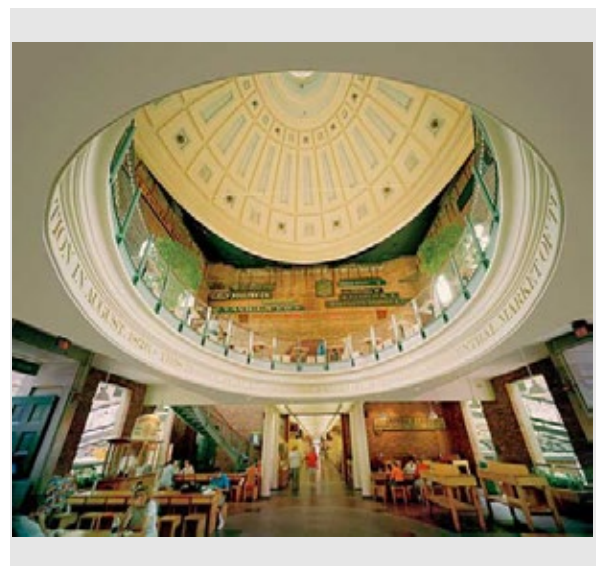
ファヌイル・ホール前の広場



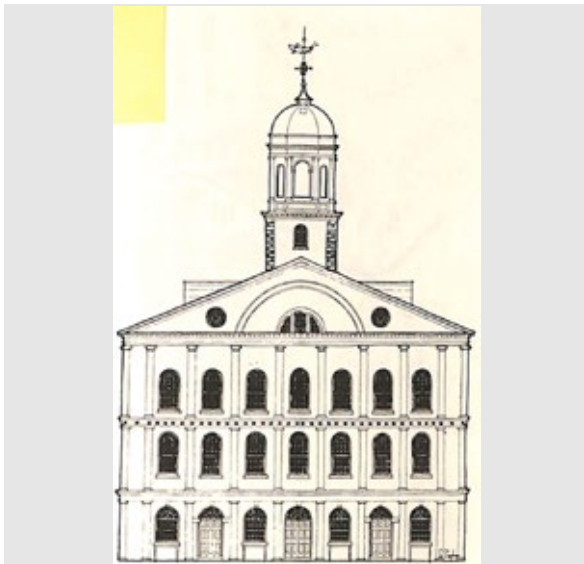
既存建築に対して付加された空間は外部のようであり、ワゴンを利用した販売形態が採用されている。植栽や家具も充実している。



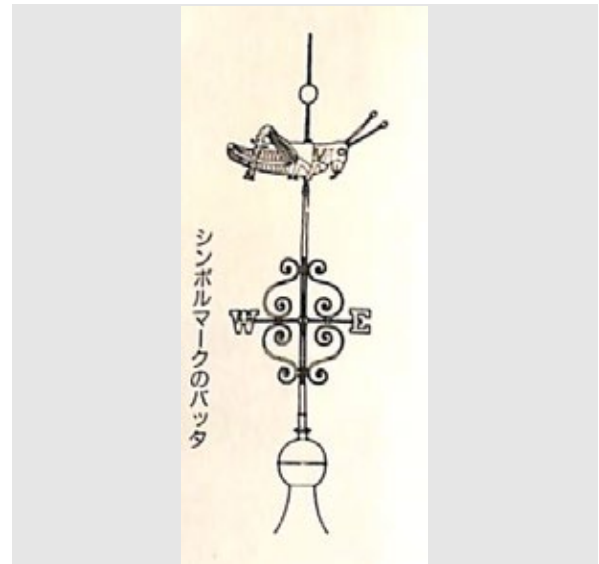
マーケット全景



床が新設され、吹き抜けが作られた。



ファスイル・ホール立面図



シンボルマークのバッタの図

事例記号 USA-02

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/29 0:02:15

キャナリー

都市名 サンフランシスコ

建築年 1893 前用途 紙工場

設計者 -

改修年 1965 後用途 商業施設

設計者 Joseph Esherick



1907年に建設されたデルモンテのピーチ缶工場をショッピングセンターに転用した事例である。

1937年に不況のため閉鎖され、その後は倉庫などとして利用されていた。1963年に建物を取り壊し構想マンション化する計画があることを知った弁護士のレナード・マーティンがこれを惜しんで買収し、エシェリックに設計を依頼した。エシェリックはマーティンの家を建てたことで親交があった、またエシェリックはハルプリンの事務所に在籍していた。

約50店のショップとレストランが集まっており、特に地元デザイナーによるアクセサリーや民芸品が充実している。中庭ではライブ演奏が行われることもある。別名デルモンテ・スクエアと呼ばれている。

既存建築を利用したことを表現する単語

ambiguity/rationalized irrationality/

規模 8175 m²

立地 海に面した立地、ギラデリススクエア隣

発注者 Leonard Martin

駐車数 -

店舗数 30

階数 3階

吹抜け なし

通り空間 neighborhood

配置 中心

広場 長い道のような広場

分類 not enclosed

類型 一棟

水場 なし

元構造 レンガ造

外観 窓の手直し以外はレンガの外装を保存している。
ゲートに新たなサインを付けた。

植栽 オリーブの木（広場）

後構造 レンガ造

斜路 なし、オープンになった

ステップ あり

内部 変更。それぞれの店舗が個性的なインテリアにしている。

1963年に建物を取り壊し構想マンション化する計画があることを知った弁護士のレナード・マーティンがこれを惜しんで買収し、エシェリックに設計を依頼した。

事例記号 USA-02

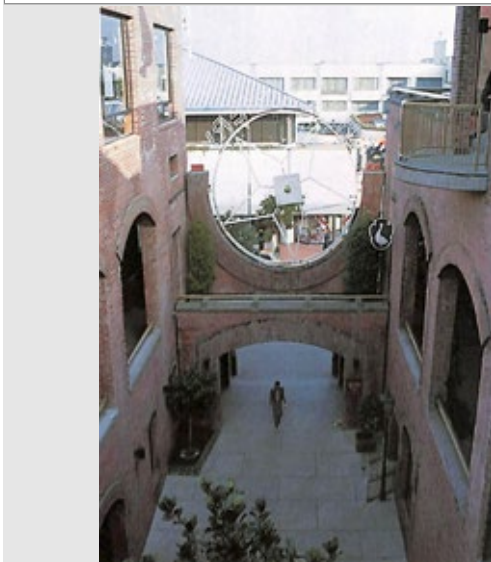
首都大学東京 小林研究室



全景



ゲート サインは鉄製で、ボルトを用いて建物を補強した昔の建築技法を表している。
(新世紀を開くショッピングセンター)



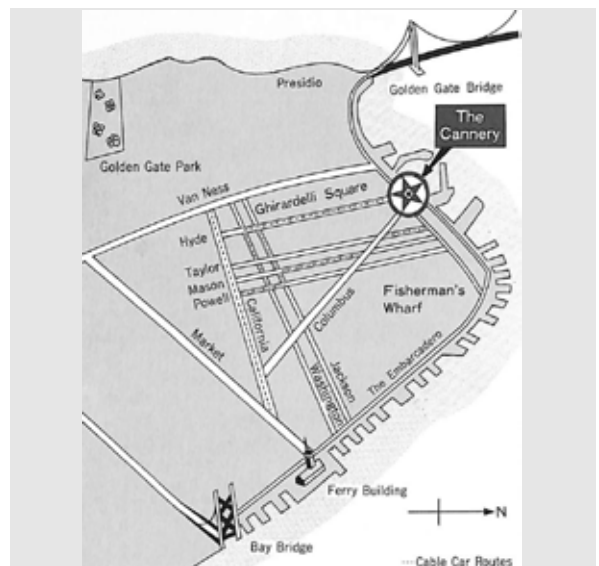
裏側から



外部に蒸された縦動線
屋外家具と植栽



建物内部



地図



フロアマップ



フロアマップ

事例記号 USA-04

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 14:12:25

ネイビーピア

都市名 シカゴ

建築年 1916 前用途 水運ターミナル

設計者 Frost, Charles S. Shankland, E. C.

改修年 1976 後用途 ショッピングモール

設計者 Benjamin Thompson



NAVY PIERは1916年にミシガン湖の貨物船の発着港として建設され、五大湖沿岸の他の都市との交通の拠点であった。1941年、第二次世界大戦中には海軍訓練施設として使用され、1946年にはイリノイ大学のキャンパスとして使用されたものが、現在は、博物館・ミニチュアゴルフコースを持つ大型ショッピングモールとなっている。

栈橋のエントランス部分になる西端には博物館があり、海からのエントランスになる東端には劇場を有している。それらの建物は当時の海軍訓練施設としての形態を残している。それらの間には巨大なガラスのアトリウムなどの近代的な建築が挿入されている。

この事例で最も特徴的なことは、西端から東端までの距離が914mと直線状に長い形態である。西端にあるレンガ、テラコッタで作られた建物は以前はHeadhouseとして使われており両側につけられているタワーは火災時の散水装置のための巨大な2,000,000Lのタンクを収容していた、現在は子供の博物館として利用されており、両側に店舗を収めるために壁を増設しているが天井や床面は既存のまま使われている。また東端の講堂は、既存の利用目的とほぼ変わらず、既存のまま使われている。中間部分はもともと貨物などを収容する倉庫と運搬用通路で構成されていたため現在は解体れ、新しくガラスの建築が挿入され既存の建築との対比が成されている。

(調査報告書)

既存建築を利用したことを表現する単語

redevelopment/revitalization/restore/returning

規模 81349㎡

立地 海に囲まれた立地

発注者 Metropolitan Pier and Exhibition Authority

駐車数 1200

店舗数 29

階数 3階

吹抜け -

通り空間 あり

配置 直線

広場 あり

分類 enclosed

類型 複数棟を一棟

水場 噴水

元構造 レンガ壁、鉄骨造

外観 保存（中間部にアトリウムを付加）

植栽 あり

後構造 レンガ壁、鉄骨造

斜路 なし

ステップ あり

内部 壁を増設しているが天井や床面は既存のまま

シカゴ都市計画やピアの過去の成功を知る人々の間から再開を求める声

事例記号

USA-04

首都大学東京 小林研究室



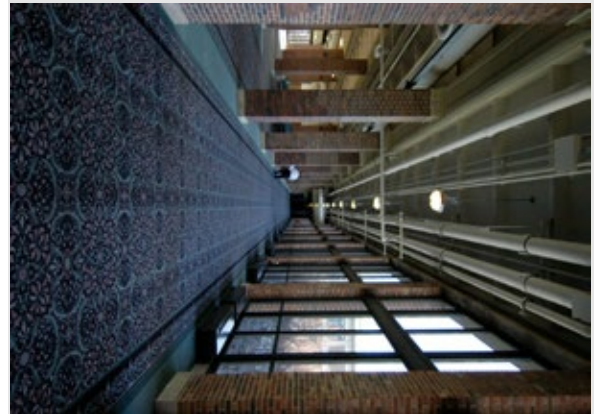
西端 道路に面するファサード



埠頭端部の建物



中間部分はもとも貨物などを収容する倉庫と運搬用通路で構成されていたため現在は解体れ、新しくガラスの建築が挿入され

点々とストリートファニチャが置かれている。
<https://interactive.wttw.com/navypier/future>植栽とベンチが一体となったストリートファニチャ
<https://interactive.wttw.com/navypier/future>



現在検討中の再整備では中央の建物が解体され、庭園のようにになっている。
<https://interactive.wttw.com/navypier/future>

事例記号

USA-05

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 14:30:24

チェルシーマーケット

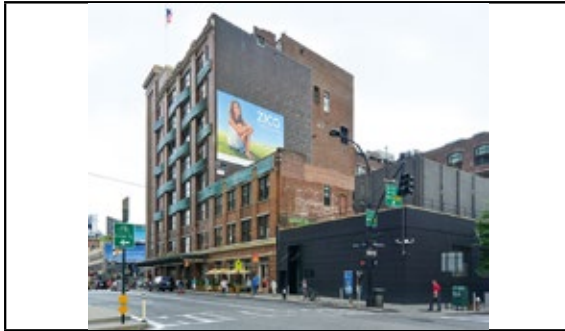
都市名 ニューヨーク

建築年 1890 前用途 工場（ナビスコ）

設計者 Albert G.Zimmerman

改修年 1997 後用途 ショッピングモール

設計者 Vandeberg Architects



1998年にVandeberg ArchitectsによってChelsea Marketは建設された。9th Aveに面したレンガのファサードは、真鍮のスパンドレルが編みこまれ、スチールのフレームにはめ込まれたガラスのキャノピーが既存の建築と見事に付加されている。内部構成は9th Aveから10th Aveにかけて800feetのコンコースが通り、店舗は両側に直線状に配置され、コンコースに向かって開かれている。コンコースには椅子やテーブルが置かれ、時にはジャズの演奏が行われている。そこはまさに開放的な空間であり、建築全体を統一している。

建物の構造は既存のまま使用され、劣化したレンガの壁面、鉄筋や配管は露出している。この建物では構造自体がこの建築のインテリアとなり既存の無骨なインテリアが訪れた人々を魅了している。

さらに天井には以前使われていた巨大なファンは現在も利用されており、また壁面には光輝のあるパネル・ガラスブロック・鉄筋の手摺が用いられ、石の彫刻や工場で使われていた道具が彩りを添えている。特に目を引くのはまるで滝のような大きな配管から降り注ぐ水だろう。

全体として工場という無機質な生産の場から、活気ある商業空間への転用はアメリカの典型的な転用パターンではあるが、新旧ファサードの対比的共存、既存の構造の有効的な利用、デザインの質の高さなど産業建築の優れたコンバージョン事例といえるだろう。

既存建築を利用したことを表現する単語

change/existing/refurbish/repoint/covering

規模	110000㎡	立地	ハドソン川付近	発注者	Irwin Cohen	駐車数	-	店舗数	60
階数	3～8階			吹抜け	あり	通り空間	あり		
配置	中心			広場	コンコース	分類	enclosed		
類型	一棟			水場	配管から降り注ぐ滝	元構造	レンガ壁、鉄骨造		
外観	既存外壁の上に、金属とガラスの庇および曲線のパターンが付加された。			植栽	なし	後構造	レンガ壁、鉄骨造		
				斜路	なし	ステップ			
内部	鉄骨の骨組みや配管、劣化したレンガ壁面を露出しつつ産業遺産的雰囲気を残している。			投資家のIrwin CohenがVandeberg Architectsを指名					

事例記号 USA-05

首都大学東京 小林研究室



外観



八番街に面するファサード 既存外壁の上に、金属とガラスの庇および曲線のパターンが付加された。



内部 配管から降り注ぐ滝



内部 既存壁面や配管が露出している。サインが目を引く。



内部 既存壁面や配管が露出している。



内部 既存壁面や配管が露出している。



通りの両側に店舗が直線状に配置され、家具が通りに置かれることで店舗の週密度が増している。白の塗装やハイサイドライトによって室内店舗でありながら解放的な印象をうける。

事例記号 USA-06

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 14:41:20

フェリービル

都市名 サンフランシスコ

建築年 1897 前用途 フェリーターミナル

設計者 ペイジ・ブラウン

改修年 2003 後用途 商業施設

設計者 SMWM/Page+Turnbull/Baldauf Catton Von Eckartshagen



高さ73メートルの時計台のついた長さ300メートルのフェリーターミナル。1906年、1989年の大地震に耐えた。建設当初は鉄道も通り、サンフランシスコ湾内の各所を結ぶフェリーの往来も盛んであったが、1936年にベイブリッジが開通し、翌年にゴールデンゲート橋が開通すると、フェリーが減少し、1950年にはこの建物もターミナルとして利用されることはほとんどなくなり、港湾関係のオフィスが入居する建物へと改修された。1957年に建物の前に二層構造のエンバーカードロ・フリーウェイが走り、建物のランドマーク性が無くなる。しかし1989年の地震によりフリーウェイが崩壊すると、再び町のランドマークとなる。

1998年に行われた再開発事業コンペの結果、当初の建物の特徴であった建物中央の長い吹き抜け回廊が復元された。パリの街角のマルシェ、ロンドンのハロッズ、ミラノのベックや、シアトルのパイク・マーケットプレイスを参考にしている。

建物内に40店舗からなる常設のマーケットプレイスを運営する他に、建物の正面および海に面した広場でファーマーズ・マーケットを運営している。2、3階はオフィスとして利用している。

- ・1950～1960の間に行われた変更を取り消すように建設当時の姿に戻した（砂岩の外壁仕上げ）・過去の改修の跡を全て撤去
- ・窓や煉瓦などの歴史的なものは全て補強し保存 2003 National Preservation Award

既存建築を利用したことを表現する単語

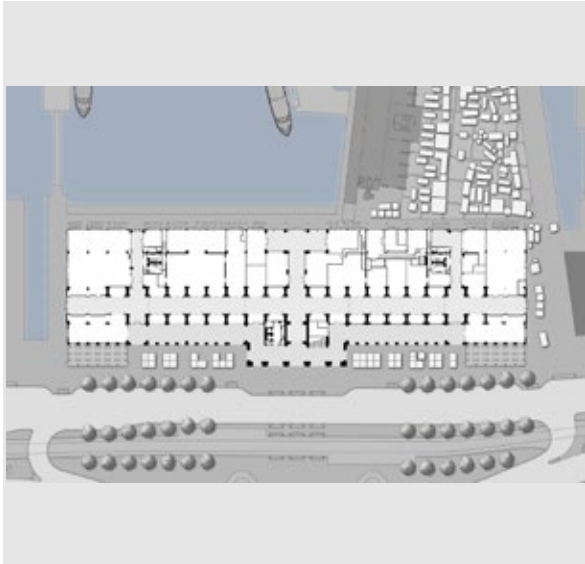
landmark/relic/rekindle/rehabilitate/renovation/revitalization/historic

規模	11330	立地	海上に張り出すように建設	発注者	Wilson Meany	駐車数	100	店舗数	40
階数	3階（棟部 1 2階）（2階から上の階はオフィス）			吹抜け	2階の床を撤去し吹き抜	通り空間	あり		
配置	中央			広場	あり（南側の空き地、町	分類	enclosed		
類型	一棟（個別保存）			水場	なし	元構造	レンガ壁、鉄骨造		
外観	建設当時の姿を復元（砂岩の外壁仕上げ、ボザールの装飾）			植栽	なし	後構造	レンガ壁、鉄骨造		
				斜路	なし	ステップ	なし		
内部	壁は保存されている。 オフィスに適した環境とするため、床と天井を新設した部分もある。			1957年に建物の前に二層構造のエンバーカードロ・フリーウェイが走り、建物のランドマーク性が無くなる。しかし1989年の地震によりフリーウェイが崩壊すると、再び町のランドマークとなる。1998年に行われた再開発事業コンペの結果、当初の建物の特徴であった建物中央の長い吹き抜け回廊が復元された。					

事例記号

USA-06

首都大学東京 小林研究室



平面図



店舗



建物全景

<https://perkinswill.com/work/san-francisco-ferry-building.html>



修復の流れ

<https://perkinswill.com/work/san-francisco-ferry-building.html>



復元された建物中央の長い吹き抜け回廊

<https://perkinswill.com/work/san-francisco-ferry-building.html>



高速道路が前面に建設された

<https://perkinswill.com/work/san-francisco-ferry-building.html>

事例記号

BRI-01

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 0:05:43

ブルーバード・チェルシー

都市名 ロンドン

建築年 1923 前用途 車庫

設計者 Robert Sharp

改修年 1997 後用途 商業施設

設計者 CD Partners



既存建築は、1923年に建てられた車庫(bluebird garage)であり、当時ヨーロッパでも最大級のものであった。中央棟に車庫、加えて、ジョージアン様式の両ウィングには、運転手のラウンジ、旅行者のための施設、前庭にはガソリンスタンドなどを併設していた。前庭をコの字型に囲む平面形式は、こうした車庫を中心とした機能をもつ複合施設に由来する構成であった。車庫空間の柱をなくすため、中央棟では、2階天井に鉄骨トラスを組み、2階床をトラスから吊るといった構造方式が用いられていた。施設全体は、1988年にグレード2の歴史的建造物に指定されていた。機能面では使用しにくくなったこの施設に対して、テレンス・コンラン率いるコンラン・グループが、商業施設への転用を行った。中央棟2階とウィング1階には、D&DLondon(コンランの飲食チェーン)のレストランが入り、中央棟の1階には物販店舗、もう一方のウィング1階には、ワイン・ショップが入っている。

歴史的建造物に対し、保存と変更がバランス良く行われ、商業的にも成功した事例。大がかりな改修は行われていないが、2階のレストランへの動線として挿入されたエレベーターと階段室、レストラン内部インテリアなど、随所に細かいデザインの配慮が見られる。

既存建築を利用したことを表現する単語

規模	1	立地	道に面した敷地	発注者	コンラン・グループ	駐車数	20	店舗数	7
階数	2	吹抜け	なし	通り空間	neighborhood				
配置	囲み	広場	あり	分類	enclosed				
類型	一棟	水場	なし	元構造	レンガ壁、鉄骨造				
外観	ジョージアン様式の外観が保存されている。 かつて車回しであった部分が広場のように使われている。			植栽	あり	後構造	レンガ壁、鉄骨造		
				斜路	なし	ステップ	なし		
内部	2階のレストランへの動線としてエレベーターと階段室が新たに挿入された。旧車庫倉庫であり、2階床が吊られているため柱が少ないことが特徴的である。			実験的なコンセプトショップとしてSainsburyのスーパーマーケットチェーンがこの建物を利用していたが、bluebirdがより高品質な商品と提供する方針を示したため撤退し、コンラングループによって開発された。					

事例記号 BRI-01

首都大学東京 小林研究室



前庭はかつて車回しであった。



外観 既存建築が保存されている。



サイン



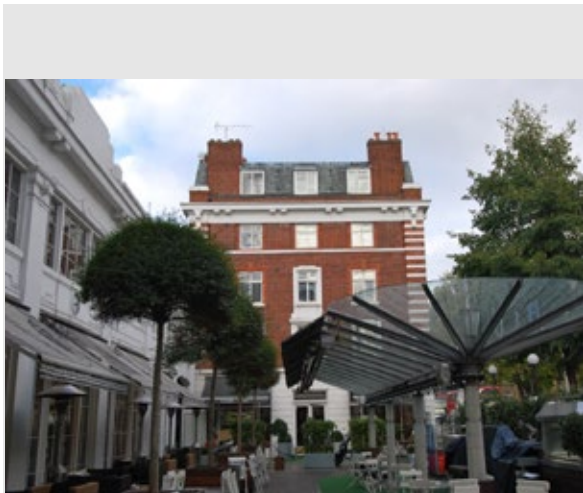
ジョージアン様式の翼部



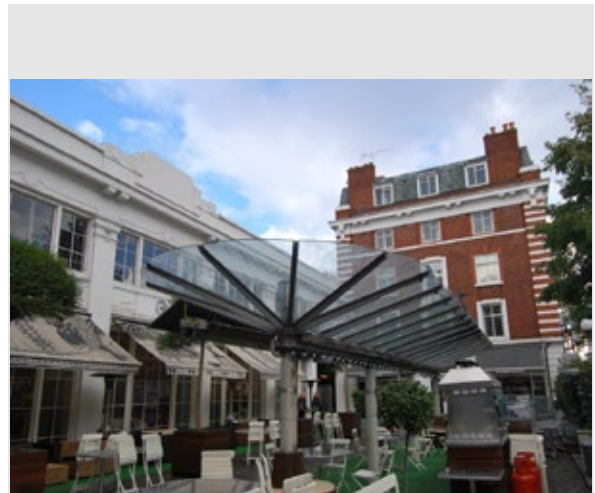
1階の物販店舗は二階床が吊られているため柱が少ない。



通り沿いからの全景。伝統的街並みを作っている。



外観 前庭から中央棟（左）と翼部（中央）を見る。



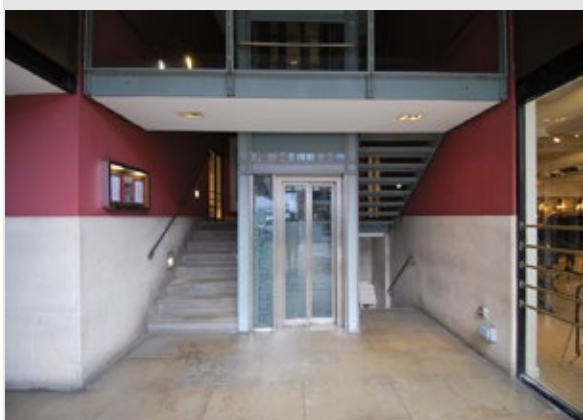
外観 前庭から中央棟（左）と翼部（中央）を見る。



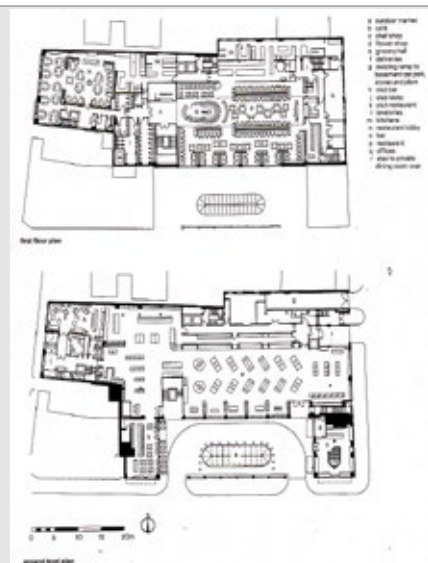
内観 2階レストランの天井見上げ。鉄骨トラスが屋根を支え、二階の床を吊る。



階段室前から前庭を見る。



中央棟端部に新設されたエレベーターと階段室



平面図



断面図

事例記号

BRI-02

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 12:24:26

コールドロップスヤード

都市名 ロンドン

建築年 1850 前用途 石炭処理場

設計者

改修年 2018 後用途 ショッピングセンター

設計者 Heatherwick Studio



Coal Drops Yardはキングスクロス中心の活気ある新ショッピング街で、50店を超えるストア、レストラン、カフェが軒を連ね、グラナリースクエアとリージェンツ運河に隣接した歴史的ビルやアーチのリニューアルされた環境の下、目的を共有するブランドのコミュニティを結集している。Coal Drops Yardはもともと、1850年にロンドン向けの年間800万トンの石炭を処理するため建造され、後にナイトクラブのBagley'sやThe Crossが店を構えた。

ビクトリア朝の石炭ドロップの切妻屋根を広げ、2つの高架橋を結ぶことでショッピングの場と公共スペース(coal drops yard)を作り出している。

Heatherwick Studioのこれまでのプロジェクトには、ロンドンへの新しいRoutemasterバス、Bombay Sapphireへの歴史的な製紙工場の修復、南アフリカの使用されていない穀物サイロの博物館への転用があります。Heatherwick Studioのデザインは、Coal Drops Yardの歴史的建造物を大胆に再利用した現代建築と、ユニークなショッピングの場、そしてキングスクロスの中心にある新しい新しい公共スペースを組み合わせたものとなる。

King's Crossのシニアプロジェクトディレクター、Morwenna Hall氏は、次のように述べている。「Coal Drops Yardは、他とは違った買い物体験をするように設計されている。Heatherwick Studioによるデザインは、1850年代からの重要なビクトリア朝の建物に配慮した計画であり、建物の歴史やさまざまな機能をCoal Drops Yardに将来訪れる人が理解できることが、設計プロセスの基本となっている。」

この計画は重要な歴史的建造物や建具の保存と修理を含み、Heatherwick Studioによって提案された拡張は歴史的建造物とその背景に適した伝統的な材料を利用している。

Heatherwick Studioは次のように述べている。「2つの歴史的建造物は、もともと人々が流通するように設計されたものではなく、それをきれいにして店でいっぱいにするだけでは成功した小売目的地にはならなかった。それらの間の距離が大きすぎて互いに社会的な化学的関係を持つことができず、2つの物語の活動だけでは十分な賑わいと活力を生み出すことはできない。そして、古い建物をつなぐためにまったく別の新しい構造物を追加するのではなく、2つの屋根を折り曲げて縫い合わせ、その下に別のレベルのアクティビティを形成し、街のダイナミックな新しい公共スペースを作り、そしてそれによって天気によらず使用できるようになる。」

既存建築を利用したことを表現する単語

restore/transform/restoration/preserve/historic character

規模 13,500

立地 キングスクロス駅に隣接し

発注者 Argent LLP

駐車数 なし

店舗数 50

階数 3

吹抜け なし

通り空間 あり

配置 並列

広場 あり

分類 enclosed

類型 複数棟を一棟

水場 なし

元構造 レンガ造、鉄骨造

外観 外壁を保存している。屋根を既存の形から変形させている。既存のベランダを整備し、二つの建物を鉄骨のブリッジでつないでいる。レンガ壁と鉄、屋根の形態により新旧がバランスよく表されている。

植栽 なし

後構造 レンガ造鉄骨造

斜路 なし

ステップ あり

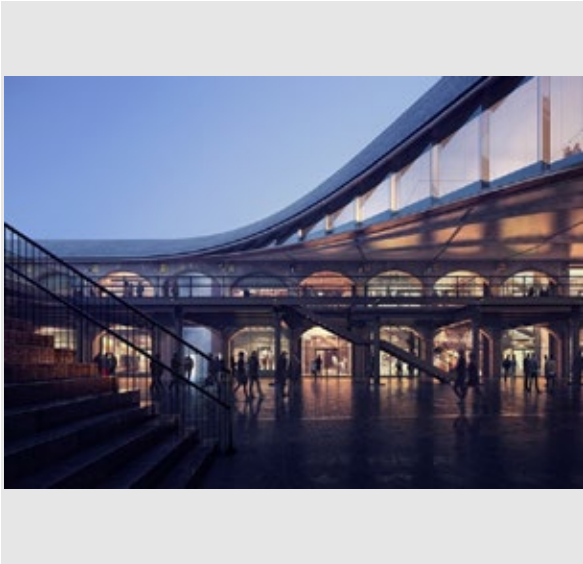
内部 レンガ壁を保存している。新設した屋根の鉄骨が露出している。

長年開発の計画があり、コンペによってHeatherwick Studioが選出された。

事例記号

BRI-02

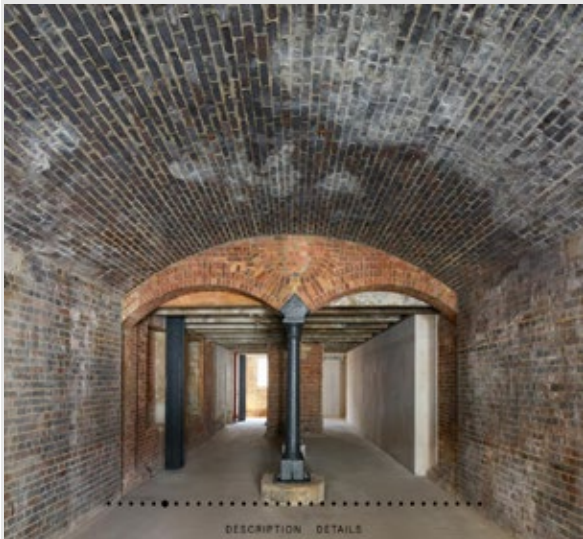
首都大学東京 小林研究室



地上から見た様子。既存建築に鉄骨でデッキとそれに上がるための階段が付加された。新設された屋根と既存のレンガ壁の対比。
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



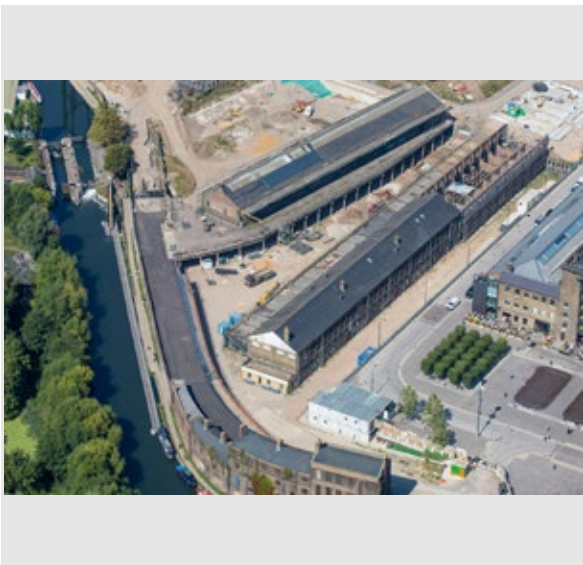
新設された屋根によって2棟の既存建築がつながる部分から、広場を見ることができる。
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



既存構造を鉄骨で補強し、保存した一階部分は通りのような空間になる。
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



整備前の様子
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



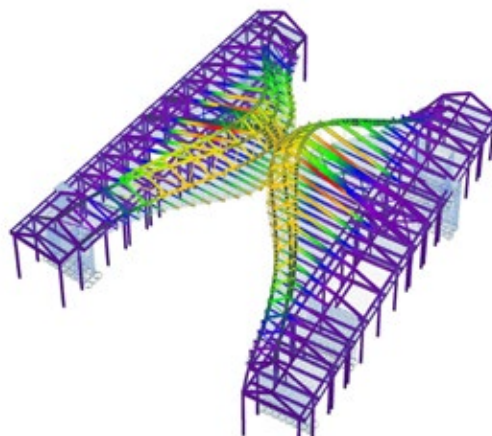
建設中の空撮
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



屋根の接続部分に関する模型
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



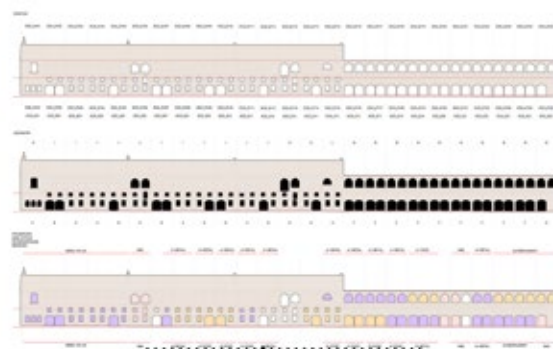
配置図 キングスクロス駅に隣接する。
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



屋根の構造に関する検討
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



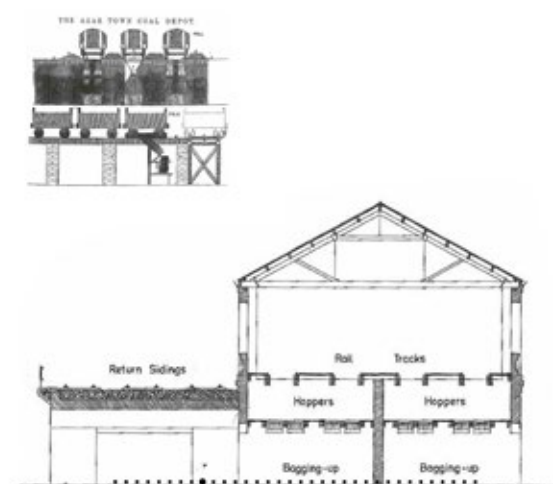
立面図 既存建築が新設の屋根により隆起し、広場を包み込む印象
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



既存の開口部に関する検討
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



新設する屋根の検討
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



既存建築断面図
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>

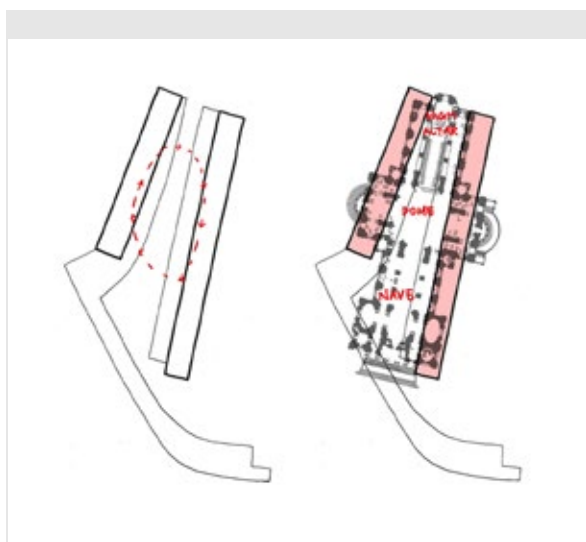


diagram
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>



整備前の様子
<http://www.heatherwick.com/project/coal-drops-yard/>

事例記号 ITA-01

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 12:32:40

リンゴット

都市名 トリノ

建築年 1921 前用途 工場（自動車）

設計者 ジャコモ・マッテ・トゥルッコ

改修年 2002 後用途 ショッピングセンター、ホテル、劇場、美術館

設計者 Renzo Piano Building Workshop, architects



リンゴットは、当初フィアットの自動車工場として1916年に建設が開始まり、1923年に操業が開始された。敷地面積は40万平方メートルで、イタリア人建築家ジャコモ・マッテ・トゥルッコによって設計された地上5階建ての工場建築は、当時世界最大の工場であった。

現在も建築の規模は、当時のまま残されており、近代化によって産業が拡大していった時代の力強さを現在に伝える巨大なものである。

1982年に工場が閉鎖され、その後の建築の活用案を募る設計競技によって、やはりイタリア人建築家であるレンゾ・ピアノの案が選ばれた。

建物の外観は既存の建築に手を加えずに保存しているが、インテリアは改修している。

螺旋状のスロープは、自動車工場時代に完成した車を出荷するために使われていたもので、現在は上下階の行き来など、来館者が自分の足で歩くことの出来る場所となっている。

なかなか体感することのないスケールは、自動車工場であったというこの建物の特性を外観の巨大さ以上に伝えてくれている。

商業施設として使用されている部分は、工場時代のスケールの大きさを残しすぎると使いにくくなってしまうので、一番特徴的なところをしっかりと残して見せ、主として使用する部分に手を加えたというのはとても効率的である。

既存建築を利用したことを表現する単語

convert/revive/transforming/remain/unaltered/modify/accommodate

規模 400000㎡

立地 torino lingotto駅、ポー川

発注者 ENEL Green Power SpA

駐車数 3300

店舗数

階数 5階

吹抜け あり

通り空間 あり

配置 中央

広場 4つの大きな中庭を新規

分類 enclosed

類型 1棟

水場 なし

元構造 RC造

外観 全体は保存しているが、保存屋上に球状のガラス張り会議室、ルーバーの大きな大屋根で覆われた美術館ボリュームを付加している。

植栽 中庭のうちの一つに植栽

後構造 RC造

斜路 あり

ステップ なし

内部 車を出荷するために使用されていた螺旋状のスロープを来館者の縦動線として利用している。既存の4つの中庭を、地下に彫り込みホールとするもの、ガラスの大屋根により内部化するもの

Fiat S.p.A. が再開発コンペ（1983年）を行いRenzo Piano Building Workshopが設計を行うことになった。

事例記号 ITA-01

首都大学東京 小林研究室



屋上



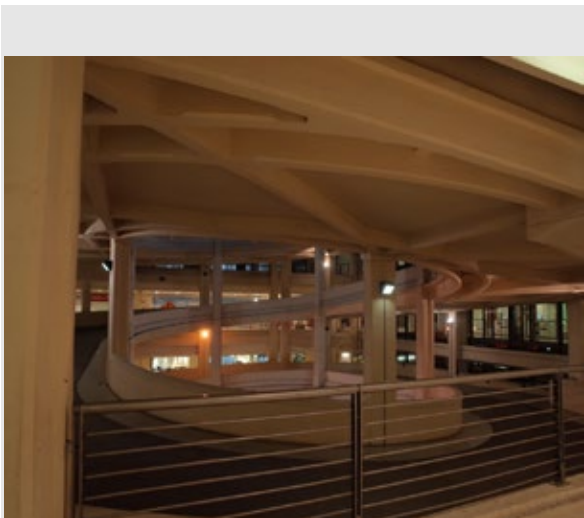
既存の自動車斜路が残されている



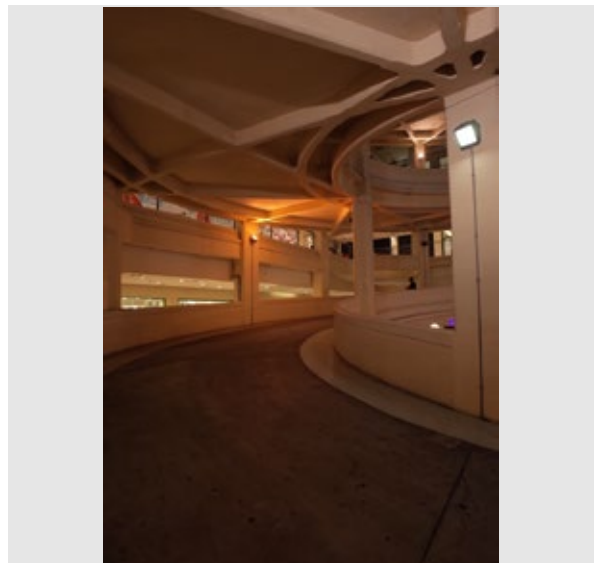
自動車斜路周辺の様子



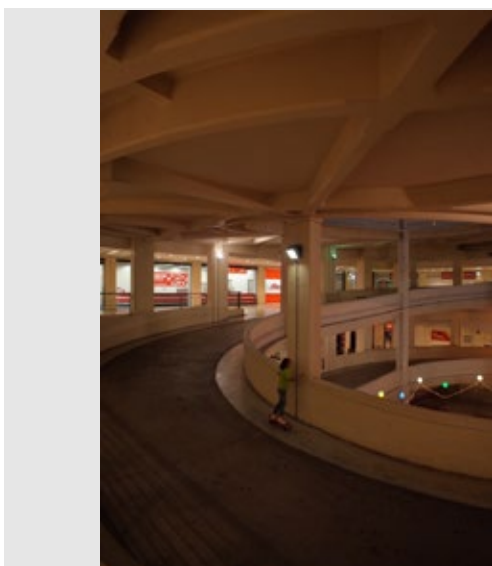
ガラスの大屋根がかけられた中庭



既存の自動車斜路



自動車斜路は施設利用者の縦動線として使用される



既存斜路の傾斜を利用してスケートボードをすることができる



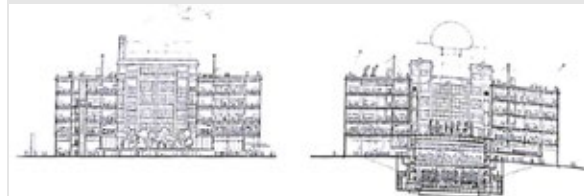
店舗はそれぞれのインテリア



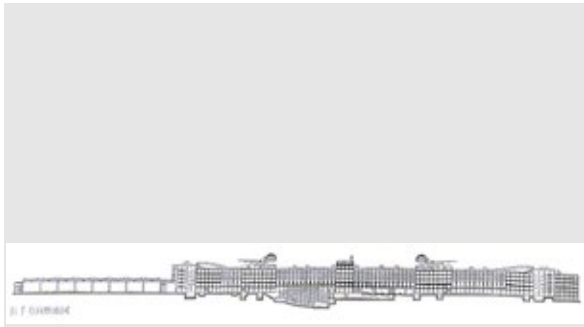
エントランス部分外観



上空からの写真
<http://www.rpbw.com/project/lingotto-factory-conversion>



短手方向断面図



長手方向断面図

事例記号

AUS-02

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 12:25:07

ロックス・スクエア

都市名 シドニー

建築年 1918

前用途 住宅

設計者

改修年 1994

後用途 ショッピングセンター

設計者 Tonkin Zulaikha Greer Architects



ロックス地区は、1788年にフィリップ船長率いる最初の移民団が開拓を始めた地であり、オーストラリア入植の始発点である。1971年のニューサウスウェールズ州による「ロックス再開発計画」に対し歴史的意義を見出す市民、住民、ナショナル・トラストなどの専門家達による激しい抵抗運動が功を奏し、州政府管理による保存資産の運用が検討され、現在シドニー湾岸協会により運営がなされている。ロックス・スクエアはロックス地区にある三つの2階建ての建物と公的広場を伴ったシドニーでは珍しい建物で、60店舗のショップを含んだショッピングセンターとして、観光客を集めている。この場所の整備は周囲の通りの改善に影響を与えた。

商業施設に転用されたのは1994年が最初だが、2000年に改めて改修の検討が始められ、2007年に改修された。写真は左は2007年に改修されたあとのもの。

この改修では、主に中庭の整備が行われた。1994年に行われた改修では広場の整備が未熟で、木陰も少なく、ただ広い空きスペースという認識を持たれていた。Rocks Squareは、Cumberland Streetに沿ったRocks Peninsulaの尾根とSydney Coveの水の中間、Dawes PointとGloucester Streetの中間で、ロックス半島の地理的中心に位置する。ロックス地区の特徴は地形によってゆがめられる通り、階段に戻る車線、および岩が多い急斜面によって手渡される土地であり、この広場は、ロックス特有の特徴を描くのに最適な場所であり、再改修の際にはこれが実現され、ロックスの優れた特徴をその中央広場に持ち込んでいる。黒い花崗岩から水が噴き出し、Mill Laneで階段状に流れ落ち、循環する。また、壁面が塗装され、鉄骨の梁を使用した天蓋が設けられた。天蓋は9メートルの高さ。

既存建築を利用したことを表現する単語

rebuilding/recycle/demolish/reveal/install/monument

規模

立地

湾岸

発注者

Sydney Cove Authority

駐車数

付近に

店舗数

60

階数

2階

吹抜け

あり

通り空間

あり

配置

囲み

広場

あり(2007年に天蓋を付)

分類

not enclosed

類型

複数棟

水場

なし(2007年に付加)

元構造

レンガ壁、木造

外観

外装材のレンガは保存、ガラス屋根やパーゴラを付加している。近辺の景観に沿うように広場は砂岩で舗装を行い、障害者用のアクセス通路が設置された。

植栽

あり

後構造

レンガ壁、木造、鉄骨造

斜路

レベル差を生む小さな階

ステップ

内部

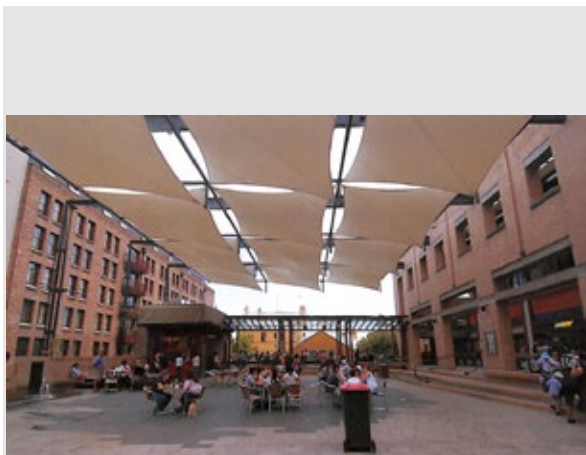
当時使用されていた迫力ある硬木の古材が随所に使われ、改修された内部にアクセントをもたらすことに成功している。なお、梁に使われている古材は、主に金物による補強が施されている。ここでも古材と新素材との融合がうまく図られている。2階部は主に古材によって構成されており、あくまで鉄筋補強などは黒子に徹している。

歴史ある特徴的な街路などを活かすためにROCKS地区全体が保存再生されるよう開発された。

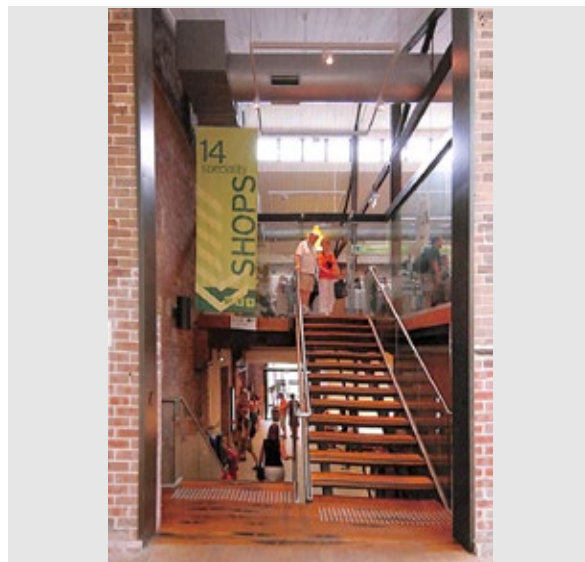
2000年に広場のより有意義な活用が議論され、2007年に再整備された。

事例記号 AUS-02

首都大学東京 小林研究室



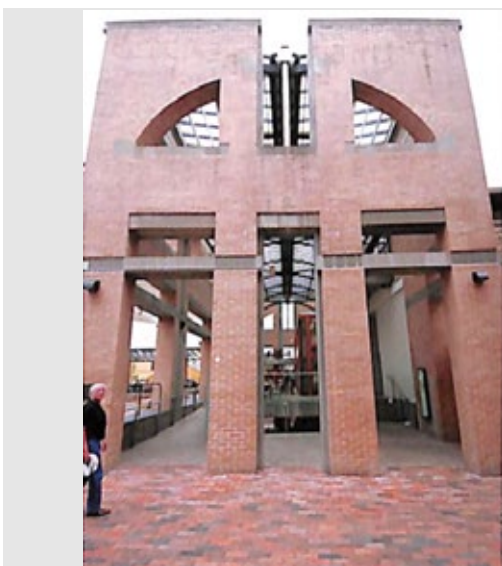
外観(1) 広場の重要性や使い勝手が認識され、天蓋が付加された。



内部(1) 西側ショップのエントランス、床が新設され階段が設けられた。



内観(2) 古材に対して鉄筋補強がされている。

内観(3) 古材の梁に対して補強の金物を使用されている。
ストリートファニチャーのように家具が置かれている。

外観(2) 西側のファサードの柱廊



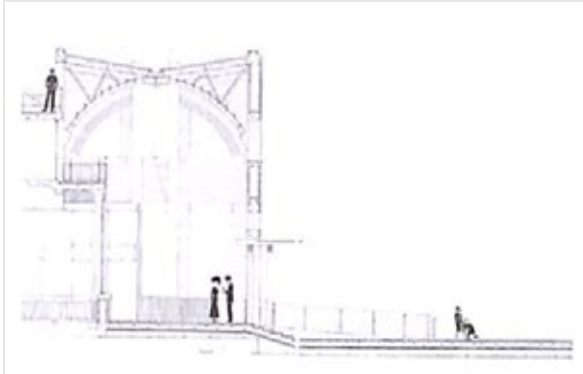
内観(4) 一階レストラン。レンガ壁が保存され、鉄骨の梁がかけられている。



外観③ エントランス、庇が付加されている。



平面図



断面図

事例記号

AUS-01

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 12:25:17

ジャム・ファクトリー

都市名 メルボルン

建築年 1858 前用途 工場（醸造）

設計者 -

改修年 2013 後用途 商業施設

設計者 NH Architecture



1858年に建設されたこの工場は最初ジャム工場ではなく醸造所としての機能を1875年まで果たしていた。醸造所が閉鎖した後Victorian Preserving Companyが4年間使用し、この時230人もの雇用者を生み出し、地域最大の雇用の場ともなっていた。

1895年にOK Jam Co.に受けわたされ1950年までジャム工場として使用されていた。1970年代に2億ドルもの改修費用をかけ Peter McIntyre Architectによってホテルへ転用されたが80年代後半になると時代遅れの建物という認識を持たれるようになってしまった。

そこで、建物のオーナーがNH Architectureに新たな活用の仕方の提案を求めた。

建物内部はコンクリートの梁と柱によって支えられている。レンガ造りの建物は長い歴史を感じさせる佇まいになっている。内部中央には当時工場で使われていたであろう煙突がそのまま保存されており高く聳え立っている。またレンガ壁を保存しつつレベル差のある床を新設することで空間に奥行きと回遊性をもたしている。

外観は工場当時のレンガを残した部分と増築によって補強した部分が組み合わさった建築である。新設されたサインと庇が一体となった材が新旧の対比を強めている。

またレンガ壁を保存しつつレベル差のある床を新設することで空間に奥行きと回遊性をもたしている。

現在新たな改修の計画がleonald design architectureによって進められている。

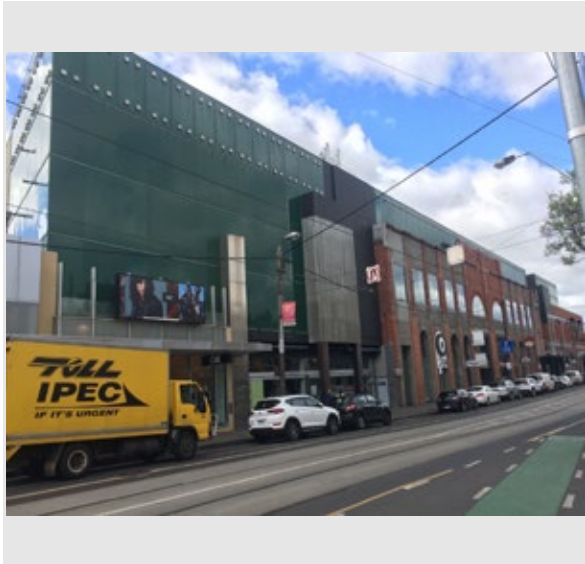
既存建築を利用したことを表現する単語

originally/landmark/rejuvenation/reveal/existing building/overlay/transformation/heritage

規模		立地	道路沿い	発注者	Challenger Financial	駐車数		店舗数	16
階数	3	吹抜け	あり	通り空間	あり	分類	enclosed	元構造	レンガ造
配置	囲み	広場	レベルの下がる部分	後構造	レンガ造、鉄骨造	ステップ	あり	水場	なし
類型	複数棟	植栽	なし	斜路	あり	NH Architectureは、建物の所有者（Challenger Limited）からいくつかの段階的な介入のマスタープランニングと設計を依頼され、大手テナント（Village Roadshow Limited）の新しい本社の設計を依頼されましたが実際のセンターの活性化は、大手国際テナン（TopShop）の登場によって始まった。			
外観	工場当時のレンガを残した部分と増築によって補強した部分が組み合わさった建築である。新設されたサインと庇が一体となった材が新旧の対比を強めている。								
内部	建物内部に当時の煙突を保存している。またレンガ壁を保存しつつレベル差のある床を新設することで空間に奥行きと回遊性をもたしている。								

事例記号 AUS-01

首都大学東京 小林研究室



外観(1) 緑色の部分が増築された。



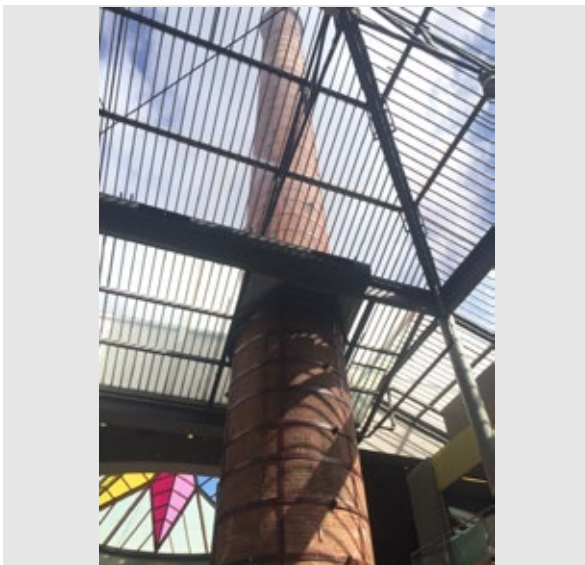
外観(2) 新設された庇は、サインが一体となっている。



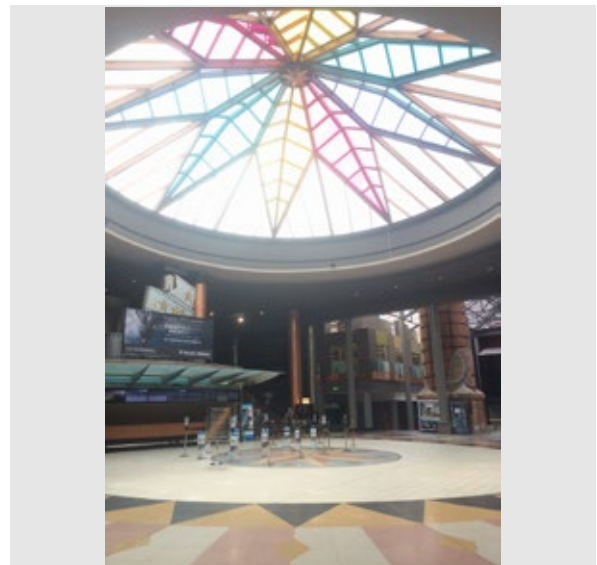
外観(3) 左上部の部分が増築された。



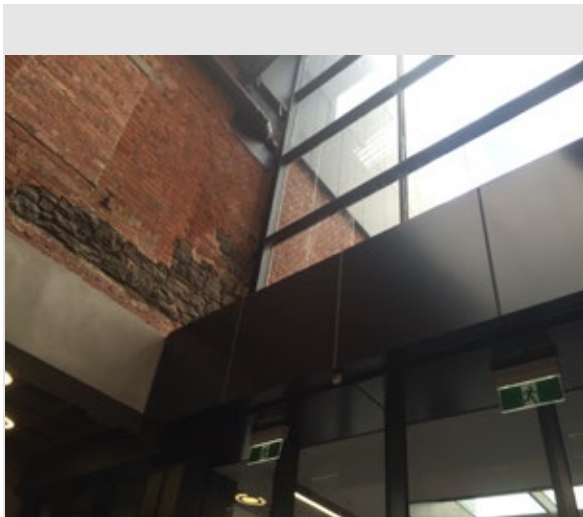
内観(1) 新設の柱梁で補強し、既存のレンガ壁を残している。新設されたレベルの異なる床には、スロープとステップで登ることができる。スロープ上部はトップライトと、既存のレンガ壁によって外の通りのような印象になっている。



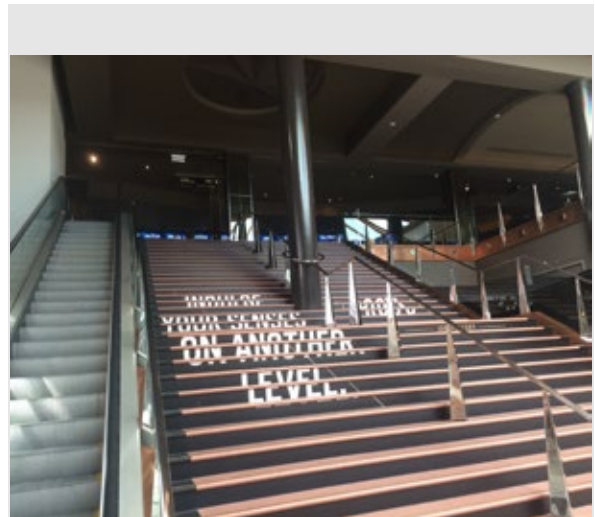
内観(2) 建物の象徴竣工当時の煙突



内観(3) 建物中央部の巨大トップライト



内観(4) 既存レンガと新規ガラスの接続部分



内観(5) 映画館へつづく大階段



建物裏側からも煙突を見ることができる。



内観(6) レベルの下がる部分では店舗を利用しなくても座ることができる。
<http://nharchitecture.net/projects/jam-factory/>



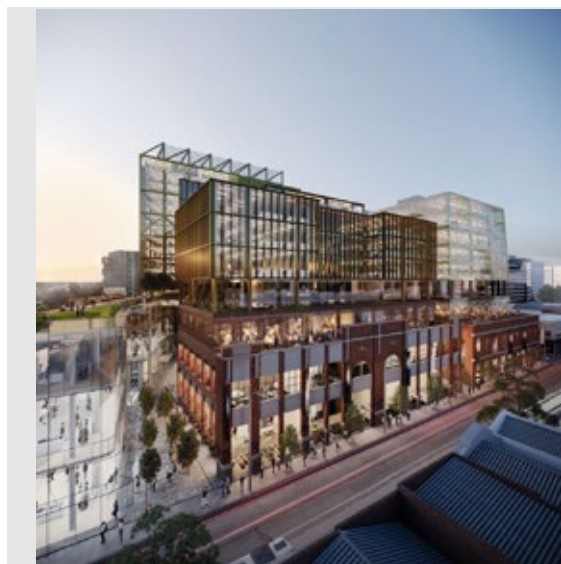
現在構想されている再改修案
<http://leonard.design/portfolio/jam-factory/>



現在構想されている再改修案
<http://leonard.design/portfolio/jam-factory/>



現在構想されている再改修案
<http://leonard.design/portfolio/jam-factory/>



現在構想されている再改修案
<http://leonard.design/portfolio/jam-factory/>

事例記号

AUS-04

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 12:24:36

アッパーウェストサイド

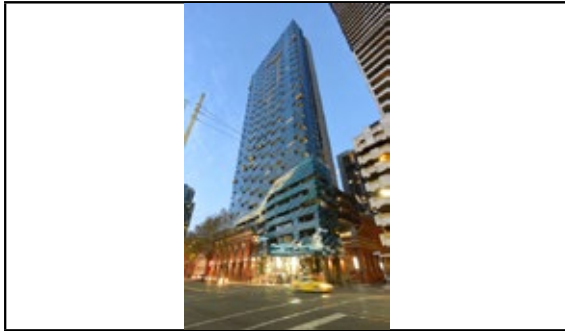
都市名 メルボルン

建築年 1894 前用途 発電所

設計者 Arthur Arnot

改修年 2016 後用途 モール

設計者 Cottee Parker Architects



転用前は発電所として使用されていたこの建物は、新たにグランドフロアにレストラン、ショップやオフィスを挿入しその上階はビルを増築しアパートメントと変更したコンバージョン事例である。4つの高層タワー(Hudson, Madison, Manhattan and Midtown)が付属して建てられており2275戸のアパートとなっている。(写真はhudson)

サザンクロス駅のほぼ真正面と言っていいほどの立地に建つこのアッパーウェストサイドは、多くの人が住居、オフィス、ショッピングとして使用するなどメルボルンの中でも最も大きな成功を収めた建築と言える。

1870年から1880年の間、メルボルンでは民間企業が電気をそれぞれの建物や道路に供給していた。1894年3月メルボルンで初となる公的機関による発電所がこの敷地に建つこととなる。ゴールドラッシュの影響もあってか発電所オープン後、電気需要は大きくなり6年間の間に建物サイズ、電気のキャパシティは2倍へと拡張していた。1927年に現在のブーケストリート側の建物がHydraulic Power (油圧パワー) システムを導入した新たな発電所として建設される。このシステムは1967年まで使用されていた模様。発電所としては1981年まで使用されている。

オフィスやショップなどのテナント空間はガラスの間仕切りにより仕切られている。内部にはここが過去に発電所であることを示すため至る所で電球のグラフィックデザインを用いている。

また増築されたアパートメントと発電所の接続部分のファサードはユニークで強烈なインパクトを与えている。

既存建築を利用したことを表現する単語

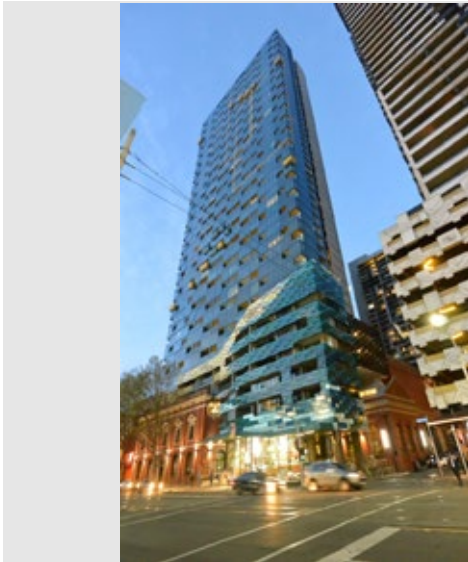
enhance/history

規模	224000	立地	サザンクロス駅、大学、商	発注者	far east consortium	駐車数	880	店舗数	35
階数	45	吹抜け	一部レストラン内	通り空間	あり				
配置	分散	広場	なし	分類	enclosed				
類型	複数棟を地区として開発	水場	なし	元構造	レンガ壁、鉄骨造				
外観	増築されたアパートと、既存の建物の接続部分が特徴的	植栽	なし	後構造	レンガ壁、鉄骨造、RC造				
		斜路	なし	ステップ					
内部	発電所であったことを示すグラフィックデザイン、既存の内壁								

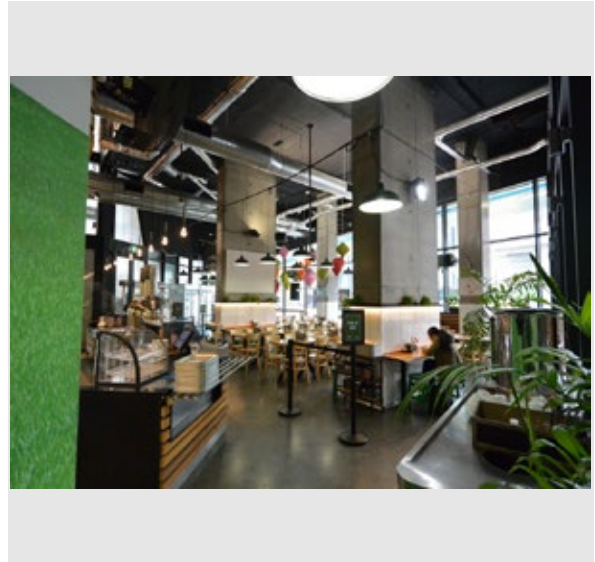
大規模な宅地開発として行われた。

事例記号 AUS-04

首都大学東京 小林研究室



外観① 足元に既存建築の外壁が保存され、高層ビルが建てられた。新旧の接続部分が印象的なファサード。



内観① 増築されたカフェ



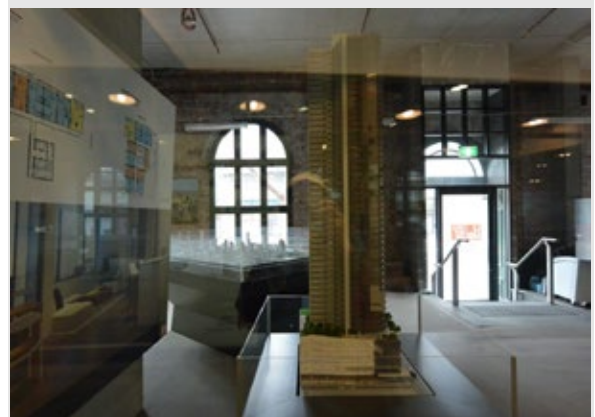
既存建築が発電所であったことを連想させるサインが至るところに用いられている。



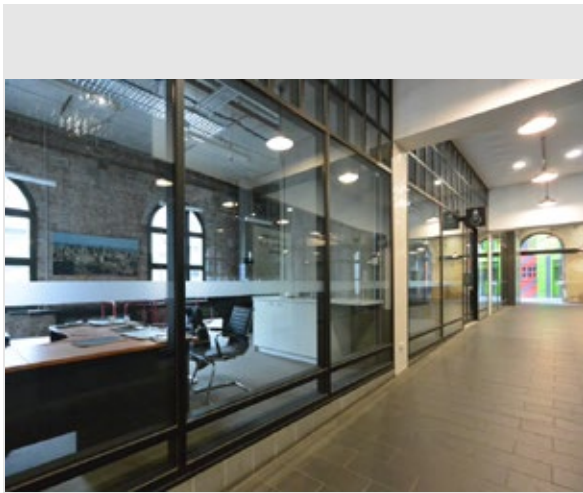
既存建築が発電所であったことを連想させるサインが至るところに用いられている。



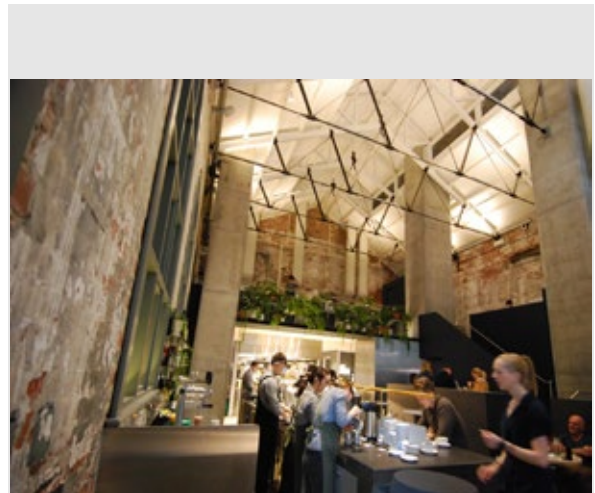
外観② 既存の外壁に大胆なアートが施されていた。



内観② 建築関係の会社が入居していた。



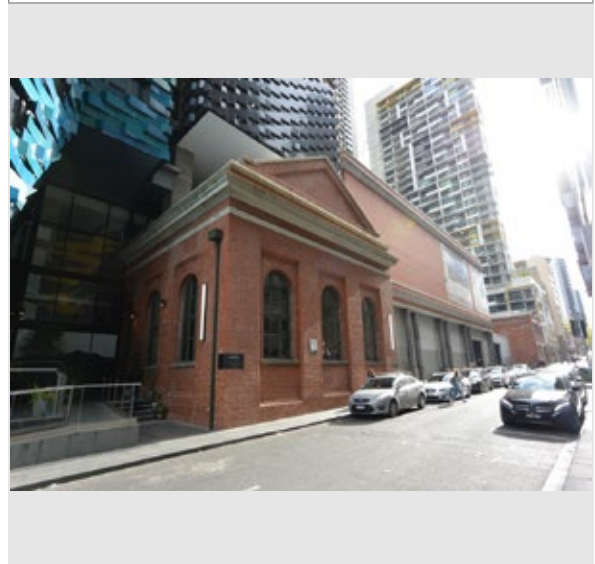
内観(3) オフィスやショップなどのテナントはガラスによって仕切られていた。



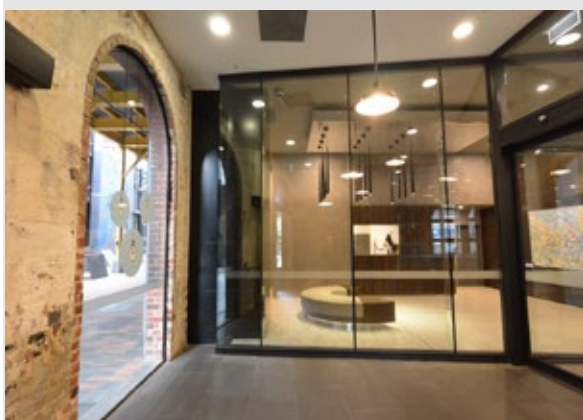
内観(4) レストランの壁は当時のものを残している。一部床を新設することで既存建築の高さを生かした空間となっている。



外観(3) 既存と増築の接続部分



外観(4) レストランが入る既存部分



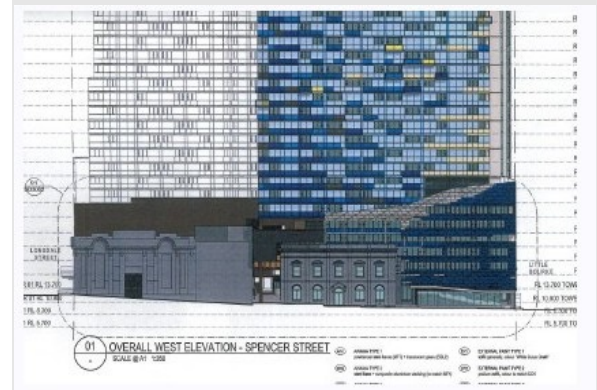
内観(5) 既存の壁を見ることができる。



既存建築の屋上には通りのような場所が作られていた。



立面図



立面図

事例記号 FRA-03

首都大学東京 小林研究室

データ修正日 2019/01/11 14:51:53

ベルシー・ヴィラージュ

都市名 パリ

建築年 1840, 1885 前用途 倉庫群 (ワイン)

設計者

改修年 1998 後用途 ショッピング・モール

設計者 Denis Valode, Jean Pistre



セーヌ右岸に隣接するこの辺りは、最も古くから栄えた地域のひとつで、18世紀ごろからは、セーヌ川の水上交通を利用してワインの集積地となっていた。1850年代に鉄道駅が置かれた後、19世紀末から第一次世界大戦直前までの最盛期には、ワイン倉庫街が発達した。

このかつてのワイン倉庫街跡にできたのが、ベルシー・ヴィラージュである。

1980年代のパリは戦争が都市に刻印された時代であった。大統領フランソワ・ミッテランのグラン・プロジェクトに対し、パリ市長ジャック・シラクはベルシーのワイン倉庫群の再開発を目論んでいたが、その矢先の1986年、大統領はその一部のクール・サン・テミリオンを文化財登録して市長の計画に横槍を入れた。市長はそれを逆手に取り、歴史的建造物を保存しつつ内部をショッピングモールに賦活して、大統領の挑戦を受けて立った。

そしてこのプロジェクトは、パリ市が再開発プロジェクトのために建築競技会を開催した1990年に始まり、受賞企業であるValode&Pistreは、既存の倉庫と、モダンで背の高い新築の建物からなる計画を立案した。古い石畳の車線を屋根付きのショッピングセンターに変える代わりに、Valode&Pistreは、客を天候から守るために日よけのネットを用いて路上を開放することを提案した。

30000㎡もの巨大モールを都市内に平面的に、気候に左右される露店形式で賦活しただけでなく、地下鉄新線の駅も含めて整備してしまうのは、郊外の24時間空調された自動車アクセス型のそれに対する強烈なアンチテーゼでもあり、周辺の複合開発で発生したオフィス・ワーカーにより平日昼間も人通りの絶えない様は、脱自動車時代の商業政策への先駆性を示している。

既存建築を利用したことを表現する単語

extension/existing/take into account time/authenticity

規模	30000㎡	立地	セーヌ右岸	発注者	パリ市	駐車数	3000	店舗数	45
階数	地下1 地上2	吹抜け	あり	通り空間	あり				
配置	直線上	広場	あり	分類	notenclosed				
類型	複数棟 (群保存)	水場	なし	元構造	レンガ造				
外観	保存。ワイン倉庫時代に運搬用として使われたレールが今もヴィラージュ内の石畳に残されている。バックヤードに新築の建物を付加している。	植栽	enclosed	後構造	レンガ造、鉄骨造、RC造				
		斜路	なし	ステップ	あり				
内部	保存されている。	大統領フランソワ・ミッテランのグラン・プロジェクトに対し、パリ市長ジャック・シラクはベルシーのワイン倉庫群の再開発を目論んでいたが、その矢先の1986年、大統領はその一部のクール・サン・テミリオンを文化財登録して市長の計画に横槍を入れた。市長はそれを逆手に取り、歴史的建造物を保存しつつ内部をショッピングモールに賦活して、大統領の挑戦を受けて立った。1990年にパリの街再開発プロジェクトのための建築コンペがおこなわれた。							

事例記号

FRA-03

首都大学東京 小林研究室



中央の通り 既存の建物の後ろに新築の建物が増築されている。



駅直結の屋外モール 外部にエスカレーターとエレベーターが設置された。



ワイン倉庫時代に運搬用として使われたレールが石畳に残されている。



裏側の新築建物



既存建物内部は保存されている。
<https://www.parisinfo.com/shopping/73909/Bercy-Village>



新築棟内部
<https://i.pinimg.com/originals/b9/fd/9d/b9fd9d77fcccc23873e9066a9037737c.jpg>



倉庫として使用されていた当時の写真
<http://www.pariszigzag.fr/histoire-insolite-paris/letonnante-histoire-de-bercy-village>



既存建築にある飲食店 レンガ壁や木の梁が保存されている。
<http://www.restoaparis.com/fiche-restaurant-paris/the-frog-at-bercy-village.html>



中央の通りに架けられたネットの日よけは、イベントによって変更することができる。
<https://i.pining.com/originals/8f/de/4a/8fde4a24b6f4e304333ec1747a10505f.jpg>

結 章

総括

総括

■傾向

既存建築活用に関する論考の変遷を追うことで、国内における既存建築に対する考察が、居住系建築や公共系建築の分野において年々充実していることを明らかにした。

また、国内外共に既存建築を利用する際には「歴史性を感じるものはなるべく全て残す」という考えが主流であり、「新風館」や「ギラデリ・スクエア」に見られるように、既存建築の重要性を判断した上で現代における妥当性に合わせ、建物を解体するという操作はあまり見られない。

・国内

国内では既存建築の立地の仕方にもよるが一棟のみの改修事例が多く、複数棟を利用したコンバージョン事例は稀であった。また、外壁を保存し、上部に存在を感じさせないようなガラスファサードの高層ビルを新築する場合が多い。

・国外

国外では複数棟を利用したコンバージョン事例を多く確認することができた。また、既存建築を利用する際には新旧の対比を大胆に行う点が国内事例とは異なる。

■展望

国内ではいまだに大規模小売店舗へのコンバージョンは、開発一辺倒の類似操作が主流であり、建築家による議論が積極的に行われておらず、特にスーパーマーケットをキーテナントとする大規模小売店舗は新築の場合と同様に建築家に軽視されていると感じる。

大規模小売店舗を既存建築を活用したコンバージョンにより計画することは、既存建築が持つ時間の連続性に現代の活気が加算されるという相乗効果が期待され、他のビルディングタイプに既存建築を転用するよりも歴史の重みが際立つという点で有用である。

また、既存建築を利用することで動線の複雑化に頼らなくとも移動中の風景が既存と新設の組み合わせにより重層的に変化する。

以上のことから、商業建築設計の手法としてのコンバージョンの可能性を明らかにした。

■既存建築活用関連語句 (archidaily でのサイト内ヒット数)

• adaptive reuse(103)

adaptive には、「[新しい環境・異なる状況などに] 適応 [順応] できる」という意味があり、性質や用途の変換だけにとどまらず、より良い環境を整えるというニュアンスで建築の転用の際に用いられる。

• additions(426)

「[機器の機能などの] 追加と改善、[建物の] 改築」という意味を持ち、付加するというニュアンスで、建物の増築をする場合に用いられることがある。

• authentic(287)

「本物の、正真正銘の、真正の、真の、れっきとした～」という意味で、何かが偽物や複製されたものでないことを意味する。それまで誰も考え付かなかったようなものが original で、その後似たような製品が競って作られる中で、本物の製品として君臨しているものを authentic で表現する。

• conservation(641)

「[自然・文化財などの] 保護、保存」という意味であり、既存建築を保存した活用の際に用いられることが多い。

• conversion(342)

「[性質や用途などの] 変更、転換」や「[信念や宗教などの] 転向、改宗」などの意味があり、既存建築を活用しつつ新しい機能を創造するというような、劇的な変化を含むことがある。

• disturb (87)

「[平安や静けさを] 乱す、破る、かき乱す」という意味であるが、「(人) を起こす、～を目覚めさせる」という意味を含み、既存建築を復元して活用する場合に用いられることがある。

• installed(1299)

「設置される [取り付けられる]」という意味であり、既存外壁への操作の説明の際に用いられることが多い。

• restoration(576)

「[以前の状態の] 復元、復原、[壊れたものなどの] 復旧、修復」という意味で、既存建築を修復して活用する際に用いられる。

• reconstruction(430)

「再建、復興、改造、改築、復元、復元物」などの意味がある。

• replacement (211)

「交代、返却、交換、取り換え、差し替え、引換交付」という意味で、レンガ壁にの一部分を新設する場合などに用いられる。

• renovation (1743)

「〔古い建物・部屋・家具などの〕修復、修理、改築、リフォーム」という意味の他に「革新、刷新」などの意味がある。用途変更のイメージを持たれないことが多いが、「革新、刷新」というニュアンスで用途変更された事例に用いられることがある。

• reform (115)

一般にイメージされる建物のリフォームは和製英語であるが、「〔組織などの〕改革、刷新」や「〔制度などの〕修正、訂正」のような意味から、既存建物を再編成し活用するような場合に用いられる。

• reutilization (9)

既存建築の外壁などを「再利用」して用いる場合などに使用されるが、資源の再利用という場合にも用いられる場合が多い。

• revitalization (187)

「再生、再活性化、回復、蘇生」という意味で、歴史があるにも関わらず利用されずに荒廃してしまった場所を再生する手段として既存建築を活用する場合などに用いられる。

• renewal (350)

「更新、更改、再生、再開、再開発、刷新」という意味だが、インテリアの改装を示す場合が多い。

• refurbishment (512)

「改装」という意味で、用途の変更はなされないことが多い。renovation と同じカテゴリーのものを多く含む。

• rehabilitation (375)

「〔壊れた建物などの〕復旧」という意味で、既存建築を活用したものでは restoration や extention のカテゴリーの事例がヒットすることが多い。医療的なリハビリ施設のヒットも多くある。

• recycled (1027)

「〔デザインなどが〕二番煎じの」という意味があるが、既存建築を再利用するというニュアンスである。既存建築の活用では、adaptive reuse のカテゴリーに属するものが多い。

- redevelopment (436)

「再開発」という意味で、既存建築を活用した事例の場合は disturb と用いられることがある。refurbishment と同じカテゴリーのものが多い。

- repurpose

「〔既存のものを〕別の目的で〔用途に〕使う」という意味であり、使用する目的を意識して転用すると意味合いで adaptive reuse と近い。

新建築 1940~2018

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
1	1940		○		N邸	大倉土木株式会社	×				
2	1941		○		茶房「三茶」	小崎修	×				
4	1941		○		M氏邸	アルヌルフ・ペツオルド 杉本勇雄	×				
5	1943		○		本所病院ペスト病舎増築工事	東京市建築部	×				
6	1943		○		大阪市立生活科学研究所増築工事	大阪市設計部	×				
7	1948		○		東京植木株式会社関西支店	三座建築事務所	×				
8	1949	10	○		崖上の改造住宅	前川國男建築設計事務所	×				
9	1950	3	○		角地に建つ喫茶店	PAC	×				
10	1950	6	○		S氏邸	三苫正光	×				
11	1950	10	○		AIU賓客用ハウス	松本巍建築設計事務所	×				
12	1951	3	○		法務庁庁舎	—	×				
13	1951	5	○		改装されたホテル・マルエイ	村野・森建築事務所	×				
14	1952		○		リーマン邸	鷺塚建築設計事務所	×				
15	1952		○		梅花学園・体育館	三座建築事務所	×				
17	1952		○		完之荘	早稲田大学施設部営繕課	×				
18	1953	2	○		コンステレーション・バー	ブレドリック・ホッファー事務所	○	図書室	バー	公共系	飲食系
19	1953	5	○		千草	今西デザインルーム	×				
20	1953	8	○		デパートの改造—そごう百貨店	村野・森建築事務所	×				
21	1954	1	○		名星幼稚園	樋田力	×				
22	1954	1	○		うなぎや川松	遠藤建築設計事務所	×				
23	1956	3	○		栃木会館	sibaoka isao	×				
24	1956	8		○	葦山代官江川邸について	大河直躬	—				
25	1956	9		○	改造による新しい機能の獲得	久慈惇・遠藤勝勸	—				
26	1956	12	○		改造による幼稚園	菊竹清訓	○	工場(タイヤ)	幼稚園	産業系	保育系
27	1956	12	○		名古屋市立第一幼稚園	名古屋市建設局建築部学校建築課	×				
28	1957	3	○		M氏邸の増築	早大吉阪研究室	×				
29	1957	6	○		城郭を改造した博物館(海外)	L・ベルジョヨゾ	○	城郭	博物館	遺産系	公共系
30	1957	10	○		キャノン・ショールーム	Sirof等・芦原義信協力	×				
31	1957	12	○		そばや 紅梅庵	斎藤寅郎	○	住宅	そばや	居住系	飲食系
32	1959	3		○	京都御所内「小御所」の復元について	石川忠	—				
33	1959	7	○		原宿の家	前川國男建築設計事務所	×				
34	1961	5	○		画家の家	東京工業大学清家研究室	×				
35	1961	3		○	古びについて	清水一	—				
36	1961	8	○		立教大学図書館	丹下健三研究室	×				
37	1963	6	○		中野の家	末松設計事務所	×				
38	1963	12	○		料亭新喜楽	吉田五十八	×				
39	1964	10		○	AIA,帝国ホテル復元に協調を要望	—	—				
40	1965	3	○		料亭 川甚	中村登一建築研究所	×				
41	1965	6	○		大阪駅前の改造始まる	—	×				
42	1965	6	○		草津大東ホテル	田中建築事務所	×				
43	1965	7	○		箱根の関所の復元	早大教授田辺泰	×				
44	1965	7		○	史都計画(京都)	沖種郎 他	—				
45	1965	8	○		つる家	吉田五十八	○	別荘	料亭	居住系	飲食系
46	1965	12		○	史都計画批判	高口恭行・田端修	—				
47	1966	6	○		石塚産婦人科の増築	まさみ・さとう設計事務所	×				
48	1966	10	○		新橋東口市街地改造ビル	佐藤武夫設計事務所	×				
49	1966	11	○		大阪ガスビル	安井建築設計事務所	×				
50	1966	12		○	建築の生と死に関するノート	—	—				
51	1967	3	○		武庫川学院・甲子園会館	竹中工務店	○	ホテル	学生寮	居住系	居住系
52	1967	5		○	近代建築の保存への姿勢	近江栄	—				
53	1967	6	○		西阪神ビル	日建設計工務	○	貸し事務所	ホテル	事務所系	居住系
54	1967	9		○	帝国ホテル旧館第三次保存運動	沖種郎	—				
55	1967	12		○	帝国ホテルを考える	(多数)	—				
56	1968	5		○	三菱旧一号館の取り壊し	—	—				
57	1968	8		○	東京中央電信局取り壊し	—	—				
58	1968	10		○	再生する都市建築	新建築編集部	—				
59	1969	2		○	「明治洋風建築」保存リストまとまる	—	—				
60	1969	3	○		パイオニア広島ショールーム	鹿島建設設計部	○	ビル	ショールーム	事務所系	展示系
61	1969	4	○		ニュースカイホテル	志賀建設	×				
62	1969	5		○	旧近衛師団庁舎取り壊しに意見書	—	—				
63	1969	5	○		コートハウスの増改築	板倉準三建築研究所	×				
64	1969	5	○		続・坪井教授の家	清家研究室+坪井研究室	×				
65	1969	8	○		再生した鎌倉近代美術館	板倉準三建築研究所	×				
66	1970	7	○		箕面観光ホテルの増築	板倉建築研究所	×				
67	1970	9	○		垂水市役所の庁舎の増改築	衛藤建築設計事務所	×				
68	1970	12	○		小西本社屋	竹中工務店	×				
69	1971	1	○		東洋信託銀行大阪駅前支店	三座建築事務所	○	商店	銀行	小型店舗系	事務所系
70	1971	1	○		続 私の家	清家清+デザインシステム	×				
71	1971	4	○		井筒屋本店増改築	日建設計大阪事務所	×				
72	1971	8	○		三越松山支店	横河建築設計事務所	×				
73	1971	10	○		山王の家	デザインシステム	×				
74	1972	2		○	保存と開発をめぐる	—	—				
75	1972	10		○	旧近衛師団司令部が近代美術館分館に	—	—				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
76	1972	11	○		鶴屋百貨店本店	日建設計	×				
77	1973	3	○		高輪プリンスホテル洋館改装	村野・森建築事務所	○	邸宅	宴会室	居住系	飲食系
78	1973	7	○		O邸の改造	板倉準三建築研究所大阪事務所	×				
79	1973	8	○		水かがみの間 名古屋「河文」座敷	谷口吉郎	×				
80	1973	11	○		松山市庁舎	石本建築事務所	×				
81	1974	1	○		彫刻の森ホテル	鹿島建設	×				
82	1974	4	○		広島グランドホテル新館	清水建設	×				
83	1974	5		○	歴史的空間の現在1	長谷川堯	—				
84	1974	6		○	歴史的空間の現在2	長谷川堯	—				
85	1974	7	○		倉敷アイビースクエア	浦辺建築事務所	○	工場	複合商業施設	産業系	居住系
86	1974	7		○	歴史的空間の現在3	長谷川堯	—				
87	1974	8		○	歴史的空間の現在4	長谷川堯	—				
88	1974	10		○	中京郵便局「外壁保存」で改築	—	—				
89	1974	11	○		ヤマギワ・ライティング・ハウス	L.D.ヤマギワ研究所	○	幼稚園	ショールーム	保育系	展示系
90	1975	2		○	日銀大阪支店本館 永久保存に	—	—				
91	1975	2	○		東京芸大陳列館 45年ぶりに改装	—	×				
92	1975	4	○		ホテル「嵐亭」	指宿真智雄	×				
93	1975	4		○	歴史的空間の現在5	長谷川堯	—				
94	1975	5		○	居候の建築	木島安史	—				
95	1975	5	○		東京大学工学部六号館増築	香山アトリエ	×				
96	1975	5	○		日本橋東海ビル	日建設計・東京	○	銀行	オフィスビル	事務所系	事務所系
97	1975	5	○		辻氏住宅改装	中島龍彦建築事務所	×				
98	1975	5		○	歴史的空間の現在6	長谷川堯	—				
99	1975	11	○		倉敷中央病院第1期	浦辺建築事務所	×				
100	1975	11		○	歴史的空間の現在10	長谷川堯	—				
101	1975	12		○	歴史的空間の現在11	長谷川堯	—				
102	1976	1		○	フランス	羽生修二	—				
103	1976	1	○		善光寺別院願王寺	AZ Institute 山崎泰孝	×				
104	1976	2	○		五千尺旅館	村田政真建築設計事務所	×				
105	1976	3		○	「東銀本店」顛末記	—	—				
106	1976	4	○		国際文化会館 増改築	前川國男建築設計事務所	×				
107	1976	5		○	明治村「旧帝国ホテル」復元される	—	—				
108	1976	6	○		松尾神社	木島安史＋YAS都市研究所	×				
109	1976	8		○	中京郵便局―旧京都郵便電信局の増改築	郵政省大臣官房建築設計課	×				
110	1976	9	○		もくせいのある家	アトリエ515A	×				
111	1976	9	○		鎌倉の家	清家清＋デザインシステム	×				
112	1977	2	○		歌舞伎座増築	木村建築設計事務所・砦建築総合研究所	×				
113	1977	4	○		サウンド・シティ	鹿島建設	○	ボーリング場	ーディングスタ	娯楽系	小型店舗系
114	1977	4		○	建築の再生と、これからのレコーディングスタジオについて	—	—				
115	1977	6		○	同志社大学ハリス理科学館の保存工事終わる	—	×				
116	1977	6	○		ロンシャン本社ビル―改装	竹中工務店	×				
117	1977	7	○		常陸宮邸	村野藤吾 宮内庁管理部	×				
118	1977	8	○		農家の改造―笠幡の家	独楽蔵	×				
119	1977	8	○		ある民家の再生	日本設計事務所大阪支社	×				
120	1977	9	○		明治やフードプラザ広尾	清水建設建築設計本部	○	配送センター	店舗	産業系	商業系
121	1977	10		○	保存について近頃また考えること	長谷川堯	—				
122	1977	11	○		岡山中央郵便局	郵政省大臣官房設計部	×				
123	1978	1	○		工芸館に再生―旧近衛師団	谷口吉郎	○	庁舎	美術館工芸館	公共系	公共系
124	1978	1		○	リサイクリング時代の本格的な展開	村松貞次郎	—				
125	1978	5	○		熊本地方・簡易裁判所合同庁舎	最高裁判所事務総局経理局営繕課	×				
126	1978	5	○		日本通運ビルディング 外装のリノベーション	日通不動産	×				
127	1978	5	○		中京郵便局庁舎	郵政大臣官房建築部	×				
128	1978	10		○	「山口県旧県議会議事堂」―「資料館」で永久保存	—	—				
129	1978	12	○		福岡山の上ホテル	清水建設建築設計本部九州支店設計課	×				
130	1979	1	○		新宿ステーションビル	鉄道会館設計事務所	×				
131	1979	3	○		銀座ハタビルの改装	大成建設	×				
132	1979	5		○	心象に写す 近代建築保存の原点	村松貞次郎	—				
133	1979	7	○		金沢市立図書館	谷口吉郎	×				
134	1980	5		○	明治村 新たに3件が移築	—	—				
135	1980	9	○		上野松坂屋の改装	竹中工務店・鈴木エドワード建築設計事務所	×				
136	1980	9		○	遠藤新の旧近藤邸―移築・保存に決まる	—	○	住宅	結婚相談所	居住系	公共系
137	1980	9	○		山の上ホテル本館改修	アトリエ・アイ	×				
138	1980	9		○	いま、保存の季節はめぐる	新建築社編集部	—				
139	1981	1	○		近代建築の再生・原美術館	原俊夫	○	住宅	美術館	居住系	公共系系
140	1981	1	○		利賀山房	磯崎新アトリエ	○	住宅	劇場・舞台	居住系	公共系
141	1981	2	○		名古屋市公会堂・改修	戸田建設	×				
142	1981	3	○		日本コロムビア録音スタジオ	清水建設	×				
143	1981	5		○	日銀松山と三銀京都の改築計画の要望書	日本建築学会	—				
144	1981	6	○		番匠邸・増築	安藤忠雄建築研究所	×				
145	1981	7	○		VIA・明治画廊	清水峰次 建築・環境研究室	○	事務所兼倉庫	ギャラリー	産業系	展示系
146	1981	7	○		新喜楽 竹の間	板垣元彬建築事務所	×				
147	1981	9	○		横浜開港資料館	浦辺建築事務所	○	領事館	資料館	公共系	事務系
148	1981	10		○	兵庫県庁南庁舎が現地保存へ	—	—				
149	1982	2	○		三国町郷土資料館	品川建築事務所・神谷建築事務所	×				
150	1982	2		○	よみがえった幻の名建築 港町みくに	—	—				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
151	1982	3	○		角田山妙光寺客殿	東京工業大学茶屋研究室	×				
152	1982	6	○		改修一北野らんぶ館	天藤建築設計事務所	×				
153	1982	7	○		栃木県立美術館常設展示場	栃木県土木部建築課 川崎清＋環境建築研究所	×				
154	1982	8		○	歴史を継承する新建築会館	－	－				
155	1982	8	○		札幌の家 自邸増築	上遠野建築事務所	×				
156	1982	9	○		白鹿記念酒造博物館 白鹿記念館	大林組	○	酒造	博物館	産業系	公共系
157	1982	10		○	小樽市で小樽倉庫を買い上げ保存	－	－				
158	1982	12	○		川口金属工業事務棟	RE設計事務所	×				
159	1983	1	○		ギャラリー上田 ウエアハウスギャラリー	DEN住宅研究室	○	倉庫	ギャラリー	産業系	展示系
160	1983	1	○		雅陶堂ギャラリー竹芝	インテルナ・ミラノ	○	倉庫	ギャラリー	産業系	展示系
161	1983	3		○	福岡県庁舎の保存をめぐる	大森久司	－				
162	1983	3		○	三井銀行京都支店の改築について	山崎正史	－				
163	1983	3		○	山形県旧県庁舎の保存と活用	大間利雄	－				
164	1983	3		○	旧豊多摩監獄の消滅	藤森照信	－				
165	1983	3		○	建築的想像力の試される時	長谷川堯	－				
166	1983	3	○		建築会館	秋元和雄設計事務所	×				
167	1983	3	○		神戸市立博物館	神戸市住宅局営繕部 板倉建築研究所大阪事務所	○	銀行	博物館	事務所系	公共系
168	1983	3		○	神戸・博物館	太田隆信	－				
169	1983	3	○		群馬会館	群馬会館改修設計共同企業体	×				
170	1983	3	○		慶應義塾図書館・旧館	楨総合計画事務所	×				
171	1983	3	○		長瀬産業本社ビル	竹中工務店	×				
172	1983	3	○		大谷大学本部研究室棟	川崎清＋環境・建築研究所	×				
173	1983	3	○		北大路高野団地集会場	川崎清＋環境・建築研究所	○	工場汽罐室	集会場	産業系	公共系
174	1983	3		○	イタリア人の都市再生	陣内秀信	－				
175	1983	3	○		姫路市立美術館	創設計事務所	○	市庁舎	美術館	公共系	公共系
176	1983	3	○		六甲パインモール	竹中工務店	○	紡績工場	インテリアマート	産業系	商業系
177	1983	3	○		如水会館	三菱地所	×				
178	1983	3	○		大龍堂書店	吉村篤一 建築環境研究所	×				
179	1983	3	○		長野の家	小野建築・環境計画事務所	×				
180	1983	3	○		賀川豊彦記念松澤資料館・松澤幼稚園	阿部勉 アルテック建築研究所	○	教会堂	幼稚園	公共系	保育系
181	1983	4	○		加藤近代美術館	富樫耕一	○	商店	美術館	商業系	公共系
182	1983	4	○		鈴鹿電気通信学園体育館	日本電信電話公社建築部	○	格納庫	体育館	産業系	公共系
183	1983	6		○	南部町郵便局の改修工事終了	－	－				
184	1983	8	○		早稲田のゲストルーム	設計組織アモルフ	○	店舗	事務所兼応接室	商業系	事務所系
185	1983	12	○		旧たくんち	倉本たつひこ建築計画室	○	住宅	事務所	居住系	事務所系
186	1984	1	○		改造/建築家のオフィス	張清嶽	○	診療所	設計事務所	医療系	事務所系
187	1984	1	○		旧倉敷市庁舎 美術館に 一近代建築の保存の時期	浦辺建築事務所	○	市庁舎	美術館	公共系	公共系
188	1984	2	○		袖ヶ浦町庁舎	榎本建築設計事務所	×				
189	1984	2	○		御代田の家	小沢明建築研究室	×				
190	1984	6	○		東京大学経済学部校舎増築案	香山アトリエ/環境造形研究所	×				
191	1984	8	○		千石の増築	葛西秀一郎	×				
192	1984	11		○	「ガラス資料館」新装オープン	－	－				
193	1984	11	○		緑艸舎	宮本忠長建築設計事務所	○	民家	設計事務所	居住系	事務所系
194	1985	1	○		京都三井ビルディング	久米建築事務所	○	銀行	オフィスビル	公共系	事務所系
195	1985	2	○		イメージの継承 千松会館	戸所岩雄・計画工房	×				
196	1985	3		○	ヨーロッパにおけるコンサーベーション	田原幸夫	－				
197	1985	4	○		「主婦の友舎」外壁保存で建て替え	磯崎新アトリエ	－				
198	1985	5	○		ホテルレビュー(海外)	鹿島建設	○	民家	ホテル		
199	1985	5	○		コンサートホール 西の洞	Team Zooアトリエモビル＋小林誠	○	家屋	コンサートホール		
200	1985	6	○		パルプショップ	隈研吾＋TLヤマギワ研究所	×				
201	1985	6	○		旧・高輪消防署の保存再利用	東京消防庁総務部施設課	×				
202	1985	6	○		旧・兵庫県庁舎の現地保存・再利用	兵庫県都市住宅部営繕課・設備課	○	県庁舎	迎賓館・資料館	公共系	公共系
203	1985	7	○		コープビレッジ神泉	井上英夫建築設計事務所	○	小学校	セミナーハウス	教育系	居住系
204	1985	8	○		蒲江町立蒲江中学校特別教室棟	青木茂建築工房	×				
205	1985	8	○		御堂筋又一ビル	竹中工務店	○				
206	1985	10	○		多田善昭の仕事場	多田善昭建築設計事務所	○	教会館	事務所	公共系	事務所系
207	1985	11	○		川崎市立葬祭場	川崎市建築局 神谷・荘司計画設計事務所	○	資材置き場	設計事務所	産業系	事務所系
208	1985	12	○		鳥羽グランドホテル増築	土岐新建築総合計画事務所	×				
209	1985	12	○		すやー改造	白井晟一研究所・白井昱磨	×				
210	1985	12	○		渋谷東急プラザ	浜野商品研究所	×				
211	1986	1	○		東京ガス新宿総合展示場	石山修武＋ダムダン空間工作所	×				
212	1986	3	○		イサムノグチアトリエ	イサムノグチ 山本忠司	○	民家・倉	アトリエ・展示場	居住系	展示系
213	1986	4	○		水月園ーカ「長生風呂」	羽深隆雄 梅工房設計事務所	×				
214	1986	6	○		赤福本店五十鈴茶屋	竹中工務店	×				
215	1986	10	○		熊本マリスト学園増改築	野中建築事務所	×				
216	1986	10	○		脇町立図書館	神戸大学重村研究室 Team Zooいるか設計集団	○	土蔵群	図書館	産業系	公共系
217	1986	12	○		スーパー梱包計画	山本理顕設計工場	×				
218	1987	3	○		大同生命福岡支社旧社屋の移築再生保存	指宿真智雄	○	社屋	郷土物産館	事務所系	公共系
219	1987	4	○		太平エンジニアリングビル新宿	船越徹＋ARCOM	×				
220	1987	4		○	ニューヨークにおけるアールデコ	青木茂	－				
221	1987	4		○	近代大名の館を再現する	早川正夫	－				
222	1987	5	○		旧東京音楽学校泰楽堂	文化財建造物保存技術協会	×				
223	1987	5	○		日本火災横浜ビル	日建設計	×				
224	1987	7	○		盈進学園東野高校	環境構造センター	×				
225	1987	8	○		大日本製薬本社ビル増築	竹中工務店	×				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
226	1987	8	○		VILLA DEL SOL	志水正弘 林公子	○	個人図書館	ホテル	公共系	居住系
227	1987	9	○		福岡大同生命ビル	指宿真智雄・建築デザイン	×				
228	1987	11	○		装冠の建築V-DOREMI・fa	アルキービ建築・造形・計画事務所	×				
229	1987	12	○		千葉英和高等学校	内井昭蔵建築設計事務所	×				
230	1987	12	○		やまと保育園改装	笠嶋建築工房	×				
231	1987	12	○		サッポロビール開拓使麦酒記念館	大成建設	×				
232	1988	1	○		お茶の水スクエアA館	磯崎新アトリエ	×				
233	1988	2		○	古都倉敷の都市設計を織りなす大切な「横糸」	西和夫	―				
234	1988	6	○		平福記念館	大江宏建築事務所	×				
235	1988	7	○		ベルリン日独センター(海外)	黒川記章建築都市設計事務所+山口泰治	×				
236	1988	8		○	洋風街並みの保存再生―函館の倉庫群	田村明	―				
237	1988	8	○		JR四国・駅舎改修工事	山本忠司建築総合研究室	×				
238	1988	9		○	保存の現場から	村松貞次郎	―				
239	1988	9		○	＜保存と再生＞の新しい視座を求めて	石田繁之介	―				
240	1988	9	○		函館ウォーターフロント(函館ヒストリープラザ)	北海道岡田新一設計事務所	○	倉庫	商業施設	産業系	商業系
241	1988	10	○		インテリアランドスケープ3題	早川邦彦建築研究室	×				
242	1988	11	○		金陵の郷	大成建設	○	酒蔵・工場	博物館・店舗	産業系	公共系
243	1989	2	○		京都府京都文化博物館	京都府土木建築部営繕課等	×				
244	1989	4	○		東京大学御殿下記念館	芦原建築設計研究所	×				
245	1989	6	○		日本火災横浜ビル	日建設計・東京	○	銀行	オフィスビル	事務所系	事務所系
246	1989	8		○	近代木造住宅の解体・移築・保存	内田祥士	―				
247	1989	8	○		エスカミューズ	若林広幸建築研究所	○	倉庫	飲食店	産業系	飲食系
248	1989	10		○	銀行倶楽部と第一生命館	―	―				
249	1989	10	○		日本信託銀行本店	板倉建築研究所東京事務所	×				
250	1989	10	○		蘇生―塚口ステップナウ今西Ⅲ	木村博昭 KsArchitects	×				
251	1989	12	○		アドバンテスト・ゲストハウス	佐々木宏建築研究室	○	ホテル	ゲストハウス	居住系	居住系
252	1989	12	○		セゾン美術館	アーキテクトファイブ 竹中工務店	○	百貨店一部	美術館	百貨店系	公共系
253	1989	12	○		玉川高島屋SC本館20周年リニューアル	彦坂裕 スペースインキューベータ	×				
254	1990	2	○		伊丹市立工芸センター・美術館増築	伊丹市建設部建築課+板倉建築研究所大阪事務所	×				
255	1990	2	○		有楽町1丁目ビル	清水建設一級建築士事務所 ケヴィンローチ等	×				
256	1990	3	○		寛明堂写真館	ライブ設計室	×				
257	1990	9	○		横浜指路教会	堀江悦男設計事務所	×				
258	1990	9	○		盛田味の館	アートステージ	○	酒倉	店舗	産業系	小型店舗系
259	1990	11	○		TERRADA 寺田倉庫本社改装	上田徹・玄総合設計	×				
260	1990	12	○		文房堂ビル	佐野建築研究所	×				
261	1991	3		○	建築学会が同志社中・高等学校の保存を要望	―	―				
262	1991	3	○		孔子廟改修	葉デザイン事務所	×				
263	1991	4	○		修善寺フォーラム渡月 1990	富永譲+ファルムシステム研究所	×				
264	1991	7	○		ホテル石松	青木茂建築工房	×				
265	1991	10	○		日総リッツカールトナーサンフランシスコ	鹿島アソシエーツ	○	事務所	ホテル	事務所系	居住系
266	1991	12	○		やませ蔵美術館	二宮設計事務所	○	蔵	美術館	産業系	公共系
267	1991	12	○		由布院駅舎	磯崎新アトリエ	×				
268	1991	12	○		山口蓬春記念館	大江匡 ブランテック	×				
269	1991	12	○		新南座	杉山隆建築設計事務所	×				
270	1991	12	○		キクカワ・テクノ・プラザ(ジョイガーデン・工場改修)	アーキドリーム+鈴木アーキテクト	×				
271	1992	1		○	竹中工務店が東京理科大学旧校舎を復元	―	―				
272	1992	1	○		目黒雅叙園	日建設計	×				
273	1992	7	○		竹茂桜	杉山隆建築設計事務所	×				
274	1992	7	○		田川市文化エリア	徳岡昌克建築設計事務所	×				
275	1992	9	○		サッポロビール園ポブラ館	大成建設 久保勝彦	×				
276	1993	2	○		大槌ギャラリー	大江匡 ブランテック	×				
277	1993	2	○		川越龜屋	大江匡 ブランテック	×				
278	1993	3	○		第4銀行本店	清水建設	○	事務棟	営業室棟	事務所系	事務所系
279	1993	11		○	旧法務省本館改修工事が行われる	―	―				
280	1993	11	○		駒沢オリンピック公園総合運動場・体育館・管制塔(改修)	芦原建築設計研究所	×				
281	1993	11	○		あいく幼稚園ANNEX	岩本秀三設計事務所	×				
282	1994	1	○		DNタワー21(第一・農中ビル)	清水建設一級建築士事務所 ケヴィンローチ等	×				
283	1994	2		○	栃木県庁本館・自由学園明日館の保存要望書	―	―				
284	1994	2		○	近代主義建築は残せるか	村松貞次郎	―				
285	1994	2		○	記憶と創造が出会う場所	中川武	―				
286	1994	3	○		カトリック川越教会	中屋伸茂+央建築設計事務所	×				
287	1994	4	○		三越倉敷川館	浦辺設計	×				
288	1994	4	○		大原美術館本館増築	浦辺設計	×				
289	1994	4	○		宇部市渡辺翁記念館改修	村野・森建築事務所	×				
290	1994	8	○		日本理容美容専門学校	武市義雄+REA建築工房	×				
291	1994	9	○		中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟	建設大臣官庁官庁営繕部	○	司法省本館	法務省研究所・図書館	公共系	公共系
292	1994	9	○		ヤナコグループ社屋	海老沢宏環境工房	○	民家	オフィス	居住系	事務所系
293	1994	11		○	県立音楽堂の改修再生決定	―	○	音楽堂	芸術総合施設	公共系	公共系
294	1994	11		○	近代主義建築はいかに生き残せるか	馬場璋造	―				
295	1995	2	○		佐倉市立美術館	板倉建築研究所東京事務所大阪事務所	○	銀行	美術館	事務所系	公共系
296	1995	4		○	「大分県立図書館」保存問題をめぐって	青木茂	―				
297	1995	4	○		千葉市美術館・中央区役所	大谷幸夫・大谷研究室	○	銀行	美術館・区役所	事務所系	公共系
298	1995	4	○		野田市兵衛商店/BRIDGES	ワークショップ	×				
299	1995	5		○	鎌倉市立御成小学校・JR軽井沢駅舎で保存活動展開	―	―				
300	1995	5	○		四季彩ー力	羽深隆雄 梅工房設計事務所	×				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
301	1995	7	○		ホテルプレストンコート	東孝光＋東環境・建築研究所/東利恵	×				
302	1995	8	○		在日アメリカ大使館大使公邸修復	RTKL	×				
303	1995	11		○	古きものからのメタモルフォーゼ	上松佑二	－				
304	1995	11	○		善光寺外苑－西の門	アトリエ・メタモルフォーゼ 植松裕二研究室 北野建設	○	土蔵群	レストラン	産業系	飲食系
305	1995	11	○		山梨学院大学院棟	高垣建築総合計画	×				
306	1995	12	○		降星の臺	新田正樹建築空間アトリエ	×				
307	1996	1	○		DNタワー21(第一・農中ビル)	清水建設一級建築士事務所 ケヴィンローチ等	×				
308	1996	5	○		酒蔵ホール	若竹・聖設計共同体	○	酒造	ホール	産業系	公共系
309	1996	6	○		東京都新宿区立西戸山小学校(内部改修)	東京都新宿区建築部営繕化課 藤木隆男建築研究所	×				
310	1996	7	○		ミュージアムパーク アルファビア	武田光史建築デザイン事務所	○	倉庫	館・ギャラリー・	産業系	公共系
311	1997	2	○		蔵史館 金山町街並みづくり資料館	林寛治＋林哲也	○	土蔵	資料館	産業系	公共系
312	1997	4	○		ホテルプレストンコート(レストラン棟)	東孝光＋東環境・建築研究所/東利恵	×				
313	1997	4	○		大阪松坂屋	ユ－・アソシエイツ	×				
314	1997	5	○		スタジオKAZ	松島健建築設計事務所	○	工場	アトリエ	産業系	展示系
315	1997	5	○		金沢市民芸術村	水野一郎＋金沢計画研究所	○	倉庫	芸術複合施設	産業系	公共系
316	1997	5	○		大手町野村ビル	大成建設一級建築士事務所	×				
317	1997	5		○	都市の継承	村松貞次郎	－				
318	1998	2	○		熊本県立天草工業高等学校	室伏次郎/スタジオ アルテック＋SDA建築設計事務所共同体	×				
319	1998	4	○		旧門司税関	大野秀敏＋アブル総合計画事務所	○	税関庁舎(倉庫)	文化施設	産業系	公共系
320	1998	5		○	旧第一銀行熊本支店を保存	石井清喜	－				
321	1998	6	○		海岸ビル	昭和「飛行機工業」竹中工務店	×				
322	1998	6	○		酒ミュージアム 酒蔵館	大林組本店設計部	○	大蔵	ミュージアム	産業系	公共系
323	1998	6	○		旧神戸居留地十五番館	文化財建造物保存技術協会	○	ホテル	レストラン	居住系	飲食系
324	1998	7	○		群馬県立近代美術館現代美術棟	磯崎新アトリエ 中森紫光建築工房	×				
325	1998	7	○		アートプラザ 磯崎新記念館	磯崎新アトリエ 山本靖彦建築設計工房	○	図書館	ギャラリー	公共系	展示系
326	1998	7	○		早稲田大学曾津八一記念博物館	早稲田大学古谷誠章研究室	○	図書館	博物館	公共系	公共系
327	1998	7	○		国立西洋美術館	建設省関東地方建設局営繕課 前川建築設計事務所	×				
328	1999	3		○	旧毎日新聞社改修工事顚末記	若林広幸	－				
329	1999	6	○		神戸税関 本関	建設省近畿地方建設局営繕課 日建設計	○	税関庁舎	研修施設	事務所系	事務所系
330	1999	6	○		生き続ける近代建築 東京文化会館の大改修	前川建築設計事務所	×				
331	1999	7	○		直島・家プロジェクト 南寺	安藤忠雄建築研究所	○	民家(南寺)	ギャラリー	居住系	展示系
332	1999	8	○		山田洋次邸アトリエ	横河健/横河建築設計事務所	×				
333	1999	8	○		カルティエ銀座ビル	ジャン・ミッシェル・ヴィルモット	×				
334	1999	8	○		宇目町役場庁舎	青木茂建築工房	○	研修宿泊施設	庁舎	居住系	公共系
335	1999	8	○		太田市立休泊小学校	日本建築都市診断協会/田中雅美等	×				
336	1999	12	○		鎌倉市立御成小学校	久米設計	×				
337	2000	3		○	リノベーション/コンバージョン/ストック型建築へ	森島清太(KAJIMA DESUGN)	－				
338	2000	6		○	新宿三井ビルディングリニューアル	村尾成文/日本設計	－				
339	2000	8	○		古い蔵の構造体を残し新しい建築をつくる	古岡徳二デザイン研究所	○	米蔵	住宅	産業系	居住系
340	2000	9	○		FABRICA ベネトン・アートスクール(海外)	安藤忠雄建築研究所	○	ヴィラ	アートスクール	居住系	教育系
341	2000	9	○		石の美術館	隈研吾建築都市設計事務所	○	石倉	展示空間	産業系	展示系
342	2000	9	○		日本免疫治療学研究会 瀬田クリニック	辰野武山設計事務所	○	アパート	クリニック	居住系	医療系
343	2000	10		○	首相はどこに住むか	鈴木博之	－				
344	2001	1	○		南岳山光明寺	安藤忠雄建築研究所	×				
345	2001	2	○		ヴァレオ・ユニシア・トランスミッション	岡部憲明アーキテクチャーネットワーク	○	工場	オフィス	産業系	事務所系
346	2001	2	○		津田梅子記念交流館	大成建設設計本部	○	チャペル	記念館	公共系	公共系
347	2001	2	○		葉山の別荘	建築設計SPEED STUDIO	○	カラオケ等	別荘	娯楽系	居住系
348	2001	3	○		白く塗れ メゾン・マルタン・マルジェラの恵比寿のショップ	青木淳	○	民家	ショップ	居住系	小型店舗系
349	2001	3	○		新風館	NTTファシリティーズ＋リチャードロジャースパートナーシップジャパ ン	○	電話局	商業施設	事務所系	商業系
350	2001	4	○		浦安のクリニック	高橋堅建築設計事務所	×				
351	2001	5	○		松屋銀座リニューアル1期	大成建設設計本部	×				
352	2001	6		○	歴史的集合住宅の継承と再生	大月俊雄	－				
353	2001	7	○		光の学校	渡辺和生/窪田建築アトリエ	×				
354	2001	7	○		桐蔭学園 メモリアムアカデミウム	栗生明＋栗生総合計画事務所	○	裁判所法廷	大学施設	公共系	教育系
355	2001	8	○		山口きらら博 集合館	日本設計九州支社	×				
356	2001	8	○		山口きらら博 山口県館	窪田勝文/窪田建築アトリエ	×				
357	2001	9	○		東京大学総合研究博物館小石川分館	東京大学キャンパス計画室＋工学部建築研究室	○	東京医学校	展示施設	教育系	展示系
358	2001	9	○		八女市多世代交流館「共生の森」	青木茂建築工房	○	老人福祉施設	交流センター	福祉系	公共系
359	2001	10	○		直島・家プロジェクト「ぎんざ」	内藤礼	○	民家	ギャラリー	居住系	展示系
360	2001	10	○		直島「スタンダード展」旧卓球場	木村優＋アートステーション	○	卓球場	ギャラリー	体育系	展示系
361	2001	10	○		衆議院議長公邸	内井昭蔵＋内井昭蔵建築設計事務所	×				
362	2001	10		○	月評	曾我部昌史	－				
363	2001	11	○		再生したフランクロイド・ライトの空間「自由学園明日館」	文化財建造物保存技術協会	×				
364	2001	12	○		アルマーニ/テアトロ(海外)	安藤忠雄建築研究所	○	工場	劇場	産業系	公共系
365	2001	12	○		ウカイ リゾート	森義純建築設計室	×				
366	2002	1	○		逆シャッターのギャラリー PAMB	板茂建築設計	○	工場	ギャラリー	産業系	展示系
367	2002	1	○		アルテピアッツァ美唄	安田侃	○	小学校	ギャラリー	教育系	展示系
368	2002	1	○		fujikawa gallery/next	清水敏男	×				
369	2002	1	○		ISSEY MIYAKE FROM1st	ヤノベケンジ	×				
370	2002	1		○	高齢化するニュータウンに不要になったもの、必要とされるもの	上野淳	－				
371	2002	2	○		東京国立近代美術館増改築	国土交通省関東地方整備局営繕課 板倉建築研究所東京事務所	×				
372	2002	2	○		茨城県立図書館	茨城県土木部営繕課 日建設計	○	議事堂	図書館	公共系	公共系
373	2002	2	○		東京ワンダーサイト	ライフスケープ研究所	○	事務所	ギャラリー	事務所系	展示系
374	2002	3	○		M-premier 大丸心斎橋展	文田明仁デザインオフィス	×				
375	2002	4	○		東京電機大学千葉ニュータウンキャンパス増築	湯澤正信/湯澤建築設計研究所	×				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
376	2002	5	○		「旧第一銀行神戸支店」の外壁保存	大林組設計本店設計部	○	銀行	地下鉄駅舎出入口	事務所系	公共系
377	2002	6	○		横浜赤レンガ倉庫1号館・2号館	新居千秋都市建築設計	○	倉庫	商業施設	産業系	商業系
378	2002	6	○		立教大学第一食堂	立教大学管財部施設課 板倉建築研究所東京事務所	×				
379	2002	6	○		エルミタージュ・カレーム	小杉栄次郎＋内海彩/KUS	○	ガーデニング ショップ	洋菓子店舗・ ギャラリー	小型店舗系	小型店舗系
380	2002	6	○		延岡ホテル増築	小澤丈夫＋小澤エリコ/TEOarchitects	×				
381	2002	6	○		ブリテツィシュ・カウンシル東京センター	CDI青山スタジオ	×				
382	2002	7	○		国立国会図書館 国際子ども図書館	安藤忠雄建築研究所＋日建設計	○	図書館	図書館・ギャラ リー	公共系	公共系
383	2002	7	○		THE GATE	有馬裕之＋UrbanFourth	○	倉庫群	テナント・オ フィス等	産業系	事務所系
384	2002	11		○	オフィスのコンバージョン「空」を「宝」にするために	松村秀一	－				
385	2002	12	○		大阪市中央公会堂	大阪市住宅営繕部 板倉・平田・青山・新日設共同企業体	×				
386	2003	2	○		土佐山田の舎	山本恭弘/聖建築研究所	○	民家	ギャラリー	居住系	展示系
387	2003	2	○		奥備中風土記念館	丹波建築設計事務所	○	牛舎	展示資料館	農業系	公共系
388	2003	2	○		直島・家プロジェクト 護王神社	杉本博司	×				
389	2003	3	○		コムデギャルソン大阪店	カワサキタカオオフィス	×				
390	2003	3	○		長養館	志水正弘＋林公子/名城大学環境創造学科	×				
391	2003	3	○		表参道テラスハウス	堀部安嗣建築設計事務所	×				
392	2003	3	○		ピカデリー公園	安藤忠雄建築研究所	×				
393	2003	3		○	アメリカ、リノベーションの文化	小笠原正豊	－				
394	2003	4	○		旧新橋停車場復元駅舎	日本設計・JR東日本建築設計事務所	×				
395	2003	4	○		目黒区総合庁舎	安井建築設計事務所	○	本社ビル	区庁舎	事務所系	公共系
396	2003	5	○		MARUTAKI	丸山洋志/丸山アトリエ 池田昌弘/池田昌弘建築研究所	×				
397	2003	5	○		コウチマーケット	長尾亜子＋大成優子	×				
398	2003	5	○		日本工業倶楽部会館・三菱信託銀行本社ビル	三菱地所設計	×				
399	2003	6	○		武蔵工業大学SAKURA CENTER#14	岩崎堅一・武蔵工業大学岩崎研究室	○	体育館	複合施設	体育系	教育系
400	2003	7	○		華鐵	kt一級建築士事務所	○	パーキングビ ル1階	店舗	駐車場	小型店舗系
401	2003	9	○		安曇野高橋節郎記念美術館	宮崎浩/ブランツアソシエイツ	○	古民家群	美術館	居住系	公共系
402	2003	9	○		JR渋谷駅改修計画	隈研吾建築都市設計事務所 JR東日本東京支社建築課 JRE設計	×				
403	2003	11	○		玉川高島屋SC新南館	大江匡/ブランテック総合計画事務所＋松田平田設計	×				
404	2003	11	○		汐留インフィルプロジェクト	小嶋一浩＋赤松佳珠子/C+A	×				
405	2003	11	○		名水市場 湧太郎	青島裕之建築設計室	○	酒蔵	商業施設	産業系	小型店舗系
406	2003	12		○	再生こそが生	東孝光	－				
407	2003	12	○		笹田学園田町校舎	山田幸司建築都市研究所	○	オフィスビル	学校	事務所系	教育系
408	2003	12	○		cMA-1(元麻布コンバージョンプロジェクト)	池田靖史＋國分昭子/IKDS	○	写真スタジオ	集合住宅	スタジオ系	居住系
409	2003	12	○		相田みつを美術館	入江経一＋PowerUnitStudio	○	生涯学習セン ター	美術館	公共系	公共系
410	2004	1	○		横浜税関本館	香山・アブル設計共同体	×				
411	2004	1	○		上下町歴史文化資料館	斎藤正＋近畿大学工学部建築学科澤登研究室・	○	住宅	資料館	居住系	公共系
412	2004	2		○	都市空間をコンバートする	佐藤考一	－				
413	2004	2	○		ギャラリー門馬アネックス	アカサカシンイチロウアトリエ	○	住宅	ギャラリー	居住系	展示系
414	2004	4	○		京王八王子山川クリニック	藤木隆男建築研究所	○	パチンコ	病院	娯楽系	医療系
415	2004	5		○	いま建築家は何をデザインするのか「ハコ」から「こと」へ	野城智也	－				
416	2004	5	○		横浜アイランドタワー	都市基盤整備公団 楨総合計画事務所	○	銀行	オフィスビル	事務所系	複合系
417	2004	6	○		八安市立福島中学校屋内運動場	青木茂建築工房	×				
418	2004	6		○	バージョンアップするリファイン建築	青木茂	－				
419	2004	6	○		京都大学百周年時計台記念館	川崎清＋環境・建築研究所 京都大学施設・環境部	○	事務棟	記念館	事務所系	公共系
420	2004	6		○	Lattice 青山 評	新堀学	○	オフィスビル	集合住宅	事務所系	居住系
421	2004	8		○	歴史的建築物の保存再生を考える	大田道広	－				
422	2004	8	○		屋上のランドスケープ	原田真宏＋原田麻魚 mount fuji architects syudio	×				
423	2004	9		○	リノベーションプロジェクトから街の活性化を	森司	－				
424	2004	9	○		セントラルビル	日笠直彦	○	アパート	ギャラリー	居住系	展示系
425	2004	9	○		大和製菓	青木淳建築計画事務所	○	社屋	アート作品	事務所系	展示系
426	2004	9	○		植物の家	アトリエ・ワン	○	住宅	アート作品	居住系	展示系
427	2004	9		○	保存と都市再生	後藤治	－				
428	2004	9	○		金刀比羅宮プロジェクト	鈴木了二建築計画事務所	×				
429	2004	9	○		ベネッセアートサイト直島オフィス	西沢立衛建築設計事務所	○	スーパー	オフィス・ギャ ラリー	商業系	事務所系
430	2004	9	○		G	青木淳建築計画事務所	×				
431	2004	9	○		NMNL	青木淳建築計画事務所	×				
432	2004	10	○		明治安田生命ビル	三菱地所設計	×				
433	2004	11		○	再発見とリデザインから地方都市の再生を	小津誠一	－				
434	2004	11	○		交詢ビルディング	清水建設	×				
435	2004	11	○		早稲田大学本庄ドミトリー改修プロジェクト	山下設計	×				
436	2004	11	○		帝京大学八王子キャンパス 学生ラウンジ	城戸崎建築研究室	×				
437	2004	12		○	再び「ものからの反撃」の時代へ	小林正美	－				
438	2004	12	○		ディオール銀座	乾久美子建築設計事務所	×				
439	2004	12	○		松屋銀座 耐震外装	大成建設	×				
440	2005	1		○	文化財の保存と修理	内田祥哉	－				
441	2005	1	○		ゼンカイハウス	宮本佳明/アトリエ第5建築界	×				
442	2005	2	○		Y-House	Frank la Riviere.Architect	×				
443	2005	2	○		フィズ	SUPER-OS	×				
444	2005	2	○		1227号室	納屋学＋納屋新/納屋建築設計事務所	×				
445	2005	2	○		404号室	納屋学＋納屋新/納屋建築設計事務所	×				
446	2005	2		○	renovation.style	納屋学＋納屋新	－				
447	2005	3	○		NTT青山ビル改修	隈研吾建築都市設計事務所	○	オフィスビル	店舗	事務所系	小型店舗系
448	2005	3	○		COCON KARASUYAMA	隈研吾建築都市設計事務所	○	社屋	オフィス、商業 施設	事務所系	商業系
449	2005	3	○		白いおもちゃ箱	今永和利/今永環境計画	×				
450	2005	3	○		香港沙田競技場パレードリング改築計画	松田平田設計	×				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
451	2005	6	○		quaranta1966	竹中工務店＋日本建設	○	オフィスビル	集合住宅	事務所系	居住系
452	2005	6	○		IPSE都立大学	青木茂建築工房	○	オフィスビル	集合住宅	事務所系	居住系
453	2005	7	○		萬來舎継承空間	隈研吾建築都市設計事務所	×				
454	2005	7	○		千葉市立打瀬小学校増築棟	千葉市都市整備公団 小嶋一浩/赤松佳珠子	×				
455	2005	7	○		大阪証券取引所ビル	三菱地所設計・日建設計	○	事務所	事務所、店舗	事務所系	複合系
456	2005	8	○		r-ST1(松濤リノベーションプロジェクト101/103)	長岡勉＋土屋徹/point＋福津宣人	×				
457	2005	8	○		パシフィックレジデンス芝浦	長岡勉＋土屋徹/point＋松井亮/松井亮建築都市設計事務所	×				
458	2005	9		○	新たなニューヨーク近代美術館へ	谷口吉生	－				
459	2005	9	○		月影の郷	NASA設計共同体	○	小学校	宿泊体験交流施設	教育系	居住系
460	2005	10	○		民家再生計画	三分一博志＋土井一秀＋呉高専 富田研究室	×				
461	2005	10	○		三重県立美術館	三重県総務局営繕課 板倉建築研究所	×				
462	2005	10	○		小金井カントリー倶楽部クラブハウス	日本設計 山下設計	×				
463	2005	10	○		旧富士銀行横浜支店 映像文化施設	横浜市まちづくり調整局 横総合計画事務所	○	銀行	映像文化施設	事務所系	公共系
464	2005	10	○		「ルネスホール」旧日銀岡山支店改修	佐藤建築事務所/岡山県設計技術センター	○	銀行	芸術文化施設	事務所系	公共系
465	2005	10	○		金山町街並み交流サロン・ぼすと	林寛治	○	郵便局	休憩サロン	公共系	公共系
466	2005	12	○		ブリラーレ	クラインダイサムアーキテクツ	×				
467	2005	12	○		FURLA青山本店	杉千春＋高橋真奈美/プラネットワークス	×				
468	2005	12	○		ルシェルブルー神戸	内山敬子	×				
469	2005	12	○		佐伯市蒲江 海の資料館「時間の船」	青木茂建築工房	○	小学校体育館	資料館	体育系	公共系
470	2006	1	○		ロック・フィールド神戸ヘッドオフィス/神戸ファクトリー	安藤忠雄建築研究所	○	倉庫	食品工場	産業系	産業系
471	2006	1	○		日本橋三井タワー	シーザー・ベリアンドアソシエーツジャパン	×				
472	2006	1	○		ホワイトルーフ	渡部和生/惟建築計画	×				
473	2006	2	○		アーバンBLD心斎橋	プランテック総合計画事務所	×				
474	2006	2	○		井の頭の住宅	トラフ建築設計事務所/鈴木浩一＋禿真哉	×				
475	2006	2	○		松原ハウス	菊池宏建築設計事務所	○	住宅	賃貸	居住系	居住系
476	2006	2		○	設計手法のオルタナティブ	馬場正尊	－				
477	2006	3	○		cycle-かしのき保育園園庭改修プロジェクト	石原健也＋千葉工業大学石原研究室	×				
478	2006	5	○		明治生命館改修	竹中工務店	○	社屋	テナントオフィスビル	事務所系	事務所系
479	2006	7	○		武蔵野陽和会病院	渡部和生/惟建築計画＋副島建築設計事務所	×				
480	2006	7	○		東京工業大学緑が丘1号館レトロフィット	東京工業大学安田幸一研究室＋竹内徹研究室	×				
481	2006	8	○		求同学舎リノベーション	近角建築設計事務所 集工舎建築都市デザイン研究所	○	学生寮	集合住宅	居住系	居住系
482	2006	9	○		PALAZZO GRASSI(海外)	安藤忠雄建築研究所	○	邸宅	美術館	巨樹系	公共系
483	2006	9	○		TEA TRINO(海外)	安藤忠雄建築研究所	×				
484	2006	9	○		リバーリトリート雅楽倶ANEX	内藤廣建築設計事務所	×				
485	2006	9	○		銀山温泉 藤屋	隈研吾建築都市設計事務所	×				
486	2006	9	○		国際文化会館本館保存再生	三菱地所設計	×				
487	2006	9		○	これまでの50年 これからの50年	鯨坂徹 小池秋彦(三菱地所設計)	－				
488	2006	10	○		味の素グループ高輪研修センター	久米設計	○	家屋	研修センター	居住系	公共系
489	2006	10	○		南洋堂ルーフラウンジ	ブロスベクター(今村創平 南泰祐 山本相太郎)	×				
490	2006	11	○		ツォルフライン炭鉱跡リノベーション	OMA	○	炭鉱跡地施設	ミュージアム	産業系	公共系
491	2006	12	○		YKK50ビル リノベーション2006	宮崎浩/プランツアソシエイツ	×				
492	2007	2		○	建て替えと再生の狭間で	田村誠邦	－				
493	2007	2	○		笹塚の集合住宅	みかんぐみ	×				
494	2007	4		○	「三菱一号館」が美術館として展開	－	○	社屋	美術館	事務所系	公共系
495	2007	5		○	近代建築遺産は地方都市再生の核となるか	内田文雄	－				
496	2007	5	○		東京大学工学部2号館	東京大学工学部建築計画室＋キャンパス計画室・施設部	×				
497	2007	6	○		THE NATURAL SHOE STORE オフィス	OpenA	○	倉庫	オフィス	産業系	事務所系
498	2007	7		○	国際的な交流を生み出す文化遺産の保存活動	入江正之	－				
499	2007	7	○		稲田病院 産婦人科棟	松村デザイン事務所	×				
500	2007	8		○	東京中央郵便局の保存活用を検討	－	－				
501	2007	8	○		Villa Vista	飯田善彦建築工房	○	社宅	賃貸住宅	居住系	居住系
502	2007	9		○	「東京中央郵便局」再開発をめぐる	－	－				
503	2007	9		○	「大阪新歌舞伎座」「新ダイビル」の保存を要請	－	－				
504	2007	9		○	日本建築学会が建造物の評価と保存活用ガイドライン配布開始	－	－				
505	2007	9	○		太郎吉蔵	中村好文	○	石造倉庫	ギャラリー	産業系	展示系
506	2007	10		○	使いながら保存することの意味	渡邊研司	－				
507	2007	10	○		食事処「雲の庭」	富永謙＋ファルシステム研究所	×				
508	2007	10	○		大阪芸術大学	板倉建築研究所	×				
509	2007	10	○		追手門学院大学 中央棟・6号館 守衛所	三菱地所設計	×				
510	2007	11		○	安藤忠雄氏がヴェネツィアで現代美術館を手がける	－	－				
511	2007	11		○	現代における保存の論理	松葉一清	－				
512	2007	11	○		サントリーホール20周年改修	安井建築設計事務所	×				
513	2007	11	○		大隈講堂	佐藤総合計画	×				
514	2007	11	○		国立科学博物館本館改修	香山壽夫建築研究所	×				
515	2007	11	○		妻有田中文文庫	山本想太郎アトリエ	○	地域公民館	地域文庫	公共系	公共系
516	2007	12	○		YIEN EAST	隈研吾建築都市設計事務所	×				
517	2007	12	○		ドメイス・ドウ・ミクニ(「旧飯箸邸」の再生)	板倉アトリエ	○	住宅	レストラン	居住系	飲食系
518	2007	12	○		霞ヶ関コモンゲート・中央合同庁舎第7号館	久米設計・大成建設・新日鉄エンジニアリング設計	×				
519	2007	12		○	霞ヶ関ビルディング低層部改修計画	日本設計	－				
520	2008	1	○		クリスタルドーム&壱番街 高松丸亀町商店街A街区第一種市街地再開発事業	まちづくりカンパニー・シーブネットワーク(壱番街) 坂倉建築研究所(クリスタルドーム・アーケード) 設計・計画 高谷時彦事務所(レッツホール 隔地駐車場)	×	アーケード	店舗・集合住宅	商業系	居住系
521	2008	2		○	モノが語る20世紀の構想力2 モシェ・サフディのハビタ67	松村秀一	－				
522	2008	2		○	ワンルームという不動産ストックの再構築	田島則行	－				
523	2008	3	○		RENGO DMS	中田千彦＋戒居連太/連合建築社市谷建築事務所	×				
524	2008	3	○		箔座ひかり蔵	水野一郎＋金沢計画研究所	×				
525	2008	4		○	21世紀アジアの循環型都市へ	原田鎮郎	－				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
526	2008	5	○		犬島アートプロジェクト「精錬所」	三分一博志建築設計事務所	○	産業遺産	ミュージアム	産業系	公共系
527	2008	5	○		yohji yamamoto New York gansevoort street store	石上純也建築設計事務所	○	平屋	店舗	居住系	小型店舗系
528	2008	6	○		白の家・移築	白澤宏規 澤田建築研究所	×				
529	2008	6	○		東京未来大学	圓山彬雄/アープ建築研究所	○	中学校	大学	教育系	教育系
530	2008	7	○		名古屋大学豊田講堂改修	楨総合計画事務所	×				
531	2008	8		○	都市のコンバージョン	馬場正尊	—				
532	2008	8	○		HUNDRED CIRCUS East Tower	日建設計	○	シティホテル	複合施設	居住系	複合系
533	2008	8	○		SAYAMA FLAT	長坂常/スキーマ建築計画	○	社宅	賃貸マンション	居住系	居住系
534	2008	8	○		C.U.I	ナフ・アーキテクト&デザイン	○	社宅	賃貸マンション	居住系	居住系
535	2008	9	○		ハラ ミュージアム アーク増築	磯崎新アトリエ+KAJIMA DESIGN	×				
536	2008	9	○		実験装置/masia 2008	入江正之	○	民家	研究所	巨樹系	教育系
537	2008	9	○		TARO NASU	青木淳建築計画事務所	○	倉庫・作業室	ギャラリー	産業系	展示系
538	2008	9	○		文化学院	板倉建築研究所	×				
539	2008	10	○		VEGA	小泉誠	○	納屋	アートスペース	産業系	展示系
540	2008	11	○		マンハッタンのパントハウスⅡ（海外）	安藤忠雄建築研究所	○	オフィスビル	パントハウス	事務所系	居住系
541	2008	12	○		下鴨泉川亭	山本良介アトリエ	○	屋敷	迎賓館	居住系	公共系
542	2009	1		○	保存の創造性と使い続けるために必要なことー旧善通寺偕行社の修復・利用と宇多津町まちづくりー	多田善昭・中川武	—				
543	2009	1	○		重要文化財 旧善通寺偕行社＋付属棟	文化財建造物保存技術協会・堀江建築工学研究所・大建設計	○	将校の施設	会議、宴会、コンサート等	公共系	公共系
544	2009	2		○	改修して使い続けること	中園正樹	—				
545	2009	2	○		松田平田設計本社ビル リノベーション	松田平田設計	×				
546	2009	2	○		フランス大使公邸 改修	みかんぐみ・竹中工務店	×				
547	2009	2	○		浜田山の集合住宅改修	菊池宏建築設計事務所	×				
548	2009	4		○	アンケート結果に見る建築家と社会の構図	出江寛・六鹿正治・北山恒	×				
549	2009	4	○		NOWHERE BUT HAYAMA	吉村靖考建築設計事務所	×				
550	2009	4	○		高木邸	青木茂建築工房	×				
551	2009	5	○		東北大学百周年記念会館 川内萩ホール	岡部仁史＋小野田泰明	×				
552	2009	5	○		奥沢の家	長坂常/スキーマ建築計画	×				
553	2009	5	○		VERTU GINZA	クラインダイサムアーキテクツ	○	テナントビル	店舗	事務所系	小型店舗系
554	2009	5	○		北区中央図書館	佐藤総合計画	○	倉庫	図書館	産業系	公共系
555	2009	7	○		武蔵野美術大学 4号館 保存改修	芦原建築設計研究所	×				
556	2009	7	○		近江町いちば館	アール・アイ・エー	×	銀行・市場	銀行・店舗・アーケードの一部	商業系	商業系
557	2009	8	○		ひばりが丘団地ストック再生実証実験	都市再生機構＋竹中工務店	×				
558	2009	10	○		丸の内パークビルディング/三菱1号館	三菱地所設計	○	オフィス	美術館	事務所系	公共系
559	2009	10	○		東京駅丸の内駅舎保存・復原	東日本旅客鉄道東京工事事務所・東京電気システム開発工事事務所	×				
560	2009	11		○	日土小学校の保存再生がくれた夢	花田佳明	—				
561	2009	11	○		FTK BLD.	青木茂建築工房	○	医院	医院、テナント、賃貸住宅	医療系	事務所系
562	2009	11	○		後藤寺サクラ園	青木茂建築工房	○	旧国鉄寄宿舍	高齢者向け賃貸住宅、デイサービス	居住系	居住系
563	2009	11	○		ルミナスコート壱番館	青木茂建築工房	○	寮	社宅、賃貸住宅	居住系	居住系
564	2009	11	○		クローチェ神宮前ビル	青木茂建築工房	○	自社ビル	テナントビル、店舗	事務所系	事務所系
565	2009	11		○	建築再生における利用の構想力 リノベーションアーカイブ1990-2009	佐藤考一	—				
566	2009	12	○		プンタ・デラ・ドガーナ再生計画	安藤忠雄建築研究所	○	税関倉庫	美術館	産業系	公共系
567	2009	12	○		山古志闘牛場リニューアル	山下秀之/長岡造形大学山下研究室＋大原技術	×				
568	2010	1		○	次の10年に向けて23の提言	青木茂・後藤治・林昌二	—				
569	2010	1	○		とらや一条店改装	内藤廣建築設計事務所	×				
570	2010	3		○	リロケーションが切り拓く環境思想	三宅理一	×				
571	2010	3	○		YA-CHI-YO 古民家リロケーションプロジェクト	山下保博×アトリエ・天工人	○	蔵	住宅	産業系	居住系
572	2010	3	○		BRASS CLINIC	高橋堅建築設計事務所	×				
573	2010	3	○		カヤバ珈琲	永山裕子建築設計	○	町家	店舗	居住系	小型店舗系
574	2010	3	○		するところ	近藤哲雄建築設計事務所	○	工場	印刷所、スタジオ	産業系	小型店舗系
575	2010	3	○		Sakura flat	若松均建築設計事務所	○	雑居ビルのパントハウス	住戸	居住系	居住系
576	2010	3	○		山梨市庁舎	梓設計	○	工場	市庁舎	産業系	公共系
577	2010	4	○		バルセロナスイーツアベニューアパートメント ファサードリノベーション	伊東豊雄建築設計事務所	×				
578	2010	6	○		鶴岡まちなかキネマ	高谷時彦事務所	○	絹織物工場	映画館	産業系	娯楽系
579	2010	7	○		TABLOID	OpenA/SEA Design	○	印刷工場	オフィス、ギャラリー、展示場	産業系	事務所系
580	2010	7	○		内田洋行 ユビキタス協創広場CANVAS	パワープレイス 内田洋行	×				
581	2010	7	○		KREI OPEN SOURCE STUDIO	POINT長岡勉/コクヨオフィスシステム	×				
582	2010	7	○		プロジェクト：浜松サーラ	青木茂建築工房	×				
583	2010	7	○		市原市水と彫刻の丘リノベーションプロジェクト	川口有子＋鄭仁倫/有設計室	×				
584	2010	7	○		土佐くろしお鉄道「中村駅」リノベーション	nextatations	×				
585	2010	9	○		犬島「家プロジェクト」	妹島和世建築設計事務所	○	民家	展示室	居住系	展示系
586	2010	10	○		石川県政記念 しいのき迎賓館	山下設計	○	石川県庁	複合文化施設	事務所系	公共系
587	2011	1	○		浜松サーラ	青木茂建築工房	×				
588	2011	2	○		東京カテドラル聖マリア大聖堂改修	大成建設	×				
589	2011	2	○		3331 Arts Chiyoda	佐藤慎也＋メジロスタジオ	○	小学校	ギャラリー・店舗	教育系	展示系
590	2011	2	○		向ヶ丘第一団地ストック再生実証実験	都市再生機構＋戸田建設グループ	×				
591	2011	4	○		清瀬けやきホール	青木茂建築工房	×				
592	2011	4	○		愛農学園農業高等学校本館再生工事	野沢正光建築工房	×				
593	2011	4	○		吉岡ライブラリー	平田晃久建築設計事務所	×				
594	2011	4	○		MR DESIGN OFFICE	長坂常/スキーマ建築計画	○	テナントスペース	デザイン事務所	事務所系	事務所系
595	2011	4	○		Aesop Aoyama	長坂常/スキーマ建築計画	○	八百屋	スキンケアショップ	小型店舗系	小型店舗系
596	2011	4		○	オランダ・リノベーション 建築の現在	笠原一人	—				
597	2011	6		○	持続可能なまちづくりをめざして	西郷真理子	—				
598	2011	8		○	建築ストック再考 リファイニング建築という手法	青木茂	—				
599	2011	8	○		多摩平の森住棟ルネッサンス事業 たまむすびテラス	リビタ・ブルーズスタジオ・瀬戸健似＋近藤倉順	×				
600	2011	8	○		観月橋団地再生計画	馬場正尊/OpenA（Aエリア） DGコミュニケーションズ＋星田逸郎空間都市研究所（Bエリア）	×				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
601	2011	8	○		YS BLD.	青木茂建築工房	○	ビル	設計者自宅、賃貸	事務所系	居住系
602	2011	8	○		世田谷フラット	刈部寛子建築設計事務所＋成瀬猪熊建築設計事務所	×				
603	2011	8	○		Casa Dourada	宮部浩幸/SPEAC	×				
604	2011	8	○		駒沢公園の家	今村水紀＋篠原勲/miCo.	×				
605	2011	9	○		VISION	根津武彦建築設計事務所	×				
606	2011	10	○		ルネスホール 旧日銀岡山支店改修Ⅱ期	佐藤建築事務所/岡山県設計技術センター	○	金倉庫	音楽スタジオ・ギャラリー	産業系	展示系
607	2011	10	○		高松丸亀町商店街 荅番街・武番街・参番街アーケード 高松丸亀町商店街B・C街区小規模連鎖型再開発事業	まちづくりカンパニー・シーブネットワーク(荅番街・参番街) ジューエスディー(アーケード)	○	アーケード	店舗、集合住宅	商業系	複合系
608	2011	10	○		東北大学片平キャンパス インテグレーション教育研究棟	東北大学施設部・キャンパス計画室 三菱地所設計	○	実験研究棟	オフィス棟・ラボ	教育系	教育系
609	2012	1	○		竹中工務店東京本店社屋 改修	竹中工務店	×				
610	2012	1	○		新宿センタービルリニューアル計画	大成建設一級建築士事務所	×				
611	2012	1	○		清水建設技術研究所 ecoBCP改修	清水建設	×				
612	2012	1	○		大林組技術研究所材料科学実験棟(旧本館コンバージョン)	大林組一級建築士事務所	○	事務棟	実験施設	事務所系	教育系
613	2012	2	○		観月橋団地再生計画	馬場正尊/OpenA(Aエリア) DGコミュニケーションズ＋星田逸郎空間都市研究所(Bエリア)	×				
614	2012	2	○		THE SHARE	ジーク	○	企業寮	住居、オフィス	居住系	居住系(シェア)
615	2012	2	○		海老塚の段差	403architectur[dajiba]	×				
616	2012	2	○		木造賃貸アパート 再生ワークショップ2011	木造賃貸アパート再生ワークショップ	×				
617	2012	2	○		すごろくオフィス	大建met なわけんジム	○	コンテナ	事務所、住宅	産業系	居住系
618	2012	3	○		高野口小学校校舎改修・改築	和歌山大学本多・平田建築設計ゼミ NPO法人環境創造サポートセンター	×				
619	2012	3	○		London Gallery	新素材研究所 杉本博司＋榊田倫之	×				
620	2012	3	○		茶室 今翼土	新素材研究所 杉本博司＋榊田倫之	○	製本工場	茶室・立礼席	産業系	居住系
621	2012	3	○		POOL-SIDE	若松均建築設計事務所	○	マンション	オフィス	居住系	事務所系
622	2012	3	○		千代田区立 日比谷図書館文化館 リニューアル	保坂陽一郎建築研究所	×				
623	2012	3	○		ガーデンズバ	KUU	○	洋館	スバ	居住系	娯楽系
624	2012	4		○	時間と空間を紡ぐこと	千葉学	—				
625	2012	4	○		大多喜町役場	千葉学建築計画事務所	×				
626	2012	5	○		佐賀「わいわい！！コンテナ」プロジェクト	西村浩/ワークヴィジョンズ	×				
627	2012	5	○		カモ井加工紙第三機拌工場資料館	武井誠＋鍋島千恵/TNA	○	工場	資料館	産業系	公共系
628	2012	5	○		木屋旅館	永山裕子建築設計	×				
629	2012	5	○		近畿大学33号館	NTTファシリティーズ	×				
630	2012	5	○		東京都美術館改修工事	前川建築設計事務所	×				
631	2012	5	○		黄檗山萬福寺第二文華殿	竹中工務店	×				
632	2012	6	○		日本デザインセンター	長谷川豪建築設計事務所	×				
633	2012	6	○		TBWA HAKUHODO MEDIA ARTS LAB ジュリアナ跡地のオフィス	吉村靖考建築設計事務所	○	ディスコ	オフィス	娯楽系	事務所系
634	2012	7	○		空家町家プロジェクト	バスアーキテツ	○	空き家	サテライトオフィス	居住系	事務所系
635	2012	8	○		豊崎長屋(南長屋・北終長屋)	大阪私立大学 竹原・小池研究室	×				
636	2012	8	○		うめこみち	ブルースタジオ	×				
637	2012	8	○		JX汐見台アパート2301号棟	ブルースタジオ	×				
638	2012	9	○		旧澤村邸改修	山中新太郎＋落合正行/山中新太郎建築設計事務所	○	邸宅	観光交流施設	居住系	公共系
639	2012	9	○		立教大学本館	日本設計	×				
640	2012	11	○		東京駅丸の内駅舎保存・復元	JR東日本建築設計事務所 JR東日本コンサルタンツ	×				
641	2012	11	○		TORAYA TOKYO	内藤廣建築設計事務所	○	駅舎の一部	カフェ	事務所系	飲食系
642	2012	11	○		東京大学伊藤国際学術研究センター	香山壽夫建築研究所	×				
643	2012	11	○		江東区庁舎耐震改修	竹中工務店	×				
644	2012	11	○		五島美術館改修	清水建設	×				
645	2012	11	○		中川政七商店旧社屋増築棟	吉村靖考建築設計事務所	×				
646	2012	11	○		みずのき美術館	乾久美子建築設計事務所	○	町家	美術館	居住系	公共系
647	2012	11	○		薬工ミュージアム	竹原義二/無有建築工房 しば設計室	○	倉庫	美術館	産業系	公共系
648	2012	11	○		鞆の津ミュージアム	竹原義二/無有建築工房	○	木造平屋住宅	美術館	居住系	公共系
649	2012	11	○		JPタワー	三菱地所設計 マーフィー/ヤーン	○	郵便局	事務所、店舗、郵便局	事務所系	複合系
650	2013	1	○		アーツ前橋	水谷俊博＋水谷玲子/水谷俊博建築設計事務所	○	商業施設	公共美術館	商業系	公共系
651	2013	1	○		山鹿さくら湯	環・設計工房	×				
652	2013	1	○		かぜのび	飯田善彦建築工房	○	小学校	彫刻体験交流促進施設	教育系	公共系
653	2013	1	○		ニセコ町民センター	アトリエブंक	○	町民センター	集会施設	公共系	公共系
654	2013	1	○		高志の国文学館	伊藤森行/Can	○	県知事公館	展示室	公共系	展示系
655	2013	1	○		東京芸術劇場改修	東京都財務局建築保全部施設整備第一課 松田平田設計	×				
656	2013	3	○		東京国立博物館東洋館リニューアル	安井建築設計事務所 森村設計	×				
657	2013	3	○		ジェームス邸	竹中工務店	○	邸宅	ウェディング施設	居住系	娯楽系
658	2013	3	○		国立近現代建築資料館	国土交通省関東地方整備局営繕部整備課	○	庁舎	資料館	公共系	事務所系
659	2013	3	○		東京大学生産技術研究所アニバーサリーホール	今井公太郎＋遠藤克彦建築研究所 東京大学キャンパス計画室・同施設部	○	超音速風洞実験棟	記念ホール	教育系	公共系
660	2013	3	○		建築陶器のはじまり館	日置拓人＋南の島工房	○	陶器工場	ミュージアム	産業系	公共系
661	2013	3	○		沼須人形稽古場 薪水書窓庵	鈴木竜太＋田中医美/サンゴデザイン	○	商家	稽古場	小型店舗系	教育系
662	2013	3	○		NEWLAND	山本和豊/デッセンス 二俣公一/ケース・リアル トラフ建築設計事務所	○	クレーン教習所	商業施設、ワークショップスペース、宿泊施設	産業系	複合系
663	2013	6	○		犬島「家プロジェクト」	妹島和世建築設計事務所	○	空き家	展示場、休憩所など	居住系	展示系
664	2013	6	○		ANDO MUSEUM	安藤忠雄建築研究所	○	民家	美術館	居住系	展示系
665	2013	7	○		武雄市図書館改修	スタジオアキリ＋CCC	×				
666	2013	7	○		灘中学校高等学校 耐震改修および増改築	大谷弘明＋千本多加子/日建設計	×				
667	2013	7		○	東京都庁舎改修 耐震・設備更新による首都拠点の再構築	横山英範・坂口孝義	—				
668	2013	8	○		大阪ガス実験集合住宅スマートリノベーション NEXT21フェーズⅥ	集工舎建築都市デザイン研究所 竹原義二/無有建築工房 近角よう子/近角建築設計事務所	×				
669	2013	8	○		さくらアパートメント	石井茂/ブルースタジオ	×				
670	2013	8	○		光第1ビル	青木茂建築工房	×				
671	2013	8	○		中里三丁目のテラスハウス	OpenA	×				
672	2013	10	○		JR神田万世橋ビル＋マーチエキュート神田万世橋(万世橋高架橋開発)	JR東日本建築設計事務所(JR神田万世橋ビル) 東日本旅客鉄道＋JR東日本建築設計事務所＋みかんぐみ(万世橋高架橋開発)	○	高架橋	商業施設	輸送系	商業系
673	2013	11		○	都市の更新 土地が持つ場所性の再考、過去から紡がれる未来への視点	ウィリアム・ペダーセン	—				
674	2013	11	○		3M本社改修	阿部仁史アトリエ PETER EBNER abd friends 3M GTG	×				
675	2013	11	○		カルチュア・コンビニエンス・クラブ本社オフィス	ジョイントセンター	×				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
676	2013	11	○		新建築社霞が関オフィス	西沢立衛建築設計事務所	×				
677	2013	11	○		弥生の研究教育棟 I-REF	川添善行＋松繁宏樹＋田邊裕之＋東京大学生産技術研究所川添研究室	○	7階建ビル	研究施設	事務所系	教育系
678	2013	12		○	意味の消去による改築 処女作・散田の家から40数年を経て	坂本一成	－				
679	2013	12		○	日常の空間を再編する建築	青木淳	－				
680	2013	12	○		改築 散田の家	アトリエ・アンド・アイ 坂本一成研究室	×				
681	2013	12	○		LOUIS VUITTON MATSUYA GINZA	青木淳建築計画事務所(外装)	×				
682	2013	12	○		ハモニカ横丁ミタカ	MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO	○	パチンコ屋	横丁	娯楽系	商業系
683	2013	12	○		吉祥寺ハモニカ横丁 エプロン	東京工業大学塚本研究室＋アトリエ・ワン	×				
684	2014	1	○		(仮称)広島ピースタワー 広島マツダ大手町ビル改修計画	三分一博志建築設計事務所	○	オフィスビル	物産館、オフィス、展望所	事務所系	公共系
685	2014	1	○		台湾桃園国際空港第一ターミナル再生	團紀彦建築設計事務所	×				
686	2014	3	○		ブザンソン芸術文化センター	隈研吾建築都市設計事務所	○	煉瓦倉庫	美術館	産業系	公共系
687	2014	4	○		ダイビル本館	川島克也＋勝山太郎＋中島上/日建設計	×				
688	2014	4	○		えんがわオフィス	伊藤暁＋須磨一清＋坂東幸輔	○	民家、蔵	企業のサテライトオフィス	居住系	事務所系
689	2014	4		○	最先端の過疎地から考える 神山町の再生手法	大南信也	－				
690	2014	5	○		ONOMICHI U2	谷尻誠・吉田愛/SUPPOSE DESIGN OFFICE	○	海運倉庫	ホテルなど	産業系	居住系
691	2014	5	○		躯体の窓	増田信吾＋大坪克亘	○	アパート	ハウスタジオ、週末住宅	居住系	居住系
692	2014	6	○		アミューあつぎ8階 屋内広場・託児室・子育て支援センター	石上純也建築設計事務所	○	商業ビル	複合施設	商業系	複合系
693	2014	7	○		戸畑図書館	青木茂建築工房	○	市役所	図書館	公共系	公共系
694	2014	8	○		シェアフラット馬場川	石田敏朗建築設計事務所＋タノデザインラボ	○	空きビル	学生用シェアハウス	商業系	居住系(シェア)
695	2014	8	○		花畑団地27号棟プロジェクト	都市再生機構東日本賃貸住宅本部	×				
696	2014	8	○		コーシャハイム千歳烏山住棟改善モデル事業	東京都住宅供給公社・軽石実一級建築士事務所＋メジロスタジオ	×				
697	2014	8	○		千駄ヶ谷 緑苑ハウス	青木茂建築工房	×				
698	2014	9	○		はじまりの美術館	竹原義二/無有建築工房	○	酒蔵	美術館	産業系	公共系
699	2014	9	○		ミラノシカ	DesignBuildFUKUOKA 2nd	○	古民家	公共施設	居住系	公共系
700	2014	9	○		立教新座キャンパス聖パウロ礼拝堂改修	マナ建築設計室(聖パウロ礼拝堂) 八千代エンジニアリング(チャペル会館)	×				
701	2014	10	○		東京大学安田講堂改修	東京大学キャンパス計画室(千葉学)・同施設部 香山壽夫建築研究所	×				
702	2014	10	○		千葉大学あひのはな記念講堂改修	横総合計画事務所	×				
703	2014	10	○		日本橋ダイヤビルディング	三菱地所設計・竹中工務店	×				
704	2014	10	○		水見市庁舎	山下・浅地設計共同体	○	体育館、校舎	庁舎	体育系	公共系
705	2014	11	○		マルコの蔵・広場	林寛治・片山和俊	○	蔵	売店、カフェ、ギャラリー	産業系	展示系
706	2014	12	○		中央線高架下プロジェクト	リライトデベロップメント	×	高架下	商業施設、地域コミュニティ拠点	輸送系	商業系
707	2015	1	○		東京都庭園美術館 修復・復元・増築	安東直＋前田芳伸＋川東智暢/久米設計	×				
708	2015	1	○		東京国立博物館 黒田記念館リニューアル	安井建築設計事務所	×				
709	2015	2	○		ゆいま〜る高島平	瀬戸健似＋近藤創順/プラスニューオフィス	×				
710	2015	2	○		堀川出水団地第1棟・第2棟 改修	アール・アイ・エー	×				
711	2015	2	○		SHARED HOUSE 八十八夜	2.0不動産	○	お茶屋の2階	シェアハウス	居住系	居住系(シェア)
712	2015	2	○		城野団地リノベーションプロジェクト	馬場正尊＋平岩祐希＋大我さやか/Open A 嶋田洋平＋重矢浩志/らいおん建築事務所	×				
713	2015	2	○		大阪ガス実験集合住宅NEXT21	大阪ガス 大京 近鉄不動産 集工舎建築都市デザイン研究所 岩村アトリエ KBI計画・設計事務所	×				
714	2015	2	○		KGMコート	設計組織ADH	×				
715	2015	3	○		Cawaii Bread & Coffee	西沢立衛建築設計事務所	○	ガレージ印刷場	パン屋、カフェ	産業系	小型店舗系
716	2015	3	○		la kagu	隈研吾建築都市設計事務所	○	倉庫	小型店舗系	産業系	小型店舗系
717	2015	3	○		ブルーボトルコーヒー 清澄白河ロースタリー&カフェ	長坂常＋山本亮介/スキーマ建築計画	○	倉庫	カフェ、オフィスなど	産業系	小型店舗系
718	2015	3	○		長谷川醸庫 みそ・蔵カフェ	PLANET Creations 関谷昌人建築設計アトリエ	○	味噌蔵の工場	カフェ、展示、ゲストハウス	産業系	居住系
719	2015	3	○		1 King William Street	NTT都市開発 鹿島ヨーロッパ AHMM	×				
720	2015	3	○		裏磐梯高原ホテル	竹中工務店	×				
721	2015	3	○		箱根ハイランドホテル新館 森のレジデンス	岡部恵明アーキテクチャーネットワーク 大和小田急建設一級建築士事務所	×				
722	2015	3	○		東京国立近代美術館所蔵品ギャラリーリニューアル	西澤徹夫建築事務所	×				
723	2015	6		○	建築論壇：歴史を紐解き、未来へ繋ぐ 東京大学安田講堂の改修で引き継がれた大学の記憶	香山壽夫 西村幸夫 千葉学 清家剛 藤井恵介	－				
724	2015	6	○		東京大学安田講堂 改修	東京大学キャンパス計画室(千葉学)・同施設部 香山壽夫建築研究所 総合設備コンサルタント	×				
725	2015	6	○		若人の広場公園	丹下都市建築設計	×				
726	2015	6	○		早稲田大学早稲田キャンパス3号館	久米設計	×				
727	2015	7	○		猪苗代のギャラリー	柴崎恭秀	○	蔵	ギャラリー	産業系	展示系
728	2015	7	○		道の駅ファームス木島平	三浦丈典/スターパイロッツ	○	工場	道の駅	産業系	商業系
729	2015	8	○		洋光台中央団地広場改修	みのべ建築設計事務所	×				
730	2015	8	○		保土ヶ谷駅前ハイツ・バリューアップ修繕	九段建築研究所 あい造園設計事務所	×				
731	2015	8	○		3636+ (ニジョープラス)	東急ハンズ＋都市再生機構	×				
732	2015	8	○		富士見台団地のリノベーション	能作淳平建築設計事務所	×				
733	2015	8	○		ホシノタニ団地	ブルースタジオ 大和小田急建設	×				
734	2015	8	○		シェアブレイス聖蹟桜ヶ丘	古谷デザイン建築設計事務所 南條設計室	○	独身寮	シェアハウス	居住系	居住系(シェア)
735	2015	8	○		ワカミヤハイツ	落合正行/PEA...	○	木造アパート	住戸、シェアオフィスなど	居住系	居住系(シェア)
736	2015	8	○		あしたの郊外	OpenA＋取手アートプロジェクト＋ARCO architects	○	診療所	シェアオフィス	医療系	事務所系(シェア)
737	2015	9	○		ライゾマティックス新オフィス移転計画	中川エリカ建築設計事務所 斎藤精一＋元木龍也/Rhizomatics Architecture (企画) 西田司/オンデザイン(協力)	○	倉庫	オフィス	産業系	事務所系
738	2015	9	○		富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー	平瀬有人＋平瀬裕子/yHa architects	○	酒蔵	ギャラリー	産業系	展示系
739	2015	9	○		柳町歴史地区再生計画	馬場正尊＋鈴木みのり/OpenA 石橋建築事務所	○	住宅	店舗	居住系	小型店舗系
740	2015	9	○		川の上	百俵館	○	農業倉庫	図書館カフェ	産業系	公共系
741	2015	9	○		郡山市立中央公民館・勤労青少年ホーム	NTTファシリティーズ	×				
742	2015	10	○		あわくら温泉元湯	安部良/ARCHITECTS ATELIER RYO ABE	×				
743	2015	10	○		惣嘗酒造	アブルデザインワークショップ	○	酒蔵	試飲、ギャラリー	産業系	展示系
744	2015	10	○		半田赤レンガ建物	安井建築設計事務所	○	ビール工場	カフェ、展示室、クラブハウス	産業系	展示系
745	2015	10	○		HIVE TOKYO	NTT都市開発 コクヨ	○	賃貸ビルの空きフロア	シェアオフィス、サービスオフィス、SOHO、一般オフィス、アパート	事務所系	複合系(シェア)
746	2015	11	○		KOYA	SUMA/須磨一清＋なわけんジム	○	牛小屋	サテライトオフィス	農業系	事務所系
747	2015	11	○		WEEK神山	伊藤暁＋須磨一清＋坂東幸輔	○	古民家	管理棟	居住系	事務所系
748	2015	12	○		明治屋京橋ビル	UA建築研究室・清水建設設計共同体	×				
749	2015	12	○		長浜市庁舎	日本設計	○	市民病院	市庁舎	医療系	公共系
750	2016	1	○		直島の家ーまたべえー	三分一博志建築設計事務所	○	民家	ゲストハウス	居住系	居住系

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
751	2016	1	○		お米や	長坂常/スキーマ建築計画	○	八百屋	おにぎり屋	小型店舗系	小型店舗系
752	2016	1	○		HAGISO/hanare (丸越荘)	宮崎晃吉	○	木造アパート	最小文化複合施設	居住系	小型複合系
753	2016	1	○		BOOK AND BED TOKYO	SUPPOSE DESIGN OFFICE	○	商業ビルの空きフロア	泊まれる本屋	商業系	公共系
754	2016	1	○		鋸南町都市交流施設・道の駅 保田小学校	N.A.S.A.設計共同体	○	廃小学校	都市交流施設	教育系	公共系
755	2016	2	○		ユウトヴィレッジ南長崎	YTT	○	木質アパート	シェアハウス	居住系	居住系(シェア)
756	2016	2	○		TRITON BASE [Cycle1]	遠藤誉央/巻組	○	住宅	シェアハウス	居住系	居住系(シェア)
757	2016	2	○		高円寺下宿再生	馬場正尊＋平岩裕季/OpenA	×				
758	2016	2	○		旧国鉄津田沼社宅の再生	馬場正尊＋大我さやか/OpenA	×				
759	2016	3		○	「民主化する建築」を切り拓くりノベーション	村松秀一	―				
760	2016	3	○		ロームシアター京都	香山壽夫建築研究所	×				
761	2016	3	○		SodaCCo	ブルースタジオ	○	オフィスビル	シェアオフィス、テナント	事務所系	事務所系(シェア)
762	2016	3	○		丘のまち交流館 “bi.yell”	小澤丈夫＋宮城島崇人＋菊池規雄	○	スーパーマーケット、娯楽施設	地域交流	商業系	公共系
763	2016	3	○		京都アートホテル kumagusuku	ドットアーキテクト	○	民家	ゲストハウス	居住系	居住系
764	2016	3	○		日本橋旧テラー堀屋改修	三井嶺建築設計事務所	×				
765	2016	3	○		京都リサーチパーク ガスビル・3号館コンバージョン計画	日建設計	○	体育館	研究施設	体育系	教育系
766	2016	3	○		Reビル	三菱地所レジデンス＋メックecoライフ	×				
767	2016	3	○		新宿三井ビルディング改修工事	日本設計 KAJIMA DESIGN	×				
768	2016	3	○		通天閣免震化	竹中工務店	×				
769	2016	3	○		大阪市立大学理系学舎	東畑建築事務所	×				
770	2016	6		○	建築論壇 大都市の更新と再生 戦略的かつ連携的な都市リノベーションの時代へ	中井検裕	―				
771	2016	6	○		横浜国立大学キャンパス再編 中央広場＋経済学部講義棟2号館	高橋一平＋野口直子/横浜国立大学キャンパスデザイン計画室 日立建設設計 横浜国立大学施設部	×				
772	2016	6	○		Archi-Media Studio—ものづくり工房—	平井政俊建築設計事務所＋畝森泰行建築設計事務所 横浜国立大学施設部	○	実験棟	アトリエ	教育系	展示系
773	2016	6	○		学生センター	飯田善彦/横浜国立大学キャンパスデザイン計画室(基本計画) 三浦文典/スターパイロット(基本設計) あい設計 横浜国立大学施設部(実施設計)	○	科学実験棟	学生センター	教育系	教育系
774	2016	6	○		東京経済大学 大倉喜八郎進一層館(改修)・新図書館・5号館	佐藤総合計画	○	図書館	ホール	公共系	公共系
775	2016	7	○		小豆島 撰果場ギャラリー	PLANET Creations 関谷昌人建築設計アトリエ	○	蔵、撰果場、家畜小屋、ガレージなど	パン工房、カフェ、撰果場、ギャラリーなど	農業系	小型複合系
776	2016	7	○		新建築社 青山ハウス	乾久美子建築設計事務所	○	住宅	イベントスペース、オフィス	住居系	事務所系
777	2016	7	○		CASACO	tomito architecture	○	二軒長屋	ホームステイ居室、管理人居室、シェアスペース	居住系	居住系(シェア)
778	2016	7	○		豊島八百万ラボ	成瀬・猪熊建築設計事務所	○	古民家	展示	居住系	ギャラリー
779	2016	8	○		龍宮城アパートメント	宮部浩幸＋山中裕加/SPEAC	○	木造寄宿舎	シェアハウス	居住系	居住系(シェア)
780	2016	8	○		APartMENT	アートアンドクラフト	×				
781	2016	8	○		西長堀アパート	URリンクージ西日本支社	×				
782	2016	10	○		MTRL KYOTO	佐野文彦 studio PHENOMENON	○	印刷所、家具屋	コワーキングスペース、カフェ、オフィスなど	産業系	事務所系(シェア)
783	2016	10	○		hue+	長坂常/スキーマ建築計画	○	倉庫	スタジオ、オフィス	産業系	小型店舗系
784	2016	10	○		竹中工務店東関東支店ZEB化改修	竹中工務店	×				
785	2016	10	○		実験研究室のリノベーション	建築築事務所	×				
786	2017	1	○		奈良国立博物館なら仏像館展示室改修	栗生明＋栗生総合計画事務所	×				
787	2017	1	○		春日大社国宝殿	弥田俊勇/弥田俊勇設計建築事務所 城田建築設計事務所	×				
788	2017	1	○		芝浦まちづくりセンター	芝浦工業大学西澤大良研究室	○	倉庫	多目的スペース	産業系	事務所系(シェア)
789	2017	1	○		船場センタービル改修	石本建築事務所	○	大阪万博の時に建てられた10棟の建物	商業施設	複合系	複合系
790	2017	2	○		MORIUMIUS(モリウミアス)	西田司＋一色ヒロタカ＋勝邦義＋岩崎修/オンデザイン	○	小学校	宿泊施設	教育系	居住系
791	2017	2	○		山之内元町長屋	大阪市立大学小池研究室＋ウズラボ	○	2軒長屋	住居	居住系	居住系
792	2017	2	○		晒屋町の長屋群	魚谷繁礼建築研究所	×				
793	2017	2	○		THE 6	納屋建築設計事務所 リビタ(企画・プロデュース)	○	オフィス、集合住宅	シェア型複合施設	事務所系	事務所系(シェア)
794	2017	2		○	建築ストックの資産価値向上	都村智史	―				
795	2017	3	○		綾瀬の基盤工場	浜田晶則建築設計事務所	×				
796	2017	3	○		クズミ電子工業藤沢新工房増築工事	安井雅裕建築研究所	×				
797	2017	3	○		北海道庁本庁舎耐震改修	竹中工務店/ドーコン	×				
798	2017	3	○		山梨文化会館耐震改修(免震レトロフィット)計画	丹下都市建築設計	×				
799	2017	3	○		ホテルニューグランド本館 耐震改修工事	清水建設	×				
800	2017	3	○		熊本城天守閣復旧整備事業	大林組	×				
801	2017	4	○		穂岐国学習センター	西田司＋萬玉直子＋後藤典子/オンデザイン	○	古民家	公立塾	居住系	教育系
802	2017	4	○		海士町のキッチンスタジオ	キドサキナギサ＋こいけひろの	○	保育所	スタジオ	保育系	小型店舗系
803	2017	5	○		SHIBAMATA FU-TEN	馬場正尊＋平岩裕季/OpenA 塚越智之＋宮下淳平/塚越宮下設計	○	葛飾区職員寮	宿泊施設	居住系	居住系
804	2017	5	○		茂木町まちなか文化交流館「ふみの森 もてぎ」	内田文雄＋龍環境計画	○	蔵	ギャラリー	産業系	展示系
805	2017	6	○		Cisternerne Pavilion「the Water」 日本デンマーク外交関係樹立150周年記念事業	三分一博志 Alex Hummel Lee	○				
806	2017	6	○		時間の倉庫 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫	福島加津也＋富永祥子建築設計事務所 早稲田大学旧本庄商業銀行煉瓦倉庫保存・活用プロジェクト	×				
807	2017	8	○		ピン！ひらはらばし	モクチン企画	×				
808	2017	8		○	建築が社会に与えるインパクトに投資する	連勇太朗 藤村隆	―				
809	2017	8	○		ヒルトップマンションリノベーション コットンハウスリノベーション	横浜国立大学大学院Y-GSA＋針谷将史建築設計事務所 吉田裕一建築設計事務所 横浜国立大学大学院Y-GSA 瀬川翠/Studio Tokyo West	×				
810	2017	10	○		unico	西田司＋森詩央里＋伊藤彩良＋大沢雄城/オンデザイン	○	本社、工場	シェアオフィスなど	産業系	事務所系(シェア)
811	2017	10	○		リガレッセ	有馬裕之＋Urban Fourth	○	民家	小規模多機能型居宅介護	居住系	福祉系
812	2017	11	○		木内家住宅書院改修	木内修建築設計事務所	×				
813	2017	12	○		大木代吉本店	大木代吉本店プロジェクトチーム	×				
814	2018	2	○		新建築社 北大路ハウス	京都大学平田晃久研究室＋平田晃久建築設計事務所	○	木造住宅	シェアハウス	居住系	居住系(シェア)
815	2018	2	○		東京工業大学大岡山ハウス	安田幸一研究室(デザインアーキテクト) 東京工業大学施設運営部(総括・設計監理)	○	職員宿舎	国際学生寮	居住系	居住系
816	2018	2	○		シェアプレイス調布多摩川＋グローバルハウス調布	南條設計室	○	社宅	シェアハウス、国際学生宿舎	居住系	居住系(シェア)
817	2018	2	○		上京のサービス付き高齢者住宅	河井敏明/河井事務所	○	オフィスビル、住居	サービス付き高齢者住宅	事務所系	福祉系
818	2018	4		○	建築論壇 未来に向けた時間の継承	堀部泰嗣 加藤耕一	―				
819	2018	4	○		港区立郷土歴史等複合施設(ゆかしの社)	日本設計 大成建設 香山壽夫建築研究所 ジェイアール東日本建築設計事務所	○	旧公衆衛生院	郷土資料館、がん在宅緩和ケア支援センター、子育て関連施設、区民協働スペース	公共系	公共系
820	2018	4	○		近三ビルディング(旧 森五商店東京支店)	竹中工務店	○	オフィスビル	テナントビル	事務所系	事務所系
821	2018	4	○		北菓楼札幌本館	安藤忠雄建築研究所 竹中工務店	○	図書館→美術館→文書館別館	カフェ、菓子店	公共系	小型店舗系
822	2018	4	○		太陽の塔内部再生プロジェクト	昭和設計	×				
823	2018	4	○		東京タワー平成の大改修	日建設計	×				
824	2018	4	○		神奈川県庁新庁舎免震改修＋増築 神奈川県庁本庁舎・第二分庁舎改修	新庁舎免震改修工事等設計業務委託設計共同体(板倉建築研究所＋構造計画研究所)	×				
825	2018	4		○	アジール・フロッタン再生プロジェクト	―	―				

No.	年	月	作品	論考	作品名/論考題名	設計者など	用途変更	旧用途詳細	新用途詳細	旧用途	新用途
826	2018	4	○		高知県立坂本龍馬記念館 新館・既存館	能勢修治/石本建築事務所 高橋晶子＋高橋寛/ワークステーション 佐藤八尋/若竹まちづくり研究所	×				
827	2018	4	○		字和米博物館	斎藤正毅工房	○	小学校	博物館、レンタルオフィス、インキュベーション施設	教育系	事務所系
828	2018	4	○		千鳥文化	ドットアーキテクト	○	住宅	交流スペース	居住系	事務所系(シェア)
829	2018	4	○		大津百町スタジオ	竹原義二/無有建築工房	○	町家	ショールーム	居住系	ギャラリー
830	2018	4	○		海野宿滞在型交流施設 うんのわ	児野登/アーキディアック 土本俊和/信州大学	○	古民家	宿泊、飲食施設	居住系	居住系
831	2018	4	○		秋田オーバ	青木茂建築工房	×				
832	2018	4	○		半蔵門ミュージアム	栗生総合計画事務所	○	オフィスビル	ミュージアム	事務所系	公共系
833	2018	4	○		ものづくり創造拠点 SENTAN	豊田市都市整備部公共建築課＋丹羽英二建築事務所	○	消防署	ものづくり拠点	公共系	事務所系
834	2018	4	○		御堂ビルイノベーションスペース整備計画	竹中工務店	×				
835	2018	4	○		武蔵小杉のオフィスビル増築	古澤大輔/リライト_D	×				
836	2018	5	○		日比谷シャンテ	竹中工務店	×				
837	2018	5	○		元浅草の事務所	松本悠介建築設計事務所	○	住宅、店舗	デザイン事務所	居住系	事務所系
838	2018	5	○		等々力の小さなシェアオフィス	今村水紀＋篠原勲/miCo.	○	テナントスペース	シェアオフィス	事務所系	事務所系(シェア)
839	2018	5	○		西麻布ビルディング改修	元木大輔/DDAA	○	レストラン	ショールーム、シェアオフィス、プライベートラウンジ	飲食系	事務所系(シェア)
840	2018	7		○	都市の記憶を伝える超高層ビル	藤森照信	－				
841	2018	7	○		新宿パークタワーラウンジ	リビングデザインセンターOZONE＋中川エリカ建築設計事務所	○	小分けのオフィスフロア	共有ラウンジ	事務所系	事務所系(シェア)
842	2018	7	○		LIFORK	シナト コクヨ トランジットジェネラルオフィス	○	ビルの1フロア	シェアオフィス、保育所	事務所系	事務所系(シェア)
843	2018	7	○		SUPPOSE DESIGN OFFICE 東京事務所 社食堂	谷尻誠・吉田愛/SUPPOSE DESIGN OFFICE	○	オフィス	オフィス、カフェ	事務所系	事務所系
844	2018	7	○		Un.C.-Under Construction	馬場正尊＋大橋一隆＋平岩裕季＋福井亜啓/OpenA	○	ショールーム、倉庫	シェアオフィス	ギャラリー	事務所系(シェア)
845	2018	8	○		徳田邸	西沢立衛建築設計事務所	×				
846	2018	8	○		ミナガワビレッジ	神本豊秋＋再生建築研究所	×				
847	2018	8	○		大阪府住宅供給公社茶山台団地・香里三井C団地 ニコイチプロジェクト	ハプティック＋新宅工務店 KINO architects PERSIMMON HILLS architects	×				
848	2018	8	○		アンソレイユ氷川台パークティアラ北馬込	青木茂建築工房	×				
849	2018	9	○		商店街HOTEL 講 大津百町	竹原義二/無有建築工房	○	町家	ホテル	居住系	居住系
850	2018	9	○		青梅麦酒	西沢大良建築設計事務所＋芝浦工業大学西沢大良研究室	○	化粧品店	クラフトビール店	小型店舗系	小型店舗系
851	2018	9	○		Ginza Sony Park	Ginza Sony Park Project	○	ビル	テナント、イベントスペース	事務所系	事務所系
852	2018	9	○		クリバこ	伊藤孝紀/タイプ・エー・ビー	○	立体駐車場1階	設計事務所	駐車場	事務所系
853	2018	11	○		倉敷アイビースクエアリニューアル	浦辺設計	×				
854	2018	12	○		(仮称)弘前市芸術文化施設	Atelier Tsuyoshi Tane Architects(建築設計) NTTファンリティーズ(設計統括) 大林組 スターツCAM(構造設計) 森村設計(設備設計)	○	レンガ倉庫	展示室	産業系	ギャラリー
855	2018	12	○		モスクワ科学技術博物館増改築	石上純也建築設計事務所	×				
856	2018	12	○		東京藝術大学 国際芸術リソースセンター(IRCA) 書庫棟・既存図書館棟	日建設計/中本太郎＋石原嘉人＋荻原裕加(書庫棟・接続棟) 山本・堀アーキテクト・袴田喜夫・橋本久道・松本年史・吉松秀樹(既存図書館)	×				

海外調査梗概からの抽出

(小規模な商業施設やホテルへの転用事例も含む)

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	掲載年	備考
イタリア2	2	工場（バスタ）	スタジオ、ギヤラ リー、 オフィス、住居	ローマ	The San Lomaza district	-	1990	1905年建設のバスタ工場が60年代に廃棄され、70年代半ばから徐々に人が住み込むようになった。複数の建物を繋いだ複雑な既存の空間をそのまま利用し、仮設的な材料で家具を作り、レンタルオフィス等、様々な用途に用いている。この地区は元々工業地域、低所得者層の住む地域であり、戦争の被害も大きかったが、近年、場所の利便性もあり、若いアーティストなどが多く住み活動する場になりつつある。
	6	工場（インク）	ショールーム	トレヴィーゾ	Time Red House	Perry A. King	1993	-
	9	工場（自動車）	美術館、 商業施設、 オフィス	トリノ	Lingotto Factory	Renzo Piano	1996	-
	11	工場（タイヤ）	ショールーム	トリノ	Sciuscia for shoes	Pier Vincenzo Livio	1997	-
	17	工場	ファットネス	ミラノ	industrial memory	Baiossi Restell	2000	工業地帯に1920年前後に建てられた工場の転用。既存建物の空間構成を利用し全く異なる用途に使用している。この建物の立地するナポリオ地区では、多くの工場が用途転用され現在も使用されつつづけている。
	21	工業施設	ショールーム	ミラノ	Maria Calderara showroom	Berselli e C.Cassina	2000	-
	30	倉庫	会議室、食堂	トリノ	The Trade Union headquarters	Alberto Rolla	1991	-
	32	倉庫	デイスコ	トリノ	Factory music	Uda	1995	-
	27	工場（砂糖精製）	コンサートホール	パルマ	Factory of sounds	Renzo Piano	2002	-
	33	倉庫	レストラン	ミラノ	Reception Facility	Mauro Gaetano	1997	-
イタリア3	39	倉庫（運送会社）	ショールーム+オフィス	ミラノ	Gianfranco Forre outlining	Marco Zanuso	2002	1902年建設の運送会社のビルの転用。アールヌーボーの影響を受けたリビタニー様式のファサードや列柱廊が残されたのに対し、広場側には新たに対比的なガラスファサードが増築された。また、床の増設、バルコニーの内部化等大規模な改築がなされている。大空間の天井裏側には照明が仕込まれ、内装は大理石、セラミ、金属等を用いて質の高いデザインに仕上げられている。
	2	パヴァッジオ	ショールーム	ミラノ	Vienueus for a ineable city Marino Scala	Pierluig Cerri	1997	1876年に設計されたこのパヴァッジオは、1905年にホテルへの転用がなされ、近年店舗へ再利用されたものである。この事例のデザイン手法の特徴は、床スラブの一部を取り除き、1階のエントランスロビーに吹き抜けを設けた点である。さらに、その吹き向けにはキヤットラオーラが設けられ、カフェテリアと書店を結ぶ。こうした空間操作を行うために、直径が400mmの柱が新設されたが、その柱には時間変化する電光面を設け、オラジエのような表現となった。こうした光による空間の演出は、コンピュータによって制御され、古いパヴァッジオに今日の技術が取り入れられている。これは、建築構造と設備の変更によって、新たな室内空間を表現した事例である。
	3	パヴァッジオ	スーパ一	ミラノ	Venues for a liveable cityPeck	Giannaria e Roberto Beretta	1997	-
	9	パヴァッジオ	ショールーム	ローマ	Against the fashion grain	C. Lazzanni + C. Pickering	1999	-
	16	パヴァッジオ	ホテル	ベネツィア	Lissoni in Venezia	-	2003	-
	19	修道院	ギャラリー	クネオ	Gallery of Davide Galandre plaster casts	Lorenzo Mammio	2002	-
	20	修道院	ホテル	ミラノ	Four seasons Hotel	-	2002	この事例は、1993年に、15世紀の中庭型平面の修道院を98室のホテルへと転用したものだ。さらに近年、このホテルは隣接する18世紀半ばの新古典主義のパヴァッジオも20室の客室にコンバージョンして増築された。加えて、この建設工事とともに、中庭に面したガラス張りのレストランと中庭地下も増築が施された。この事例の特徴は、レンガ壁を取り壊した際に、埋もれていたルネッサンス期の回廊が発見されたため、礼拝堂の堂々とした円柱、柱頭の装飾、ヴォールト、柱頭、フレスコ画など、可能な限り保存修復がなされた点である。その結果、ルネッサンス期の修道院、新古典主義のファサードを残しつつ、ガラス張りの中庭廊下やレストランなど、現代建築の手法との融合がなされた。ここでは、建築のコンバージョンと保存修復を融合したデザイン手法が特徴的である。
	29	集合住宅	ショールーム	ミラノ	Fashion venues: Piazza Sempione	Egidio Efrem Raimondi	1997	-
	31	集合住宅	ショールーム	ミラノ	Safe, Showroom	Toni Cordero	1998	-
	33	集合住宅	レストラン	ローマ	Gastronomic Acaoomy	Roberto Liomi	1999	1930年代にローマの国際フュニスト社会協会によって建設された集合住宅の1階及び2階部分を、食文化センターに転用したもの。具体的には、レストラン、ライブラリー、ライオンハウス、料理教室、料理書店、料理器具店などが連続した横長の空間を大いに分節して配置されている。また、レンガ、木材、石膏などの素材感を活かして、内部壁面に表情を与えている。さらに、ここでは、素材感を活かした内壁面と照明器具などの現代の建築設備を調和させている。この食文化センターは、2階の内部空間の室と室のつながりを持たせるとともに、現代のインテリアデザインを挿入した点が特徴に挙げられる。
イタリア4	34	集合住宅	ショールーム	ミラノ	The Financial information	-	2000	-
	35	集合住宅	ショールーム	ミラノ	Showroom Pasquale Bruni	David Chipperfield	2000	-
	9	映画館	コンサートホール	ミラノ	the concert hall of Giuseppe Veri Synohony Orchestra	-	2000	映画館は焦点に向かう観客席・勾配床を持つ無光空間であることが特徴。 僅かな改築工事では、転用用途に限られる。
	10	映画館	コンサートホール	ミラノ	Milanfrom the Dal Verne Theatre to the future	-	2001	-

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	転用年	建設年	備考
アメリカ2	1	工場(菓子)	ショッピングモール	ニューヨーク	Chelsea Market	Vandeberg	1990	-	
	2	工場(タイヤ)	ショッピングモール +オフィス+ホテル	ロサンゼルス	Citadel	Nadel Partnership& Sussman/Prejza	1990	-	
	5	工場(自動車修理)	ショールーム	ニューヨーク	Comme des Garçons	川久保玲	1999	-	
	11	倉庫	ショールーム& オフィス	ニューヨーク	Vitra	Lindy Roy	2001	-	1898年に建設されたイタリヤ様式の組積造の倉庫はヴァイトラのインテリア ショッパに転用された。ショールームは3層から構成され、地階と1階には家具の ショールームが、2階にはショールームとオフィスが収容された、3層に渡る吹き抜けと、商品 を展示するための段状のポリウムが建物全体の連続性を向上させている。天井、壁、配管は 白色に統一され、その中に露出した鉄骨の柱と梁がブラウセメントになっている。
アメリカ3	1	鉄道駅	ホテル	セントルイス	St. Louis Union Station	Mackey Mitchell Associates	1985	-	ホテルに転用されたセントルイス・ユニオンステーションのプラットホームは半 外部の天空間に変更され、人口湖を囲んで客室棟やレストランが配された。
	5	官公庁	ショッピングモール	ロジントン	The Pavilion	-	1982	-	
	7	官公庁	ホテル	ロジントン	Monaco Hotel	MacCracken Architects	1989	-	
	8	官公庁	店舗	ニューヨーク	Apple Store	Bohlin Cywinski Jackson	2002	-	
アメリカ4	2	水運ターミナル	ショッピングモ ール、遊樂場	シカゴ	Navy Pler	B. Thompson & Asso's,et al	1976/1995	1916	ネイヴィ・ピア(Navy Pier)は1916年造の公営埠頭で、五大湖の主要ターミナルとして客船と貨物船が出入りし2万本の木杭が支える914mの長さは世界最長を誇った。陸送の普及と不況で衰微し、第二次大戦中は海軍の訓練基地さらにに大学分校に使われた76年に東端の講堂が修復され各種イベントが市民を呼び戻し、95年1には西端に美術館を挿入し、中間の倉庫はガラス建築に建て替えて店舗や遊興施設を収める再整備を経て、都心近くの一大娯楽センターに生まれ変わった。
	3	海運倉庫	飲食店、賃貸オフィ ス	サンフランシスコ	Pier 1-1/2,3,5	T.E Fisch Asso's, et al	2007	1918	1918年創業の三連埠頭で、ボザール様式の本館の裏へ湾上200 m余突き出た埠頭に海運業各社の事務所や倉庫、搬送場が建ち並んだ。周囲の取り壊しにも生き残り、90年に市民主導で編まれた水緑土地利用計画を機に三連を一体に再生する官民共同プロジェクトが現在進行中建物はユニークな歴史性を活かした改修を施しながら耐震補強、最新の設備と快適性も兼備させ、二階を中心に5,600㎡におよぶオフィス・スペースを導入する。アーチとトラスの鉄骨骨組に包まれた賃貸部分は旧状を残した窓越しに眼下の湾上風景と自然光を得、金融街に至近の立地と相俟って、第一級の執務環境を提供するはずと事業者は謳っている。真ん中の第三埠頭にオフィス空間を新設するほか、飲食店も転用と新築の両方で1,600㎡を設置する、南接のフェリー・ビルから始まる水際遊歩道はここを経由して総延長4kmまで延び全域を市民に開放する。
	4	乗船所	乗船所+マーケット、賃貸オフィス	サンフランシスコ	The Ferry Building	SMWM, et al.	2003	1898	1898年造の対岸連絡船発着場で、73.5mの時計塔を頂き、二階建を砂岩で貼ったボザール流の建築、1954年にオフィスに転身すべく床と中二階が挿入されて、中央の大空間が失われた(就航は58年に停止)、98年の公開設計競技で改修が始まり、2003年に再開。最大の魅力は200 m近い長で延びる二階の乗客ギヤラリーで、鉄骨トラス式アーチと天窓が質実な構造美を見せる、中二階と併せて16,000㎡余の上層は中央の港湾委員会広聴室以外を賃貸スペースに充て、法律と金融関係を中心とするオフィスが入居する。身廊Naveと呼ばれる大廊下は真ん中に吹抜けを開けて一階にも開放し、元は集荷場だった6,000㎡の地上層に乗降客向けの農産品店が30の門戸を開き、頂部の天窓から落ちる自然光のもと朝晩通勤客でにぎわう。

梗概国名	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	転用年	備考
ドイツ	変電所	事務所、住宅、イベントスペース	ベルリン	イーザエルク	Hoyer, Schindeler, Hirschmuller	2005	1棟の大型変電所に現代建築を加えながら全体をレンタルオフィス、住宅、イベントスペースに転用した事例であり、他の転用事例より積極的に現代建築が導入された。レンガ造による表現主義風の立面とランダムな開口部による現代建築のデザイン、現代オフィス空間と産業設備の残されたイザエントスペースのように、内部空間だけでなく、外観においても産業建築と現代建築要素が混在した事例となった。
フィンランド	ガラス工場	ギャラリー	ヘルシンキ	アラビア・ファクトリー	Arkkitehdit Tommila Oy	1999	レンガ造の外壁及び開口部が向上そのものである。エントランスや旧工場の各棟を連結する大型のガラス・ボックスが新たに導入され、また大型の中庭を図書館の閲覧室に転用するなど、内部空間に積極的な建築操作が試みられた。

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	転用年	備考
	3	教会	シヨツプ	ロンドン	Apple Store Regent St.	Aparicio+Fenandez-Eloza Architects	2004	-
	4	ユダヤ教礼拝堂	劇場+飲食店 +住居	ロンドン	Soho Theatre + Writer's Centre	Paxton Locher Architects	1994	-
	8	病院	ホテル	ロンドン	The Lanesborough- St.Regis Hotel & Resort	Fitzroy Robinson Partnership	1991	-
	12	銀行+オフィス	飲食店	ロンドン	Economist Building	Fletcher Priest 隈研吾	1999 2009	-
	13	消防署	飲食店	ロンドン	Light Bar	-	1996	消防署を飲食店に転用。この飲食店は超高層建築の建設が迫るロンドン中心部の金融街に位置し、隣接する空地と一体的に利用することによって、古くからのスケール感や街並みを伝えており、都市の拡大に対する反対の意思を込めて利用されている。改修は最低限に留められ、レンガ造の内壁や木造・鉄骨造の屋根組、レッカーなどの重機が露出している。
イギリス1	14	邸宅	温泉施設	バース	Bath Spa Project	Nicholas Grimshaw	2003	-
	17	城、監獄	商店+ホテル	オックスフォード	Oxford Castle	Architects Design Partnership	2006	6世紀の城郭が17世紀まで監獄として、近年では映画撮影地として利用され、2006年に商業施設やホテルに転用したものである。分棟の建物群が増築・連結され、新たな用途に適合する建築に生まれ変わった。レンガ造の壁全体にガラスや鉄材といった現代的材料を用いることによって、城郭が本来持っていた荘厳さを損なうことなく転用された。また特徴的な宿泊棟も、手すりにガラスをはめ込み、絨毯を敷き詰めるなどの簡単な内装の変更にによって、監視用の吹抜けがホテルのホワイエに装飾を遂げた。
	2	工場	住宅+オフィス +ギャラリー	ロンドン	Victoria Miro Gallaery	Trevor Horne	-	-
	3	工場(仕立て作業所)	オフィス+ギャラリー	ロンドン	Viabizzuno Inlondra	Shilliam+Smith	2004	1890年に建設された工場(仕立て屋の作業空間)を設計者自身建築事務所として転用した事例である。一階と地下一階が改修され、内部の荒々しい仕上げ等、既存建築の堅牢性を活かしながら転用が成されている。間口が狭く奥行き方向に長い空間であるが床スラツを除去することで、垂直方向の連続性を新たに生み出し空間に魅力を与えている。
	5	工場(電気製品)	スーパーマーケット	ロンドン	Tesco	-	1999	-
	7	発電所	集合住宅、レストラン、 シヨツプ、ギャラリー	ロンドン	OXO Tower	Lifschutz Davidson	1996	-
	10	倉庫	ギャラリー	ロンドン	Louis T Blouin Institute	Borgos Dance	2006	ロンドンの郊外の倉庫地帯にある、広告代理店の会社倉庫を、ギャラリーへと転用した事例である。組積造である既存の外壁の内側に、コンクリートと鉄骨で全く新たな構造体となる柱を挿入した。その柱を鉄骨の梁で繋げることで補強し、展示空間としてのフレキシビリティを確保している。
イギリス2	12	倉庫(車庫)	商業施設	ロンドン	Blue Bird	CD Partners	1997	1923年に建設された、当時ヨーロッパでも最大級の車庫を商業施設へと転用し、成功を収めた事例である。造物の指定を受けており、それに対して、既存建築は、1988年に歴史的建造物の指定を受ける。大がかりな改修は行われていないが、トラス天井やむき出しの仕上げ等、既存建築を踏襲するデザインが転用後の空間に魅力を与えている。
	13	倉庫	オフィス、ショールーム	ロンドン	Erco's showroom& office	Botschi Vargas	1998	-
	15	穀物取引所	商業施設	リーズ	Leed's Corn Exchange	Alsop&Lyall	1985	-

梗概国名	備考	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	転用年	建設年	備考
スイス	1	製粉所/工場 (ビール)	美術館、劇場、 ホテル、集合住 宅、 レストラン	チューリッヒ	ティーフェンブルネン製粉所	Pierre Zoolly	1988	-	1889年に建設されたビール工場が、1913年に製粉所へと用途変更され、さらに1986年に全体が美術館、劇場オフィス、集合住宅、レストランなど様々な用途からなる複合施設に転用された。旧製粉所全体はロの字型で、線路に面した城館のような主工場に加えて、コギリ型屋根を有する工場棟など様々な建築から構成されていた。その中に位置する中庭は、旧製粉所の建築群による多様なファサードによって構成されており、コンバーションはそれらを活かすために、保存・修復を基本としている。その一方、複合施設へと転用するため、ブリッジや新築棟によって複数の異なる建築を連結し、全体を用途別で7つのエリアから構成するという再編がなされた。内部空間では、服飾アトリエやレストランや店舗は旧工場のデザインが残されたが、ホールやオフィスやジムなどは相当な変更が加えられるなど、用途に合わせた改修が施されている。
	2	住宅	ホテル、会議室	ヴォー	ホテル・ラ・ロンゲライエ	Miroslav Sik	1995	-	-
	3	送水ポンプ所	劇場、ホール	ジュネーブ	B・F・M	Bernad Piconni	1996	-	-
	7	刑務所	ホテル、バー	ルツェルン	監獄ホテル	Alexander Galliker	1999	-	-
	6	クラブハウス	オフィス、レストラン	チューリッヒ	スイス・クラブハウス	sam architekten+ partner AG	2000	-	-
	8	造船所	劇場、レストラン、 ジャズクラブ	チューリッヒ	シフバウ	Ortner&Ortner	2000	-	チューリッヒ中心市街地の北部に位置する旧産業地帯の再開発が急速に進み、その一面にある19世紀の造船所が、2000年に劇場ホール、レストラン、ジャズクラブバーなどからなる複合施設に転用された。全長120mに及ぶ旧造船所の鉄骨造・外壁レンガ造の建物は保存・修復された。その大空間には、ガラスボリュームのレストラン、鉄筋コンクリート造による400席、200席、80席の劇場が内包されるように建設され、新旧の異なる素材による対比が生じている。外部には現代的デザインのコートヤード棟やスタジオ棟が増築されており、必要最低限の修復に留められた既存建築と、新たに建設された建築が、外観・内部空間の双方において対照的である。
	9	工場(クリーニ ング)	集合住宅、レストラ ン、 オフィス、ショール ーム	チューリッヒ	ヴァンジャンシュタルト・ チューリッヒ	agps architecture	2000	-	ヴォリスホーフェンの湖畔にたつクリーニング工場地帯一帯が、2000年に集合住宅、オフィス、レストラン、ショールームなどからなる複合施設へと再開発された。全体は新築棟を含む3棟から構成されており、その内の1棟は旧工場にあった外壁レンガ造の建物をショールームへとコンバージョンしたものである。増築部分と新築棟は、ガラスの立面、浮遊ヴォリュームなど、現代特有のデザインであり、外観を保存したショールーム棟との対比を成している。また、旧工場を象徴する、敷地の中心に位置する煙突はそのまま保存された。敷地全体において、既存建築の修繕・増築、新たな建築の挿入を巧みに組み合わせしており、地域再開発の一部にコンバージョンという手法を用いた成功事例である。
	5	兵舎	ホテル	ストックホルム	スケプシヨルメン・ホテル	Ersous Arkitecter	2009	-	1702年に建てられた兵舎をリゾートホテルへと転用させた事例である。個室の戸割りを宿泊室として利用し、既存の平面形に配慮しつつ、壁の撤去、開口部の新設を行うことで、食堂といった共有スペースを効果的に生み出している。
スウェーデン1	10	工場(ドア)	ギャラリー、ショッ プ、 カフェ	ストックホルム	ファニチャーギャラリー	Sandellsandberg	1993	-	-
	13	工場(ダイナマ イト)	イベントホール、カ フェ	ストックホルム	ウィンターヴィケン	-	-	-	-
	6	倉庫	カフェ、ショップ、 ギャラリー	マルメ	フォルムデザインセンター	Nyrenge Arkitektkontor	1974	-	1850年に建てられた倉庫から1974年にギャラリー、ショップ、カフェへと転用された事例である。白く塗装された内壁を除き、既存の建築にほとんど手は加えられず外壁の既存レンガや内部の荒々しい木の柱梁が活用されている。
スウェーデン2	9	チョコレート工 場	工場、劇場、ギャラ リー	マルメ	マゼッティ地区の文化拠点	-	-	-	マルメの中心に位置しているチョコレート工場群が芸術関連事務所、美術館、ギャラリー、クラブ、レストランへと転用された事例。街区全体の建物を転用することによって建物単体だけでなく、マルメの都市活性化に大きく貢献している。
	10	造船所	ホテル、オフィス、 イベントホール	マルメ	クオリティホテル11 & イベントスバーグホール	White Arkitekt	-	-	-
	11	食肉処理場	オフィス、ホール、 レストラン	ヨーテボリ	スラッグスセット	Olle Rex	1991	-	-
デンマーク1	1	工場(製紙)	アトリエ、ギャラ リー	シルケボー	シルケボー製紙工場	Arstidorno Arkitekt	2003	-	シルケボーの工場建築群のコンバージョン事例のうちの一つである。既存の天井高を活かしたスペースは、内壁の塗装に改修は留められ、クレーン等の重機も保存されている。床の挿入により分節された空間は、アトリエとして利用される。どちらの空間もトップライトの設置により、光環境を整えている。
	6	ガスタンク	劇場	コペンハーゲン	ガスタンクシアター 新ホワイエ棟	KHRAS Arkitekt	1997	-	1883年に建設されたガスタンクを1979年に劇場に転用した事例。既存の特徴的な円筒形はホールに保存活用され、ガスが爆発した際に内部圧力を逃すための丸窓も既存の用途を示す要素として保存されている。また、増築棟への動線を地下に設けることにより、ガスタンクの円筒形の象徴性を保持する配慮がなされた。
デンマーク2	4	オフィス	商業施設	コペンハーゲン	デンマークフィルムセンター	Nielsen,Nielson & Nielson	1996	-	-
	5	オフィス、店舗	複合商業施設	コペンハーゲン	ボルテン邸	GBD Arkitekt	1990	-	-
	7	天文観測所	展望台、ギャラリー	コペンハーゲン	ランドタワー	-	-	-	-
上海1	1	事務所(銀行)	複合商業施設	黄浦区	外灘3号	バーマー・ターナー	2004	1916	既存建築が商業系施設の場合、立地の良い事務所は複合商業施設に、著名なクラブハウスは、ホテルに転用される場合が多い。外灘3号は、マイケル・グレイプスのデザインに基づき、店舗、ギャラリー、レストラン、スパ等が複合した高級商業施設へと変貌を遂げている外観は、基本的に保存修復を行い内部で拔を活用した空間を生み出している。
	2	事務所(銀行)	複合商業施設	黄浦区	外灘5号	レスター・ジョンソン&モリス	-	1921	-
	3	事務所(銀行)	複合商業施設	黄浦区	外灘18号	バーマー・ターナー	2006	1923	-
	4	事務所、ホテル、 自邸	ホテル	黄浦区	和平飯店北楼	バーマー・ターナー	1956 2010	1929	サッスーンハウスとして知られていたランドマークであり、1956年に全館がホテルに転用され、2010年秋に数年かけた大改修の結果、ホテルとしての価値を更に高めた事例である。
	5	クラブハウス	ホテル	黄浦区	旧上海クラブ	モアヘッド&ハルツ	1971 2010	1910	上海クラブはかつて著名なクラブハウスであったが、1971年に東風飯店というホテルの一部に転用され、再改修の末、ウォルドルフ・アストリア・ホテルが開業した。
	6	クラブハウス	ホテルの一部	盧湾区	上海花園飯店	レオナール&ヴェセール	1989	1926	-
	7	事務所(郵便 局)	ホテル	静安区	Urban	-	2008	1970年代	郵便局の事務所をホテルに転用した事例であるが、使用材料においても再利用が意図されており、内外ともに全体としてデザイン性の高い建築にまとめている。上海美術館は、現在の人民広場にあった競馬場に付属する競馬クラブであった。レストラン、博物館、図書館を経て、2000年に現在の美術館に改装されるという転用の歴史をもつ。
	8	クラブハウス	飲食、博物館、図 書館、 美術館	黄浦区	上海美術館	スペンス・ロビンソン& パートナーズ	1952 2000	1933	-
	10	邸宅	ホテル	静安区	Pel Mansion Hotel	中部工事会社	2010	1934	-
	11	邸宅	事務所後、ホテル	長寧区		Allied Architects Hougai	2001	1936	-
	12	邸宅	ホテル	徐匯区	主席公館酒店	ラファイエット	-	1932	-
	13	邸宅	ホテル	盧湾区		-	1990	1920	-
	14	邸宅	ホテル	静安区		エウイス	2002	1934	-
	15	邸宅	レストラン	徐匯区		-	-	1920	ガラスを多用した増築を行うことで、現代性の創出を試みている。
	19	集合住宅	ホテル	徐匯区	客堂間	仏人建築家	2009	1936	-
	20	集合住宅	ホテル	徐匯区	Gallery Stuites	バーマー・ターナー	-	1933	-
	21	低層集合住宅 群	商業施設	盧湾区	新天地	-	2002	1900	-
	22	低層集合住宅 群	商業施設	盧湾区	田子坊		1990	-	連棟式の低層集合住宅が残る地区や路地的空間
	23	気象信号台	カフェ	黄浦区	外灘気象信号塔	アトナド	-	1907	旗を使って気象情報を伝える施設で、1956年にその役割を終えた。道路拡張に伴う移築等も経て、現在、執務室部分はカフェ。
	25	修道院	レストラン	徐匯区	上海老站	-	-	1921	修道尼院がレストランを中心とする商業施設に転用された例。
上海2	1	倉庫	オフィス、店舗	-	四行倉庫	-	-	-	第2次上海事変の激戦場となった歴史的遺産である倉庫建築から、事務所建築へと転用された事例である。外壁はほぼ保存され、主に内部に手を加えられている。既存の躯体や鉄製扉を残し、そこにボリュームやガラス壁を挿入することで新旧の対比が試みられている。
	2	工場	ギャラリー、オフィ ス	-	The Foubdry Gallery	-	-	-	住宅地にある比較的小規模な鑄物工場からギャラリーへと転用した事例である。既存空間にギャラリーおよびオフィスの機能を持つ二つのボリュームを挿入することで三つの吹き抜けがリズムカルに並ぶ。既存の機械が受付の壁を支持しているような表現は工場だった歴史を引き継いでいることを上手く表している。
	3	工場(ビール)	ブティックホテル	-	ピア・ワン・エム・スイーツ	-	-	-	蘇州河沿岸のビール工場がホテルへと転用された事例である。既存建築物はヒューテックによるアールデコ建築でありその特徴的な外観は保存され、立地する公園内のランドマークとしての役割を果たしている。
	5	倉庫	ブティックホテル	-	WTERHOUSE	-	-	-	倉庫をホテルへと転用した事例である。外壁は既存の壁面を主として残し、新設要素に鉄とガラスを使用して対比関係を表現している。既存の吹き抜け空間をエントランス・ロビーとして利用し、その上部に渡り廊下を新設することで宿泊者動線を立体的に交差させている。鉄骨で全体の補強を行いながら既存建築物を最大限利用した優れたデザインである。
	6	工場(腕時計)	オフィス、ショール ーム	-	Z58	-	-	-	-
	8	工場(食肉)	店舗、イベント空間	-	1833老場坊	-	-	-	1933年に建設されたアジア最大の食肉市場をショップやイベントホールといった複合商業施設へ転用したのが1933老場坊である。2棟ある建物の内、一棟の外観は保存され、もう一棟は既存建築物の周囲に増築がされている。前者の既存建築物は極めて特殊な形状をしており、同心円状の3層構成を基に、外側にショップ、中心部に縦動線、その間に吹き抜けと面を繋ぐブリッジを持つ。最上階にはそれらを覆うように透明なガラスの床が架けられ、足下に吹き抜けを臨むイベントホールとなっている。
	10	工場	オフィス、イベント 空間	-	Bridge 8	-	-	-	工場群をオフィスやギャラリー店舗などの複合施設へと転用した事例である。敷地内を縦横に巡らされた動線は異なる用途を貫くように配置され、また所々にミーティングスペースが設けられることで自然とコミュニケーションが発生するような仕掛けが施されている。建物の外壁および敷地内の舗装は、既存建築物や上海市内で発生した建築廃棄物のレンガを再利用することで、積極的に古材の要素を取り入れたデザインとなっている。
	11	工場	オフィス、飲食店	-	局門路436	-	-	-	-
	12	工場	オフィス、飲食店	-	局門路550	-	-	-	-
	13	工場(紡績)	オフィス、アトリエな ど	-	半島1919	-	-	-	1919年に建てられた沿岸の紡績工場群が、ギャラリーやアトリエなどの芸術系テナントの他、娯楽施設などへと転用された事例である。広大な敷地に建つ工場群は総建築面積で約5000㎡あり入居者が順次部分的にコンバージョンするという方法で運営されている。外観に関しては、建物間に一カ所アーケードが架けられている他、入居者がエントランス周りに建築的操作を加えるケースが多い。
	15	工場	店舗、オフィス	-	同蒙坊	-	-	-	-
	16	工場	店舗、イベント空間	-	800秀	-	-	-	-
	17	倉庫	飲食店、店舗	-	老埠頭	-	-	-	-
	18	工場(紡績)	オフィス、ギャラ リーなど	-	M50	-	-	-	蘇州河沿いの工場群を、ギャラリーを主とした芸術系複合施設へと転用させた事例である。既存の外壁にガラスボリュームやフォンスを付加することで、外部空間に新しさを添えている。内部に関しては床や壁の新設で空間をつくり、天井を既存のまま表現する建物が多い。建物間の地面はコンクリートを基調として、区域ごとに石タイルや黒色ブロックなどを配置して場所性を与えている。
	19	工場	飲食店、店舗	-	上海四季広場	-	-	-	-
	20	工場(ゴム)	店舗、シアターなど	-	可・当代芸術中心	-	-	-	-
オーストリア	4	住宅	レストラン	ウィーン	ギースクラブ	Markus und Kinayah Geiswinkler	1998	-	-
	5	温室	カフェ	ウィーン	バームカフェ	Eichinger oder Knechti	1998	-	-
	6	ガスタンク	ショッピングセンタ ー、 学生寮、映画館	ウィーン	ガゾメーター	Jean Nouvel Coop	2001	-	1896年から1899年にかけて建設されたガスタンクをショッピングセンターや学生寮、映画館などが入った複合施設へと転用した事例である。外径64.9m、最高部高さ72.5mの円筒形のガスタンクが4棟あり、1995年にウィーン市がこの巨大産業遺構を活用する方針を決めた。コンベア4人の建築家が選ばれ、それぞれ1棟ずつ担当した。Coop Himmelb(l)auが担当した4棟は、レンガ外壁の重厚な既存建築に屈折したガラス建築が増築され外観での対比を生んでいる。他の3棟は外壁への増築はなされず、そのままで保存されている。ガスタンク内部には各棟12〜15層の床スラブが挿入され、大空間を有効に活用している。中央にはアトリウムを設け、元々の円筒形空間を感じさせる重厚な外観とは対比的に、内部には大がかりな建築操作がなされ、現代的な空間となっている。地下鉄駅を新設されたこともあり、今もなお多くの人で賑わっている。コンバージョンによる地域一帯の開発として成功した事例である。
	8	天文台	社会教育施設、ミ ニシアター	ウィーン	ウラニア	Dimitri Manikas	2003	-	-
	9	工場(製紙)	ショッピングセン ター、スポーツセン ター	ウィーン	Q19モール	Peter Lorenz	2005	-	製紙工場をショッピングセンターが中心の複合施設へと転用した事例である。街区一体で開発がなされ、ウィーンで最大級のショッピングセンターになっている。コンバージョンにあたって新棟が増築され、その面積がほぼ半分を占めるコーニスや付け柱の片断が残るモダン・クラシックの既存棟に対して、新築棟は大きな曲面を持つ鉄骨の大量で構成されており、既存棟と新築棟は全く対照的な外観となっている。既存棟と新築棟の間は、トップライトを設けた大屋根をかけたアトリウムとなっており、既存には無い明るい大きな空間を獲得している。既存棟内部は、工場の高い階高を活かして、店舗や飲食店のみならず、スポーツセンターやオフィスなどに転用されている。Q19モールは、既存の工場に現代建築を巧みに付加しつつ全体をコンバージョンした秀作である。
	10	高射砲塔	水族館	ウィーン	ウィーン水族館	-	2007	-	高射砲塔を水族館へと転用した事例である。ナチスドイツは第二次世界大戦でウィーン市内に高射砲塔を6基建設した。爆撃に耐えるために鉄筋コンクリートで極めて強固に建設されている。その躯体を有効利用し、1957年に一部が水族館として、さらに2007年に一塔全体が1万種の水生動物を展示する施設へと転用された。館内には多層階に渡る水槽や回遊式の観覧動線が取り入れられている。壁の一部に空けられた開口部には大変厚い壁厚を確認できる。外部には、既存の巨大なRC壁の正面と背面に三角形の大型ガラス建築が増築され、その中に温室が設けられた。このように建物内外の随所で既存の重々しいRC躯体と、増築されたガラス壁との対比を感じることができる。この水族館は、解体した場合の巨額費用、戦争の記憶の継承、好立地を活かした集客能力などの総合的な観点から賢明なコンバージョンと言える。残り5基の高射砲塔の活用は今後ウィーン市の大きな課題である。

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	転用年	備考
オランダ1	5	共同生活住宅	宿泊施設	アムステルダム	ロイドホテル	MVRDV	2004	移民施設から転用した事例である。周囲から切り離され独立して存在するこの建築は著名建築家によるデザイナーズホテルとして蘇った。内部に一歩足を踏み入れると外観と対照的で、白を基調としボックス状のボリュームが空中動線で繋がれ、既存のイメージとは異なる開放的空間に一新されている。階段などの要素が保存された客室付近のセミプライベート空間からパブリック空間へ徐々に変化する構成で、客室外の居場所が全体に散りばめられている。
オランダ1	9	事務所(証券取引所)	コンサートホール	アムステルダム	ブルース・ファン・ベルラーヘ	-	1992	-
オランダ1	10	事務所(郵便局)	商業施設	アムステルダム	マグナ・プラザ	-	1992	1899年に建設された中央郵便局が業施設へと転用された。後期ゴシック様式の装飾的なファサード、上部に載せられた双塔は保存修復され、内部の吹き抜けには縦動線が大胆に付加されている。吹き抜け空間は最大の見せ場であり、スチールとラスによるエレベーターは既存に対して対比的でありながら異質感なく荘厳さを際立たせて全体がまとめられている。
オランダ1	14	倉庫	業・展示・事務所	アムステルダム	第6格納庫	bureau Villa Nova	1996	-
オランダ1	21	倉庫	事務所・店舗・住宅	アムステルダム	アトレボットドック倉庫	J. van Stigt	1980	-
オランダ2	3	工場	レムスタジオ	ロッテルダム	WORM@VOC	2012 Architecten	2006	-
オランダ2	9	事務所(大学)	大学研究施設 ショップ、カフェ	デルフト	BKシティー	BK City Five	2009	デルフト工科大学の事務棟を建築学科の研究施設及び工房に転用した事例である。研究室は事務棟の個室割を利用し、最低限の改修に留めた。一方で工房等の共用部は、2か所の中庭を内部空間化した大空間が新たに付加された。周辺には広い増築余地があるが、あえて中庭に増築を行うことで動線の分岐点を新たに設え、学生の様々な活動に対応するプランに変更された。
オランダ2	14	教会堂	ホテル	マーストリヒト	クロイサーホテル	SATIJNplus	2005	-
オランダ2	15	教会堂	書店	マーストリヒト	セレクサイズ書店 ドミニカ教会店	Merkx+Girod	2006	ゴシック教会を書店に転用した事で例である。全面に床を張らずに三層の書棚の箱を挿入することで既存大空間を保存した。また身廊の強い軸線を消さないよう中心からずらして書棚を配置している点など、既存建築を活かすための細やかな配慮がなされている。
オランダ2	17	住居	ライブハウス	デン・ハーグ	パールド・ファン・トロイ・ポップセンター	OMA	2003	2棟の住宅からライブハウスへ転用された事例。壁を共有する欧州の建設方法において、隣家への音漏れ・振動への配慮からスタジオを内包した箱を壁と床から完全に独立・浮遊した状態で内部に挿入した。ハーグの街並みに配慮し保存された外観と、ダイナミックな操作が加えられた内部空間が対比的である。
ノルウェー1	2	市庁舎	レストラン、ギャラリー	オスロ	ガムレ・ロードフース	-	1997	1641年に建てられたクリスチャニア市庁舎が、1733年にその役目を終え民間に売却された。その後フリーメイソンの事務所、裁判所など数度転用された後、レストラン、ギャラリーとなる。1階レストランは1926年開業であるが、1996年に火災にあったため、現在の内装は当時のデザインの復元である。2、3階のギャラリーはその火災からの修繕が施された1997年に営業を開始し、この内装も既存のものを修繕、補修したものである。
ノルウェー1	6	事務所(港湾局)	事務所、レストラン	ベルゲン	クラリオン・コレクション・ホテル・ハブネコントレ	-	2005	-
ノルウェー1	10	馬小屋	コンサートホール	オスロ	コンサートホール	4B Arkitekter AS	2007	1900年に建てられた馬小屋が、2007年に小規模なコンサートホールへとコンバージョンされた。既存建築はボロンソー式トラスによる特徴的な構造であり、転用に際してはこれを保存しながら新たな機能が挿入された。照明・音響機器は新たに組まれた鉄骨フレームから吊られ、観客席は既存の構造体と干渉しないように設置されている。またその観客席の下、及び既存壁との隙間をバックヤードとして使用するなど、小さな空間を巧く利用することでホールとしての機能を成立させている。
ノルウェー1	12	スキージャンプ台、博物館	スキージャンプ台、博物館、展望台	オスロ	ホルメンコーレンスキージャンプ台	Boesch Architekten	2009	1892年に建てられたスキージャンプ台が数度改築され、2009年に既存のミュージアムを保存しながらその一部が展望台としても利用できるようになった。展示空間は地形を活かし、内部空間に露出した岩肌がノルウェーの豊かな自然を思わせる演出要素として用いられている。現在もスキージャンプ競技の施設として使用されるが、季節によりその用途を変える特殊な事例である。
ノルウェー1	14	住宅	レストラン、店舗	ベルゲン	ブリュッゲン	-	-	-
ノルウェー2	1	倉庫	商業施設	オスロ	アーケル・ブリッゲ	-	1980	1982年に閉鎖された造船所の巨大倉庫群を商業施設に転用した事例である。既存建築を単体として利用するのではなく、建物間に屋根やブリッジをかけることで、複数の建物を一体的に転用している。既存外壁を保存し、街に当時の景観を残しながらも、新築部分は白い壁とガラスを基調とし、真新しさを強調することで対比的な空間を生んでいる。
ノルウェー2	2	工場(食品加工)	文化施設 商業施設	ベルゲン	USF造船所	-	1993	造船所跡地に1914年、イワシ加工工場が建設され、1993年に文化施設及び商業施設に転用された事例である。工場に隣接する倉庫棟を取り壊して広場を設けているが、工場自体は外観を保存し、外壁には当時のロゴやマークが残された。内部空間は、既存内壁を極力活かし、絵画・彫刻・映画・音楽・演劇などの部門を内包するため、迷路のような空間が広がっている。
ノルウェー2	5	工場(印刷)	ホテル	ベルゲン	ファースト・ホテル・マリノ	-	1998	1918年に建設されたF.ペイヤーの印刷製本会社の工場がホテルに転用された。当時2階建てであった建物のコーナー部分に増築を施し、2001年には隣接する建物もホテルの一部へと統合した。統合された建物は、急勾配の切妻屋根やバターンのついた帯状の装飾などベルゲン伝統のスタイルを持ち、外観及び内観は共にほとんど操作を加えず、既存建築を活かしている。
ノルウェー2	8	工場(タバコ)	店舗	オスロ	ワインショップ	DARK Arkitekter AS	2003	-
ノルウェー2	10	変電所、工場	ギャラリー、事務所	オスロ	DogA	Jensen&Skodvin Arkitektor AS	2006	1900年と1912年に建てられた2つの工場と変電所を統合し、デザインセンターに転用した。内部空間は、隣接する建物同士を繋ぎ合わせることで一体的な空間となっているが、年代の異なる装飾が入り混じっている。外壁を保存し、かつての景観を街に残す一方で、一部にガラスボックスを挿入し、エントランス空間と飲食スペースを効果的に演出している。また、この施設は重要文化遺産として指定されている建物を転用したもので、オスロを代表する文化施設として注目されている。
ノルウェー2	11	工場	ギャラリー、事務所	オスロ	OCA スタジオ	-	2008	-
ノルウェー2	12	工場(ジャム)	ギャラリー、事務所	オスロ	rom	-	-	オスロシティー・アーカイヴと、romは、共に1861年に建てられたジャム工場が分化して転用された事例である。オスロシティー・アーカイヴはノルウェー保存協会の事務所がある建物に増築された。外壁は既存部と同じレンガ壁で構成され、かつての工場の外観を損なわないように配慮されている。一方、romは工場の一部が診療所に転用された後、ギャラリー及び建築家のアトリエとして利用されている。アーカイヴ棟とは異なり、外壁を鮮やかに塗装し、新しいデザインを取り入れることで刷新した空間を作り出している。
ノルウェー2	13	工場	劇場、事務所	オスロ	ダンスハウス	Snohetta AS	-	-
ベルギー1	4	礼拝堂	劇場、ギャラリー	ブリュッセル	ブリジッティンス現代舞台芸術センター	Andrea Bruno	2007	教会堂から劇場に転用された事例である。既存の教会堂と形、大きさがほぼ等しい棟を既存の棟と並ぶように新設し、両者の間をガラスの壁、屋根で接続している。新築の現代的な建築と既存の教会堂は、立面や内部空間において非常に対比的な関係性を持っており、光に満ちた新築棟はエントランスホールとなっている。
ベルギー1	6	美術館、アーカイヴ	ギャラリー、カフェ	ブリュッセル	サンジェリ・ホール	-	1999	-
ベルギー1	7	労働者厚生施設	カフェ、ホール	アントウェルペン	カフェ オルタ	-	2000	-
ベルギー1	9	研究実験棟	劇場、ギャラリー	ルーヴェン	STUK	Neutelings Riedijk Architecten	2002	-
ベルギー1	14	大学施設、住宅	美術館、カフェ、店舗	ルーヴェン	ルーヴェン美術館	Stephane Beel	2009	旧大学棟、旧住居棟、新築棟二棟の計四棟から構成された美術館である。既存部分は極力保存され、外観では新旧の対比が表現されているが、内部空間はホワイトキューブの展示室で形成され、統一感のあるデザインとなっている。新築部分と既存部分の差異は、鑑賞空間の随所で開口部や外壁から伺うことが出来るため、来訪者は新しい建築と古い建築を回遊していることを認識することができる。
ベルギー2	3	炭鉱施設	映画館、劇場、展示、ホール	モンス	C-MINE	51N4E	2010	1988年に停止した炭鉱施設をヘンク市が買い取り、文化・商業施設へと転用した事例。既存の外壁及び採掘タワーは保存修復され内部にも炭鉱関連の設備が展示されている。またT字型平面の余白部分に打放しコンクリート及び金属素材の外装を纏った大小2つのホールを増築し、既存建築の象徴性を保ちつつも施設全体の利用価値を向上させた事例である。
ベルギー2	9	倉庫(武器)	劇場	ブリュッセル	KVS	Jean Baes, (b.o.a.)	1887(2006)	-
ベルギー2	11	倉庫	店舗、事務所	ブリュッセル	デボ・デザインストア	-	1998	1870年ブリュッセル市内の河川沿いに建設された倉庫からの転用事例である。3棟の倉庫を統合しインテリアショップ及びそのオフィスとした。既存中央の棟は外壁のみを残し解体、鉄骨による補強を行い、両端の2棟を接続する吹き抜けの大空間へと改修している。外観からはそれぞれ既存タイル、煉瓦、多彩に塗装改修された棟が並び、内部の連続した大空間との対比が印象的である。
ベルギー2	14	税関	店舗、事務所、イベントスペース	ブリュッセル	TOUR & TAXIS	ARCHI2000, Jan Van Lierde	2004	かつてベルギーの水運、鉄道における貿易拠点として建設された施設であり、税関棟、商品倉庫の2棟からなる。現在の税関棟は1階を商業施設、2～5階を事務所として活用し、既存のアトリウムを活かした明るい内部空間を実現している。商品倉庫も既存の大空間を活かし、トップライトによる光に満ちたイベントスペースへと転用されている。税関棟アトリウム部分の鉄道レールを床下に保存、展示するなど、既存建築の歴史価値を尊重した改修が行われている。
ベルギー2	16	電気局	レストラン、イベントスペース	ブリュッセル	ミラノ・パサージュ	Brigitte Libois, Daniel Lelubre	2009	-

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	転用年	建設年	備考
シンガポール1	2	学校	ホテル	-	Hotel Re!	2008	1883	1906年に建設された中国人学校から1970年に図書館へと転用され、その後切手博物館へと転用された事例。既存の建築は2層のコロニアル様式で、バルコニーにはガラス窓をはめ込む事で外部が内部化されて、展示空間として使用されている。既存の廊下や吹き抜け空間や、コロニアル様式の高さのある天井を上手く利用した展示が行われている。1階の展示空間では天井を撤去した事により露出した配管などを黒く塗装する事で、配管などを目立たなくする工夫が見られた。
	5	学校	ホテル	-	ワンダラスト	2010	1920	1920年代に建設された学校が、ブティックホテルへ転用された事例。建物はアールデコ様式の4階建てで、29部屋ある客室はそれぞれが異なったテーマを持っており、2つとして同じ部屋はない。2階には新たにジャグジーを有するルーフデッキが設置され、開放的な空間となっている。既存の建物の構造は基本的に保存され、新たにエレベーターが挿入される事でホテルという機能に対応している。1階は天井が撤去されて共有のスペースの天井高が確保されている。外壁のカラフルな装飾は良好な状態で保存されている。
	6	学校	劇場・事務所	-	ブラクティス・パフォーミング・アート・センター	1988	1920	-
	8	学校	商業施設	-	51・ウォーターロー・ストリート	-	1936	-
	13	複合施設	ギャラリー・事務所	-	スカルプチャー・スクエア	1999	1870	-
	14	修道院	商業複合施設	-	チャイムス	1996	1852	1852年に女子修道院として建設され、その後建物の耐震性などの問題のため、1904年にサンクンガーデンを有する新たな教会堂が建設された。1913年には教会の両端に2層の回廊が付加され、ディテールや仕上げなどを既存の教会堂のデザインと統一されている。1950年には中庭に新たに建物を増築し、1983年に修道院は閉鎖され、1996年に飲食店やウエディングホールなどの商業複合施設へと転用された。
	16	火力発電所	ナイトクラブ	-	セント・ジェームス・パワー ステーション	2006	1927	フロントン・ヘリテージ地区の再開発事業の一環として、1928年に建設された中央郵便局を2000年に高級ホテルへと転用した。外観は新古典主義様式の既存建築を保存しており、内部は中庭として使用されていた箇所にガラス屋根を架け、内部化されている。8層分の吹き抜けは、エントランスホールおよびカフェとして使用されている。
	17	交通警察本部	複合施設	-	レッド・ドット・トラフィック	2005	1928	-
	18	中央郵便局	ホテル	-	フラトンホテル	2000	1928	-
	21	船着場	ホテル	-	ザ・フラトン・ベイ・ホテル	2010	1930	-
	23	税関警察本部	レストラン	-	カスタムス・ハウス	2007	1934	-
シンガポール2	2	ショップハウス	ホテル	-	ニューマジェスティックホテル	-	1928	チャイナタウンの一角に位置し、デザイナーズホテルとして転用された事例。地上階ではドアなどを取り除き、新たにガラスの折戸などが取り付けられる事で、改修部分と既存躯体との対比が強調されている。また既存の床を取り除き、新たに螺旋階段等が挿入された事により、上下階のつながりが強化され、採光性の向上も図られた。
	3	ショップハウス	ホテル	-	ホテル1929	2010	1929	-
	4	ショップハウス	ホテル	-	ランデブーホテル	1998	1930	1930年代に工房として使用されていたショップハウス群に、11階建ての新築棟のホテルが挿入された事例である。既存のショップハウス群と新築されたホテルを繋ぐようにアトリウム空間が配置される事により、採光性能の向上と共に新築部と既存部の対比が強調されている。既存のショップハウス群は内壁が取り除かれる事で大空間が生まれ、2.3階が店舗や外部空間として転用されている建物や、床が取り除かれて吹き抜けとして転用されている建物等があり、ファサードを保持させながらも内部では様々な操作が加えられている。
	5	ショップハウス	アートギャラリー	-	11キム・ヤム道路	1992	1935	-
	6	ショップハウス	ホテル	-	ダクストンホテル	-	-	-
	7	ショップハウス	ホテル	-	グランドブラザホテル	1997	-	都市開発局Urban Redevelopment Authority(URA)により保存地区として指定された12戸のショップハウス群のうち2棟残り新たに10階建てのホテルが付加された事例である。保存された2棟のショップハウスを繋ぐように門型のファサードが増設された。2棟のショップハウスの既存壁面は鉄筋コンクリート造により補強が行われる事で保存され、既存の景観を保持し利用されていた。そして既存部と新築部を結ぶように半透明の屋根をかける事により両者の調和が図られた。
	8	ショップハウス	複合施設	-	ファー・イースト・スクエア	1999	-	空調設備を備えたガラスのアーケードが架けられる事で、約60戸のショップハウスや寺院が商業複合施設として転用された事例である。アーケードに隣接してオペラの上演も可能な大きなガラスボックスの挿入、隣接する内壁の撤去などの操作により様々な用途に対応できる施設へと改修されている。そして上下階を別の使用者に貸すために階段や通路、エレベーターも挿入され、観光客から会社員まで様々な人々にも対応できるように改修された。
	10	住宅	レストラン	-	アルカフ・マンション	1986	1920	-
	11	住宅	パブ	-	ザ・ダブリナー・アイリッシュパブ	-	-	-
	12	兵舎	カフェ・スパ・バー	-	バラック&キャンプ	2007	-	-
	13	倉庫	住宅・カフェ	-	ウォーターマーク	2008	1880	1800年後半には倉庫や埠頭が多く見られた港湾エリアが商業と住居の複合地区として再開発された場所に立地する事例である。倉庫中央部に10階建ての住戸棟が挿入され、下部の既存倉庫のファサードとの新旧の対比的効果が明快に表現されている。また、倉庫端部は既存の高い天井高を活かしたカフェや駐車場等に転用されている。倉庫の長手方向に内壁を挿入することにより複数の店舗が道に面することができるよう工夫がなされた。
	14	倉庫	映画館	-	シンガポール・レパトリー・シアター	2001	1988	-
	15	倉庫	店舗	-	ジョーンズ食料品店	2007	1996	-
	16	倉庫街	店舗	-	クラーク・キー	2007	-	シンガポールの貿易の中心を担っていたエリアを改修した事例である。URAにより保存地区として指定され、歴史的な建造物が復元されるとともに、現存する倉庫、ショップハウス等を定められた法律に則り、ガラスボックスの挿入、屋根の付加等の改修、保存がなされている。色彩豊かな塗装により周辺との対比が強調され娯楽地区としての演出が計られている。そしてメインストリートにはアーケードも架けられて東南アジアの気候に対応するとともに、より演出効果をあげるように計られた。
マレーシア1	1	市庁舎	劇場	クアラルンプール	市立劇場	1990	1896	-
	4	工場(材木)	劇場	クアラルンプール	KLPAC	2005	1906	木材加工所として建てられた建紋楓ゴルフクラブハウスを経て劇場に転用された。特徴的な形状の既存建築の外周壁を残し、そこに新築部分を食い込ませるように増築が行われた。既存のレンガ壁と新設されたガラスヴォリュームは対比的な表現となっているが、増築部分内部の柱にもレンガが用いられ、既存部分との連続性が意識されている。
	7	ギルドホール	カフェ	クアラルンプール	オールドチャイナカフェ	2000	1910	-
	9	オフィス	バー	クアラルンプール	BAKITA	-	-	事務所として使われていた建物をバーに転用した事例。ファサードに金属製の構造体やパンチングメタルが付加されたことにより外観が一新されている。内部は打ち放しのコンクリートを中心仕上げられ外部にはウッドデッキが新設されることで、全体として素材感やコントラストの強いデザインに変更された。
	10	集合住宅	宿泊施設	クアラルンプール	コーラスホテル	-	-	-
	11	住宅	ショップ	クアラルンプール	スウェンギャラリーズ	2011	2000	三つの住宅が商店、事務所、ギャラリーに転用された事例。三つの独立した建物に一体感を持たせるために、ファサードに金属製のルーバーが取り付けられた。敷地周辺はロードサイドのエリアであり、そのアクセスの容易さから価値が見直されつつあり、このようなファサードのみを改修したコンバージョン建築が多く建ち並んでいる。
	12	商業施設	ギャラリー	クアラルンプール	ウェイリンギャラリー	2005	-	火災にあった事務所を修繕する際に隣り合う建物と一緒に改修してギャラリーに転用した事例で、燃え残った部分を活かすようなデザインが施されており、修繕部分との対比的な関係が生まれている。三層分の高さの吹き抜けが新設され、ギャラリーに適した広々とした空間を獲得している。
	13	商業施設	宿泊施設	クアラルンプール	バックホームホテル	2009	-	6棟のショップハウスを宿泊施設に転用した事例。ファサードを保存し、過去の記憶を継承しながらも大部分は更新された。大部分が新築でありながらも、中庭を有したショップハウス独特の平面構成は踏襲されている。
	14	映画館	宿泊施設	クアラルンプール	レッドドラゴンバックパッカーズホテル	-	-	-
マレーシア2	8	邸宅(公館)	ホテル	マラッカ	ザ・マジェスティック・マラッカ	2000	1929	この建築は 1929 年に邸宅として建設された後、2000 年にホテルへと転用され、2008 年には高層の客室棟が付加された。その際、邸宅部分は1階がフロント、ロワイエ、カフェに、2 階がレストランにコンバージョンされた。邸宅の価値は、その意匠が高層棟の客室にも大きな影響を与えたとある。つまり、客室棟の室内が、イギリス建築の影響を受けたコロニアル建築のデザインに統一され、客室棟単体のホテルにはない付加価値として大きな魅力となっている。
	9	ショップハウス	ホテル	マラッカ	サマ・サマ	-	1700	-
	10	病院	ホテル	マラッカ	マラッカ・ストレイツ・ホテル	-	-	1 階の受付、待合室、診察室、検査室などをホテルのフロントやロワイエ、レストランに、2 階以上の階の病室はホテルの客室に変更された。病院をコンバージョンした事例は少なく、貴重な参照例と言える。
	11	店舗・オフィス	店舗	マラッカ	ピュア・バー	2006	-	-
	12	住宅(長屋)	レストラン	マラッカ	サオ・ナム	-	-	-
香港1	1	軍研究施設	オフィス、シアター	中西区	アジアソサイエティ香港	1992	1840	3つの軍関係施設が新築棟によって繋げられ、1つの企業のための複合施設となった事例。新築棟はエントランスホールとそれぞれの棟を巡る回廊としての役割を持ち、旧研究施設は管理棟に、旧兵舎はオフィスに、旧火薬庫は美術館とシアターに転用されている。全体として新築棟と既存建築の対比的な構図になっているが、ガラスの付加により、個別的にも新旧の対比表現も散見される。
	5	軍兵舎	ホステル	中西区	ジョッキークラブ・ニューホステル	1986	1907	-
	12	水上警察署	複合施設	深水埗区	1881ヘリテージ	2009	1881	警察署が様々な施設が集まる巨大な高級商業モールの一部となった事例である。ファサードの既存ベランダ空間をホテルのバルコニーとして保存すると共に、新築部にも既存を模したファサードを用いることで、中心市街の商業施設として相応しい賑やかな広場空間を生み出している。
	13	警察署	クラブハウス	南区	蒲窩青少年センター	1995	1891	-
香港2	15	工場(酪農)	展示、劇場	南区	香港園芸学院ウェルカムシアター	2006	1886	-
	16	工場(酪農)	記者クラブ、展示、商店	中西区	香港外国人記者会	1983	1892	酪農施設から転用された事例。現在この周辺はビルが立ち並ぶ中心市街地であり、この事例では記者クラブ・飲食店・展示施設の三つの施設に転用されている。赤と白を基調としたアールデコ様式の外観は保存されているが、記者クラブの内部では木材を多用した高級感のある仕上げが施され、展示施設では配管や躯体がむき出しにされるなど、用途に合わせた内装に変更されている。
	20	工房	レストラン	中西区	ザ・ピーク・ルックアウト	2001	1901	-
	24	邸宅	クラブハウス	中西区	ロビンソンロード80クラブ	1991	1893	-
	27	ホテル	集合住宅、店舗	南区	ザ・レパルス・ベイ	1982	1920	コロニアル様式の建物が改修され、後ろに高層棟が増築された事例である。他の多くのコロニアル様式の転用事例同様にバルコニーが内部化されているが、一般的なバルコニーの奥行きが約2mであるのに対して、このバルコニーは約6mあるそのため、広い空間を活かしカフェとして利用がなされ、積極的に活用されている
	28	質屋	レストラン	灣仔区	繁盛質屋	2007	1888	-

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	転用年	建設年	備考
西安	6	住宅	展示施設、劇場、店舗(飲食)	西安	高家大院	-	-	1644	鼓樓の北側の回族が多く居住する地区に立地した軀木結構四合院という伝統的な住宅形式で、清代の有力者・高岳崧の故居である。敷地面積2800㎡と規模が大きく、内部には86部屋が展開し、現在そのうち56部屋が公開されている。中でも主体となる建物は明代の建築である。中には人形劇のための劇場へとコンバージョンされたものもあるが、基本的に建物全体を保存し、内部にステージなどを建て込む手法を採っている。
	9	医療施設	商業施設	台北	小藝埕	-	2009	1927	-
台湾 1	10	医療施設	商業施設	台北	宮原眼科	-	2010	1917	1927年に日本人医師が開いた医院を政府が台中市衛生院として転用後、現在商業施設として利用されている事例である。既存建築は災害による深刻な被害を受けていたが、大規模な増築を伴う改修を経て現在のものとなっている。そのため、既存部分は災害に耐えた外壁や木架構に留まるが、鉄骨の補強材やガラスのヴォリュームとの新旧の対比が随所に見られる。
台湾 2	1	工場(製糖)	商業複合施設	高雄	台湾精糖博物館	-	2006	1901	1901年に三井財閥により設立された台湾で初めて大規模な製造機械を取り入れた製糖工場である。製糖工場一帯を、製糖工場の歴史を伝える博物館やイベント空間、店舗、飲食店を含む商業複合施設に転用した事例である。工場を外観や内観だけでなく、工場の設備までも当時の状態で保存し、博物館として転用している。倉庫は外観を保存し、内部は補強で用いた鉄骨を露出させ、新たに内装を施し博物館として転用されていたものや、倉庫の壁の一部をガラス面にすることで、内部に採光を取り込み、明るい空間を作り、イベント空間や店舗、飲食店への転用がされている。
	4	工場(製糖)	商業複合施設	台南	十鼓文化村	-	2007	-	-
	5	工場(醸造)	商業複合施設	台中	台湾建築・設計与藝術展演中心	-	2005	1914	-
	6	工場(醸造)	商業複合施設	台北	華山1914	-	2005	1914	1914年に日本芳釀株式会社として設立されたワイン工場である。工場一帯を大規模な商業複合施設に転用した改修した事例であり、展示施設に加え、店舗や飲食店、映画館等の商業施設が数多く見られ、観光地として盛んである。建物は、外壁の打放しコンクリートやレンガなど、ほとんど当時の外観を保存している。一部の建物で、建物同士をつなぐ外部通路が付加されており、施設間で回遊性が新たに生まれている。工場や倉庫は、特有の大空間を活かして、イベント空間や映画館に転用され、小規模な建物は、飲食店や店舗に転用されている。また、既存の木造のトラス組を保存しつつ、鉄骨で補強している建物や、建物間に鉄骨をフレームとするガラス屋根を架け、半屋外空間を作っている空間が見られ、新旧の対比が印象的な改修が見られる。
	10	工場(煙草)	商業複合施設	台北	松山文創園區	-	2001	1937	-
	13	倉庫(醸造)	飲食店	台北	台北碑酒文化園區(漢字)	-	2007	1919	-
	15	倉庫(港口)	商業複合施設	高雄	駁二藝術特区	-	2001	1973	-
	1	住宅	店舗	台北	淡水紅樓	-	2000	1899	1899年建設のイギリスコロニアル様式の2階建て洋館を、飲食施設に転用した事例である。1階はレストラン、2階には古い写真が数多く展示され、3階は既存の屋上に鉄骨により増築がなされ喫茶店となっており、淡水河の眺望を楽しめる。1.2階は、壁面の修復、床・天井の張り替えに加え、部分的に壁を削除し転用後の用途に対応した広い空間を確保している。
台湾 3	2	住宅	店舗	台中	台中悲歡月人文茶坊	-	1988	1924	-
	7	住宅	商業複合施設	台北	台北故事館	-	2003	1914	-
	8	住宅	商業複合施設	台北	草山行館	-	2002	1920	日本統治時代の台湾製糖会社が建てたゲストハウスが、1949年、蒋介石総統の官邸に、翌年には、ゲストハウス・別荘として利用され、2002年にアートサロンに転用される。2005年にほぼ全焼したが、元のデザインに基づいて再建され、芸術作品展示室、工芸品販売、レストランとして利用されている事例である。床を部分的にガラス張りとし、基礎の遺構を丁寧な説明書きとともに展示するなど、各室で、官邸時代の当館の様子が、克明に展示表示されている。
	17	公館	商業複合施設	台北	台北光点 映画主題館 台北之家	-	2002	1925	-
	18	公館	展示施設、店舗	高雄	前清打狗英国領事館 西子灣紅樓	-	1987	1865	-
	21	店舗兼住宅	展示施設、店舗	台北	民藝埕	-	2011	1913	-
	26	事務所	映画館	高雄	高雄市電影圖書館	-	2001	1977	-
	32	旅館	商業複合施設	台北	少帥禪園	-	-	1920	-
	35	店舗	店舗	高雄	叁貳樓古蹟餐厅	-	2006	1908	-
	38	市場	宿泊施設	台北	台北西悠飯店	-	2013	-	-
北京 1	39	映画館	商業複合施設	新竹	新竹市立影像博物館	-	2000	1933	-
	2	倉庫	飲食店、ギャラリー	北京	Urban Backyard	standardarchitecture	2006	-	産業倉庫を 2006 年に飲食店・ギャラリーの複合施設に転用した事例である。ファサードには白い箱型ボリュームを増築している。倉庫の一部、間口12m・奥行き 36m の改修対象内に6つのプログラムを成 立させる為、平面を2分割、断面を半地下化した上で3分割している。また平面拡張のため、裏側の外部空間をガラス屋根をかけて屋内化し、レストランとしての機能付加と共に各ブロックを動線的に接続している。限られた 容積を最大限に活用し複合化した事例である。
	3	工場	事務所、店舗	北京	Fang Jia Hu Tong	-	2007	-	-
	7	紡績工場	事務所、店舗	北京	菜錦文化産業創意園	北京時空築城建築設計有限公司	2011	-	1898年に一部、1954年に主要部が建設された紡績工場が 2011年に商業・オフィス の複合施設に転用されている。のこぎり屋根の一体型工場を減築し縦横に外部空間を挿入することで、適切な スケールの平屋オフィスを創出している。減築によって動 線や外部空間の整備を可能にした事例である。
	13	事務所	講堂、ギャラリー	北京	China Architecture Design & Research Group	-	-	-	-
	7		飲食店	北京	At Café	-	-	-	-
	26		飲食店	北京	Cave Café	-	-	-	-
	1	石炭ガス工場	ギャラリー	北京	150000M3 Gasometer	-	2007年代	1950年代	-
	2	石炭ガス工場	撮影施設	北京	Digital Media Center	-	2007年代	1950年代	-
	3	石炭ガス工場	ギャラリー	北京	Swarovski Gallery	-	2007年代	1950年代	-
	4	石炭ガス工場	ギャラリー	北京	Taiwan Gallery	-	2007年代	1950年代	-
	5	石炭ガス工場	映画館	北京	3D 想像映画館	-	2007年代	1950年代	-
	10	石炭ガス工場	ギャラリー	北京	Desulfurization Tower	-	2007年代	1950年代	-

梗概国名	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	建築家	転用年	建設年	備考
トルコ	貯水庫	レストラン	イスタンブール	フィロクセノス・シスタン	-	2002	4世紀	-
	倉庫(煙草)	ホテル	イスタンブール	シャングリ・ラ ポスボラス	-	2012	-	-
	宮殿	ホテル	イスタンブール	フォーシーズンズホテル・ポスボラス	-	2008	19世紀	-
	宮殿	ホテル	イスタンブール	チュラン・パレス	-	1989	1867	-
	集合住宅	ホテル	イスタンブール	バリクセザゲイン・アパート	-	1980	1922	-
	集合住宅	ホテル	イスタンブール	マック・パレス	-	-	1922	-
	住宅群	ホテル、レストラン	イスタンブール	アカラター・タウンハウス	-	-	1875	-
	住宅群	商業施設	イスタンブール	バーダット通りの集合住宅	-	-	-	-
	事務所	ホテル	イスタンブール	フォース カーン財団	-	2000	1926	-
	大使館	テナント	イスタンブール	ノームル・カーン	-	1993	19世紀	-
	刑務所	ホテル	イスタンブール	フォーシーズンズホテル・スルタンアフメット	-	1996	1919	-
	監視塔、牢獄、天文台	展望台、レストラン	イスタンブール	ガラタの塔	-	2011	1348	-
	灯台	レストラン	イスタンブール	乙女の塔	-	2000	-	-
インドネシア	VOCの大工店	飲食店、スタジオ	ジャカルタ	Galangan VOC Restaurant	-	-	1628	1828年にVOCの大工店として建てられ、現在はレストランやスタジオとしてコンバージョンされた。インドネシアの気候に適応するためにアールデコ風の庇が付加されており、既存のオランダコロニアル建築との対比が生まれている
	邸宅	店舗	ジャカルタ	チャンドラナヤ	-	1950	1879	-
	VOCの事務所	飲食店	ジャカルタ	Café Batavia	-	1993	1905	オランダ統治時代にvocのオフィスとして建てられ、ギャラリーへと転用された後、現在のカフェへとコンバージョンされた。前面のファサードにはガラスのテラス空間が付加され、自然光による明るい空間を生み出している。内部では建具を取り除き、その枠のみを保存することで大空間を創出するとともに当時の面影を継承する空間となっている。
	ギャラリー	展示施設、飲食店	ジャカルタ	Kunstkring Art Gallery	-	2011	1914	1914年にアートサークルの施設として建てられ、1942年にイスラム教関連施設、1950年にジャカルタの移民局、2011年に現在のレストランへとコンバージョンされた。インドネシア初のRC造であり、中央のレストランは周辺諸室の内壁を取り除くことで大空間とし、正面バルコニーの壁面には税関時代のサインが残されている。
	邸宅	飲食店	ジャカルタ	オアシス	-	1976	1927	-
	空き倉庫	複合商業施設	ジャカルタ	Common House	-	2013	-	-
オーストリア	宮殿	個人ギャラリー	ウィーン	パレ・ラーズモフスキー	Baar-Baarenfels Architekten	2011-2014	-	この事例は、ウィーン会議が行なわれていた頃の1806年にロシア大使館として使用されていた建物が、現在は個人住宅兼個人ギャラリーに転用されたものである。第二次世界大戦によって大きな被害を受けたものの、補修を重ねて、歴史的建造物に認定された後、さらに大掛かりな補強工事が行なわれた。その後、個人住宅として使用されていたこの建物の一部が、ウィーンの建築家バル・パレンフェルズ・アーキテクトによって個人ギャラリーに転用された。地上階に天井高が6mのギャラリーが2つ設けられ、新たに自立したコンクリートの壁や床を挿入することによって、2 階のギャラリー空間が生まれた。また路面が徐々に細くなるような複雑な階段や透明感のあるエレベーターシャフトが挿入されて、内部に現代的な空間が生まれた。また屋上も既存建築に対比するような現代的な空間になっている。このような対比的な要素が随所に見られるものの、既存空間の保存が基本であり、大きなドームやシャンデリアが残される。
	学生寮	ホテル	ウィーン	25アワーズホテル	BWM Architekten	2013	-	1969 年に大学や美術館が集まる地域に建設された学生寮を、2013 年にホテルへと転用したものである。5 階建の既存建築の外壁を黒色に塗装、屋上に新たに 2 層のガラス棟の増築、エレベーターを設け、ホテルとしての機能を確保した。1 階が受付とレストラン、2 階から 6 階が全185 室の客室、7 階がテラスとバーカウンターのあるラウンジ である。これは既存の矩形平面に合わせた増築であるが、ファサードは黒色の壁とガラスによる素材の対比に加えて、間にヴォイドを加えるなどで、その対比がさらに強調された。
	講堂	劇場	ウィーン	Ronacher	Mag Luigi	-	-	-
カナダ1	工場	ギャラリー	モントリオール	バリジャン・ランドリー	-	2005	1929	-
	工場	ギャラリー	モントリオール	ダーリン・ファウンドリー	-	2002	1918	-
	工場	商業	モントリオール	ロコショップ・アンガス	-	1999	-	-
	工場	劇場	モントリオール	ユージンC	-	1995	-	-
	造船所	ギャラリー	モントリオール	アーセナル・ギャラリー	-	2011	1846	-
	オフィス	ホテル	モントリオール	ジェルマンホテル	-	1999	-	-
カナダ2	船	スパ	モントリオール	ボタ・ボタ	-	2010	-	-
	アイスホッケー場	スーパーマーケット、運動施設	トロント	メープルリーフ・ガーデンズ	-	2013	-	-
	駅舎	商業施設	トロント	サマーヒルCPRステーション	-	2004	-	-
	州庁舎	式場、店舗(飲食)	トロント	リパティエ・グラント	-	-	-	-
	市場、事務所、ホテル	複合商業施設	トロント	マーケットストリート再開発	-	2013	-	-
	オフィス	ショールーム	トロント	BMWショールーム	-	-	-	-
	オフィス	店舗(飲食)	トロント	ローズウォーターコートハウス	-	-	-	-
	住宅	ギャラリー	トロント	ステファンバーガー・ギャラリー	-	2004	-	-
	工場(酒造)	複合商業施設	トロント	ディスティラリー地区	-	2003	-	-
	倉庫	スタジオ	トロント	ウェイブフロント・スタジオ	-	1997	-	-
	発電所	ギャラリー、ホール、店舗(飲食)	トロント	パワープラント・ギャラリー	-	1987	-	-
	発電所	店舗	トロント	H&D紙工発電所	-	2013	-	-
	刑務所	ホステル	オタワ	オタワ刑務所ホステル	-	-	-	-
	ホテル	商業施設、ホテル	オタワ	マルティノ・ホテル	-	-	-	-
	住宅	ギャラリー	オタワ	J.C.B.アートギャラリー	-	1992	-	-
カナダ3	教員学校	商業施設	バンクーバー	シティ・スクエア	-	1989	1909	-
	倉庫	商業施設	バンクーバー	ボデガ・アーティスト・ライブ/ワーク・スタジオ	-	1993	1887	-
	製塩工場・倉庫	レストラン	バンクーバー	ソルト・ビル	-	2009	1930	-
	複合施設	商業施設、事務所	バンクーバー	アルバンブラ	-	2009	-	-
	商業施設	商業・居住施設	バンクーバー	ウッドワード再開発	-	2010	1903	-
	馬舎、工場	商業施設、事務所	バンクーバー	コルドバ・ストリート・ステープル	-	2010	1903	-
	集合住宅	商業・居住施設	バンクーバー	ジェームソン邸	-	2011	1926	-
	宿泊施設	商業施設	バンクーバー	アブラムス・ブロックス、210キャラル・ストリート	-	-	1967	-
	カナダ政府館	宿泊施設、会議場	バンクーバー	カナダ・ブレイス	-	-	1986	-
	工場	商業施設	バンクーバー	クリーク邸	-	-	-	-
	ビール醸造所	レストラン	バンクーバー	タッブルーム	-	-	-	-
	産業施設	レストラン	バンクーバー	キャット・ソーシャル・ハウス	-	-	-	-
チェコ1	礼拝堂	コンサートホール	ブラハ	ブラハ・シンフォニーオーケストラ・コンサート ホール	-	1720	1620	-
	礼拝堂	ギャラリー	ブラハ	ブラハ・ユダヤ教博物館 (ベツレヘム礼拝堂)	-	1880	16世紀	-
	礼拝堂	ギャラリー	ブラハ	ミロ・ギャラリー	-	1994	1611	-
	教会	ギャラリー	ブラハ	ブラハ・ユダヤ教博物館 (スペイン教会)	-	2004	1893	-
	修道院	ホテル	ブラハ	ホテル・マンダリン・オリエンタル	-	-	14世紀	-
	要塞の門	ギャラリー、カフェ	ブラハ	ビセク門	-	2000	1721	-
	城壁の門	ギャラリー	ブラハ	ブラハ・タワー	-	-	1475	-
	展示館	レストラン	ブラハ	レストラン・ハナウ・バヴィリオン	-	1971	1891	-
	教会の鐘楼	ギャラリー、展望台	ブラハ	ジンドリス・カタワー	-	-	1577	-
	工場	スタジオ	ブラハ	サウンド・スクエア・レコーディング・スタジオ	-	2003	-	-
	工場	ショッピングセンター	ブラハ	ヴィノフラディ・マーケット ホール	-	2013	1903	-
	保管庫	店舗	ブラハ	If アート & ファッション ギャラリー	-	-	-	-
	書店	ギャラリー	ブラハ	バクラヴ・スパーラ・ギャラリー	-	-	1938	-
	宮殿	宿泊施設	ブラハ	リヒテンシュタイン宮殿	-	1864	1696	-
チェコ2	城館	コンサートホール、展覧館	ブラハ	ブラハ市立ギャラリー	-	1987	1340	-
	城	レストラン	ブラハ	ライオンコート・レストラン	-	1996	1935	-
	集合住宅	ホテル	ブラハ	ホテル「アウルス」	-	1700	1600	-
	住宅	レストラン	ブラハ	ミニッツハウス	-	1896	1564	-
	集合住宅	オフィス、商業施設	ブラハ	CDK社管理棟	-	1985	1981	-
	住宅	ホテル	ブラハ	宮殿ホテル	-	2001	1841	-
	住宅、店舗	集住、オフィス、店舗、スタジオ	ブラハ	セントラム・フォトシュコタ	-	2002	-	-
	住宅、日曜学校	ギャラリー、レストラン	ブラハ	旧ティーン学校	-	2009	13世紀	-
	住宅	店舗、展示	ブラハ	黄金の小道	-	2011	1597	-
	住宅	レストラン	ブラハ	フランツ・カフカ・レストラン	-	-	-	-
	コンサートホール、銀行	映画館	ブラハ	シアター「アーク」	-	1994	1939	-
	銀行	ホテル	ブラハ	ホテル「ボスコロ」	-	2002	1894	-
ハンガリー	倉庫	商業施設	ブダペスト	CET ビル	-	2011	-	-
	給水塔	ギャラリー	ブダペスト	マーガレット給水塔	-	2006	1911	-
	証券取引所	商業施設	ブダペスト	ヴァーツイ・ショッピングセンター	-	2011	1915	-
	教育施設	商業施設	ブダペスト	ブダペスト・ピアリスタセンターA	-	2011	1717	-
	集合住宅	ホテル	ブダペスト	イペロスター・ グランドホテルブダペスト	-	2010	-	-
	宮殿(地下)	カフェ	ブダペスト	エスプレッソ・エンバシー	-	2012	-	-
	城砦	レストラン	ブダペスト	漁夫の砦	-	-	-	-
	工場	ギャラリー	ベーチ	ピンクジョルナイ展示場	-	2011	1853	-
	工場	商業施設	ベーチ	ストリートオブショップ	-	2011	1853	-
	別荘	ギャラリー	ベーチ	ジョルナイ 家族と歴史展示場	-	2011	-	-
	別荘	ギャラリー	ベーチ	シコルスキー邸	-	2011	-	-
	会議所	ギャラリー	ベーチ	現代ハンガリーギャラリー	-	2010	1731	-
	城壁	レストラン	ベーチ	マエストロ	-	-	-	-
ポーランド1	工場(ビール)	文化商業複合施設	ボズナン	オールドブルワリー	-	2003	20世紀	-
	工場(紡績)	集住、商業	ウッチ	シャイブラー ロフト	-	2010	20世紀	-
	工場(紡績)	ホテル	ウッチ	ホテル アンデルス ウッチ	-	2009	19世紀	-
	工場複合(織物)	文化商業複合施設	ウッチ	アンデルス マニユファクチュラ	-	2006	19世紀	-
	倉庫(王宮)	展示施設、カフェ	ワルシャワ	クビッキ アークード	-	2009	1818-27	-
	発電所	複合施設	ウッチ	EC1	-	-	1907	-
ポーランド2	発電所	商業複合施設	ボズナン	スポーツ	-	-	-	-
	兵舎	商業複合施設	ボズナン	シティパーク	-	-	19世紀末	-
ルーマニア	印刷所	複合商業施設	-	メトロポリス・センター	-	2010	-	-
	劇場	複合文化施設	-	国立劇場 - サラ・アトリエ -	-	2007	1852	-
	映画館	レストラン	-	スタジオ・ハーマーズ	-	2013	1960	-
	-	レストラン	-	ティアーズ・アンド・セインツ	-	2012	1880	-
	印刷所	レストラン	-	エネルギー	-	2012	1920	-
	空き家	レストラン	-	ビューティフル	-	2012	-	-
	住宅	レストラン	-	ラ・ボーン・ボッシュ	-	-	1830	-
韓国	倉庫	ギャラリー	仁川	仁川アートプラットフォーム	-	2009	1888	-
	韓屋	カフェ	ソウル	チャマシメントウル	-	-	19世紀	-
	病院	テナントビル	ソウル	旧蘇産婦人科医院	-	2002	1965	-
	韓屋	宿泊施設	ソウル	孝宣堂	-	-	20世紀	-

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	転用年	建設年
イタリア5	2	兵器庫	複合商業施設	トリノ	コートヤード・マグリオ	2001	1778
	4	工業施設	ギャラリー	トリノ	ギャラリー・フランコ・ノエロ	2003	20c後半
	9	産業工場	文化商業施設	トリノ	イータリー・トリノ・リンゴット	2005	1929
イタリア6	3	工場(香水)	ホテル	ミラノ	ブラダ現代美術館	2013	-
	5	工場	劇場	ミラノ	アルマーニ劇場	2001	-
	6	製材所	レストラン、バー	ミラノ	カルロ・エ・カミラ	2015	1930s
	9	映画館	オフィス、ジョールーム、スケートパーク	ミラノ	バスタルド・ストア	2007	1940s
	10	映画館	デパート	ミラノ	エクセルシオール	2011	-
イタリア7	1-1	パラッツォ	市営カジノ、博物館	ヴェネチア	ヴェンドラミン・カレルジ宮	1946	1946
	2-6	塔	文化施設、ギャラリー	ヴェネチア	トッレ・ディ・ボルタ・ノウバ	2011	19c後半
	3-1	パラッツォ	ギャラリー	ヴェネチア	ペギー・グッゲンハイム美術館	2012	18c
	3-4	倉庫	ギャラリー	ヴェネチア	フォンダツィオーネ・ヴェドヴァ	2009	-
	3-8	税関施設	ギャラリー	ヴェネチア	プンタ・デッラ・ドガーナ	2010	1630
	3-9	工場	ホテル	ヴェネチア	モリノ・スタッキー	2007	1895
	3-10	倉庫	ホテル	ヴェネチア	ジェネレーター・ホステルヴェニス	2013	16c
	4-3	パラッツォ	ギャラリー	ヴェネチア	パラッツォ・グラッシ	2006	18c中旬
	4-4	パラッツォ	ギャラリー	ヴェネチア	バルパロ宮	-	1425
	4-6	音楽ホール、交流館	宿泊施設、研究所	ヴェネチア	ヴィットレ・ブランカ・センター	2010	1951
インド1	6	邸宅	ギャラリー	デリー	デリー・アート・ギャラリー	2011	13c
	9	店舗	店舗、カフェ	デリー	カフェ・ロータ&ミュージアムショップ	2014	-
	13	宮殿	ホテル	ジャイプル	ホテル・ジャイマハル・パレス	1955	1745
	14	公館	ホテル	ジャイプル	ランバー・パレス	1957	1835
	15	邸宅	ホテル	ジャイプル	ホテル・アルヤニワ	1983	19c
	16	宮殿	ホテル	ジャイプル	サモデパレス・ホテル	1987	1757
	17	邸宅	ホテル	ジャイプル	サモデ・ハヴェリ	1988	1840
	18	宮殿	ホテル	ジャイプル	ラジ・パレス	1995	1727
	19	宮殿	ホテル	ジャイプル	シャーブラ・ハヴェリ	-	18c
	20	宮殿	ギャラリー	ジャイプル	ムバラク・マハル	-	1732
インド2	1	工場	ショッピングモール	ムンバイ	ハイ・ストリート・フェニックス	1992	-
	3	印刷工場	ギャラリー	ムンバイ	プロジェクト 88	2006	-
	4	自動車修理工場	ギャラリー	ムンバイ	ギャラリー・マスカラ	2007	-
	5	工場	オフィス、飲食店、ギャラリー	ムンバイ	マチュラダス複合工場	2007	-
	6	倉庫	店舗、ギャラリー	ムンバイ	カマル・マンション	2008	-
	9	倉庫	飲食店	ムンバイ	カラゴータ・カフェ	-	-
	10	倉庫	ギャラリー	ムンバイ	サクシ・ギャラリー	-	1920s
	13	集合住宅	店舗	ムンバイ	ミューズ	2007	-
	16	集合住宅	ホテル	ムンバイ	アボード・ボンベイ	2013	1910
	17	住宅	ギャラリー	ムンバイ	ギャラリー・マーチャンダニ+ステインルーク	-	-
	18	集合住宅	店舗	ムンバイ	グリーンズ・コンピューター・サービス	-	-
	19	競馬場内施設	飲食店	ムンバイ	トートー	2009	-
ニューヨーク1	1	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Trump International Hotel	1990	1969
	2	オフィス	ホテル	ニューヨーク	W New York-Union Square	2000	1911
	3	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Hudson New York	2000	1928
	4	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Marinetime Hotel	2003	1960s
	5	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Ink48, Kimpton	2009	-
	6	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Shoreham Hotel	2009	1931
	7	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Dream Downtown Hotel	2011	1960s
	8	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Refinery Hotel New York	2012	1912
	9	オフィス	ホテル	ニューヨーク	NoMad Hotel	2012	1903
	10	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Marmara Park Avenue	2015	-
	11	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Hotel Cliff	2015	-
	12	オフィス	ホテル	ニューヨーク	New York Edition Hotel	2015	1909
	13	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Knickerbocker Hotel	2015	1906
	14	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Residence Inn, Manhattan	2015	1903
	15	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Q&A Hotel	2015	1932
	16	オフィス	ホテル	ニューヨーク	The Beekman	2016	1880
	17	オフィス	ホテル	ニューヨーク	AKA Wall Street	2016	1907
	18	オフィス	ホテル	ニューヨーク	Moxy Hotel	計画中	1907
	19	オフィス	ホテル	ニューヨーク	One Wall Street (正式名未定)	計画中	1931
ニューヨーク2	1	倉庫	ホテル	ニューヨーク	The Mercer	1997	1890
	2	倉庫	ホテル	ニューヨーク	Soho House New York	2003	-
	3	工場	ホテル	ニューヨーク	Ink48	2009	1890s
	4	工場	ホテル	ニューヨーク	The Box House Hotel	2011	-
	5	工場	ホテル	ニューヨーク	The Paper Factory Hotel	2012	1922
	6	工場	ホテル	ニューヨーク	Wythe Hotel	2012	1901
	7	倉庫	ホテル	ニューヨーク	Henry Norman Hotel	2014	19c
	8	工場	ホテル	ニューヨーク	The Brooklyn A Hotel	2015	-
	9	倉庫	ホテル	ニューヨーク	BMB Hotel	2016	1909
	10	倉庫	ホテル	ニューヨーク	Public Hotel DUMBO	2017	-
	11	倉庫	ホテル	ニューヨーク	Restoration Hardware Hotel	2017	-

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	転用年	建設年
オーストラリア1	1	病院、造幣工場	図書館、カフェ、オフィス	シドニー	ザ・ミント	1854-1855 2001-4	1816
	6	中央郵便局	ホテル	シドニー	ウェスティン・ホテル・シドニー	2007	1874
	7	倉庫	カフェ、パブ	シドニー	ロート1	2016	1878
	8	繊維工場	ホテル	シドニー	オボロ・1888・ダーリング・ハーバー・ホテル	2013	1888
	13	羊毛倉庫	劇場、オフィス	シドニー	ワーフ・シアター	1987	1914
	14	羊毛倉庫	ホテル	シドニー	オボロ・ウールムール・ホテル	2015	1915
	15	住宅、倉庫	ショッピングセンター	シドニー	ロックス・センター	1995	1918
	17	パブ、管理ビル	ホテル	シドニー	オールド・クレア・ホテル	2015	18,101,834
	19	鉄道整備工場	劇場、展示施設	シドニー	キャリッジワークス	2007	1888
	21	倉庫	ギャラリー	シドニー	ホワイト・ラビット・ギャラリー	2008	1940
	22	オフィス	映画館、カフェ	シドニー	パラモント・スタジオ・ビル	2014	1940
オーストラリア2	3	工場	商業施設	メルボルン	ジャムファクトリー	1979	1858
	4	郵便局	商業施設	メルボルン	メルボルン郵便局	2004	1859
	6	銀行	ホテル、アパート	メルボルン	前オーストララシア銀行	1970	1881
	7	商業施設	ホテル	メルボルン	インターコンチネンタル メルボルン リアルと	2009	1885-1891
	9	醸造所	劇場	メルボルン	モルトハウスシアター	1990	1892
	11	事務所	ホテル、アパート	メルボルン	33スペンサーストリート	1998	1893
	12	発電所	複合施設	メルボルン	アッパーウエストサイド	2014	1894
	13	住居	レストラン	メルボルン	リー・ホ・フック ダックボードプレイス	2015	1900
	14	ビリヤード場	ホテル	メルボルン	リンドラム	1999	1900
	17	倉庫	複合施設	メルボルン	セントラル・ピア・ドッグランド	-	1916
	18	中央郵便局	複合施設	メルボルン	ポストExchange	2008	1917
	23	工場	カフェ	メルボルン	コードブラック	2014	1900前半
	26	銀行	居酒屋	メルボルン	雲居酒屋&バー	-	1956
オーストラリア3	3	発電所	劇場	ブリズベン	ブリズベンパワーハウス	2000	1928
	4	倉庫	飲食	ブリズベン	グリーンビーコン醸造株式会社	2013	1940s
	5	倉庫	複合施設	ブリズベン	ライト・スペース	2009	1960s
	7	大蔵省	カジノ	ブリズベン	トレジュリー・カジノ	1995	1886
	8	教会	飲食	ブリズベン	パンケーキ・マナー	1979	1904
	9	土地管理局	ホテル	ブリズベン	トレジュリー・ホテル	1995	1905
ニュージーランド1	1	海運倉庫	ジム、イベント空間	ウェリントン	シェッド 6	2013	1862
	2	銀行	商業	ウェリントン	オールド・バンク・アーケイド	1999	1863
	3	海運倉庫	飲食	ウェリントン	ドックサイド・レストラン&バー	1991	1887
	4	海運倉庫	飲食	ウェリントン	シェッド 5	1992	1887
	7	海運倉庫	飲食、事務所	ウェリントン	スチームシップ・ワーフ	2005	19c末
	10	海運倉庫	飲食、事務所	ウェリントン	シェッド 13(モジョ・コーヒー)	1980s	1905
	12	靴工場、倉庫	事務所、居住、店舗	ウェリントン	ハンナ・ブロック	1995	1909
	14	銀行、居住	商業、居住	ウェリントン	ニュージーランド銀行テ・アロ支店	1996	1912
	15	布地販売業	飲食	ウェリントン	ジョージ&ジョージ・ビル	2002	1912
	16	倉庫	飲食	ウェリントン	シェッド 22、マックス醸造所	2002	1921
	17	事務所	飲食	ウェリントン	コロニアル・キャリイニング・カンパニー	-	1927
	18	救急センター	飲食、事務所	ウェリントン	フリー・アンビュランス・ビル	1994	1933
	19	事務所	店舗	ウェリントン	カレドニアン・チャンパー	-	1930s
	21	事務所	商業	ウェリントン	MLC 本社	-	1940
	23	立体駐車場	飲食	ウェリントン	キャピタルマーケット	-	1982
ニュージーランド2	1	倉庫	飲食	オークランド	ブルー・ストーン・ルーム	2003	1864
	3	倉庫	店舗群	オークランド	ラ・シガール・マーケット	1990s	1870s
	4	工場委	店舗	オークランド	シェルター	2016	1870s
	6	倉庫	飲食	オークランド	インペリアル・レーン	2011	1886
	8	税関	デパート	オークランド	T ガレリア・オークランド	2014	1888
	9	ホテル	飲食	オークランド	バードケージ バー&レストラン	2015	1889
	10	工場	店舗群	オークランド	ヴィクトリアパーク・マーケット	1984	1905
	12	車庫	飲食	オークランド	ガレージ・ランド	2011	1910
	16	学校	店舗群	オークランド	ファンデーション・ビルディング	1982	1927
	17	倉庫	ジム、オフィス	オークランド	パーネル・ライズ	1982	1920s
	19	住宅	ホテル	オークランド	クーパー・フォスター・ハウス	2004	1930s
	20	港湾施設	店舗	オークランド	ランチマン・ビルディング	1993	1930s
	22	倉庫	店舗	オークランド	ジャック・ター	2012	1930s
	25	工場	店舗群	オークランド	シティ・ワーク・デポ	2013	1960s
	26	倉庫	飲食	オークランド	ジューク・ジョイント BBQ	2015	1960s
	27	倉庫	店舗群	オークランド	ボンソンビー・セントラル	2012	1960s
	28	立体駐車場	ホテル	オークランド	スイス - ベルスイーツ、ビクトリア - パーク	2016	1990s
ロシア	1	酒造工場	複合施設	モスクワ	現代美術ワイナリーセンター	2007	19c
	2	チョコレート工場	複合施設	モスクワ	レッドオクトーバー・ファクトリー	2008	19c
	4	工場	複合施設	モスクワ	スタニスラフスキーファクトリー	2009	18c末
	5	製品工場	複合施設	モスクワ	アートプレイ	2010	19c
	6	ガス貯蔵施設	複合施設	モスクワ	ARMA	2013	1865
	7	車庫	劇場	モスクワ	ゴゴールセンター	2013	-

梗概国名	番号	転用前用途	転用後用途	都市名	事例名	転用年	建設年
	3	倉庫	アパート、店舗	リガ	ウエアハウスズ	2000	17世紀
	4	倉庫	ホテル、スパ	リガ	ドーム・ホテル・スパ	2011	17世紀
	6	市庁舎	市庁舎、店舗	リガ	市庁舎	不明	不明
	10	銀行	店舗、事務所	リガ	バルティック国際銀行	不明	不明
	12	アパート	ホテル、店舗	リガ	ブティックアパートメント・ホテル	不明	不明
	13	銀行	ホテル	リガ	グランバピルス・ホテル	2000	1877
	14	映画館	カジノ、ホテル	リガ	カジノ・フエクス	1980	1917
	15	アパート	ホテル	リガ	ホテル・ベルクス	2003	19世紀末
	16	格納庫	市場	リガ	リガ中央市場	1930	19世紀末
	17	倉庫、取引所	複合文化施設	リガ	スピケリ地区の倉庫群	2013~	1865
	18	住居	ホテル、カジノ	リガ	エウロパロイヤル・リガ	2006	1876
	19	住居	ホテル	リガ	クラリオンコレクション・ホテル	1990	1901
	24	倉庫	ホテル	リエバピーヤ	フロムナード・ホテル	2007	1770
	25	倉庫	ジム	リエバピーヤ	マヤ・フイットネス	2001	不明
	15	住居(邸宅)	文化複合施設	ヴァリニユス	教員研修施設	1988	1839
	16	オフィス	商業施設	ヴァリニユス	ビジネスセンター2000	2007	1893
	17	不明	オフィス、商業施設	ヴァリニユス	ヴァリニユス通り31番地の複合ビル	2008	1898
	18	映画館	商業施設	ヴァリニユス	ベネトン	不明	1963
	21	オフィス	商業施設	ヴァリニユス	旧社会保険会社事務所	2014	1938
	10	通信曲	ホテル	タリン	ホテル・テレグラフ	2007	1878
エストニア	14	住宅	ホテル	タリン	三人姉妹	2003	1362
	16	住宅	ギャラリー	タリン	子供ギャラリー	1983	15c~16c
	1	城壁塔	博物館、カフェ	タリン	メイデンズタウーミュージアムアンドカフェ	2013	1219
	4	倉庫	店舗(飲食)	タルトゥ	プシロフケルデル	1827	1778
	8	工場、倉庫	店舗、事務所、ギャラリー、アトリエ	タリン	テレスキヴァイ・クリエイティブセンター	2009	1869
	9	工場(酒)	複合施設	タリン	ローゼン・フリータイム・フアクトリー	2002	1876
	10	工場(製粉)	商業施設、オフィス	タリン	ロツターマン・オールブアンドニューフロアストレージ	2009	1904
	11	工場(製材)	商業施設、オフィス	タリン	ロツターマン・カーペンターズワークショップ	2009	20世紀
	14	工場(紙)	商業施設、アパート	タリン	フアールハウス	2007	1926
ドイツ	1	下水処理場	複合施設	ベルリン	ラデアアルシステムV	2006	1881
	6	発電所	クラフ	ベルリン	ベルクハイン	2004	1950
	12	オフィス	ホテル	ベルリン	ホテル・ルクス	2005	不明
	19	プール	バー	ベルリン	プリンス・チャールズ	不明	20c末

参考文献

- ・小林克弘，三田村哲哉，橘高義典，鳥海基樹：世界のコンバージョン建築，鹿島出版会，2008
- ・小林克弘，三田村哲哉，角野渉：建築転生 世界のコンバージョン建築Ⅱ，鹿島出版会，2013
- ・小林克弘，永田明寛，鳥海基樹，木下央：スカイスクレーパーズ 世界の高層建築の挑戦，鹿島出版会，2015
- ・椎橋武史，小林克弘，木下央，三田村哲哉，小川仁，井上めぐみ，黒橋秀治，佐々木章行，千賀順：イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その１），日本建築学会大会学術講演梗概集，2004, p635-636
- ・小川仁，小林克弘，木下央，三田村哲哉，井上めぐみ，黒橋秀治，佐々木章行，千賀順，椎橋武史：イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その２），日本建築学会大会学術講演梗概集，2004, p637-638
- ・三田村哲哉，小林克弘，木下央，井上めぐみ，黒橋秀治，佐々木章行，千賀順，椎橋武史，小川仁，：イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その３），日本建築学会大会学術講演梗概集，2004, p639-640
- ・千賀順，小林克弘，木下央，三田村哲哉，井上めぐみ，黒橋秀治，佐々木章行，椎橋武史，小川仁，：イタリアにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その４），日本建築学会大会学術講演梗概集，2004, p641-642
- ・小林克弘，黒川直樹，木下央，三田村哲哉，椎橋武史，遠藤広基，中西康崇，沢田聡，福中海人，宮部貴寛，谷泰人：アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その１），日本建築学会大会学術講演梗概集，2007, p811-812
- ・宮部貴寛，小林克弘，黒川直樹，木下央，三田村哲哉，椎橋武史，遠藤広基，中西康崇，沢田聡，福中海人，谷泰人：アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その２），日本建築学会大会学術講演梗概集，2007, p813-814
- ・谷泰人，小林克弘，黒川直樹，木下央，三田村哲哉，椎橋武史，遠藤広基，中西康崇，沢田聡，福中海人，宮部貴寛：アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その３），日本建築学会大会学術講演梗概集，2007, p815-816
- ・黒川直樹，小林克弘，木下央，三田村哲哉，椎橋武史，遠藤広基，中西康崇，沢田聡，福中海人，宮部貴寛，谷泰人：アメリカにおけるコンバージョン建築事例の調査研究（その４），日本建築学会大会学術講演梗概集，2007, p817-818
- ・小林克弘，三田村哲哉，角野渉，小川仁：上海におけるコンバージョン事例の調査研究（その１），日本建築学会学術講演梗概集，2011, p157-158
- ・角野渉，小林克弘，三田村哲哉，小川仁：上海におけるコンバージョン事例の調査研究（その２），日本建築学会学術講演梗概集，2011, p159-160
- ・清水一馬，小林克弘，三田村哲哉，角野渉，竹村祐典，岡崎真也，河野泰造，関口勝平，百瀬雄介，佐藤慎平：ウィーンにおけるコンバージョン建築事例の調査研究，日本建築学会学術講演梗概集，2011, p154-155
- ・申晴，小林克弘，木下央，三田村哲哉，角野渉，立花楓子，村井陸，宗像晃司：オーストラリアにおけるコンバージョン建築の調査研究（その１），日本建築学会学術講演梗概集，2017
- ・宗像晃司，申晴，小林克弘，木下央，三田村哲哉，角野渉，立花楓子，村井陸：オーストラリアにおけるコンバージョン建築の調査研究（その２），日本建築学会学術講演梗概集，2017
- ・立花楓子，小林克弘，木下央，三田村哲哉，角野渉，申晴，村井陸，宗像晃司：オーストラリアにおけるコンバージョン建築の調査研究（その３），日本建築学会学術講演梗概集，2017
- ・田原幸夫：建築の保存デザイン 豊かに使い続けるための理念と実践，学芸出版社，2003
- ・角野渉：海外の４地域における建築コンバージョンのデザイン手法と都市的背景に関する研究，首都大学東京 2012 年度博士論文
- ・新建築，新建築社，1940 ～ 2018
- ・坂之上佳菜，三田村哲哉：日本のコンバージョン建築に関する考察，日本建築学会大会学術講演梗概集，2014, p399-400
- ・白鳥悠人，岩岡竜夫：現代日本におけるコンバージョン建築に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，2013, p23-24
- ・野澤英希：「新建築」掲載作品におけるコンバージョン事例の再利用に関する考察，日本建築学会大会学術講演梗概集，2015, p117-118
- ・八束はじめ：「ショッピングガイド」へのガイド，<<http://10plus1.jp/monthly/2004/02/06162726.php>>，2018-12

- ・谷口功一：ショッピングモールの法哲学，白水社，2015
- ・若林幹夫：モール化する都市と社会 巨大商業施設論，NTT 出版株式会社，2015
- ・日本貿易振興会：新世紀を開くショッピングセンター，ジェトロ出版，昭和 60
- ・J.A. ドーソン，ショッピングセンター 計画・デザイン・開発，佐藤俊雄，株式会社白桃書房，昭和 62
- ・小原博：小売業における業態変動と展望，経営経理研究第 72 号，p16-40
- ・PROCESS ArchitectureNo. 4, 株式会社プロセスアーキテクチャ，1978
- ・The Landscape Architecture of Lawrence Halprin, The Cultural Landscape Foundation, 2017
- ・KENNETH I. HELPHAND: LAWRENCE HALPRIN, THE UNIVERSITY OF GEORGIA PRESS, 2017
- ・David Jacques, Jam Woudstra: Landscape Modernism Renounced The Career of Christopher Tunnard (1910-1979), Routledge, 2012
- ・Full text of "Beauty for America; proceedings of the White House Conference on Natural Beauty", Washington, <<https://archive.org/details/beautyforamerica00whitrich>>, 2019-1
- ・小幡宣和：アメリカにおける歴史的環境保全，北海同大学博士学位論文，2013
- ・西村幸夫：アメリカにおける 1960 年代前半までの歴史的環境保全制度の展開，日本建築学会計画系論文報告集第 444 号，1993, p105-114
- ・西村幸夫：1966 年国家歴史保全法および税制上の優遇措置を中心にみた 1960 年代後半～1980 年代前半アメリカの歴史的環境保全制度，本建築学会計画系論文報告集第 452 号，1993, p165-176
- ・金出ミチル：アメリカの歴史保存を支える背景，日本建築学会技術報告集第 13 号，2001, p255-258
- ・小林文次：アメリカの建築保存について，日本建築学会論文報告集，昭和 39 年，p481
- ・BTA ホームページ，<https://web.archive.org/web/20040602232220/http://bta-architects.com:80/c/portfolio_.html>, 2019-1
- ・Lawrence Halprin: NEWYORKNEWYORK
- ・クリストファー・タナード：国土と都市の造形，鈴木忠義訳，鹿島研究所出版会
- ・ローレンス・ハルプリン：都市環境の演出，伊藤ていじ訳，株式会社彰国社，昭和 45 年
- ・窪田陽一：都市再生のパラダイム J・W・ラウスの軌跡，PARCO 出版，1988
- ・建築と都市 2000 年 5 月号臨時増刊レム・コールハース，株式会社エー・アンド・ユー，2000
- ・六車秀之：アメリカの SC トrendと 2020 年「第 3 次流通大改革」に向けた SC 開発・再生のアプローチ，株式会社ダイナミックマーケティング社
- ・西村幸夫：英国都市計画における歴史的環境保存のための地区制度の展開，日本建築学会計画系論文報告集第 422 号，1991, p53-67